

第2章 調査の結果①

＜就学前児童保護者・小学生保護者・中学生保護者＞

第1節 世帯の状況

■結果の概要

【両親の就労形態】

- ・世帯類型別にみると、就学前児童保護者において、両親がいずれもフルタイムで就労している割合が高くなっている。子どもの年齢が高くなると、父母いずれか(も)がフルタイム以外の就労をしている割合が高くなっており、中学生保護者では約半数が父母いずれか(も)がフルタイム以外の就労だった。

【同居・近居の状況】

- ・ひとり親世帯は、就学前児童保護者においては 7.5%だったが、小学生保護者・中学生保護者はいずれも 14.3%となっている。子どもが小学校高学年になるまでに、ひとり親世帯になるケースが多いと考えられる。
- ・家族類型別にみると、いずれの調査でも「ふたり親世帯」が多くを占めている。家族類型を世帯類型別にみても大きな違いはなく、祖父母等の同居家族がいることにより両親が就労しやすくなっているとはいえない。
- ・祖父母が同居していない世帯であっても、約4～5割が松戸市内に祖父母が住んでいる。また、親せきが同居していない世帯であっても、約3～4割が松戸市内に親せきが住んでいる。

【経済状況】

- ・世帯人数・世帯年収からそれぞれの調査で準低所得層・低所得層を判定すると、準低所得層の割合は約4割、低所得層の割合は約1割となっている。世帯類型別にみると、ひとり親世帯の低所得層の割合が高くなっている。家族類型別にみると、その他世帯の低所得層の割合が高くなっている。
- ・主観的経済状況において苦しいと感じる割合は、いずれの調査も約4割を超えている。一般層であっても約2割は、暮らし向きが苦しいと感じている。
- ・一般層における「両親とも大学以上」の割合が、準低所得層・低所得層よりも高く、両親の学歴が高いほど経済的には安定している傾向がある。

【生活への満足度】

- ・いずれの調査においても、ひとり親世帯と低所得層の生活への満足度(平均点)が相対的に低かった。
- ・世帯類型別にみると、小学生保護者では専業主婦(夫)世帯の生活への満足度(平均点)が最も高くなっている。中学生保護者では、両親いずれか(も)がフルタイム以外の就労をしている共働き世帯の満足度(平均点)が最も高くなっている。

(1)回答者

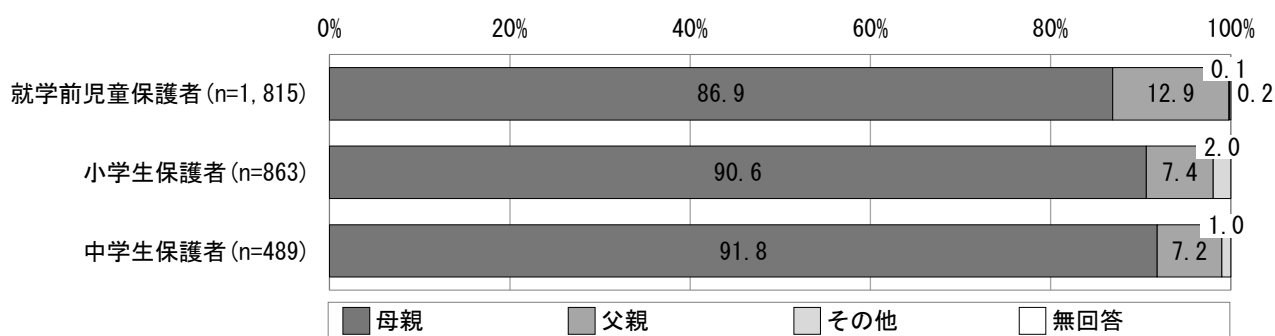
就学前児童保護者 問1-1、小学生保護者 問1、中学生保護者 問1

この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛名のお子さんからみた関係でお答えください。

(単数回答)

回答者は「母親」が多くを占めている。

就学前児童保護者では、「母親」が86.9%、「父親」が12.9%となっている。小学生保護者では、「母親」が90.6%、「父親」が7.4%となっている。中学生保護者では、「母親」が91.8%、「父親」が7.2%となっている。



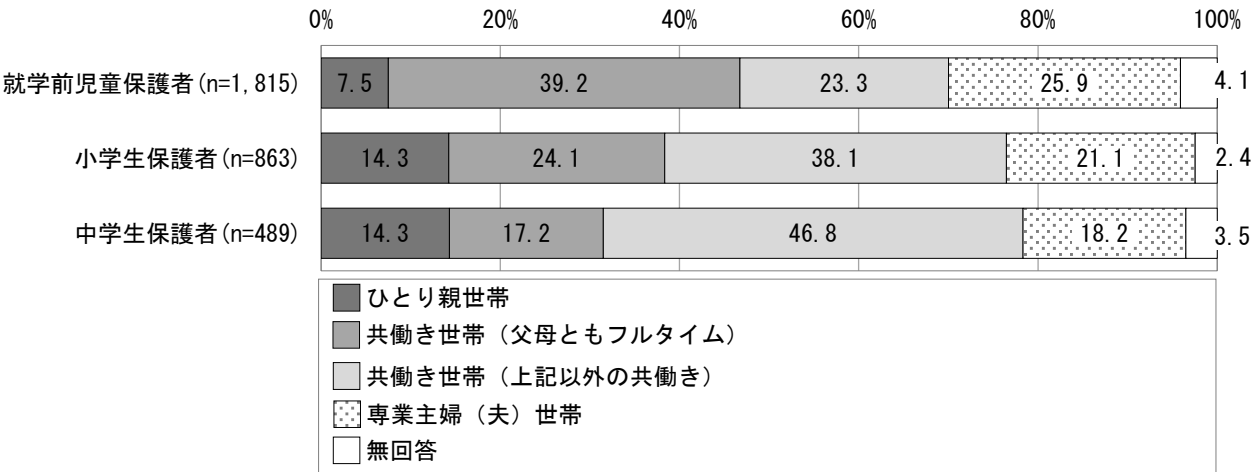
(2)世帯類型

就学前児童保護者 問1-2・問1-3・問8、小学生保護者 問2・問4、中学生保護者 問2・問3 から分類
ご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。(単数回答:就学前児童保護者)
同居しているご家族をお答えください。(複数回答)
宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況(自営業を含む)についてお答えください。(単数回答)

両親の同居状況、就労状況をもとに、世帯類型の割合を算出した。

就学前児童保護者において「共働き世帯(父母ともフルタイム)」の割合が最も高かった。父母いずれか(も)がフルタイム以外の「共働き世帯(上記以外の共働き)」は、子どもの年齢が高いほど割合が高く、中学生保護者の約半数を占めている。

就学前児童保護者においてひとり親世帯は 7.5%であったが、小学生保護者・中学生保護者になると14.3%となっている。



用語の定義

ひとり親世帯: 父母いずれかと子どものみで構成される世帯。祖父母等が同居している世帯は含まない。

共働き世帯(父母ともフルタイム): 父母ともにフルタイム(週5日、1日8時間程度)の就労をしている世帯。

共働き世帯(上記以外の共働き): 「共働き世帯(父母ともフルタイム)」以外の共働き世帯。

専業主婦(夫)世帯: 父母いずれか(もしくはいずれも)が就労していない世帯。

※ひとり親世帯以外は、祖父母等が同居している世帯を含む。

上記の世帯類型は、以降のクロス集計では以下の略称を用いる。

- | | |
|------------------|-------------|
| ひとり親世帯 | ⇒ひとり親世帯 |
| 共働き世帯(父母ともフルタイム) | ⇒共働き世帯(類型1) |
| 共働き世帯(上記以外の共働き) | ⇒共働き世帯(類型2) |
| 専業主婦(夫)世帯 | ⇒専業主婦(夫)世帯 |

(3) 家族類型

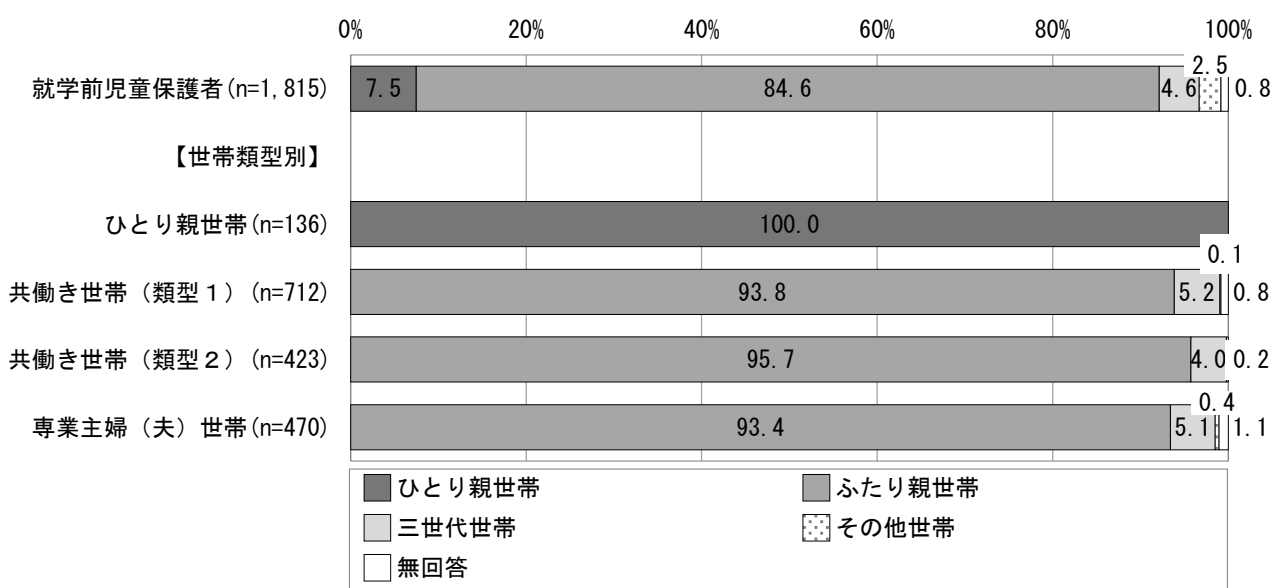
就学前児童保護者 問1-2・問1-3、小学生保護者 問2、中学生保護者 問2 から分類
ご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。(単数回答:就学前児童保護者)
同居しているご家族をお答えください。(複数回答)

両親等の同居状況をもとに、家族類型の割合を算出した。

いずれの調査でも「ふたり親世帯」が多くを占めている。家族類型を世帯類型別にみても大きな違いはなく、祖父母等の同居家族がいることにより両親の就労がしやすくなっているとはいえない。

就学前児童保護者

「ふたり親世帯」が84.6%と最も高く、「ひとり親世帯」が7.5%、「三世代世帯」が4.6%と続いている。



用語の定義

ひとり親世帯: 世帯類型と同じ。

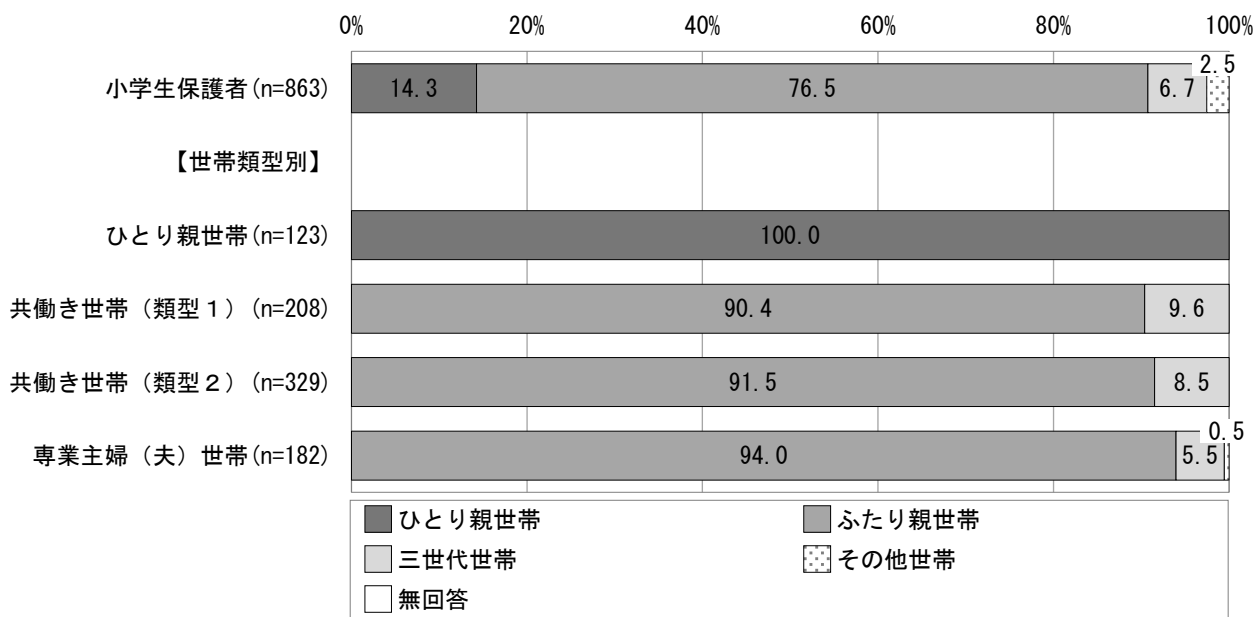
ふたり親世帯: 父母と子どものみで構成される世帯。

三世代世帯: 父母と子どもに加え、祖父母いずれか(いずれも)で構成される世帯。親せきが同居する場合も含む。

その他世帯: 上記類型以外の世帯。

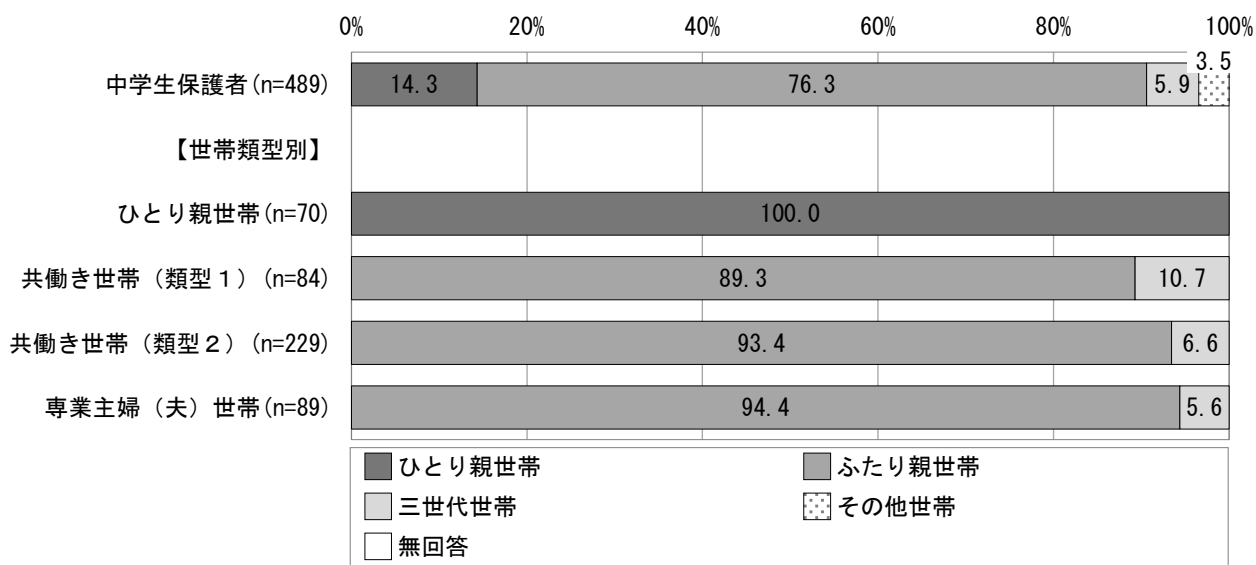
小学生保護者

「ふたり親世帯」が76.5%と最も高く、「ひとり親世帯」が14.3%、「三世代世帯」が6.7%と続いている。



中学生保護者

「ふたり親世帯」が76.3%と最も高く、「ひとり親世帯」が14.3%、「三世代世帯」が5.9%と続いている。



(4)祖父母の近居の状況

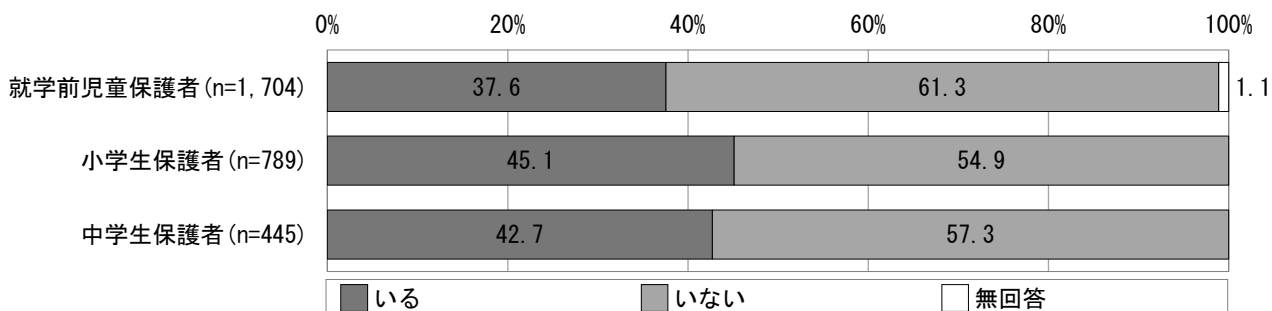
就学前児童保護者 問 1-3-1、小学生保護者 問 2-1、中学生保護者 問 2-1

【同居状況で「祖母」、「祖父」を選択しなかった方のみ】

宛名のお子さんには、松戸市内にお住まいの祖父母がいますか。(単数回答)

祖父母が同居していない世帯であっても、約4～5割が松戸市内に祖父母が住んでいる。

就学前児童保護者では、「いる」が 37.6%、「いない」が 61.3%となっている。小学生保護者では、「いる」が 45.1%、「いない」が 54.9%となっている。中学生保護者では、「いる」が 42.7%、「いない」が 57.3%となっている。



(5)親せきの近居の状況

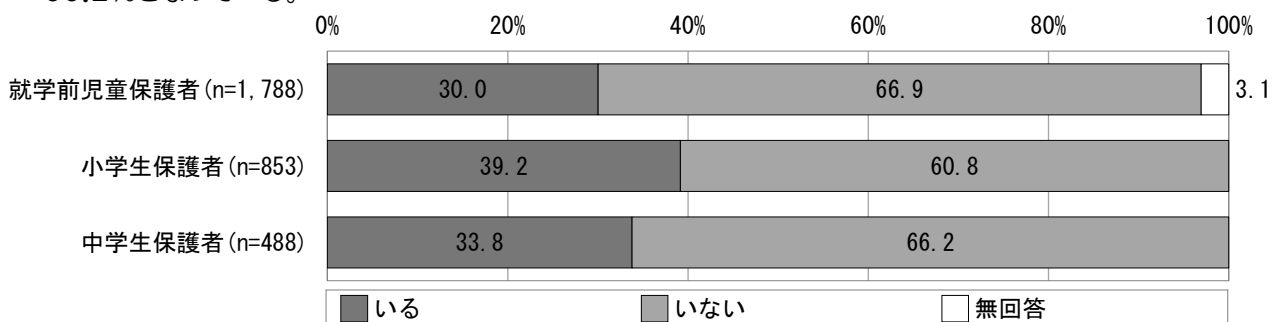
就学前児童保護者 問 1-3-2、小学生保護者 問 2-2、中学生保護者 問 2-2

【同居状況で「叔母」、「叔父」、「叔母・叔父以外の親せき」を選択しなかった方のみ】

宛名のお子さんには、松戸市内にお住まいの親せきがいますか。(単数回答)

親せきが同居していない世帯であっても、約3～4割が松戸市内に親せきが住んでいる。

就学前児童保護者では、「いる」が 30.0%、「いない」が 66.9%となっている。小学生保護者では、「いる」が 39.2%、「いない」が 60.8%となっている。中学生保護者では、「いる」が 33.8%、「いない」が 66.2%となっている。



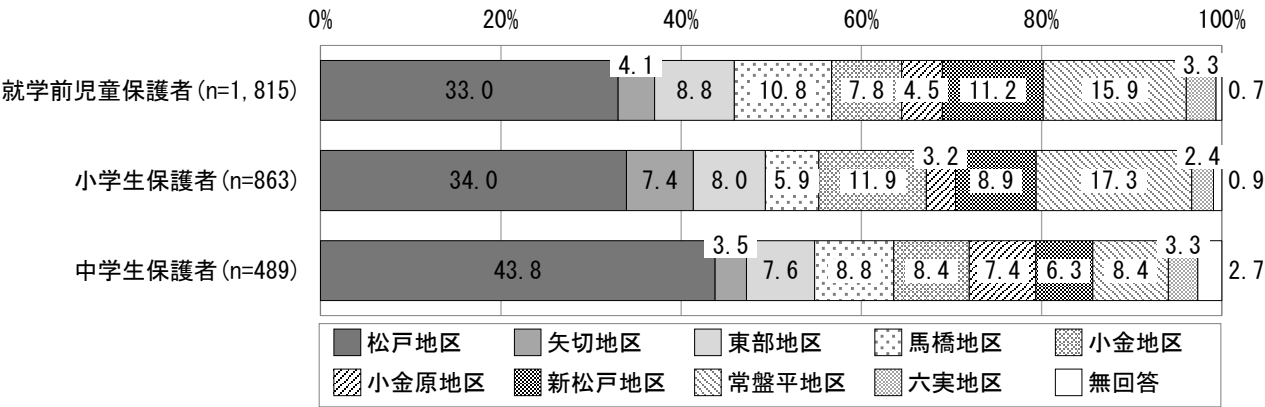
(6)居住地区

就学前児童保護者 問 1-4、小学生保護者 問 5、中学生保護者 問 4
お住まいの地区をお答えください。(単数回答)

就学前児童保護者では、「松戸地区」が 33.0%と最も高く、「常盤平地区」が 15.9%、「新松戸地区」が 11.2%と続いている。

小学生保護者では、「松戸地区」が 34.0%と最も高く、「常盤平地区」が 17.3%、「小金地区」が 11.9%と続いている。

中学生保護者では、「松戸地区」が 43.8%と最も高く、「馬橋地区」が 8.8%、「小金地区」と「常盤平地区」がそれぞれ 8.4%と続いている。

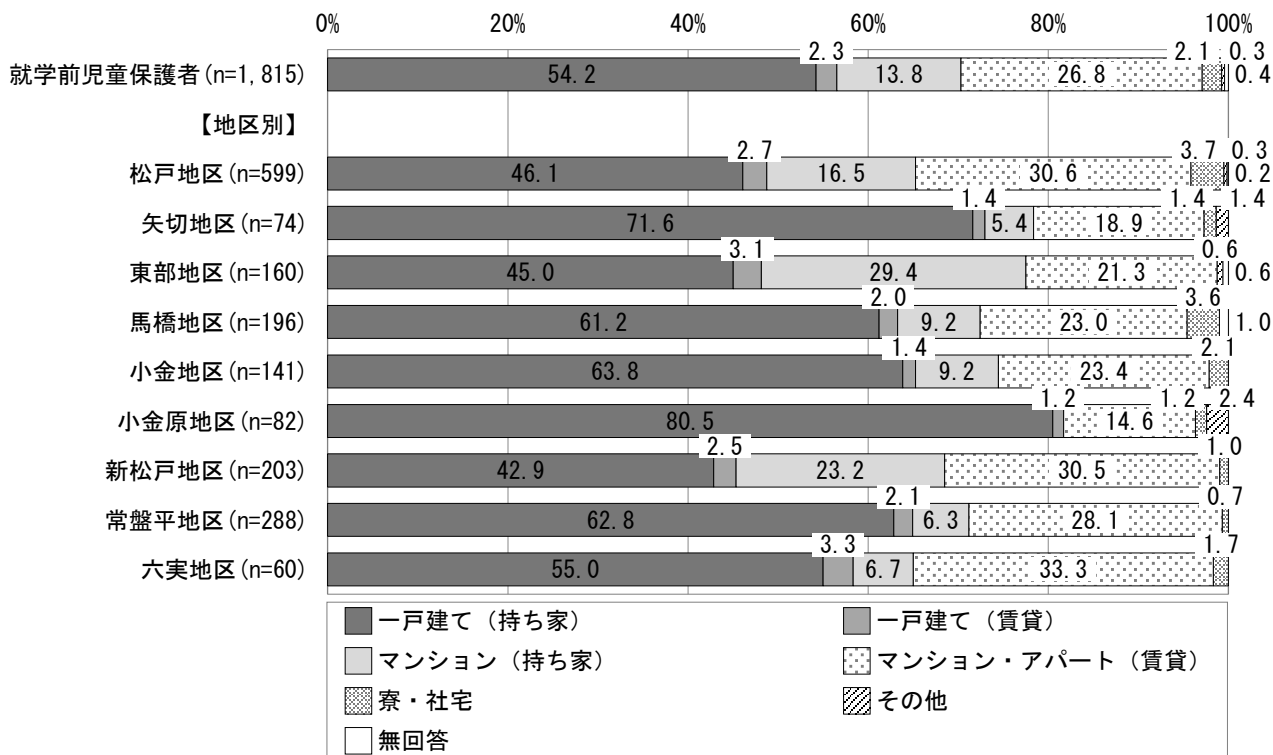


(7)居住形態

就学前児童保護者 問1-5

住居の状況をお答えください。(単数回答)

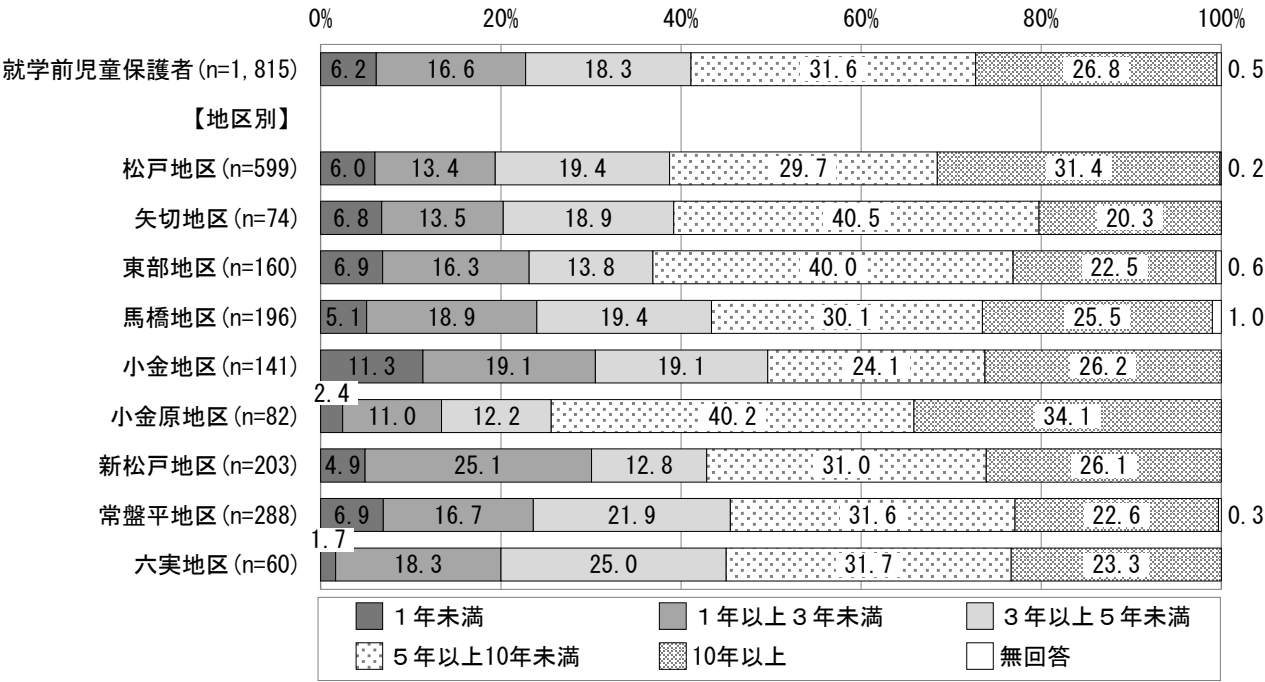
「一戸建て(持ち家)」が 54.2%と最も高く、「マンション・アパート(賃貸)」が 26.8%、「マンション(持ち家)」が 13.8%と続いている。また地区により、居住形態は大きく異なっている。



(8)居住年数

就学前児童保護者 問 1-6
松戸市内にお住まいの年数をお答えください。(単数回答)

「5年以上 10 年未満」が 31.6%と最も高く、「10 年以上」が 26.8%、「3年以上5年未満」が 18.3%と続いている。



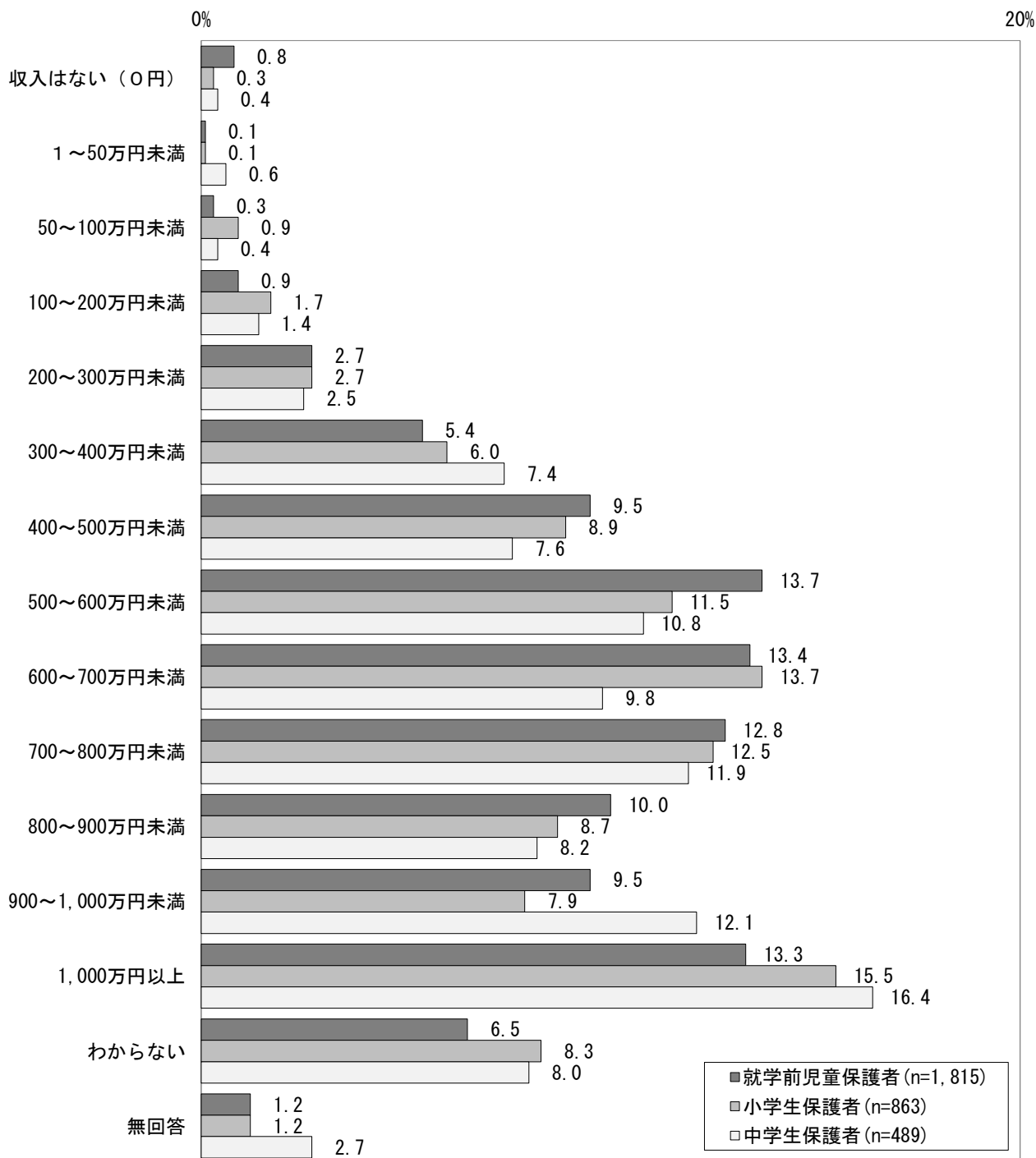
(9)世帯年収

就学前児童保護者 問 1-7、小学生保護者 問 6、中学生保護者 問 5
世帯の年収をお答えください。(単数回答)

就学前児童保護者では、「500～600 万円未満」が 13.7%と最も高くなっている。

小学生保護者では、「1,000 万円以上」が 15.5%と最も高くなっている。

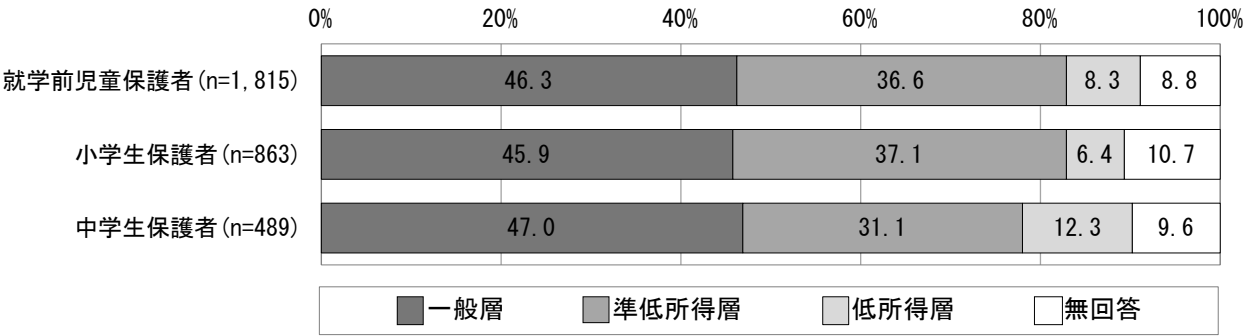
中学生保護者では、「1,000 万円以上」が 16.4%と最も高くなっている。



(10)経済状況

就学前児童保護者 問1-3・問1-7、小学生保護者 問2・問6、中学生保護者 問2・問5 から分類同居しているご家族をお答えください。宛名のお子さんからみた関係でお答えください。(複数回答)世帯の年収をお答えください。(単数回答)

世帯の同居状況(世帯人数)、世帯の年間収入をもとに、経済状況に関する類型の割合を算出した。就学前児童保護者では、「一般層」が46.3%、「準低所得層」が36.6%、「低所得層」が8.3%となっている。小学生保護者では、「一般層」が45.9%、「準低所得層」が37.1%、「低所得層」が6.4%となっている。中学生保護者では、「一般層」が47.0%、「準低所得層」が31.1%、「低所得層」が12.3%となっている。

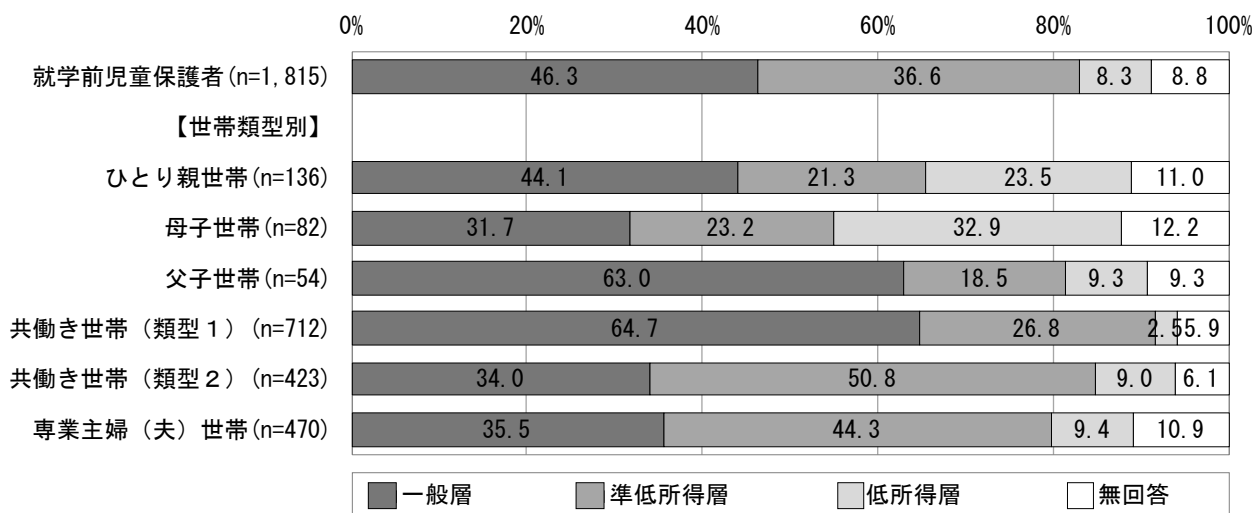


用語の定義

- 以下の手法で、経済状況を3区分に分類した。
- ①「世帯年収」の各選択肢の中央値を、その世帯の収入の値とする。(例えば、「50万円未満」であれば25万円、「50～100万円未満」であれば75万円とする。なお、「1,000万円以上」は1,050万円とする。)
 - ②上記の値を、「家族類型」で把握される同居家族の人数の平方根をとったもので除す。
 - ③上記の方法で算出した値(等価世帯収入)の中央値を求め、さらに、その2分の1を算出し、分類の基準とする。
算出結果:就学前児童保護者 中央値 375万円 その2分の1 187.5万円
小学生保護者 中央値 335万円 その2分の1 167.5万円
中学生保護者 中央値 375万円 その2分の1 187.5万円
 - ④上記の基準をもとに、以下のように分類する。
一般層 :等価世帯収入が中央値以上の世帯
準低所得層:等価世帯収入が中央値の2分の1以上中央値未満の世帯
低所得層 :等価世帯収入が中央値の2分の1未満の世帯

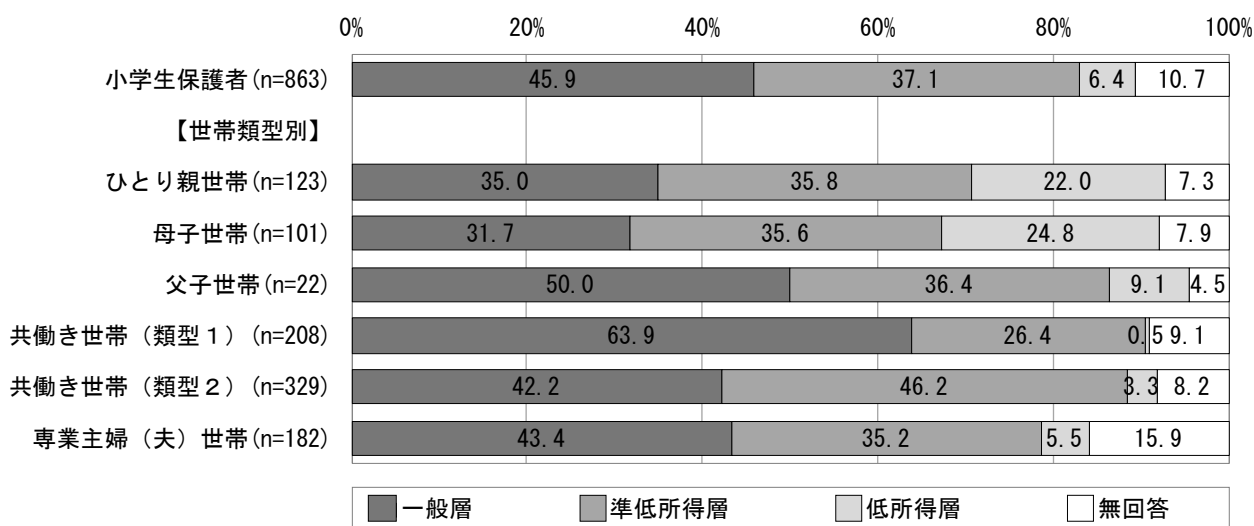
就学前児童保護者・世帯類型別

世帯類型別では、共働き世帯（類型1）の一般層の割合が高く、ひとり親世帯の低所得層の割合が高くなっている。ひとり親世帯でも、特に母子世帯の低所得層の割合が高くなっている。



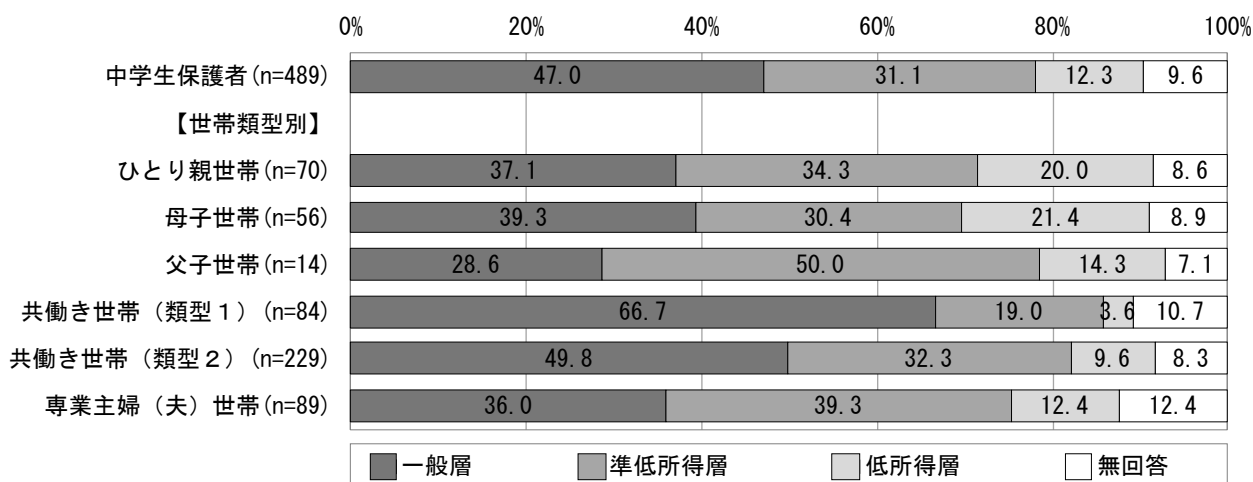
小学生保護者・世帯類型別

世帯類型別では、共働き世帯（類型1）の一般層の割合が高く、ひとり親世帯の低所得層の割合が高くなっている。ひとり親世帯でも、特に母子世帯の低所得層の割合が高くなっている。



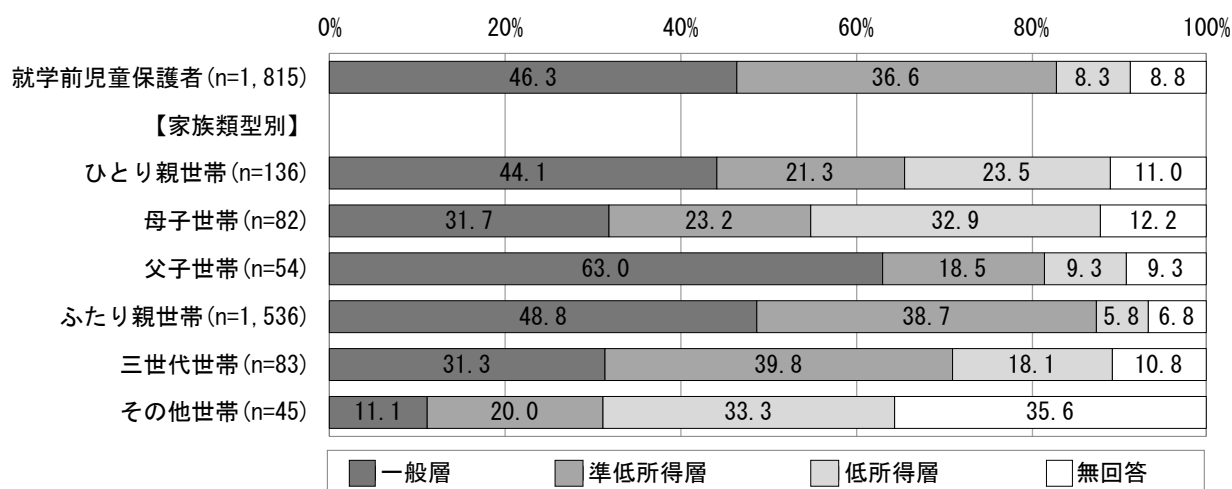
中学生保護者・世帯類型別

世帯類型別では、共働き世帯(類型1)の一般層の割合が高く、ひとり親世帯の低所得層の割合が高くなっている。



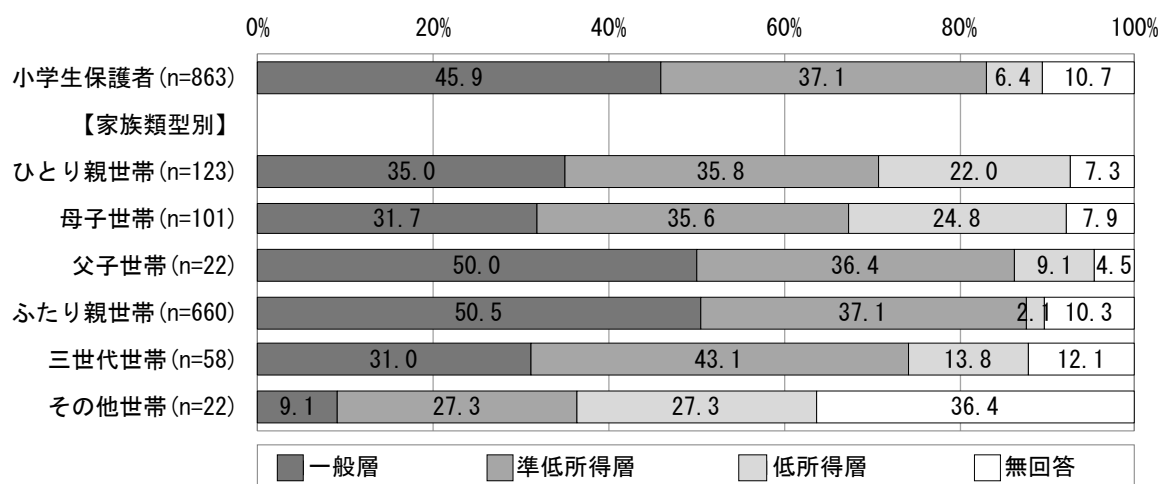
就学前児童保護者・家族類型別

家族類型別では、ふたり親世帯の一般層の割合が高く、その他世帯の低所得層の割合が高くなっている。また、ひとり親世帯では、特に母子世帯の低所得層の割合が高くなっている。



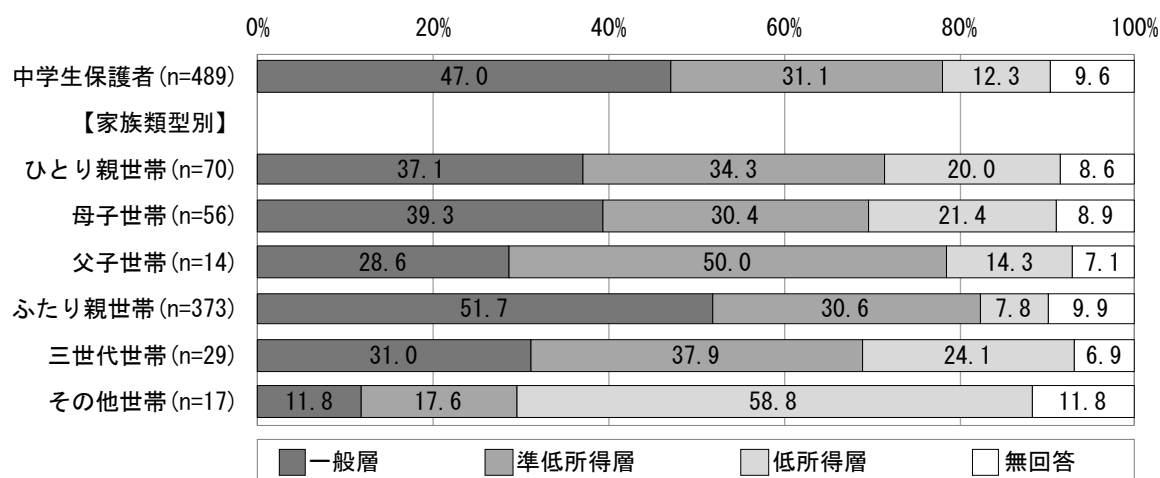
小学生保護者・家族類型別

家族類型別では、ふたり親世帯の一般層の割合が高く、その他世帯の低所得層の割合が高くなっている。また、ひとり親世帯では、特に母子世帯の低所得層の割合が高くなっている。



中学生保護者・家族類型別

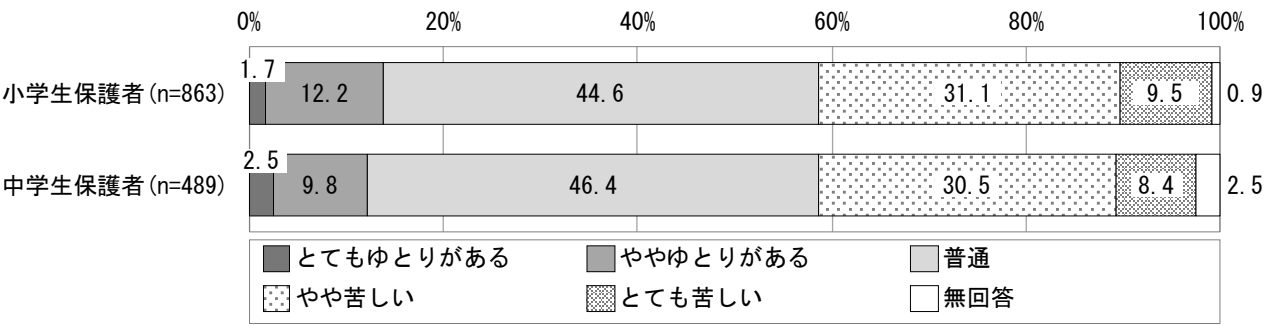
家族類型別では、ふたり親世帯の一般層の割合が高く、その他世帯の低所得層の割合が高くなっている。



(11)主観的経済状況

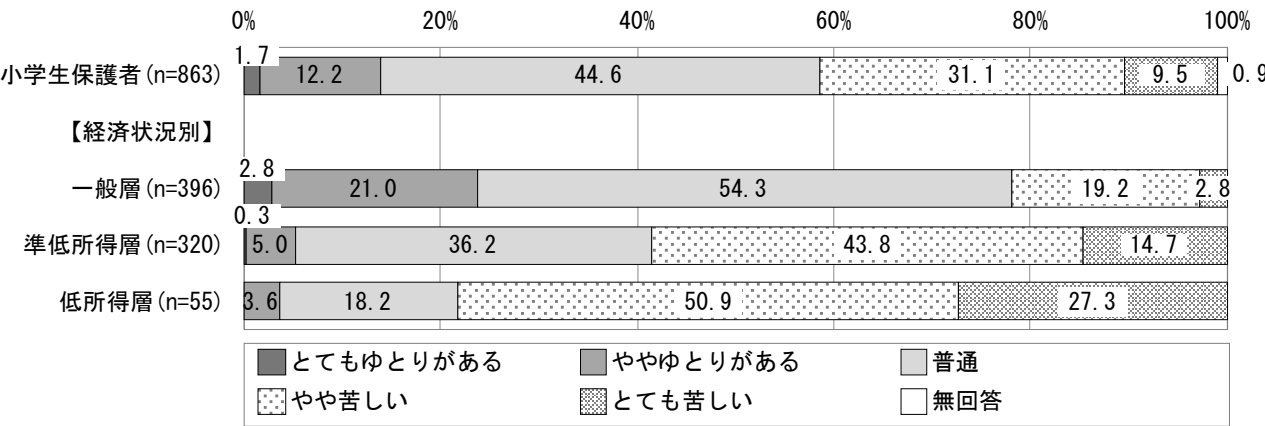
小学生保護者 問 7、中学生保護者 問 6
現在の家庭の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(単数回答)

主観的経済状況において苦しいと感じる割合(「やや苦しい」と「とても苦しい」の合計)は、いずれの調査も約4割となっている。



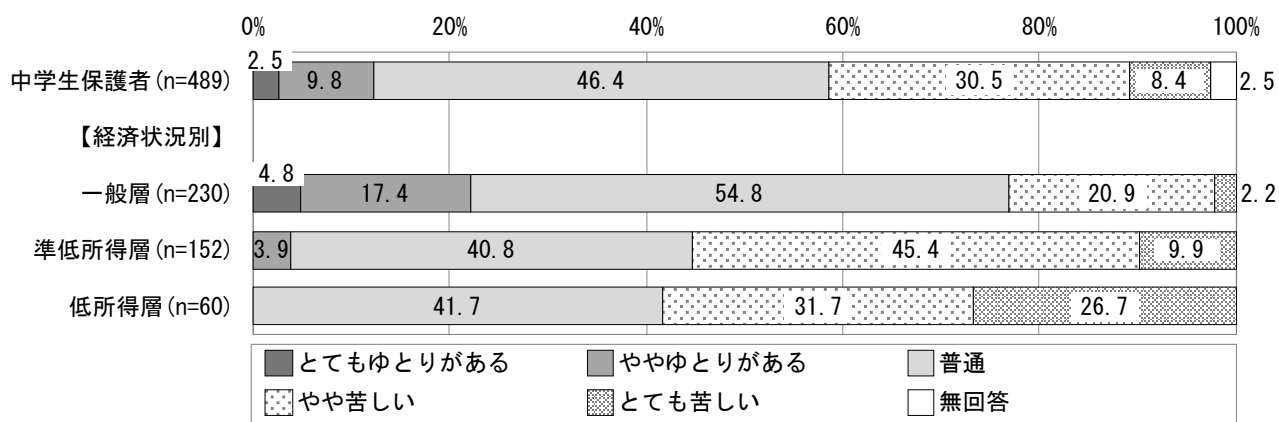
小学生保護者

経済状況別では、所得が低い層ほど苦しいと感じる割合が高くなっている。一方で、一般層であっても、苦しいと感じる割合が22.0%となっている。



中学生保護者

経済状況別では、所得が低い層ほど苦しいと感じる割合が高くなっている。一方で、一般層であっても、苦しいと感じる割合が23.1%となっている。



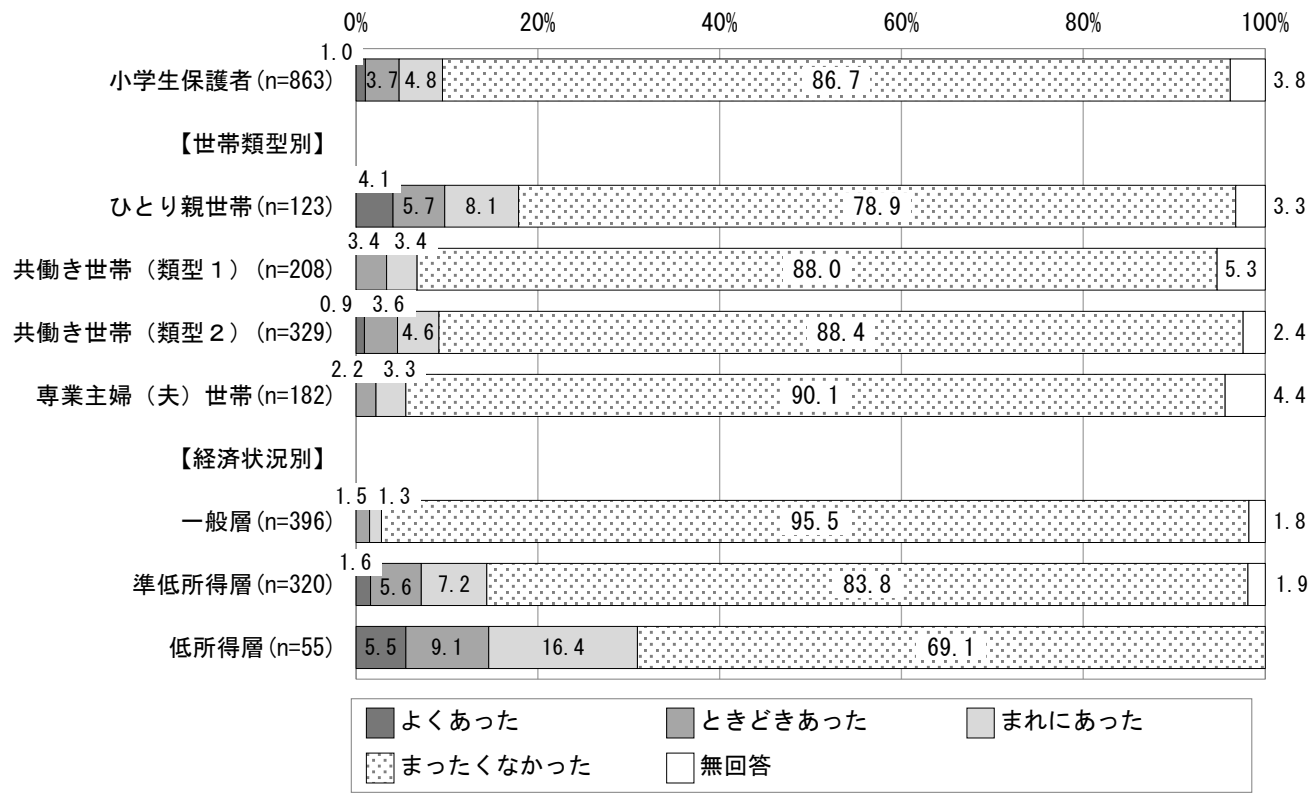
(12)食料を買えなかった経験

小学生保護者 問17、中学生保護者 問16
あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(単数回答)

いずれの調査でも、所得が低い層ほど、食料を買えなかった経験のある割合が高くなっている。世帯類型別では特に、小学生保護者のひとり親世帯において、食料を買えなかった経験のある割合が高くなっている。

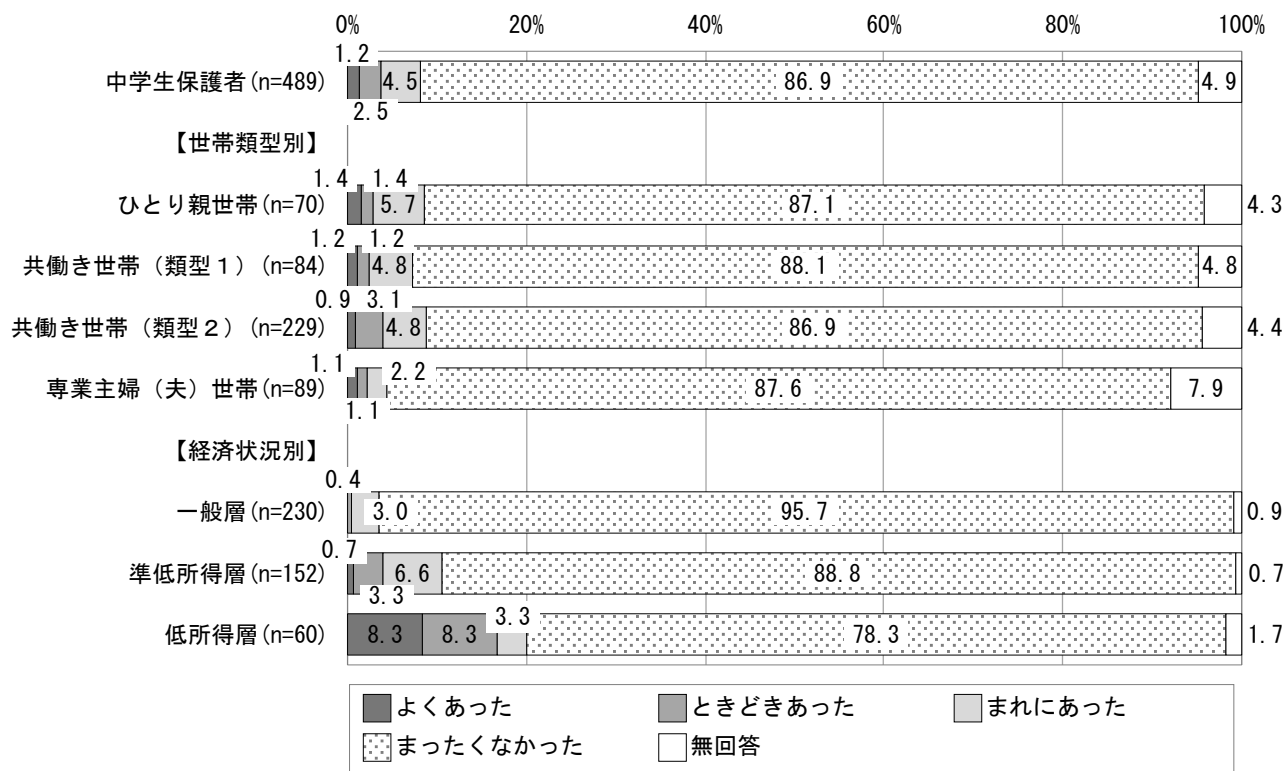
小学生保護者

「まったくなかった」が86.7%と最も高く、「まれにあった」が4.8%、「ときどきあった」が3.7%と続いている。世帯類型別ではひとり親世帯で、食料を買えなかった経験のある割合が高くなっている。経済状況別では、所得が低い層ほど、食料を買えなかった経験のある割合が高くなっている。



中学生保護者

「まったくなかった」が86.9%と最も高く、「まれにあった」が4.5%、「ときどきあった」が2.5%と続いている。経済状況別では、所得が低い層ほど、食料を買えなかった経験のある割合が高くなっている。



(13)衣服を買えなかった経験

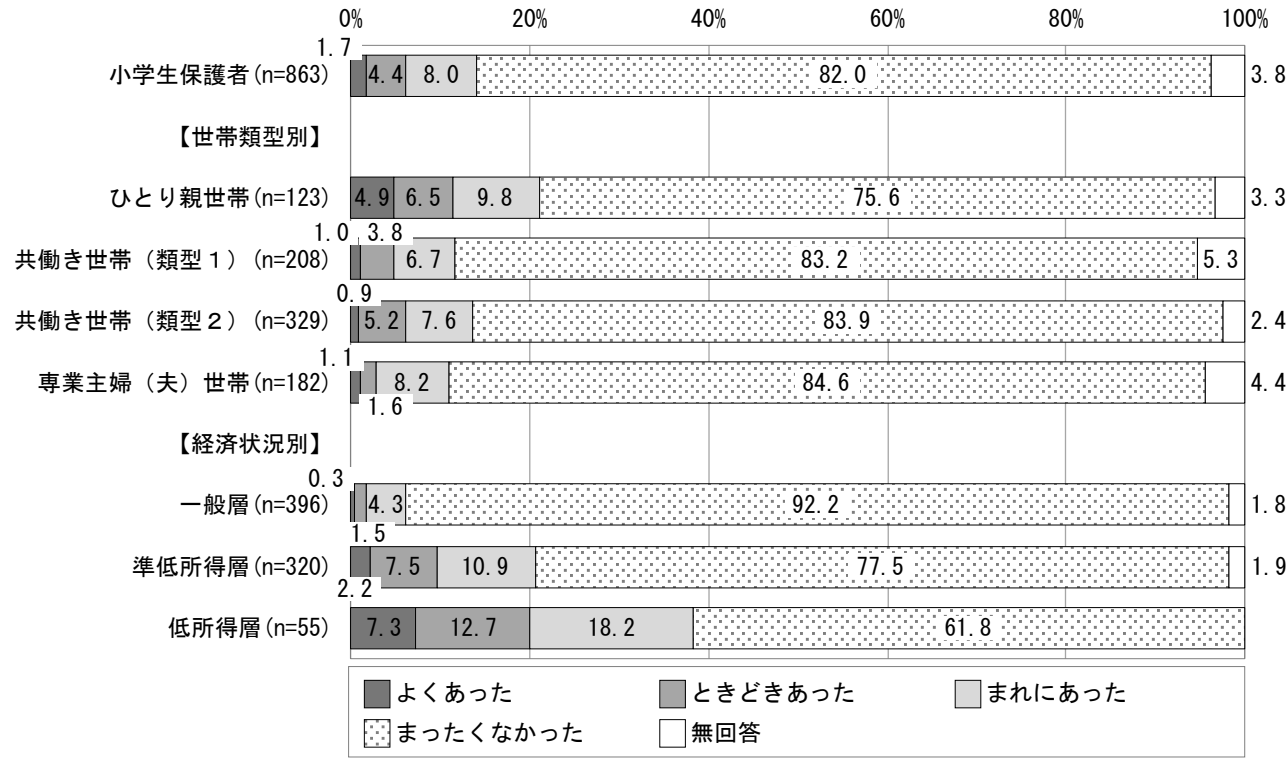
小学生保護者 問 18 、 中学生保護者 問 17

あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。(単数回答)

いずれの調査でも、所得が低い層ほど、衣服を買えなかった経験のある割合が高くなっている。世帯類型別では特に、小学生保護者のひとり親世帯において、衣服を買えなかった経験のある割合が高くなっている。

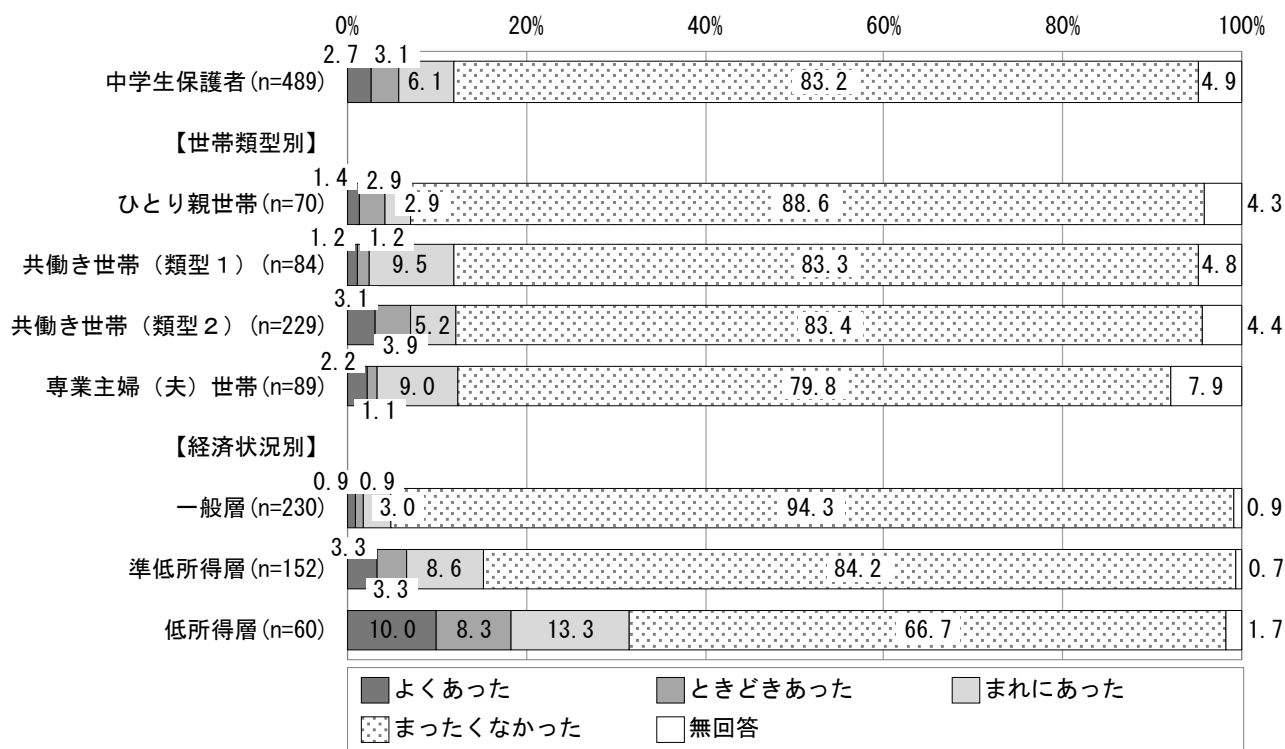
小学生保護者

「まったくなかった」が82.0%と最も高く、「まれにあった」が8.0%、「ときどきあった」が4.4%と続いている。世帯類型別ではひとり親世帯で、衣服を買えなかった経験のある割合が高くなっている。経済状況別では、所得が低い層ほど、衣服を買えなかった経験のある割合が高くなっている。



中学生保護者

「まったくなかった」が 83.2%と最も高く、「まれにあった」が 6.1%、「ときどきあった」が 3.1%と続いている。経済状況別では、所得が低い層ほど、衣服を買えなかった経験のある割合が高くなっている。



(14)公共料金未払いの経験

小学生保護者 問 19 、 中学生保護者 問 18

あなたの世帯では、過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありますか。(複数回答)

いずれの調査でも、所得が低い層ほど、公共料金未払いの割合が高くなっている。

小学生保護者

「電気料金」が 5.8%と最も高く、「水道料金」が 4.6%、「ガス料金」が 1.0%と続いている。経済状況別では、所得が低い層ほど、公共料金未払いの経験のある割合が高くなっている。

(%)	電 気 料 金	水 道 料 金	ガ ス 料 金	無 回 答
小学生保護者 (n=863)	5.8	4.6	1.0	88.5
【世帯類型別】				
ひとり親世帯 (n=123)	8.1	8.1	0.8	82.9
共働き世帯（類型 1） (n=208)	4.8	5.8	1.9	87.5
共働き世帯（類型 2） (n=329)	5.5	3.6	0.6	90.3
専業主婦（夫）世帯 (n=182)	3.8	2.2	0.5	93.4
【経済状況別】				
一般層 (n=396)	4.8	0.8	3.8	90.7
準低所得層 (n=320)	6.9	0.9	5.3	86.9
低所得層 (n=55)	9.1	1.8	9.1	80.0

中学生保護者

「ガス料金」が 1.8%と最も高く、「水道料金」が 1.6%、「電気料金」が 1.0%と続いている。経済状況別では、所得が低い層ほど、公共料金未払いの経験のある割合が高くなっている。

(%)	ガス 料金	水道 料金	電気 料金
中高生保護者 (n=489)	1.8	1.6	1.0
【世帯類型別】			
ひとり親世帯 (n=70)	2.9	2.9	2.9
共働き世帯（類型 1） (n=84)	1.2	1.2	0.0
共働き世帯（類型 2） (n=229)	0.9	1.3	0.9
専業主婦（夫）世帯 (n=89)	3.4	1.1	1.1
【経済状況別】			
一般層 (n=230)	0.0	0.4	0.0
準低所得層 (n=152)	1.3	2.6	2.6
低所得層 (n=60)	5.0	5.0	5.0

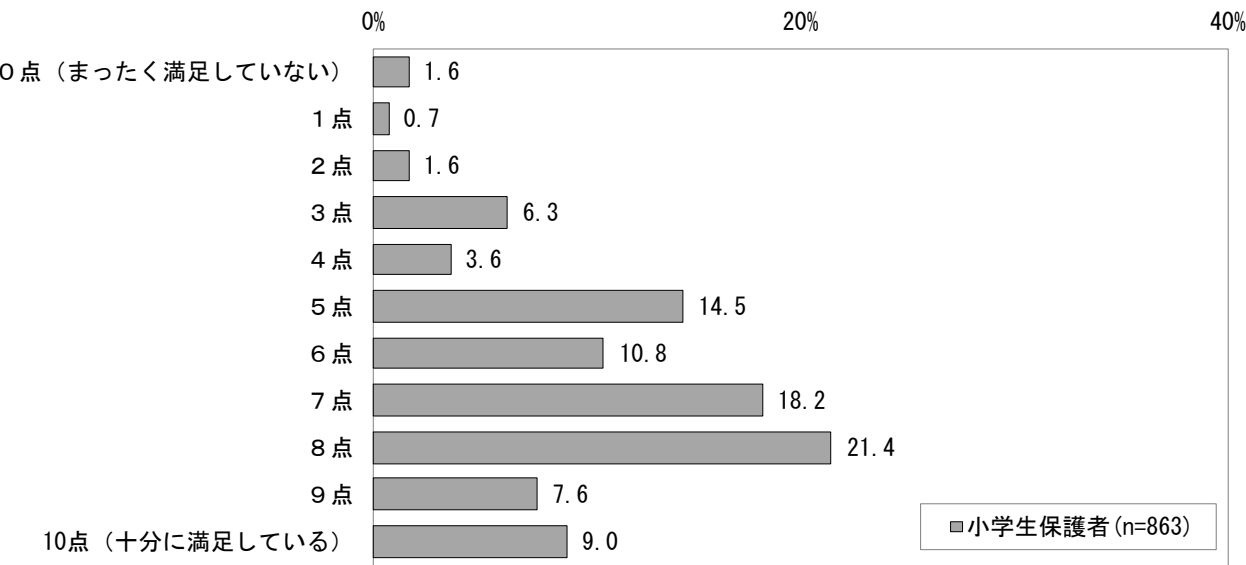
(15)生活への満足度

小学生保護者 問21、中学生保護者 問20
全体として、あなたは最近の生活にどのくらい満足していますか。「0」(まったく満足していない)から「10」(十分に満足している)の数字で教えてください。(単数回答)

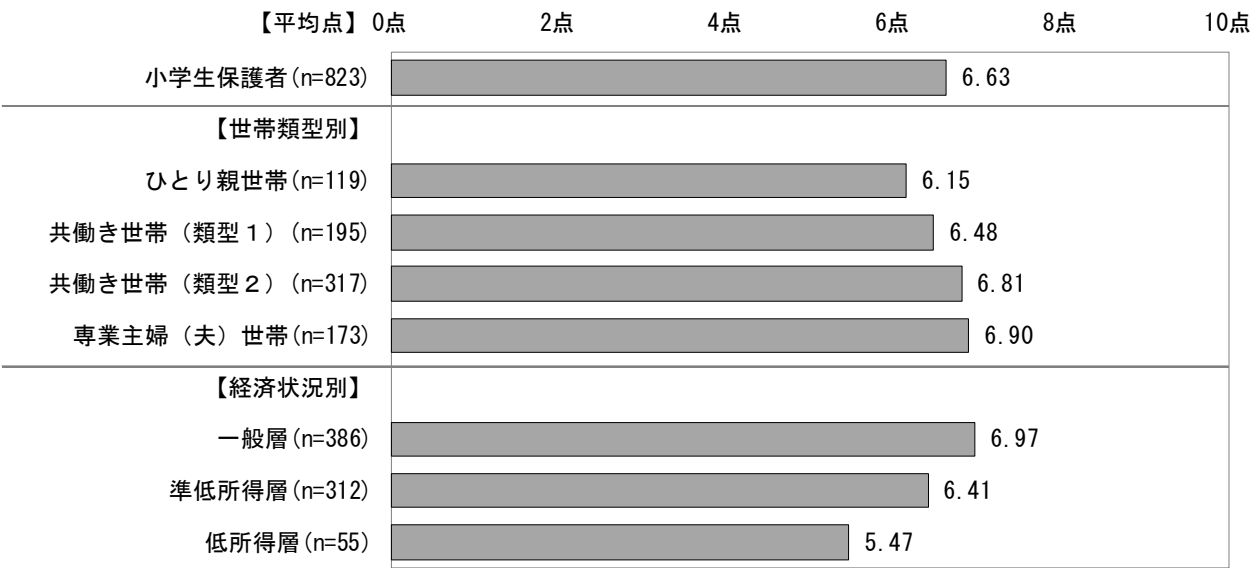
生活への満足度の平均点をみると、いずれの調査でも、世帯類型別ではひとり親世帯の平均点が低く、経済状況別では、所得が低い層ほど平均点は低くなっている。

小学生保護者

「8点」が21.4%と最も高く、「7点」が18.2%、「5点」が14.5%と続いている。



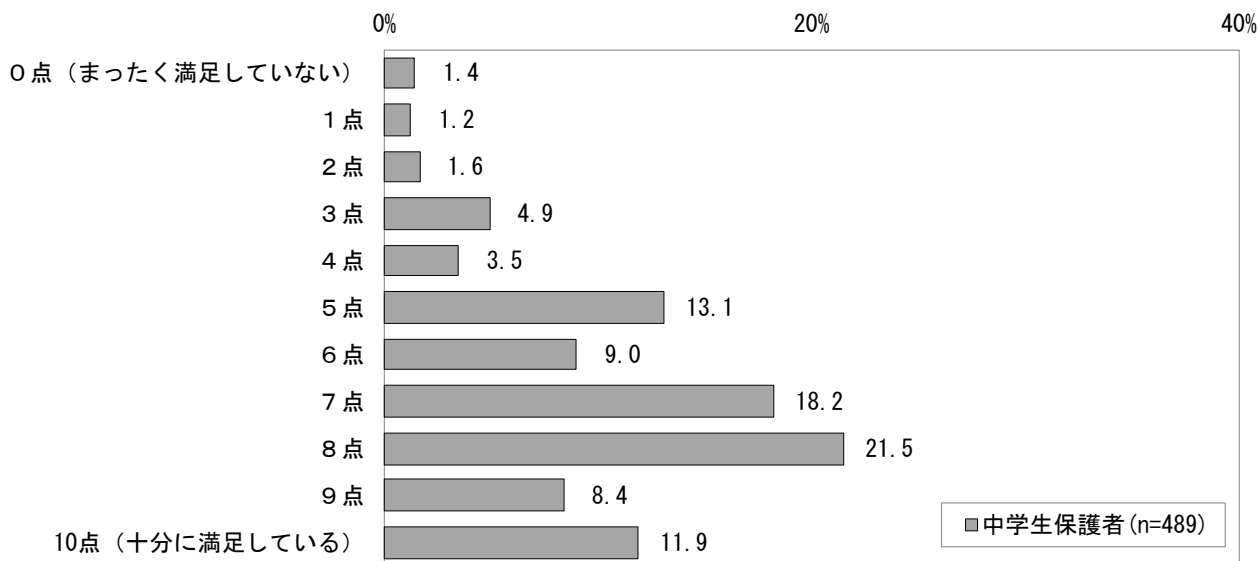
世帯類型別では「専業主婦(夫)世帯」の平均点が最も高く、「ひとり親世帯」の平均点が最も低くなっている。経済状況別では、所得が低い層ほど平均点が低くなっている。



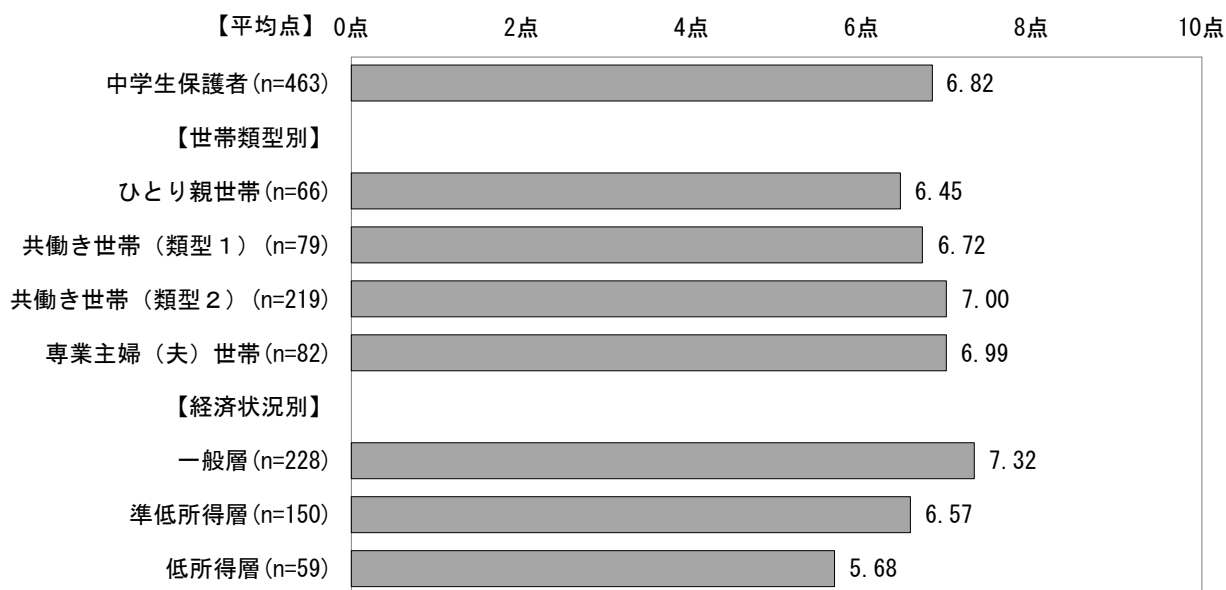
※平均点算出の際には、無回答者を母数(n)から除外している。

中学生保護者

「8点」が21.5%と最も高く、「7点」が18.2%、「5点」が13.1%と続いている。



世帯類型別では「共働き世帯(類型2)」の平均点が最も高く、「ひとり親世帯」の平均点が最も低くなっている。経済状況別では、所得が低い層ほど平均点が低くなっている。



※平均点算出の際には、無回答者を母数(n)から除外している。

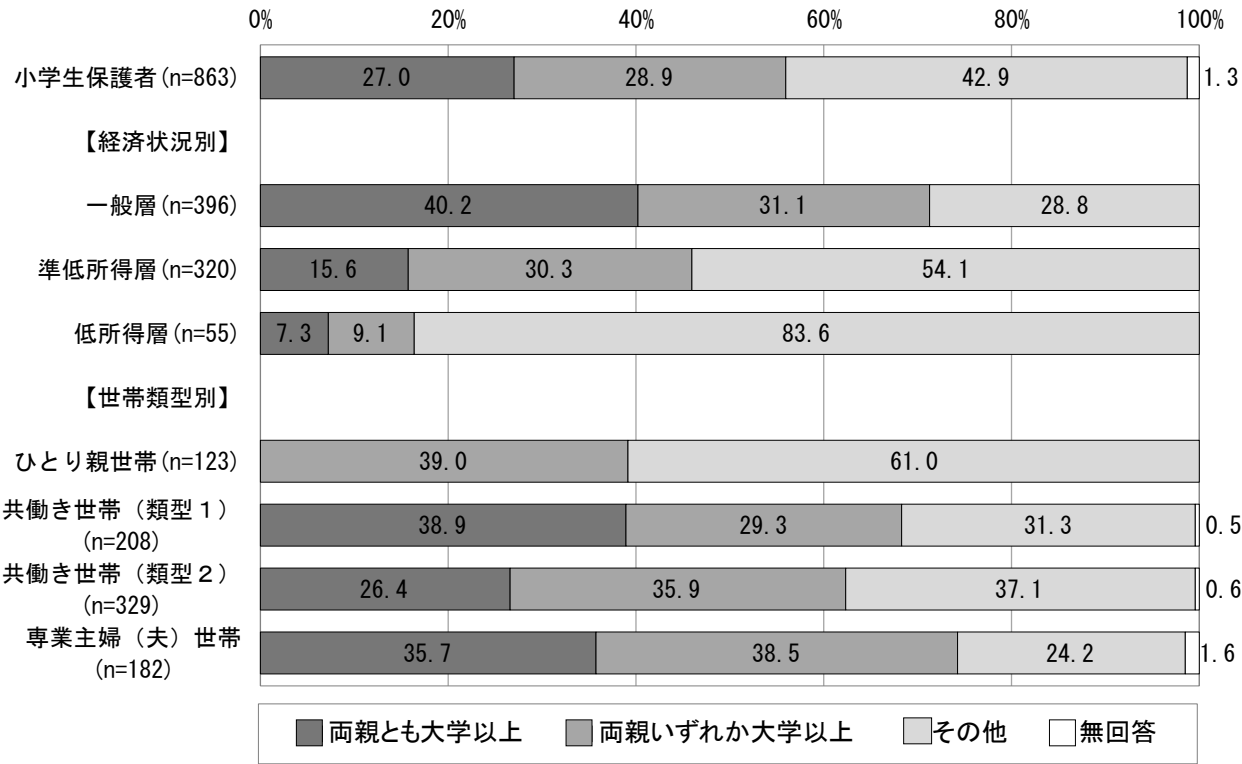
(16)保護者の最終学歴

小学生保護者 問 9 、 中学生保護者 問 8
お子さんの保護者の最終学歴をお答えください。(単数回答)

経済状況における一般層は、準低所得層・低所得層よりも両親の最終学歴が高い傾向がみられる。

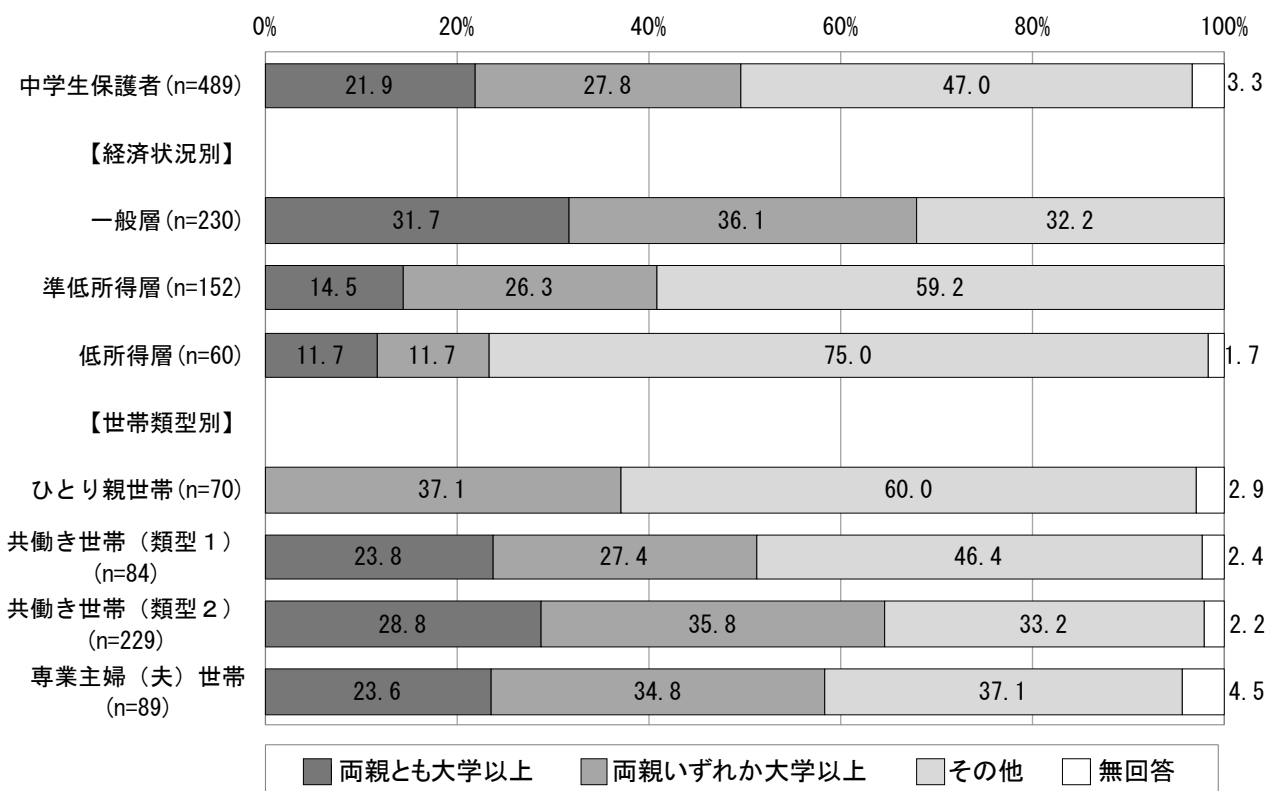
小学生保護者

「その他」が 42.9%と最も高く、「両親いずれか大学以上」が 28.9%、「両親とも大学以上」が 27.0%と続いている。経済状況別では、一般層において「両親とも大学以上」が 40.2%となっているのに対し、準低所得層では 15.6%、低所得層では 7.3%となっている。世帯類型別では、共働き世帯(類型2)において「両親とも大学以上」が 26.4%と低くなっている。



中学生保護者

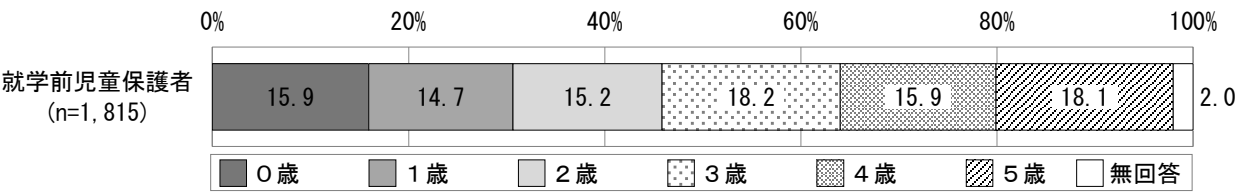
小学生保護者と同様の傾向がみられ、「その他」が 47.0%と最も高く、「両親いずれか大学以上」が 27.8%、「両親とも大学以上」が 21.9%と続いている。経済状況別では、一般層において「両親とも大学以上」が 31.7%となっているのに対し、準低所得層では 14.5%、低所得層では 11.7%となっている。世帯類型別では、共働き世帯(類型2)において「両親とも大学以上」が 28.8%と高くなっている。



(17)年齢

就学前児童保護者 問 1-8
宛名のお子さんの生年月をお答えください。(数値回答)

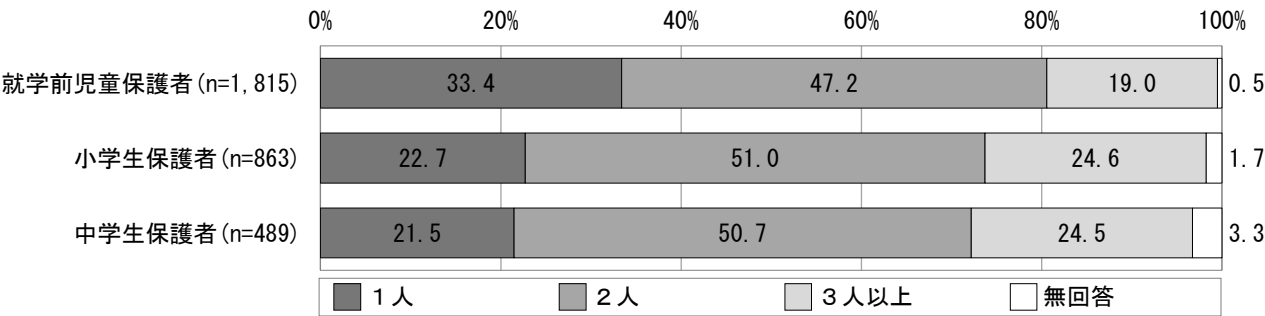
就学前児童保護者では、「3歳」が 18.2%と最も高く、「5歳」が 18.1%、「0歳」と「4歳」が、それぞれ 15.9%と続いている。



(18)きょうだい数

就学前児童保護者 問 1-9 、小学生保護者 問 10 、中学生保護者 問 9
宛名のお子さんを含めたお子さんの数をお答えください。(数値回答)

就学前児童保護者では、「2人」が 47.2%と最も高くなっている。
小学生保護者では、「2人」が 51.0%と最も高くなっている。
中学生保護者では、「2人」が 50.7%と最も高くなっている。

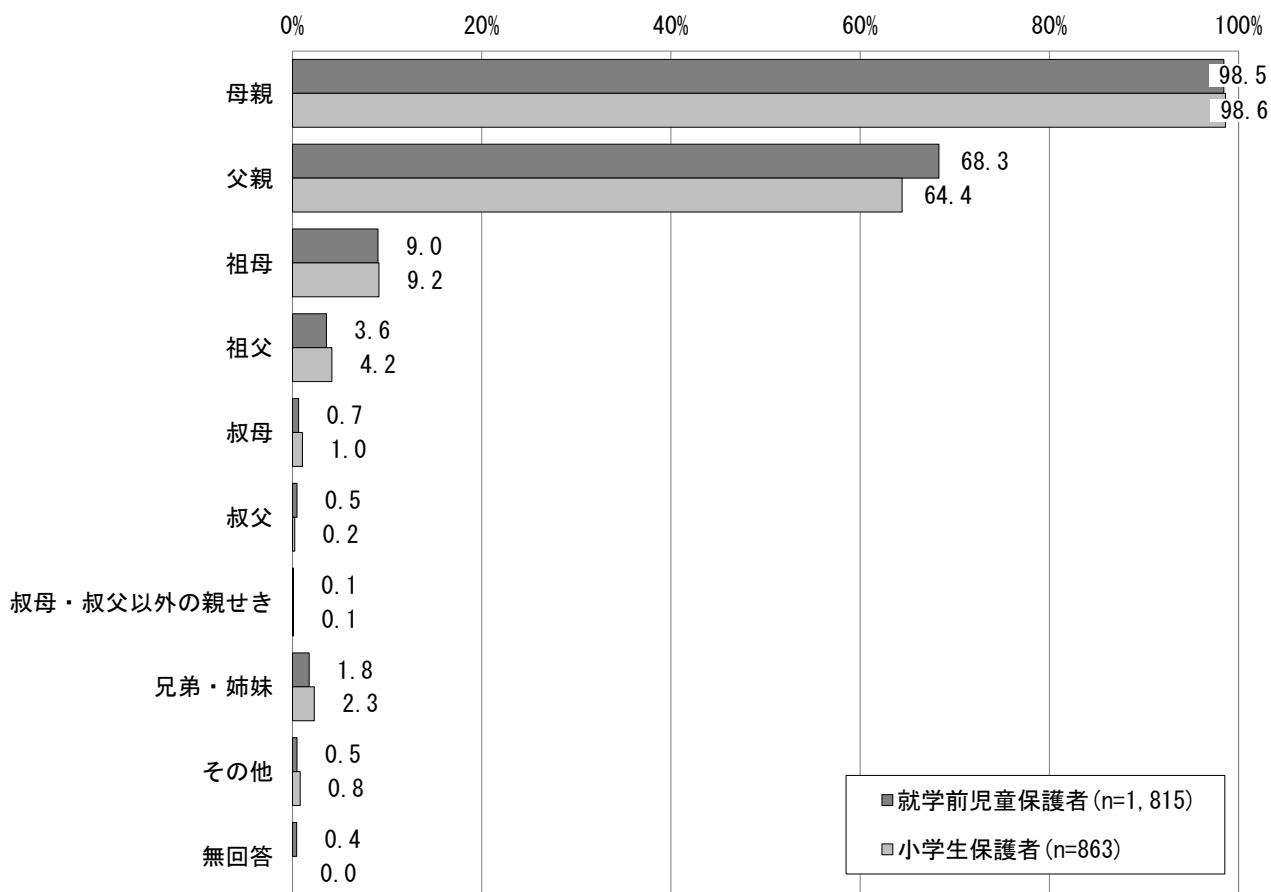


(19)主な養育者(家庭内)

就学前児童保護者 問 1-10、小学生保護者 問 3

宛名のお子さんの子育て(教育を含む)を主に行っているのはどなたですか。(複数回答)

就学前児童保護者では、「母親」が 98.5%と最も高く、「父親」が 68.3%、「祖母」が 9.0%と続いている。小学生保護者では、「母親」が 98.6%と最も高く、「父親」が 64.4%、「祖母」が 9.2%と続いている。



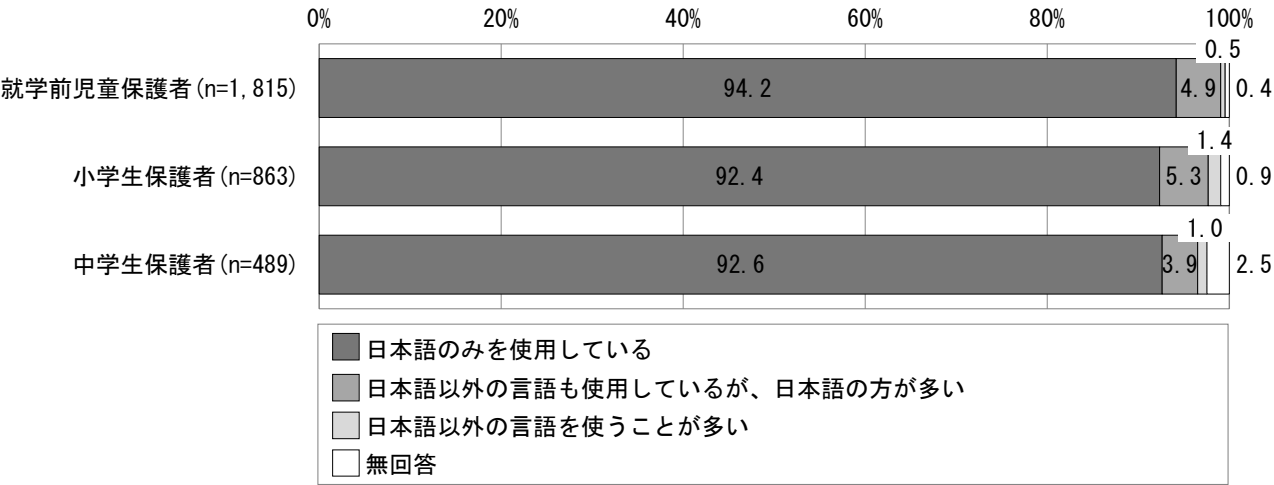
(20)家庭内の言語

就学前児童保護者 問 1-11、小学生保護者 問 8、中学生保護者 問 7
ご家庭で使用している言語をお答えください。(単数回答)

就学前児童保護者では、「日本語のみを使用している」が 94.2%と最も高く、「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が 4.9%と続いている。

小学生保護者では、「日本語のみを使用している」が 92.4%と最も高く、「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が 5.3%と続いている。

中学生保護者では、「日本語のみを使用している」が 92.6%と最も高く、「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が 3.9%と続いている。



第2節 子育て環境

■結果の概要

【相談できる人】

- ・就学前児童保護者の8.4%が、気軽に相談できる相手が「いない／ない」と回答している。世帯類型別にみると、特にひとり親世帯において「いない／ない」の割合が高くなっている。経年比較でも「いない／ない」の割合は増加している。
- ・主な相談相手は「身内の人」や「友人・知人」になっている。それ以外の相談相手は、子どもの年齢により違いがみられる。就学前児童保護者は子どもが通っている幼稚園・保育所(園)等の割合が高く、小学生保護者・中学生保護者においては「職場の人」の割合が高く、「小(中)学校の先生」や「近所の人」の割合より高くなっている。

【情報入手】

- ・友人や知人に次いでインターネットが情報入手手段になっている。経済状況別にみると、低所得層は多くの選択肢で一般層・準低所得層よりも割合が低くなっており、情報入手の手段が限られている可能性がある。

【子育て中の悩み】

- ・子どもが就学前の時期において、子育てに喜びや悩みを持つ割合が高くなっている。就学前児童保護者において、前回調査よりも「子育てが自分の生きがいになっている」に増加がみられる。
- ・子育て中の悩みの内容は、子どもが成長するにつれ変化しており、就学前児童保護者は発達や健康のことに悩む割合が高かったのに対し、小学生保護者・中学生保護者になると友だちづきあいのことに悩む割合が高くなっている。

【子どもの進路】

- ・保護者の最終学歴が「両親とも大学以上」の場合に、子どもの最終学歴の見通しが「大学またはそれ以上」の割合が高くなっている。またそれを一般的な進路だと考えている割合も高くなっている。

【理想的な子どもの数】

- ・いずれの調査でも、「2人」を理想的な子どもの人数とする割合が最も高く、「3人以上」は3～4割となっている。
- ・就学前児童保護者においては、現在の子どもの数が理想的な子どもの数に1人少ないとする割合が約4割と最も高くなっているが、小学生保護者・中学生保護者になると、現在の子どもの数が理想的とする割合が約6割と最も高くなっている。
- ・現在の子どもの数が理想的な子どもの数より1人以上少ない人の多くは、理想の実現は難しいと考えており、その主な理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎる」の割合が高くなっている。

【子育て環境への満足度】

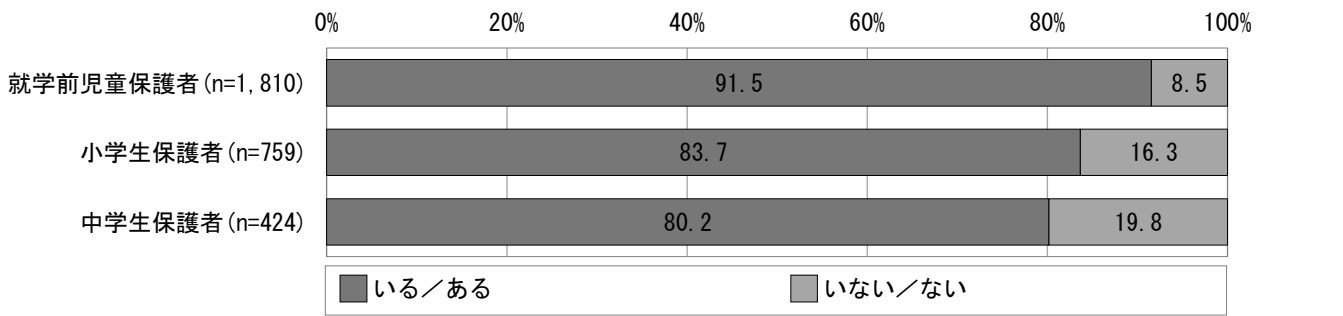
- ・就学前児童保護者において、松戸市の子育て環境に満足する割合が6割を超えており、小学生保護者・中学生保護者においても、満足する割合は半数を超えている。
- ・特に就学前児童保護者においては前回調査よりも満足する割合が増加しており、松戸市の支援内容への評価が高まっていると考えられる。
- ・世帯類型別にみると、就学前児童保護者と小学生保護者において、共働き世帯(類型1)の満足する割合が最も高く、専業主婦(夫)世帯の割合が最も低くなっている。仕事と子育ての両立支援が充実する中、専業主婦(夫)世帯が不公平に感じている可能性がある。
- ・経済状況別にみると、いずれの調査においても、一般層が準低所得層・低所得層と比較して満足する割合が高くなっている。
- ・満足に感じる理由としては、就学前児童保護者においては、保育園の入所しやすさや子育て支援の内容を評価する割合が高くなっている。全体的には、鉄道やバスなどの交通利便や小児医療を評価する割合が高くなっている。
- ・不満に感じる理由としては、全体的に経済的支援や公園・スポーツ施設が十分でないこと、治安が悪いことをあげる割合が高くなっている。

1. 子育て相談、情報入手に関すること

(1)相談できる人の有無

就学前児童保護者 問 2、小学生保護者 問 16、中学生保護者 問15
子どものことや子育てについて気軽に相談できる相手はいますか。または相談できる場所がありますか。
(単数回答)

子どもや子育てのことを相談できる人については、子どもの年齢が高くなるほど「いない／ない」が高くなっている。

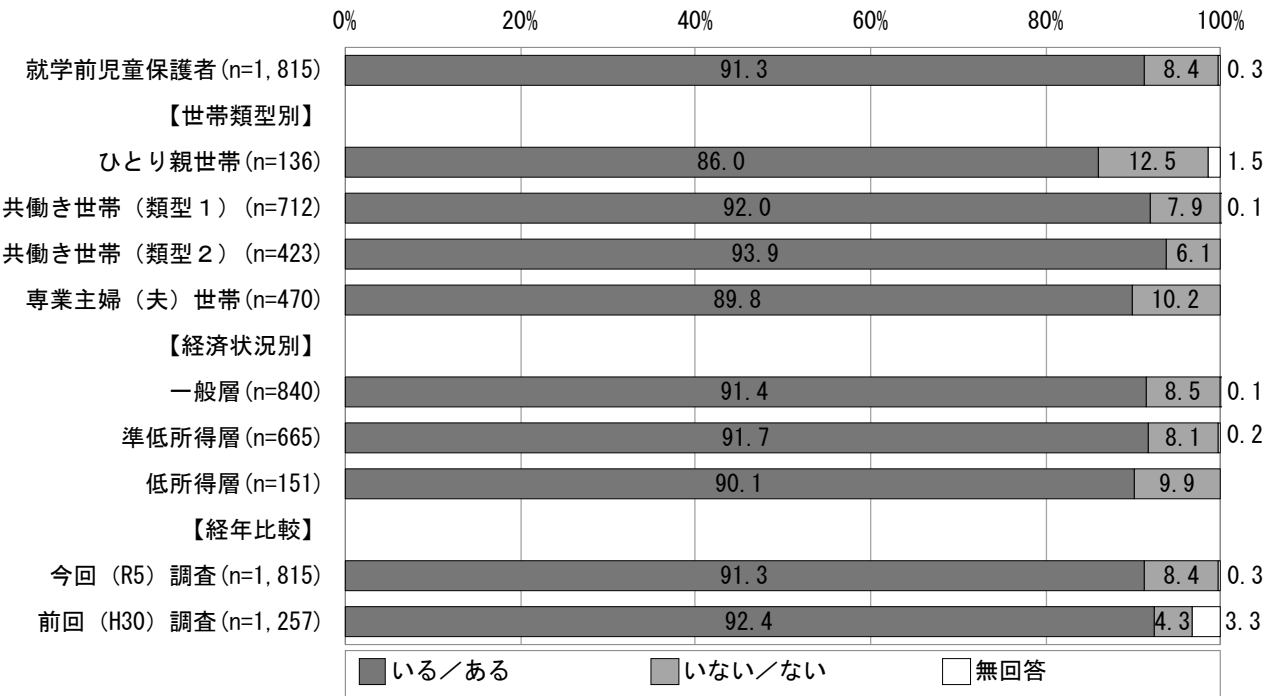


※小学生保護者・中学生保護者は、次ページの①～③いずれかに「頼れる人がいる」場合、「いる/ある」としている。
※比較のため、「無回答」を除いて集計

就学前児童保護者

就学前児童保護者では、「いる／ある」が 91.3%、「いない／ない」が 8.4%となっている。世帯類型別にみると、ひとり親世帯において「いない／ない」の割合が高くなっている。経済状況別では、「いる／ある」の割合に大きな違いはみられない。

経年比較では「いる／ある」の割合に大きな変化はないものの、「いない／ない」の割合に増加がみられる。

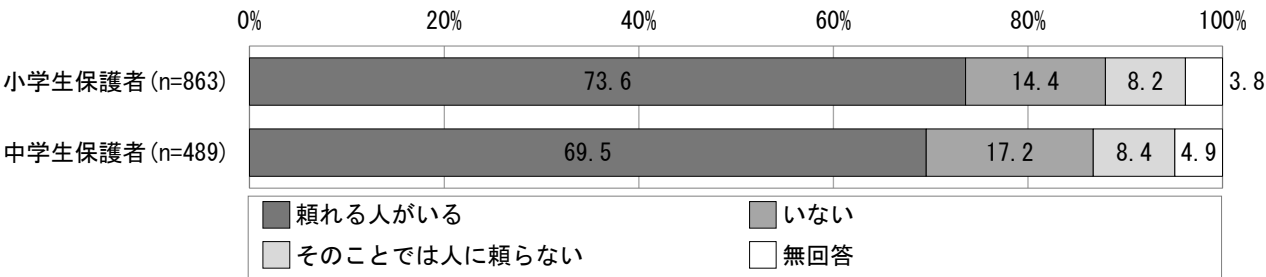


小学生保護者・中学生保護者

①子育てに関する相談

小学生保護者では、「頼れる人がいる」が 73.6%と最も高く、「いない」が 14.4%、「そのことでは人に頼らない」が 8.2%と続いている。

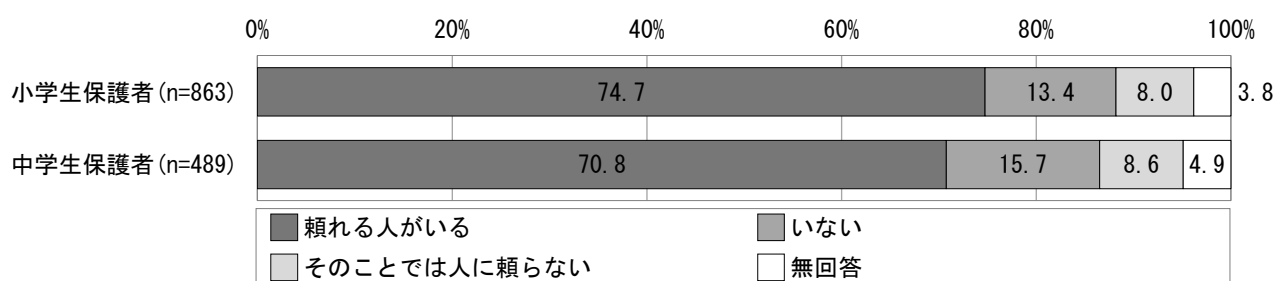
中学生保護者では、「頼れる人がいる」が 69.5%と最も高く、「いない」が 17.2%、「そのことでは人に頼らない」が 8.4%と続いている。



②重要な事柄の相談

小学生保護者では、「頼れる人がいる」が74.7%と最も高く、「いない」が13.4%、「そのことでは人に頼らない」が8.0%と続いている。

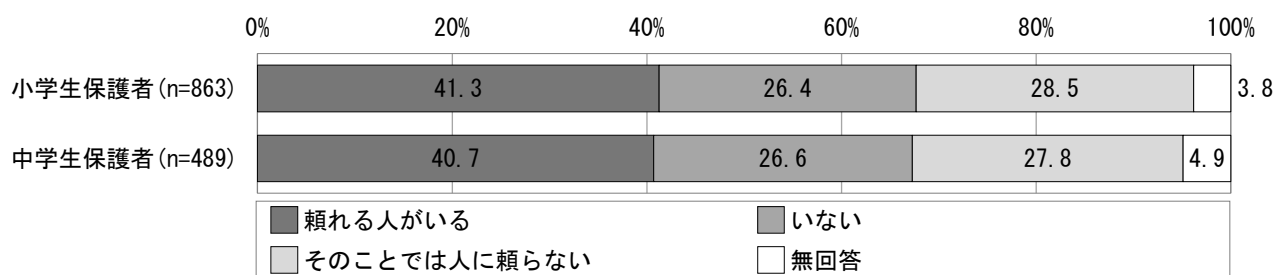
中学生保護者では、「頼れる人がいる」が70.8%と最も高く、「いない」が15.7%、「そのことでは人に頼らない」が8.6%と続いている。



③いざというときのお金の援助

小学生保護者では、「頼れる人がいる」が41.3%と最も高く、「そのことでは人に頼らない」が28.5%、「いない」が26.4%と続いている。

中学生保護者では、「頼れる人がいる」が40.7%と最も高く、「そのことでは人に頼らない」が27.8%、「いない」が26.6%と続いている。



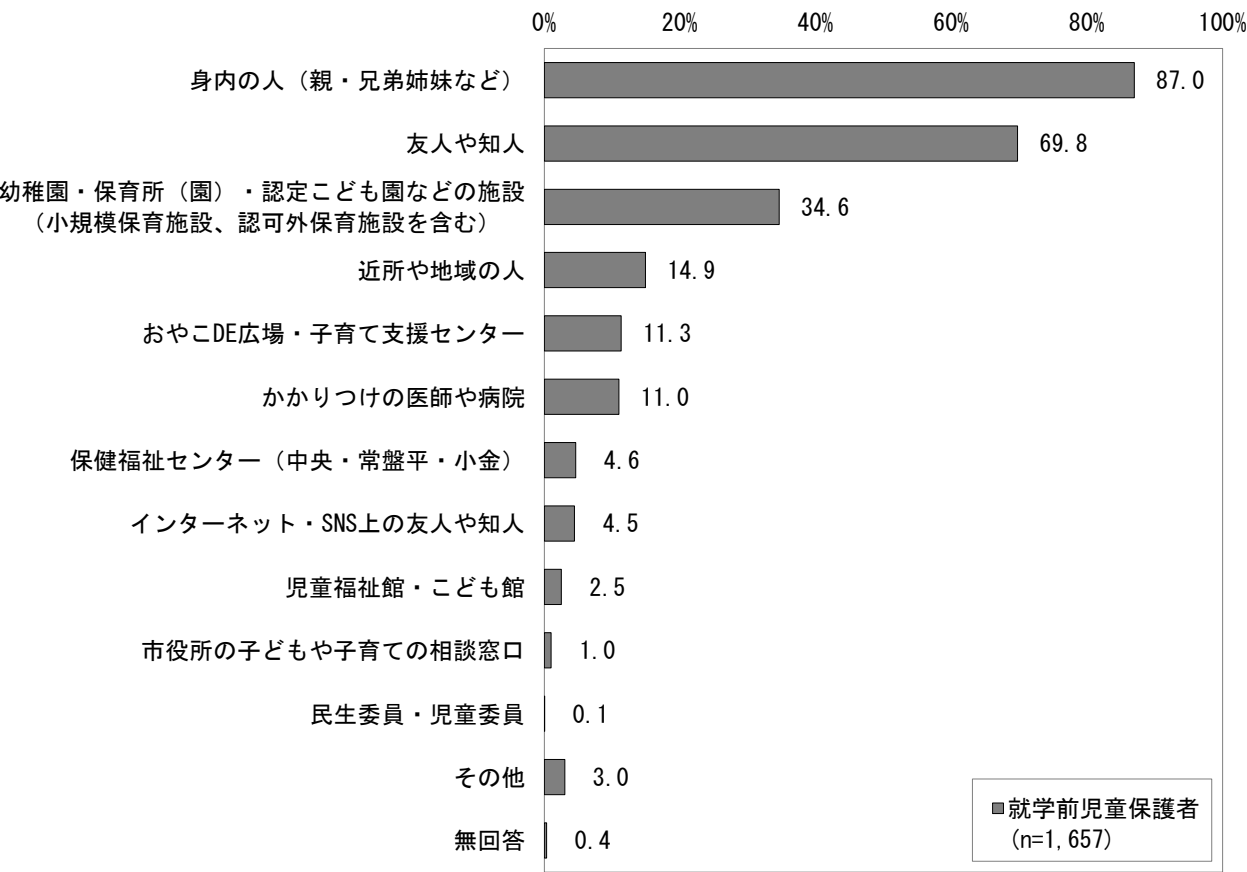
(2)相談場所・相談相手

就学前児童保護者 問 2-1、小学生保護者 問 16、中学生保護者 問 15
【「相談できる人の有無」で「いる/ある」を選択した方のみ】
気軽に相談できる相手(場所)は、誰(どこ)ですか。(複数回答)

いずれの調査でも「身内の人」や「友人や知人」が主な相談相手となっている。それ以外の相談相手としては、就学前児童保護者においては「幼稚園・保育所(園)・認定こども園などの施設(小規模保育施設、認可外保育施設を含む)」の割合が高くなっている。小学生保護者・中学生保護者においては「職場の人」の割合が、「小(中)学校の先生」や「近所の人」の割合より高くなっている。

就学前児童保護者

「身内の人(親・兄弟姉妹など)」が87.0%と最も高く、「友人や知人」が69.8%、「幼稚園・保育所(園)・認定こども園などの施設(小規模保育施設、認可外保育施設を含む)」が34.6%と続いている。

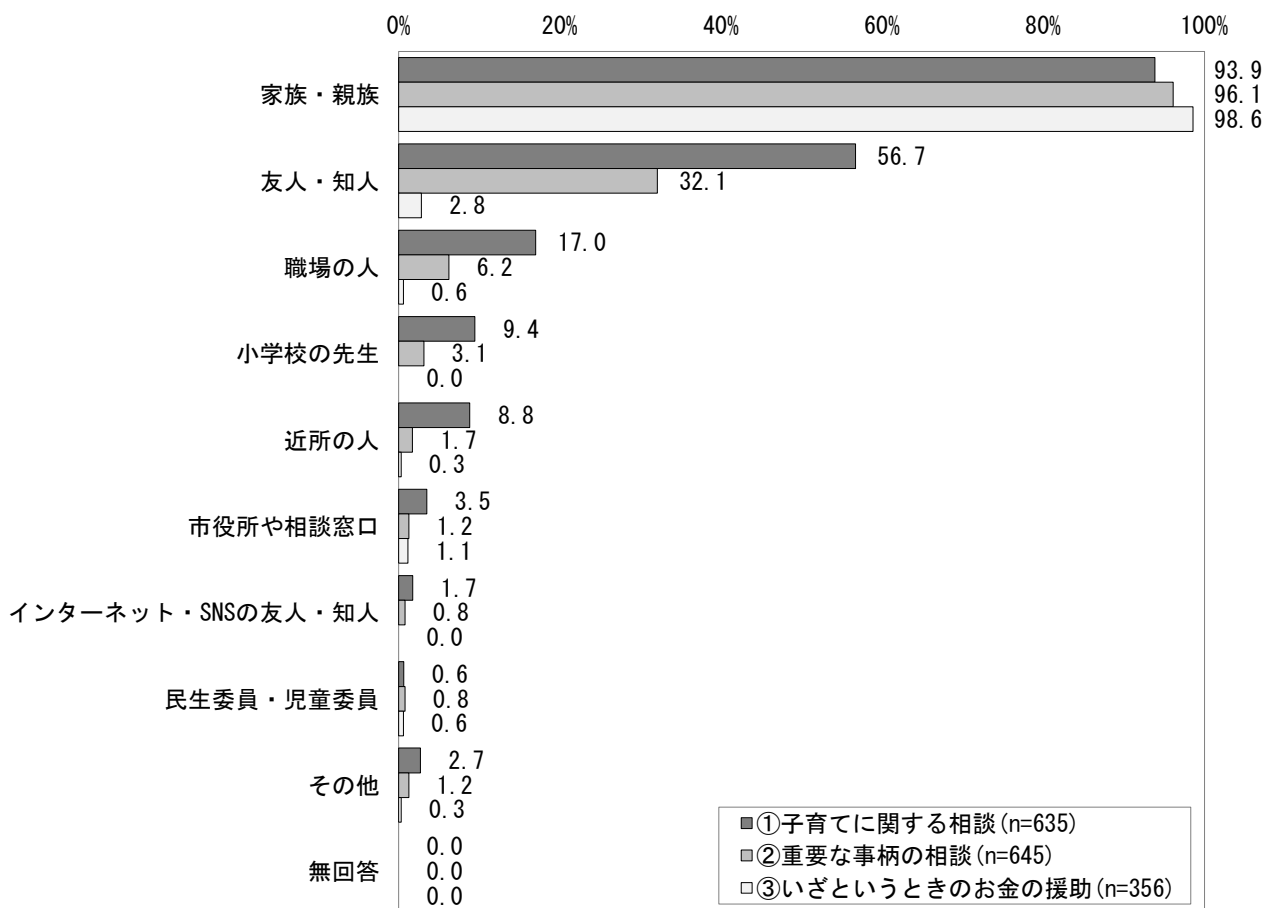


小学生保護者

①子育てに関する相談では、「家族・親族」が 93.9%と最も高く、「友人・知人」が 56.7%、「職場の人」が 17.0%と続いている。

②重要な事柄の相談では、「家族・親族」が 96.1%と最も高く、「友人・知人」が 32.1%、「職場の人」が 6.2%と続いている。

③いざというときのお金の援助では、「家族・親族」が 98.6%、「友人・知人」が 2.8%と続いている。

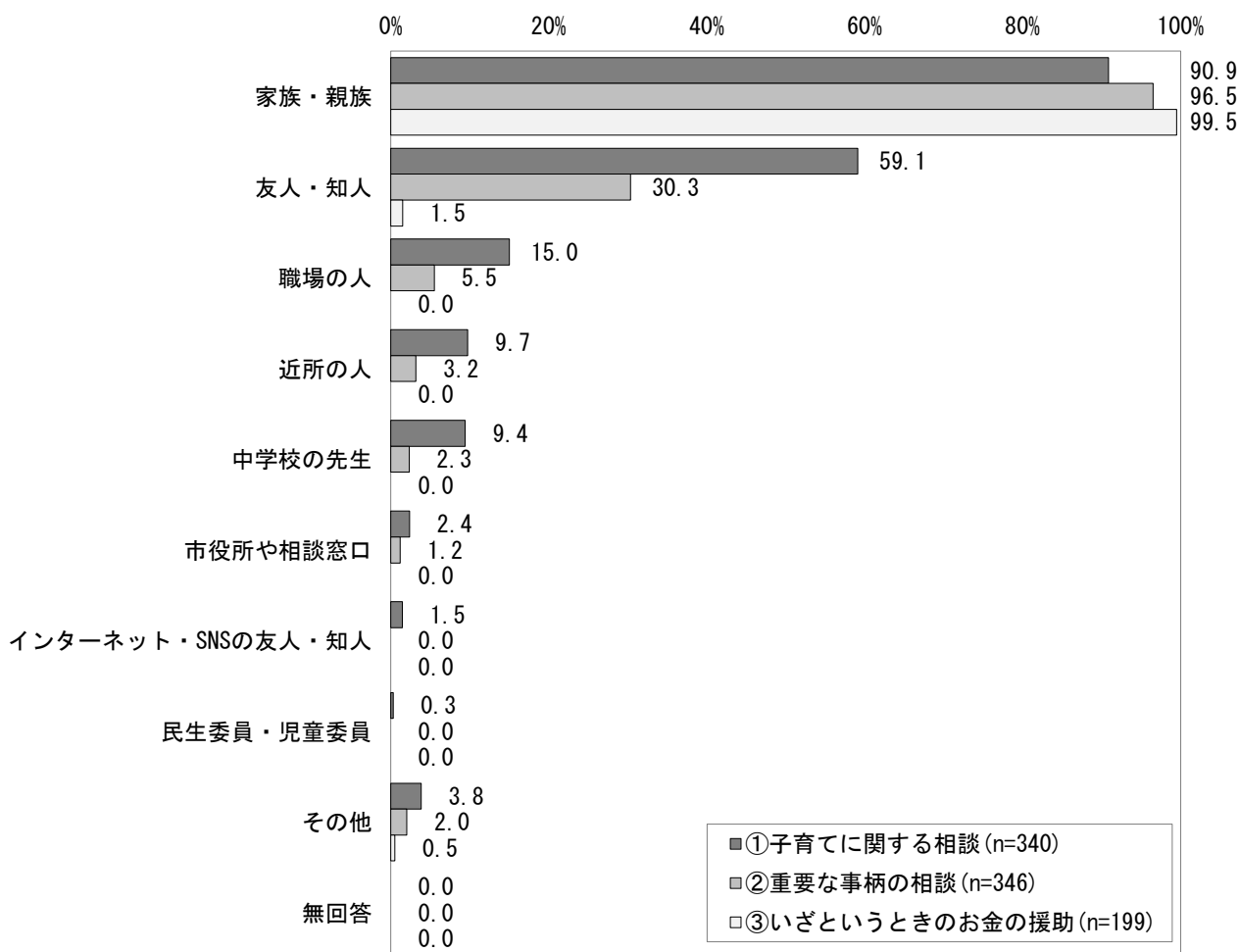


中学生保護者

①子育てに関する相談では、「家族・親族」が 90.9%と最も高く、「友人・知人」が 59.1%、「職場の人」が 15.0%と続いている。

②重要な事柄の相談では、「家族・親族」が 96.5%と最も高く、「友人・知人」が 30.3%、「職場の人」が 5.5%と続いている。

③いざというときのお金の援助では、「家族・親族」が99.5%と最も高く、「友人・知人」が1.5%と続いている。



(3)子育てに関する情報入手

就学前児童保護者 問3

あなたは子育てに関する情報をどのように入手していますか。(複数回答)

「友人や知人」が 71.2%と最も高く、「インターネット(子育て情報サイトや検索による情報収集)」が 66.6%、「身内の人(親・兄弟姉妹など)」が 62.3%と続いている。

経済状況別にみると、一般層・準低所得層は「友人や知人」の次に「インターネット(子育て情報サイトや検索による情報収集)」により情報を入手しているが、低所得層は多くの選択肢で一般層・準低所得層よりも割合が低くなっており、情報入手の手段が限られている可能性がある。

	(%)	身内の人（親・兄弟姉妹など）	友人や知人	おやこDIE広場・子育て支援センター	保育所（園）・認定こども園・幼稚園・学校	保健福祉センターの保健師や助産師	市民健康相談室	子育てに関する講座	市が発行する子育てガイドブック	広報まつど	テレビ・ラジオ・新聞	子育ての雑誌や育児書	インターネット（子育て情報サイトや検索による情報収集）	SNS	市のホームページ（まつどDIE子育て）	まつどDIE子育てアプリ（母子モ）	（まつどDIE子育てLINEを含む）	松戸市子育て情報LINE	医師・看護師	情報の入手先がない	その他	無回答
就学前児童保護者（n=1,815）		62.3	71.2	16.0	47.1	4.1	0.4	2.3	6.4	9.0	10.8	13.8	66.6	45.4	10.4	7.5	18.6	8.3	0.3	1.2	0.7	
【経済状況別】																						
一般層（n=840）		63.0	71.8	16.8	48.2	4.3	0.6	3.3	7.7	9.9	9.4	17.0	69.4	46.4	11.5	8.0	19.9	9.3	0.2	1.1	0.6	
準低所得層（n=665）		62.3	72.5	16.2	48.3	4.2	0.2	1.4	4.1	8.0	12.8	11.1	65.4	46.3	9.0	8.6	20.6	6.9	0.3	1.5	0.2	
低所得層（n=151）		58.9	66.9	13.2	41.1	4.0	0.0	1.3	6.0	6.0	9.9	9.9	60.9	43.7	9.9	3.3	9.3	6.0	0.0	0.7	1.3	

2. 保護者の意識・悩み

(1)子育て中の保護者の気持ち

就学前児童保護者 問 4 、小学生保護者 問 20 、中学生保護者 問 19

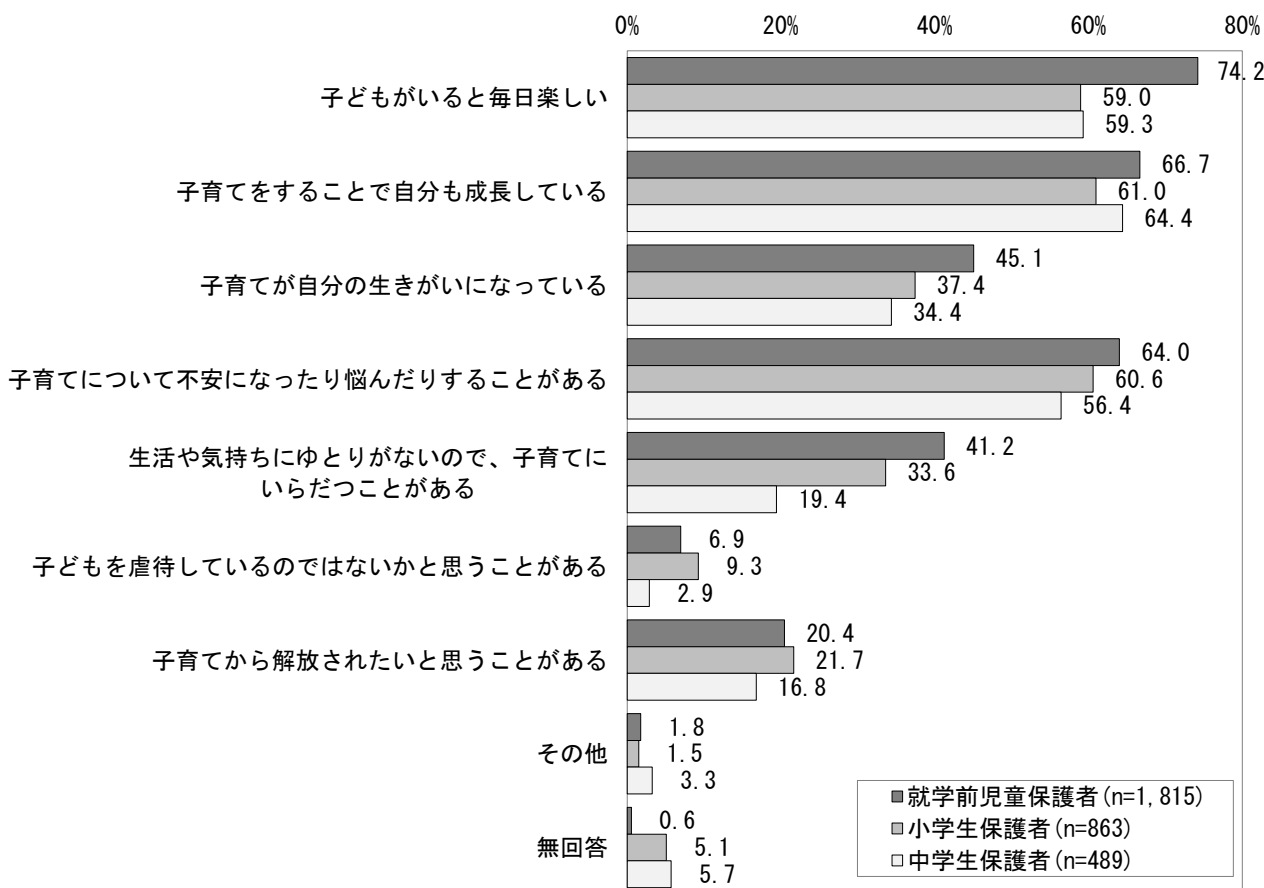
普段、子育てをしているときのあなたの気持ちはどうですか。(複数回答)

全体的に、子どもが就学前の時期において、子育てに喜びや悩みを持つ割合が高くなっている。「子どもがいて毎日楽しい」、「子育てをすることで自分も成長している」と感じる割合が高いが、一方で、「子育てについて不安になったり悩んだりすることがある」と感じる割合も高くなっている。

就学前児童保護者では、「子どもがいて毎日楽しい」が 74.2%と最も高く、「子育てをすることで自分も成長している」が66.7%と続いている。

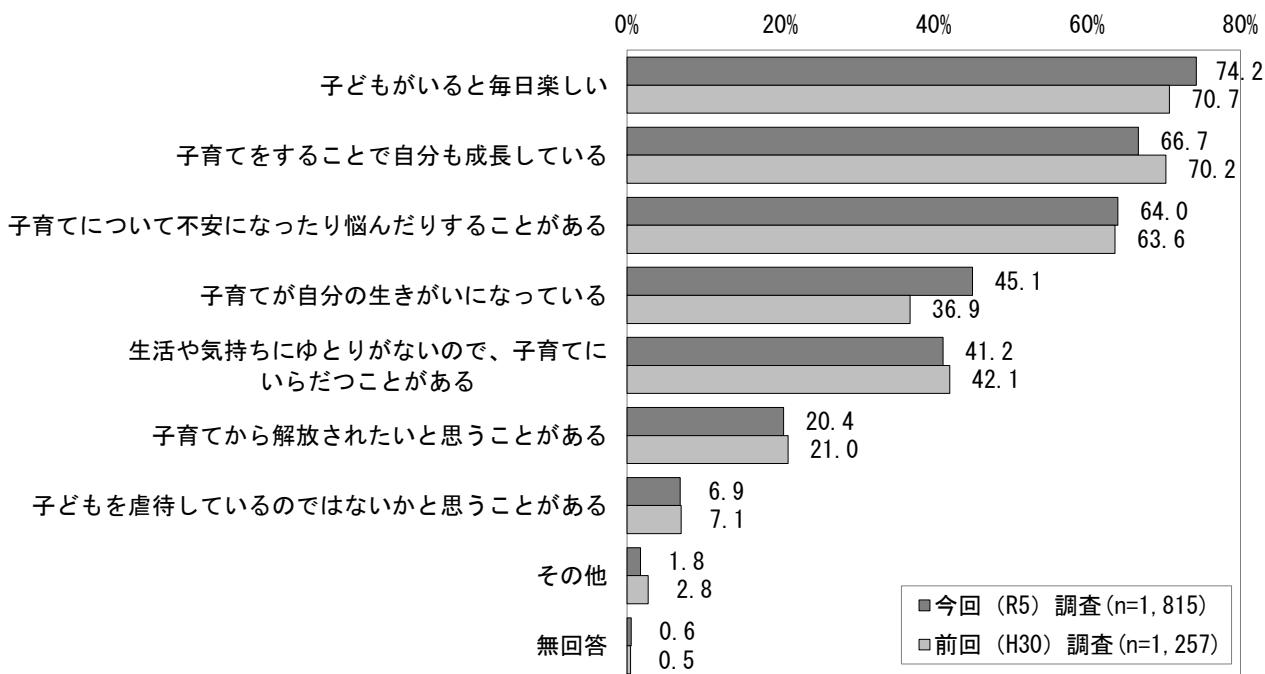
小学生保護者では、「子育てをすることで自分も成長している」が 61.0%と最も高く、「子育てについて不安になったり悩んだりすることがある」が60.6%と続いている。

中学生保護者では、「子育てをすることで自分も成長している」が 64.4%と最も高く、「子どもがいて毎日楽しい」が59.3%と続いている。



就学前児童保護者・経年比較

「子育てが自分の生きがいになっている」は、今回(R5)調査(45.1%)が前回調査(36.9%)を 8.2 ポイント上回っている。

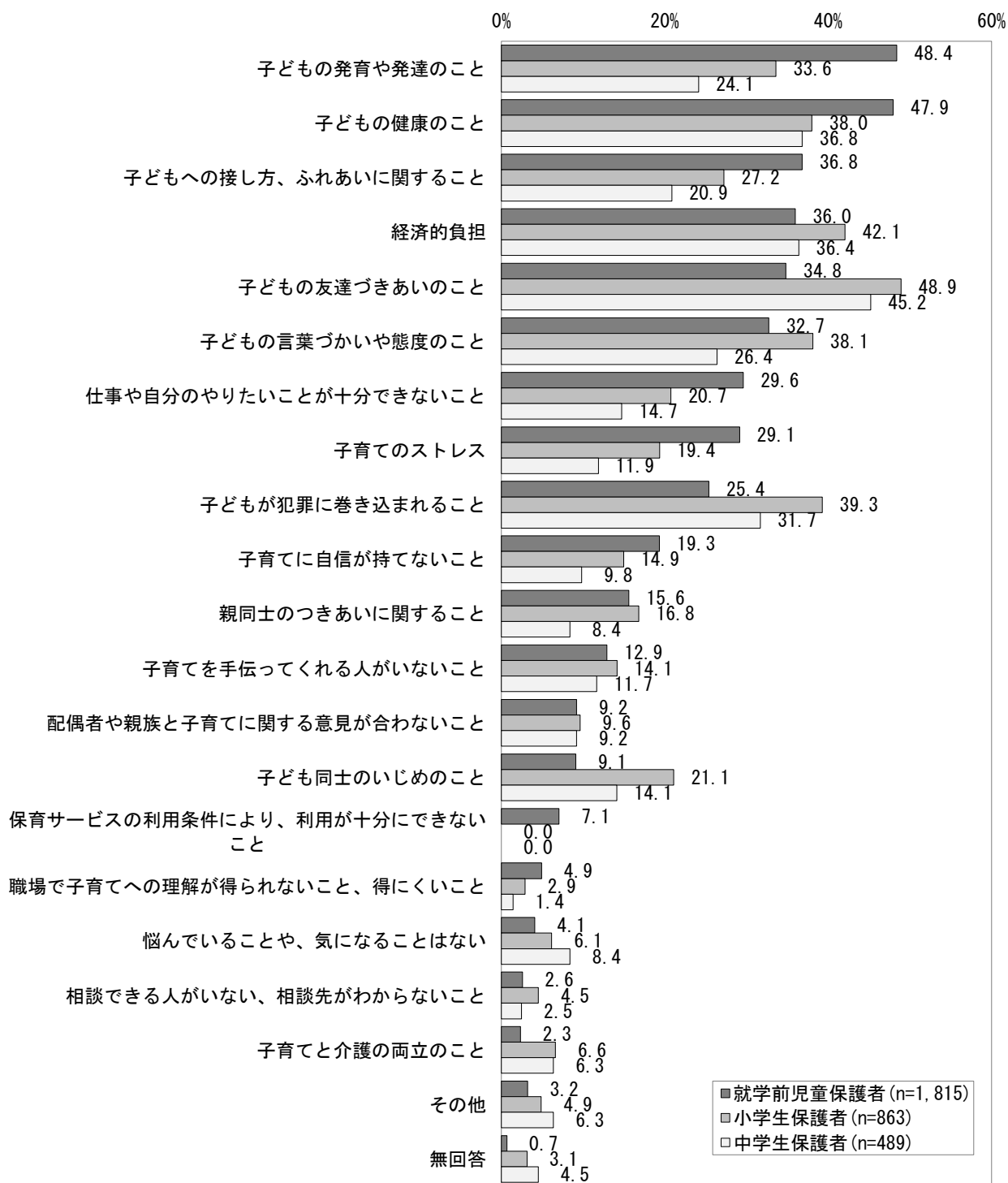


(2)子育て中の悩み

就学前児童保護者 問5、小学生保護者 問12、中学生保護者 問11

子育てのことで日常悩んでいること、また、気になることはどのようなことですか。(複数回答)

就学前児童保護者では「子どもの発育や発達のこと」の割合が最も高く、小学生保護者・中学生保護者では「子どもの友達つきあいのこと」の割合が最も高くなっている。子どもが成長するにつれ、主な悩みごとが、発達や健康のことから友だちつきあいのことに変化している。



3. 子ども・学校との関わり方

(1)子どもとの関わり方

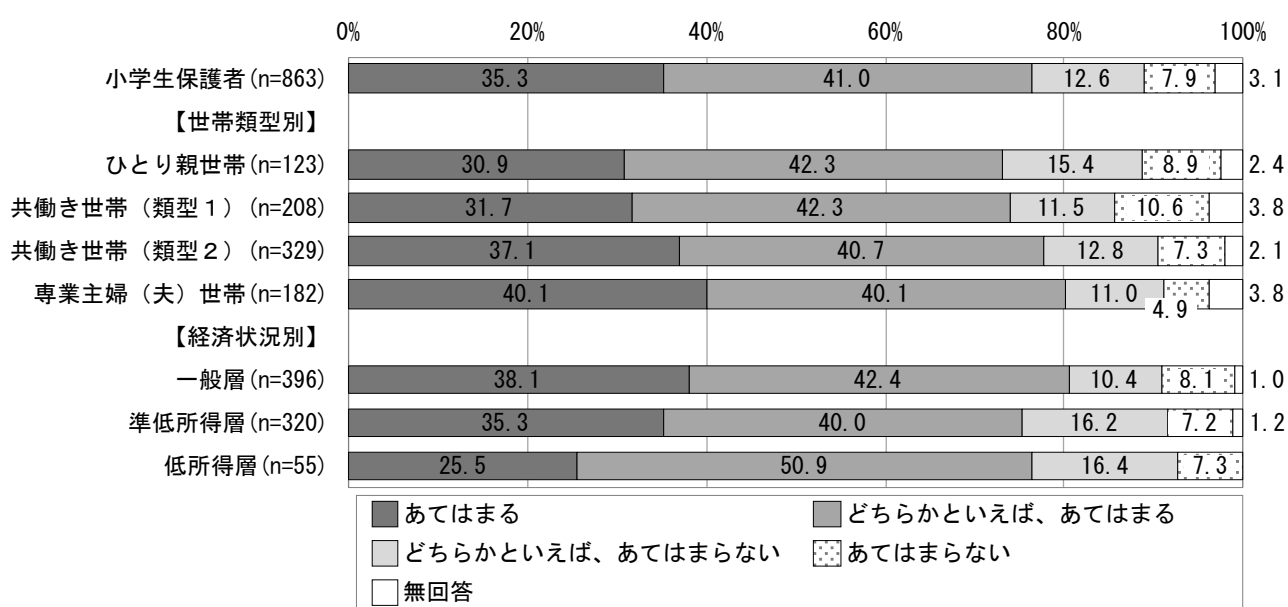
小学生保護者 問 13、中学生保護者 問 12

あなたとお子さんとの関わり方について、次のようなことにどれくらいあてはまりますか。(単数回答)

①テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている

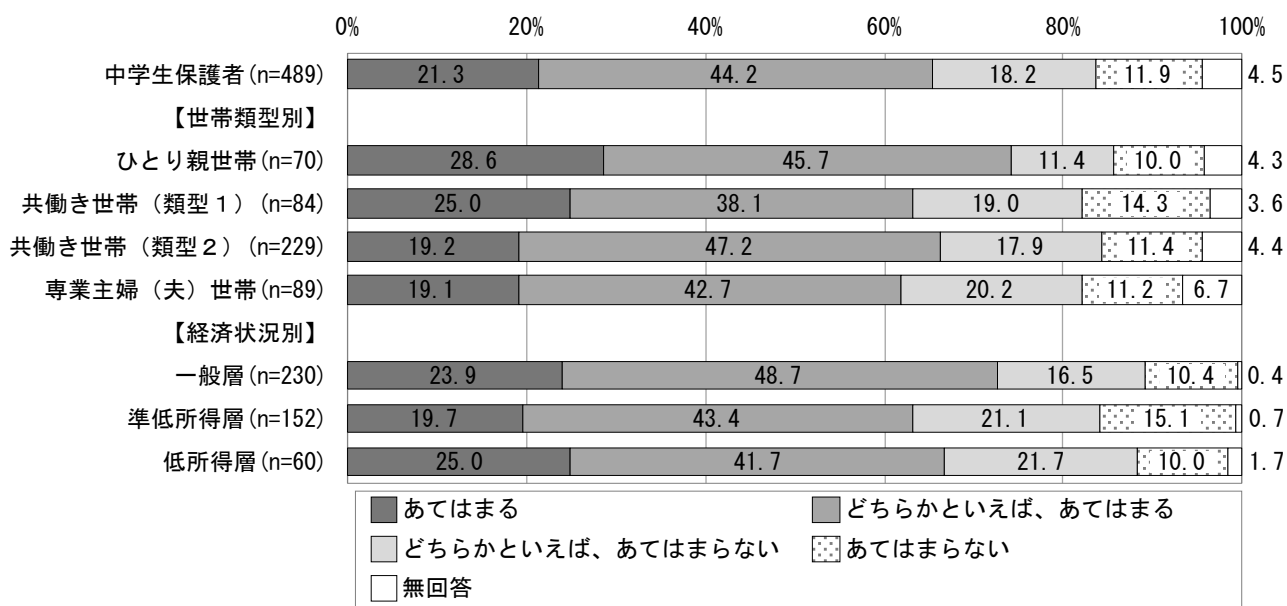
小学生保護者

世帯類型別にみると、専業主婦(夫)世帯においてルールを決めている割合(「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」の合計)が最も高く、経済状況別にみると、一般層においてルールを決めている割合が高くなっている。



中学生保護者

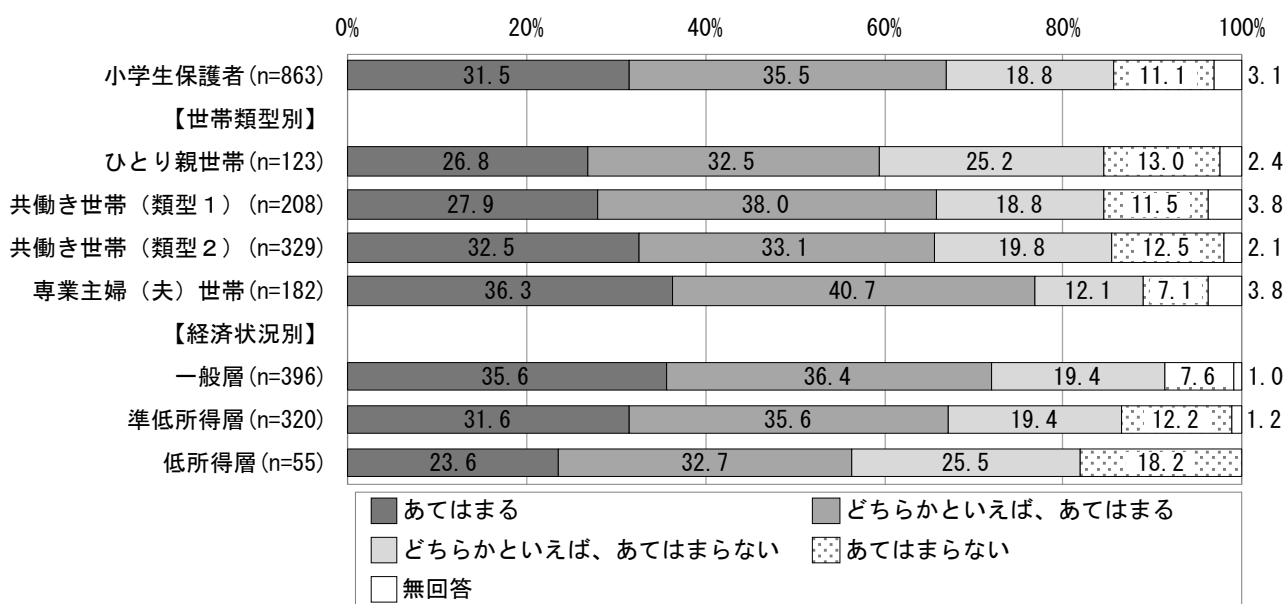
世帯類型別にみると、ひとり親世帯においてルールを決めている割合が最も高く、経済状況別にみると、一般層においてルールを決めている割合が高くなっている。



②子どもに本や新聞を読むように勧めている

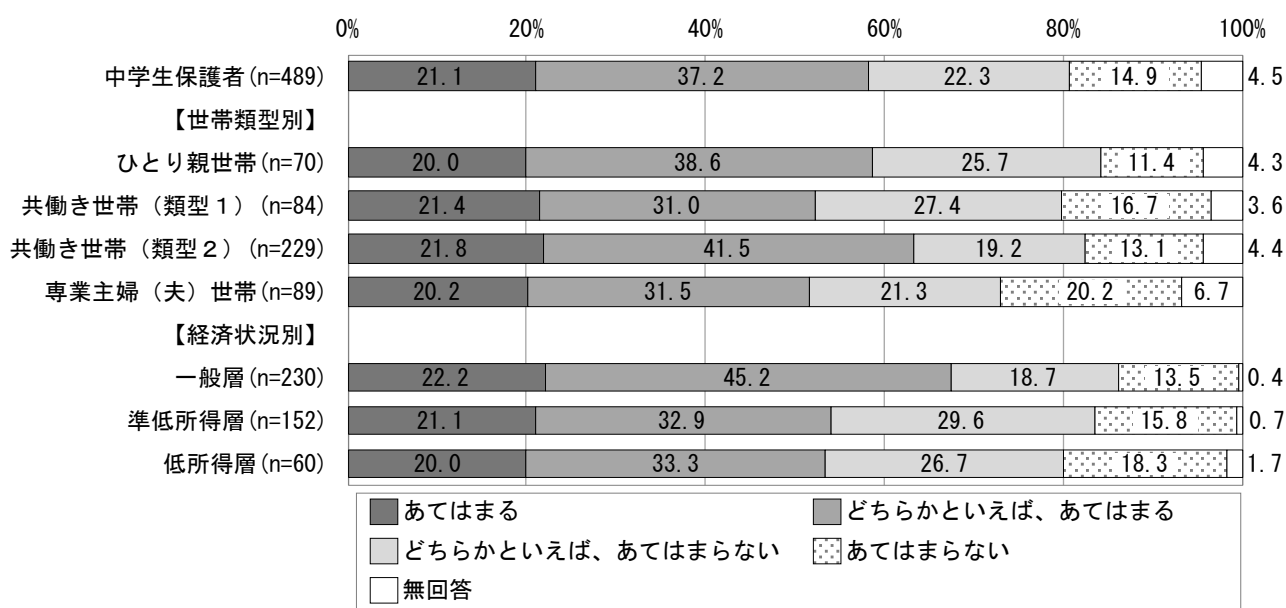
小学生保護者

世帯類型別にみると、専業主婦（夫）世帯において勧めている割合（「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」の合計）が最も高く、経済状況別にみると、所得が低くなるにつれ勧めている割合が低くなっている。



中学生保護者

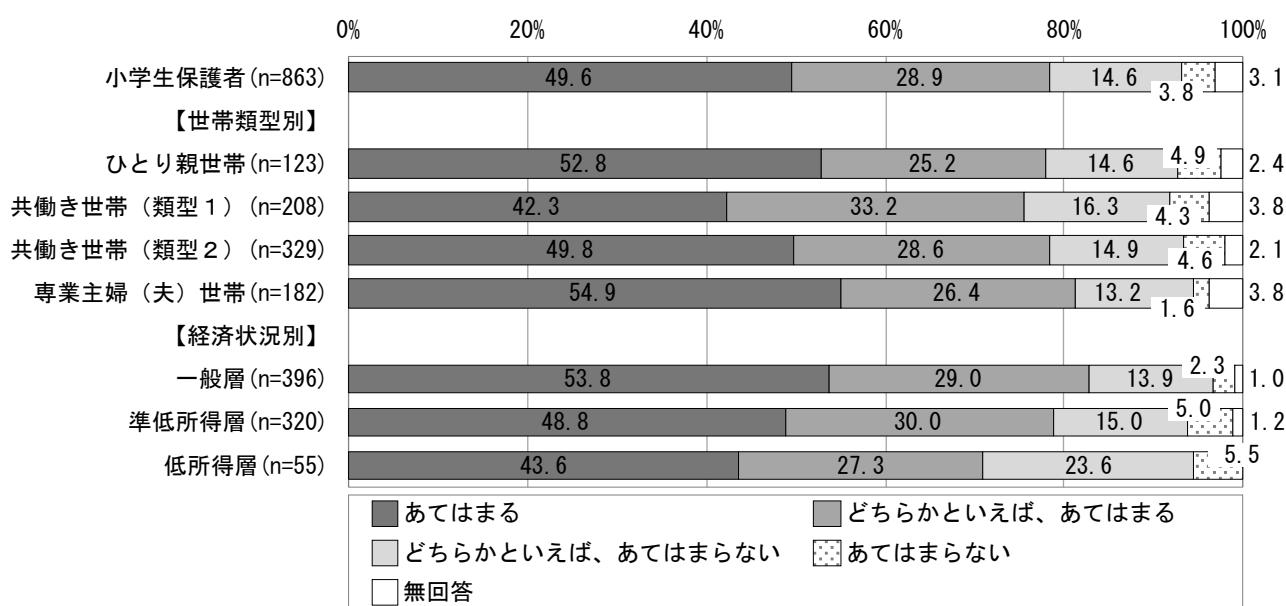
世帯類型別にみると、共働き世帯(類型2)において勧めている割合が最も高く、経済状況別にみると、一般層において勧めている割合が高くなっている。



③子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

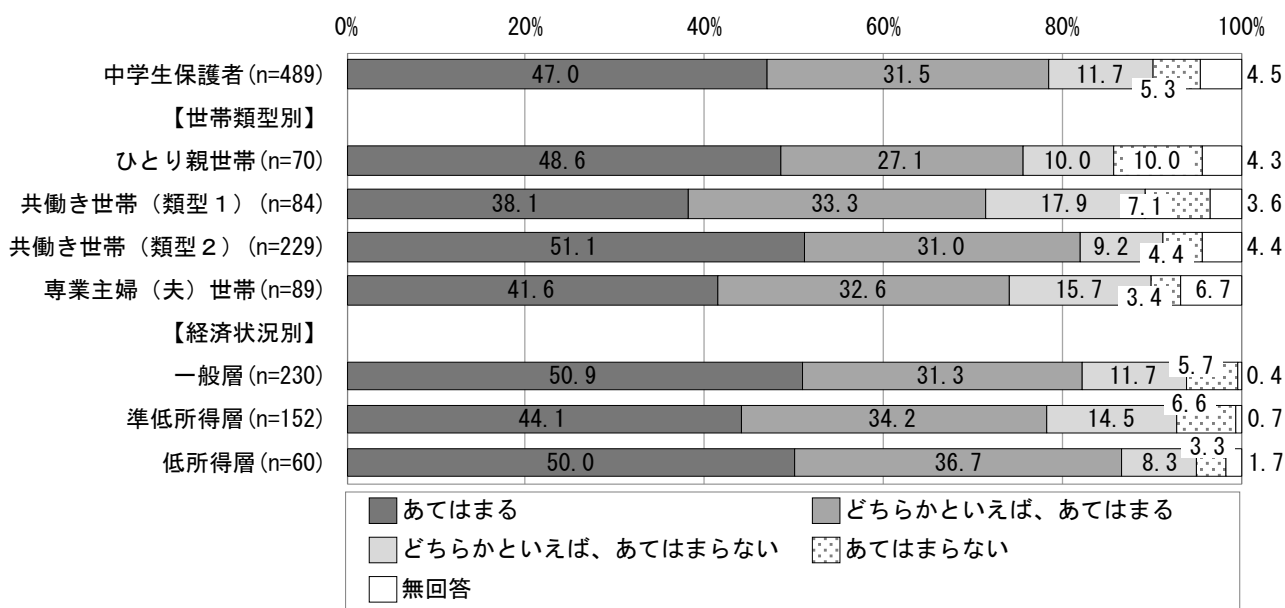
小学生保護者

世帯類型別にみると、専業主婦(夫)世帯において読み聞かせをしていた割合(「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」の合計)が最も高く、経済状況別にみると、所得が低くなるにつれ読み聞かせをしていた割合が低くなっている。



中学生保護者

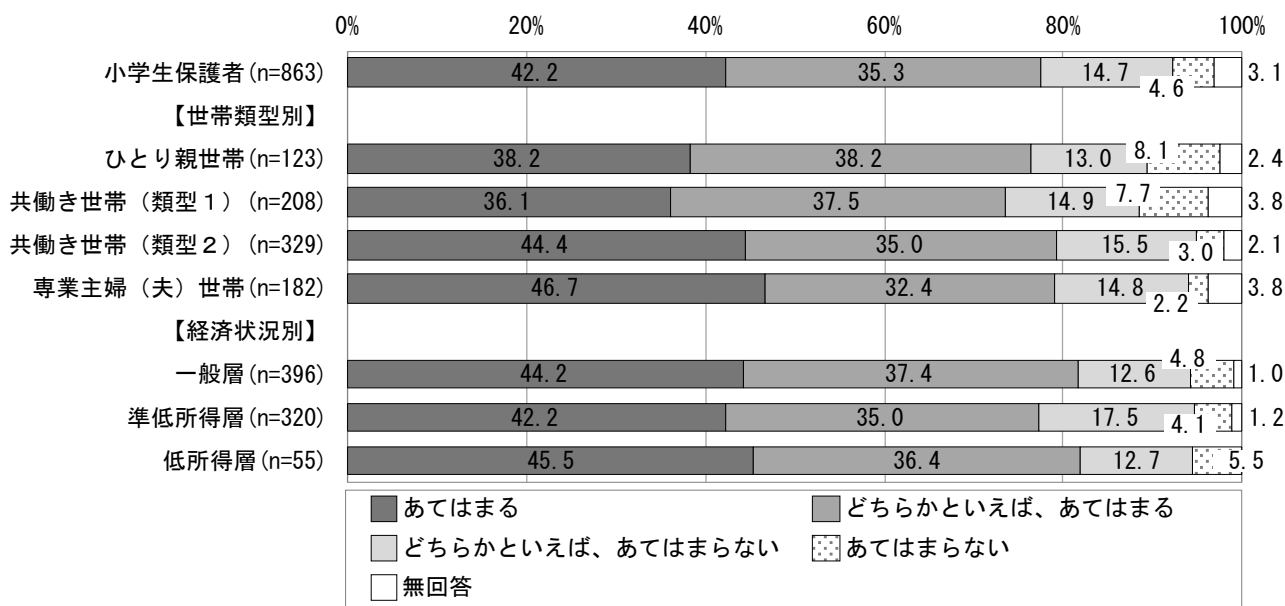
世帯類型別にみると、共働き世帯（類型2）において読み聞かせをしていた割合が最も高く、経済状況別にみると、低所得層において読み聞かせをしていた割合が高くなっている。



④子どもから勉強や成績のことについて話をしてくれる

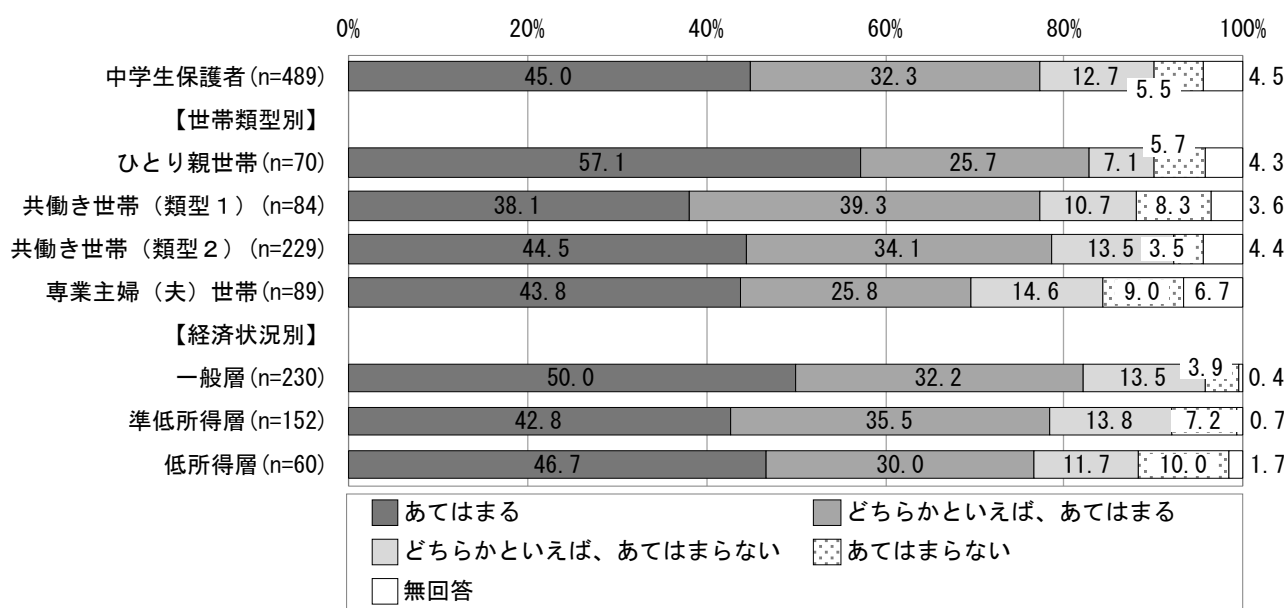
小学生保護者

世帯類型別にみると、共働き世帯（類型2）において子どもから勉強等の話をしてくれる割合（「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」の合計）が最も高く、経済状況別にみると、準低所得層において子どもから勉強等の話をしてくれる割合が低くなっている。



中学生保護者

世帯類型別にみると、ひとり親世帯において子どもから勉強等の話をしてくれる割合が最も高く、経済状況別にみると、所得が低くなるにつれ子どもから勉強等の話をしてくれる割合が低くなっている。



(2)学校行事等への参加状況

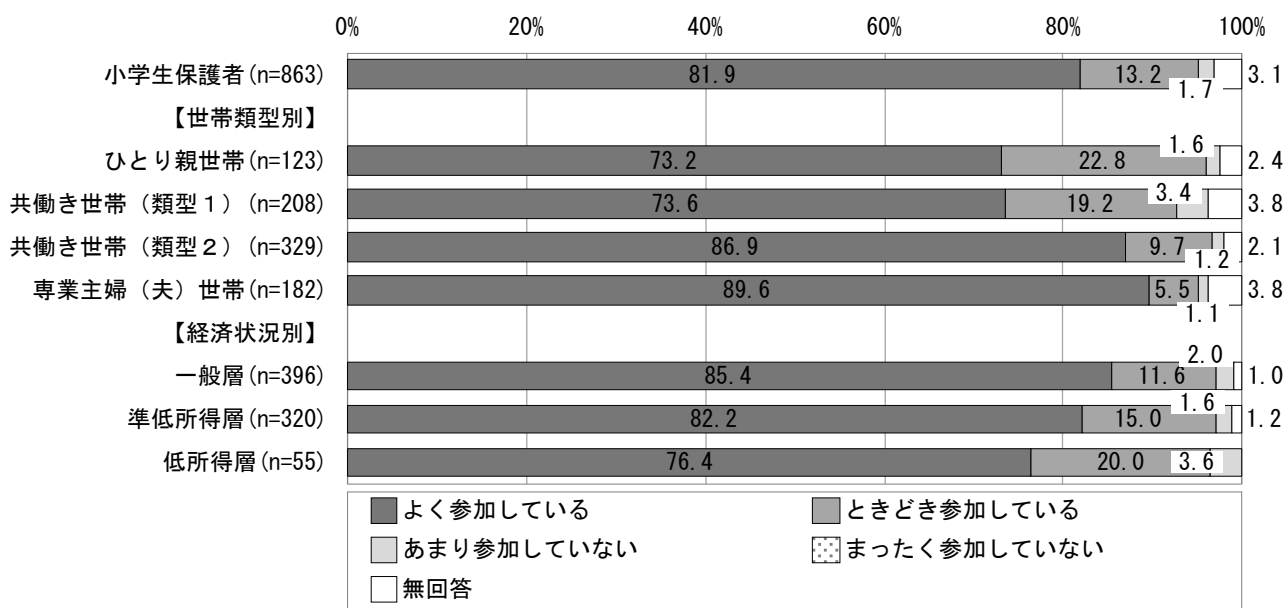
小学生保護者 問14、中学生保護者 問13

あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(単数回答)

①授業参観や運動会などの学校行事への参加

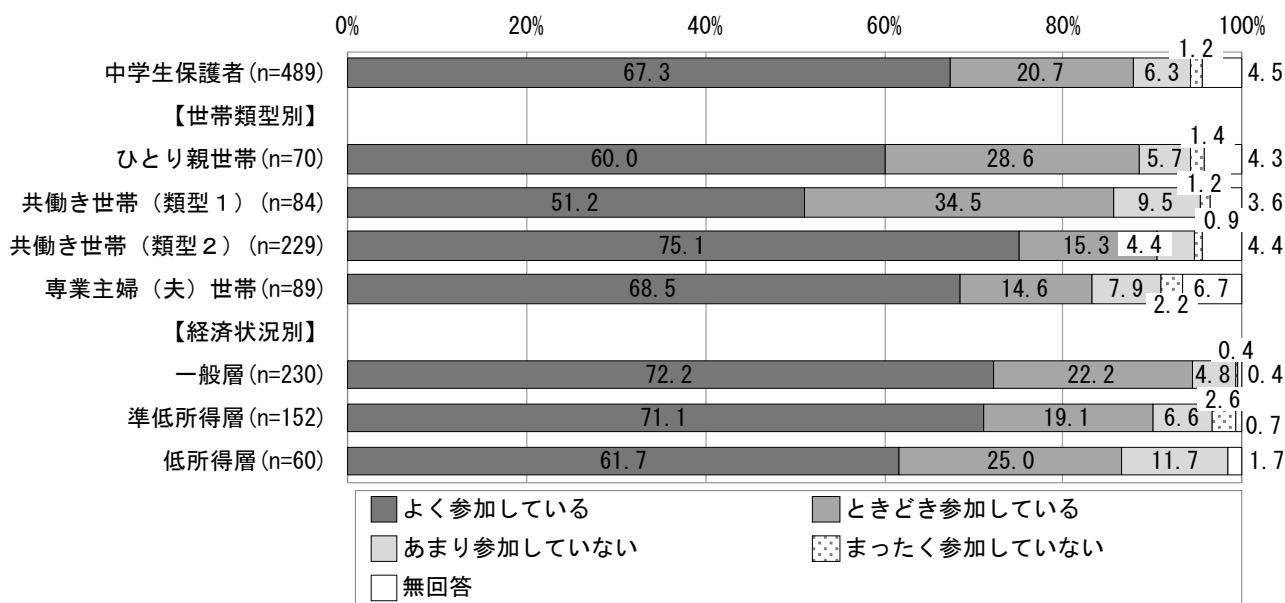
小学生保護者

世帯類型別にみると、共働き世帯(類型2)と専業主婦(夫)世帯において「よく参加している」割合が高く、経済状況別にみると、所得が低くなるにつれ「よく参加している」割合が低くなっている。



中学生保護者

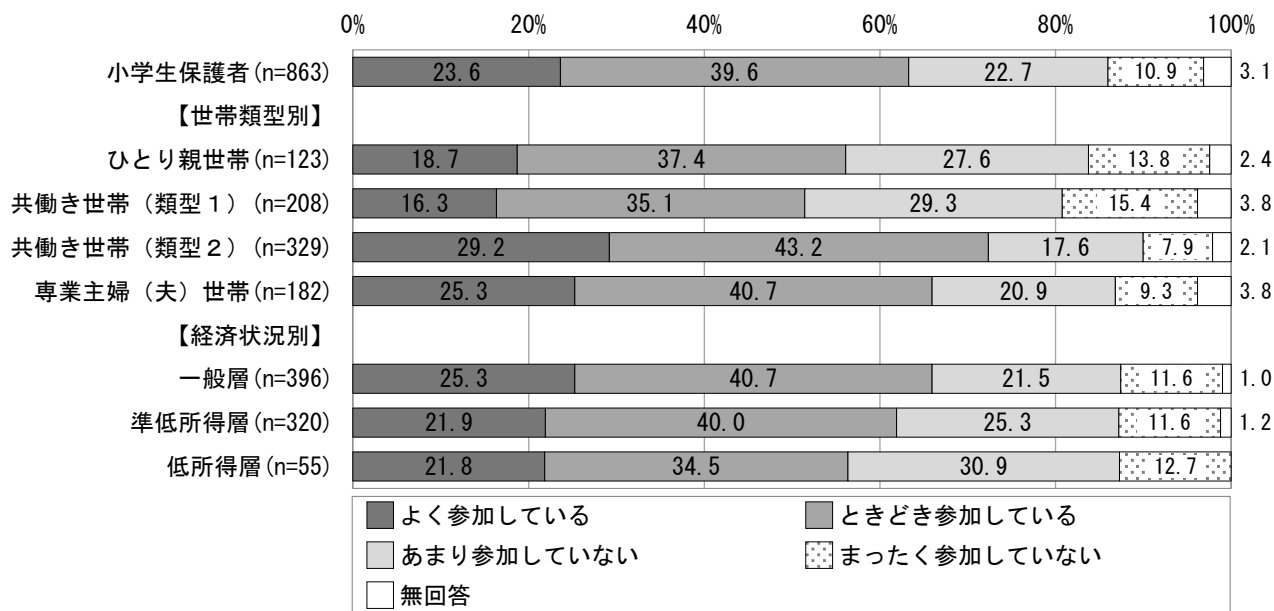
世帯類型別にみると、共働き世帯(類型2)において「よく参加している」割合が高く、経済状況別にみると、所得が低くなるにつれ「よく参加している」割合が低くなっている。



②PTA 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加

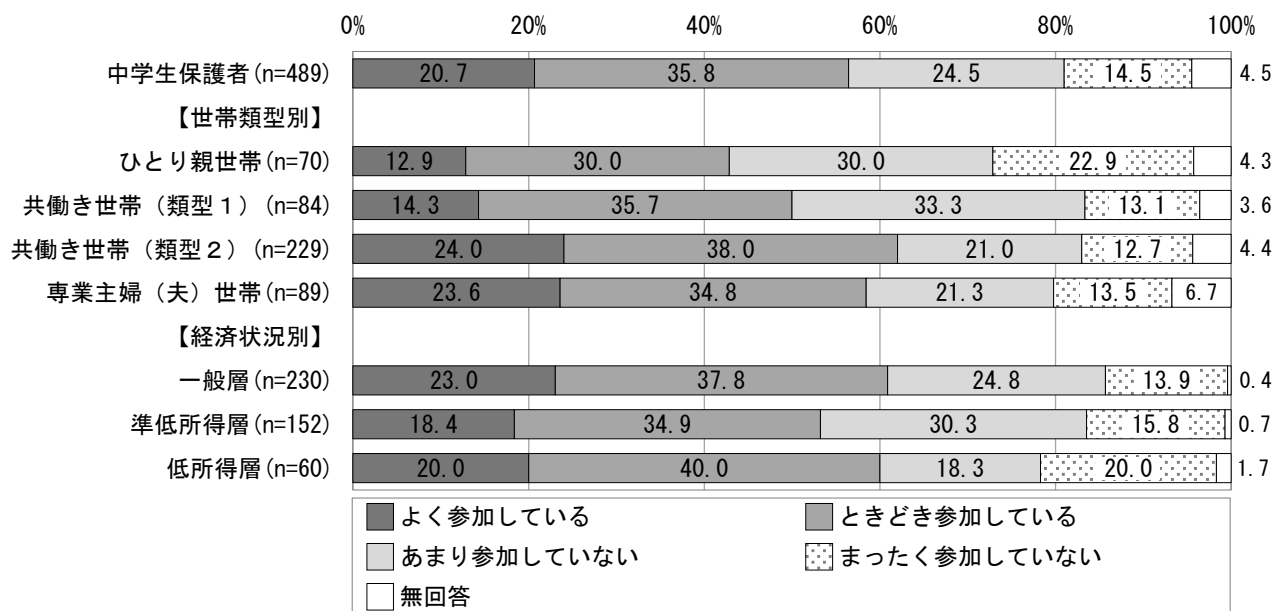
小学生保護者

世帯類型別にみると、共働き世帯（類型2）において参加頻度（「よく参加している」と「ときどき参加している」の合計）が高く、経済状況別にみると、所得が低くなるにつれ参加頻度が低くなっている。



中学生保護者

世帯類型別にみると、共働き世帯（類型2）において参加頻度が高く、経済状況別にみると、一般層と低所得層の参加頻度に大きな違いはないが、準低所得層の参加頻度が低くなっている。



4. 子どもの学歴に関する認識

(1)子どもの最終学歴の見通し

小学生保護者 問15、中学生保護者 問14

お子さんの最終学歴は、現実的に見てどの学校になると思いますか。(単数回答)

小学生保護者

「大学またはそれ以上」が62.2%と最も高く、「わからない」が15.9%と続いている。保護者の最終学歴別にみると、「両親とも大学以上」における「大学またはそれ以上」の割合が特に高くなっている。経済状況別にみると、一般層における「大学またはそれ以上」の割合が特に高くなっている。世帯類型別にみると、共働き世帯(類型1)における「大学またはそれ以上」の割合が特に高くなっている。

(%)	中学校	高等学校	短大・高専・専門学校まで	大学またはそれ以上	その他	わからない	無回答
小学生保護者 (n=863)	0.3	7.0	11.0	62.2	0.5	15.9	3.1
【保護者の最終学歴別】							
両親とも大学以上 (n=233)	0.0	1.7	4.3	85.8	0.0	7.7	0.4
両親いずれか大学以上 (n=249)	0.0	5.2	12.0	62.7	1.2	17.7	1.2
その他 (n=370)	0.8	11.6	14.6	48.4	0.3	20.3	4.1
【経済状況別】							
一般層 (n=396)	0.0	2.5	7.8	77.3	0.0	11.4	1.0
準低所得層 (n=320)	0.3	10.3	14.7	53.4	1.3	18.8	1.3
低所得層 (n=55)	3.6	25.5	18.2	30.9	0.0	21.8	0.0
【世帯類型別】							
ひとり親世帯 (n=123)	0.8	10.6	10.6	56.1	0.0	19.5	2.4
共働き世帯(類型1) (n=208)	0.0	3.8	8.7	70.2	1.0	12.5	3.8
共働き世帯(類型2) (n=329)	0.3	7.3	13.1	60.2	0.3	16.7	2.1
専業主婦(夫)世帯 (n=182)	0.5	7.1	9.3	61.5	0.5	17.0	3.8

中学生保護者

「大学またはそれ以上」が65.0%と最も高く、「短大・高専・専門学校まで」が11.5%と続いている。保護者の最終学歴別にみると、小学生保護者と同様に、「両親とも大学以上」における「大学またはそれ以上」の割合が特に高くなっている。経済状況別にみると、一般層における「大学またはそれ以上」の割合が特に高くなっている。世帯類型別にみると、ひとり親世帯における「大学またはそれ以上」の割合が特に高くなっている。

(%)	中学校	高等学校	短大・高専・専門学校まで	大学またはそれ以上	その他	わからない	無回答
中学生保護者 (n=489)	0.8	7.2	11.5	65.0	0.2	10.8	4.5
【保護者の最終学歴別】							
両親とも大学以上 (n=107)	1.9	1.9	7.5	86.9	0.0	1.9	0.0
両親いずれか大学以上 (n=136)	1.5	2.9	10.3	72.1	0.7	11.0	1.5
その他 (n=230)	0.0	12.6	14.8	54.3	0.0	15.2	3.0
【経済状況別】							
一般層 (n=230)	0.9	3.9	9.1	79.1	0.4	6.1	0.4
準低所得層 (n=152)	1.3	11.8	13.8	55.9	0.0	16.4	0.7
低所得層 (n=60)	0.0	11.7	18.3	56.7	0.0	11.7	1.7
【世帯類型別】							
ひとり親世帯 (n=70)	0.0	4.3	11.4	72.9	0.0	7.1	4.3
共働き世帯（類型1） (n=84)	1.2	6.0	11.9	67.9	0.0	9.5	3.6
共働き世帯（類型2） (n=229)	1.3	6.1	11.8	65.1	0.4	10.9	4.4
専業主婦（夫）世帯 (n=89)	0.0	13.5	11.2	56.2	0.0	12.4	6.7

(2)子どもの最終学歴の理由

小学生保護者 問 15-1、中学生保護者 問 14-1

【「子どもの最終学歴(見通し)」で「中学校」～「その他」を選択した方のみ】

その理由は何ですか。(複数回答)

小学生保護者

「一般的な進路だと思うから」が53.8%と最も高く、「お子さんの学力から考えて」が29.8%と続いている。保護者の最終学歴別にみると、「両親とも大学以上」において「一般的な進路だと思うから」の割合が特に高くなっている。経済状況別にみると、一般層において「一般的な進路だと思うから」の割合が最も高くなっている。準低所得層・低所得層においては一般層と比べて「家庭の経済的な状況から考えて」の割合が高くなっている。世帯類型別では大きな違いはみられない。

(%)	お子さんがそう希望しているから	一般的な進路だと思うから	お子さんの学力から考えて	家庭の経済的な状況から考えて	その他	特に理由はない	無回答
小学生保護者 (n=699)	24.7	53.8	29.8	13.6	4.1	5.4	0.0
【保護者の最終学歴別】							
両親とも大学以上 (n=214)	25.7	66.8	35.5	15.4	2.3	3.7	0.0
両親いずれか大学以上 (n=202)	26.2	50.5	25.7	8.4	5.4	6.9	0.0
その他 (n=280)	22.9	46.4	28.6	16.1	4.3	5.4	0.0
【経済状況別】							
一般層 (n=347)	26.8	62.5	28.5	10.4	4.6	4.9	0.0
準低所得層 (n=256)	20.7	48.8	31.6	16.4	3.5	4.3	0.0
低所得層 (n=43)	27.9	25.6	32.6	20.9	4.7	9.3	0.0
【世帯類型別】							
ひとり親世帯 (n=96)	22.9	52.1	28.1	10.4	5.2	3.1	0.0
共働き世帯（類型1） (n=174)	24.7	54.6	26.4	13.2	5.2	7.5	0.0
共働き世帯（類型2） (n=267)	22.5	55.4	31.8	14.2	3.4	5.2	0.0
専業主婦（夫）世帯 (n=144)	27.8	52.1	31.3	16.0	3.5	4.9	0.0

中学生保護者

「お子さんがそう希望しているから」が 41.8%と最も高く、「一般的な進路だと思うから」が 38.4%と続いている。保護者の最終学歴別にみると、小学生保護者と同様に、「両親とも大学以上」において「一般的な進路だと思うから」の割合が最も高くなっている。経済状況別にみると、一般層において「お子さんがそう希望しているから」の割合が最も高くなっている。準低所得層・低所得層において一般層と比べて「家庭の経済的な状況から考えて」の割合が高くなっている。世帯類型別にみると、ひとり親世帯において「お子さんがそう希望しているから」の割合が最も高くなっている。

(%)	お子さんが そう希望 している から	一 般 的 な 進 路 だ と 思 う か ら	お 子 さ ん の 学 力 か ら 考 え て	家 庭 の 経 済 的 な 状 況 か ら 考 え て	そ の 他	特 に 理 由 は な い	無 回 答
中学生保護者 (n=414)	41.8	38.4	33.1	10.9	2.9	3.6	0.0
【保護者の最終学歴別】							
両親とも大学以上 (n=105)	41.9	52.4	33.3	9.5	2.9	1.9	0.0
両親いずれか大学以上 (n=119)	41.2	39.5	28.6	6.7	4.2	4.2	0.0
その他 (n=188)	42.6	29.3	36.2	14.4	2.1	4.3	0.0
【経済状況別】							
一般層 (n=215)	46.0	42.3	31.6	8.4	4.2	3.3	0.0
準低所得層 (n=126)	36.5	32.5	39.7	15.1	1.6	2.4	0.0
低所得層 (n=52)	40.4	30.8	30.8	13.5	0.0	5.8	0.0
【世帯類型別】							
ひとり親世帯 (n=62)	48.4	33.9	25.8	9.7	0.0	4.8	0.0
共働き世帯（類型1） (n=73)	32.9	39.7	30.1	8.2	4.1	5.5	0.0
共働き世帯（類型2） (n=194)	43.8	38.1	37.1	11.9	3.6	2.6	0.0
専業主婦（夫）世帯 (n=72)	38.9	40.3	36.1	12.5	2.8	2.8	0.0

5. 少子化に関すること

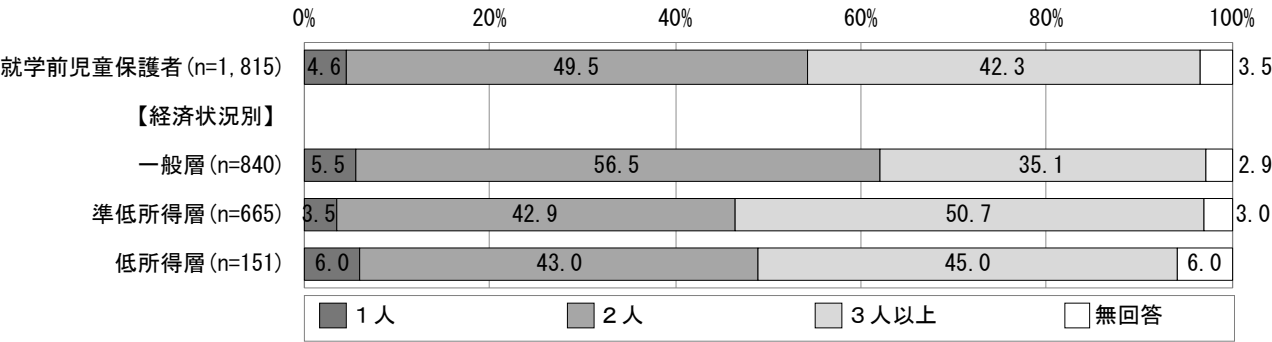
(1)理想的な子どもの人数

就学前児童保護者 問 6、小学生保護者 問 11、中学生保護者 問 10
あなたにとって、理想的な子どもの数は何人ですか。(数値回答)

いずれの調査でも、「2人」を理想的な子どもの人数とする割合が最も高く、約5割となっている。「3人以上」は3～4割となっている。経済状況別にみると、調査により結果にばらつきがみられる。

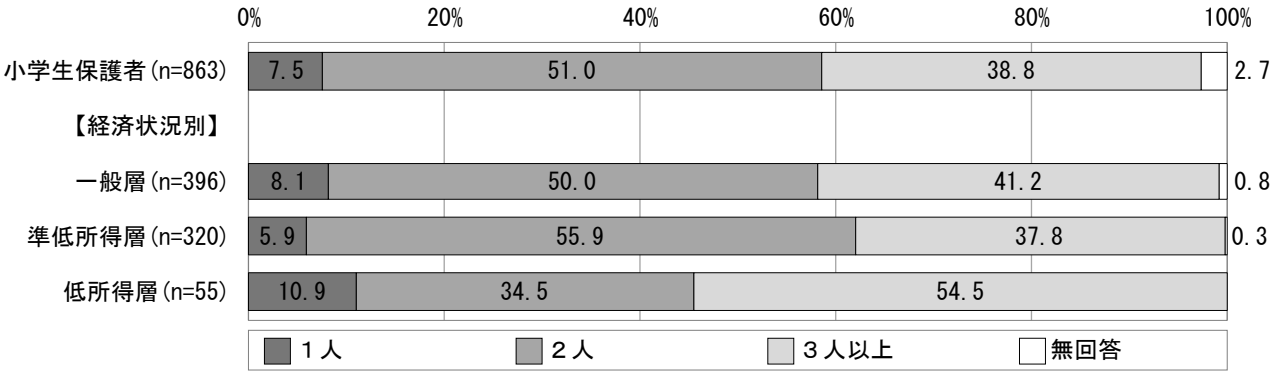
就学前児童保護者

「2人」が49.5%と最も高く、「3人以上」が42.3%、「1人」が4.6%と続いている。経済状況別にみると、一般層のほうが準低所得層・低所得層と比較して「3人以上」の割合が低くなっている。



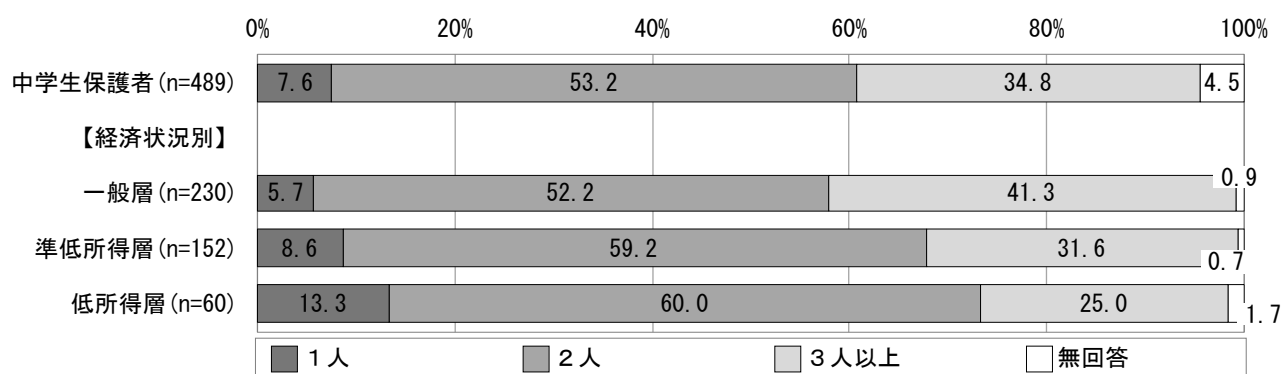
小学生保護者

「2人」が51.0%と最も高く、「3人以上」が38.8%、「1人」が7.5%と続いている。経済状況別にみると、低所得層のほうが一般層・準低所得層と比較して「3人以上」の割合が高くなっている。



中学生保護者

「2人」が53.2%と最も高く、「3人以上」が34.8%、「1人」が7.6%が続いている。経済状況別にみると、所得が高くなるにつれ、より多い子どもの数を回答する傾向がみられる。

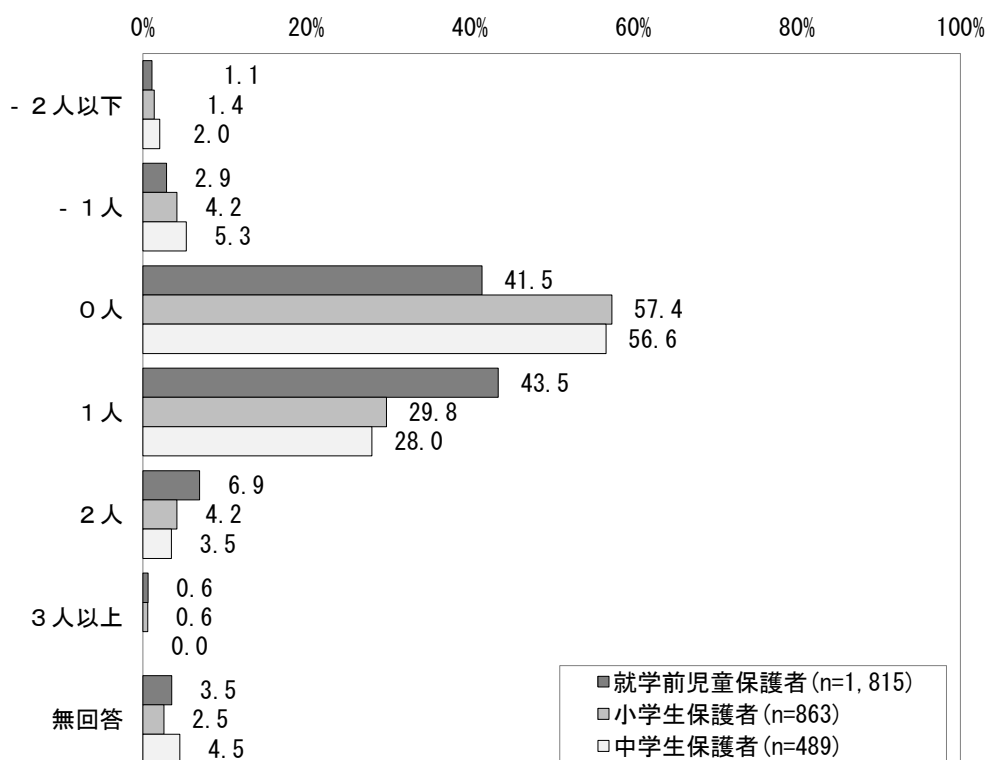


(2)理想の実現性と実現できない理由

①現在の子どもの数と理想的な子どもの数との乖離

就学前児童保護者 問1-9・問6、小学生保護者 問10・問11、中学生保護者 問9・問10 から算出
宛名のお子さんを含めたお子さんの数をお答えください。(数値回答)
あなたにとって、理想的な子どもの数は何人ですか。(数値回答)

就学前児童保護者においては、0人(乖離なし)よりも1人以上の乖離の割合が高くなっている。小学生保護者・中学生保護者においては、0人(乖離なし)が1人以上の乖離の割合よりも高くなっている。



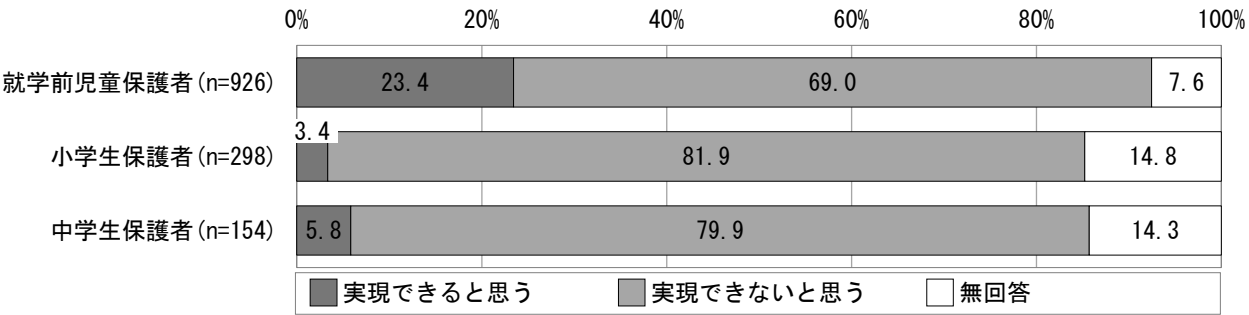
②理想的な子どもの数の実現性

就学前児童保護者 問 6-1、小学生保護者 問 11-1、中学生保護者 問 10-1

【現在の子どもの人数よりも理想の子どもの人数が多い方のみ】

理想的な子どもの数は実現できると思いますか。(単数回答)

就学前児童保護者では、「実現できると思う」が 23.4%、「実現できないと思う」が 69.0%となっている。
小学生保護者では、「実現できると思う」が 3.4%、「実現できないと思う」が 81.9%となっている。
中学生保護者では、「実現できると思う」が 5.8%、「実現できないと思う」が 79.9%となっている。



③理想的な子どもの数が実現しない理由

就学前児童保護者 問 6-1、小学生保護者 問 11-1、中学生保護者 問 10-1

【「理想的な子どもの数の実現性」で「実現できないと思う」を選択した方のみ】

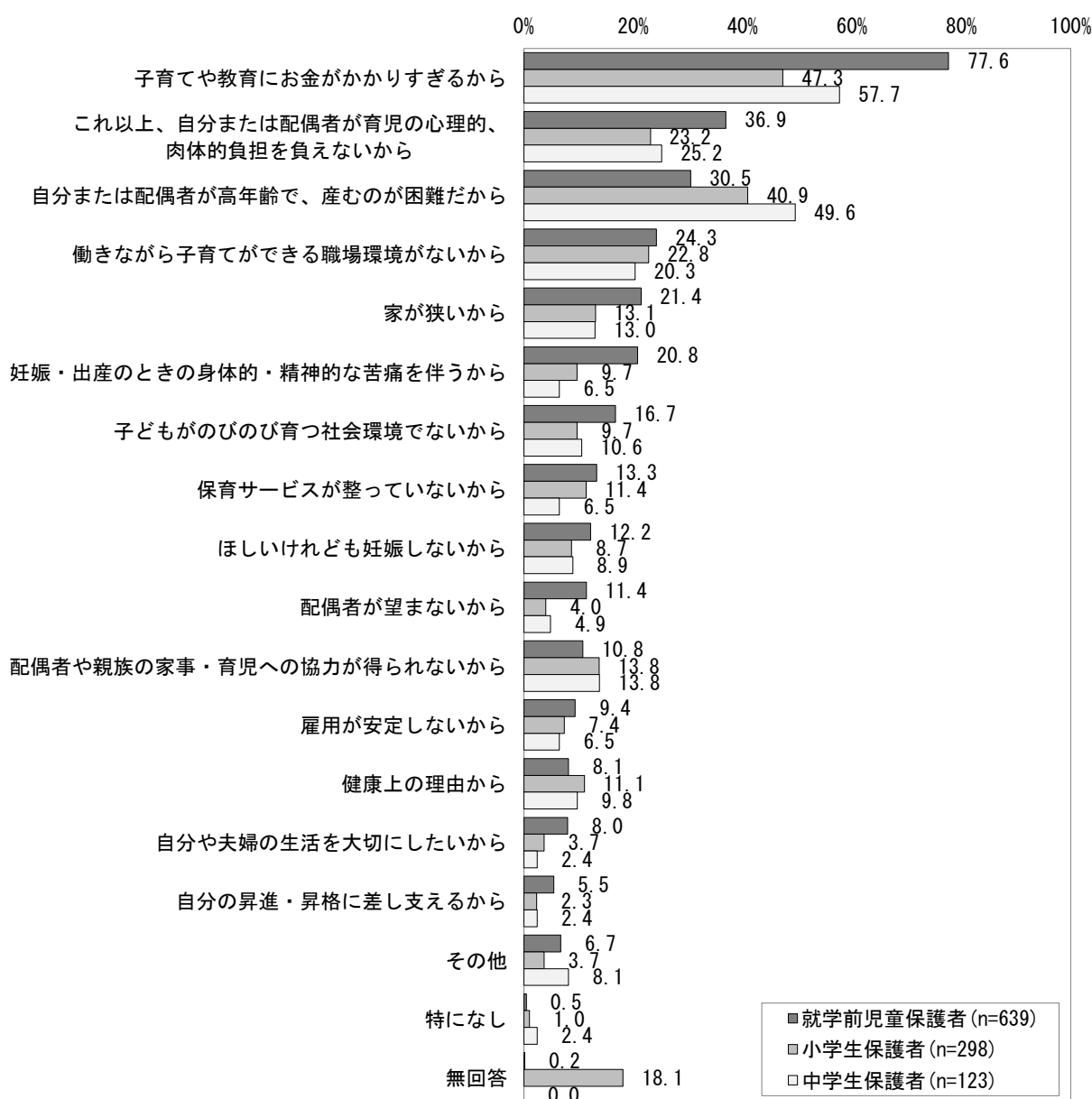
実現できない場合、その理由は何ですか。（複数回答）

いずれの調査でも、子育てや教育の費用が高いことが最も大きな理由となっている。

就学前児童保護者では、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 77.6%と最も高く、「これ以上、自分または配偶者が育児の心理的、肉体的負担を負えないから」が 36.9%と続いている。

小学生保護者では、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 47.3%と最も高く、「自分または配偶者が高年齢で、産むのが困難だから」が 40.9%と続いている。

中学生保護者では、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 57.7%と最も高く、「自分または配偶者が高年齢で、産むのが困難だから」が 49.6%と続いている。



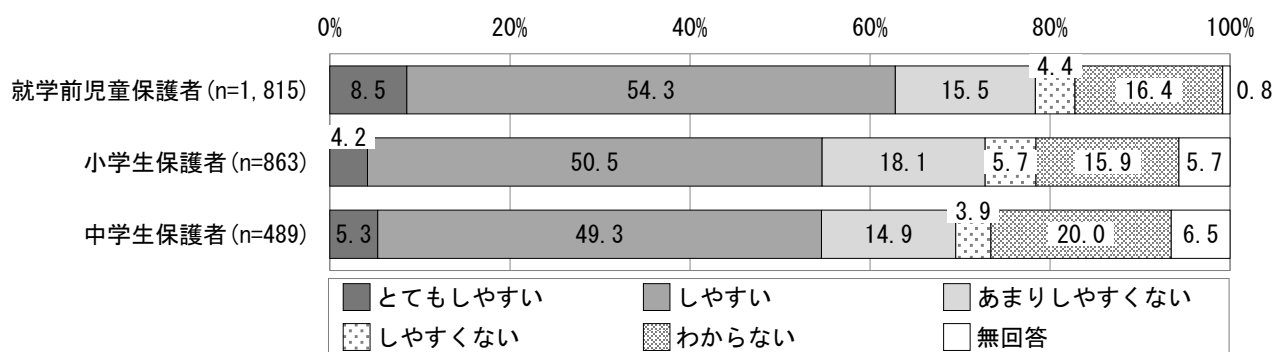
6. 松戸市の子育て環境への評価

(1)子育て環境の満足度

就学前児童保護者 問 7、小学生保護者 問 28、中学生保護者 問 24

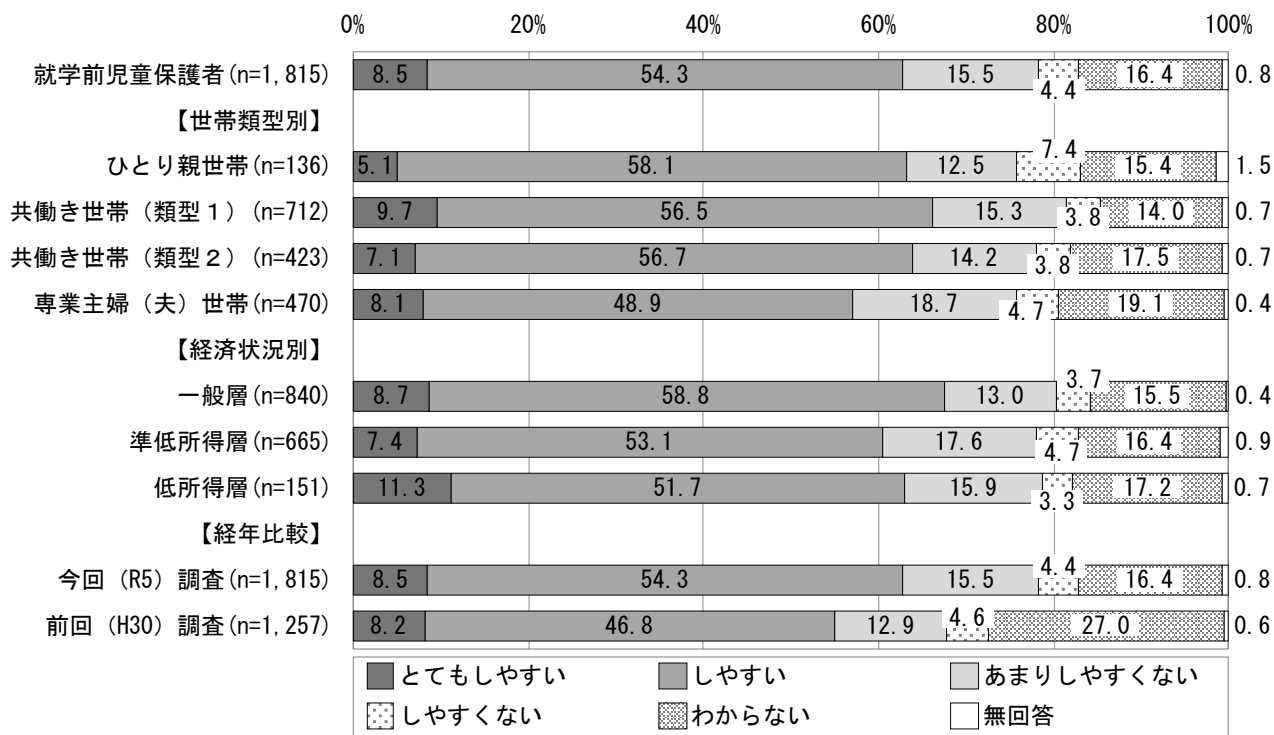
松戸市は子育てがしやすいまちだと思いますか。(単数回答)

就学前児童保護者において、松戸市の子育て環境に満足する割合(「とてもしやすい」と「しやすい」の合計)が最も高くなっている。小学生保護者・中学生保護者においても、満足する割合は半数を超えている。



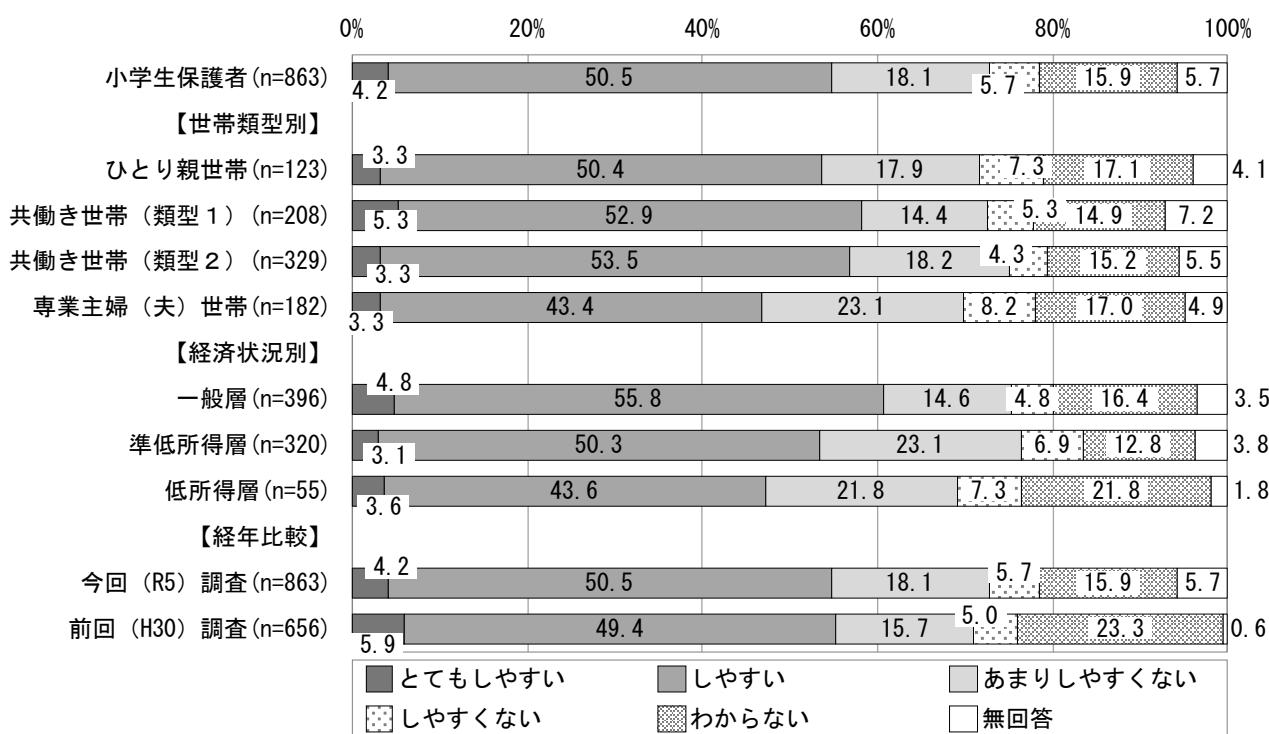
就学前児童保護者

世帯類型別にみると、共働き世帯(類型1)の満足する割合が最も高く、専業主婦(夫)世帯の満足する割合が最も低くなっている。経済状況別にみると、一般層の満足する割合が最も高くなっている。経年比較では、前回調査よりも満足する割合に増加がみられる。



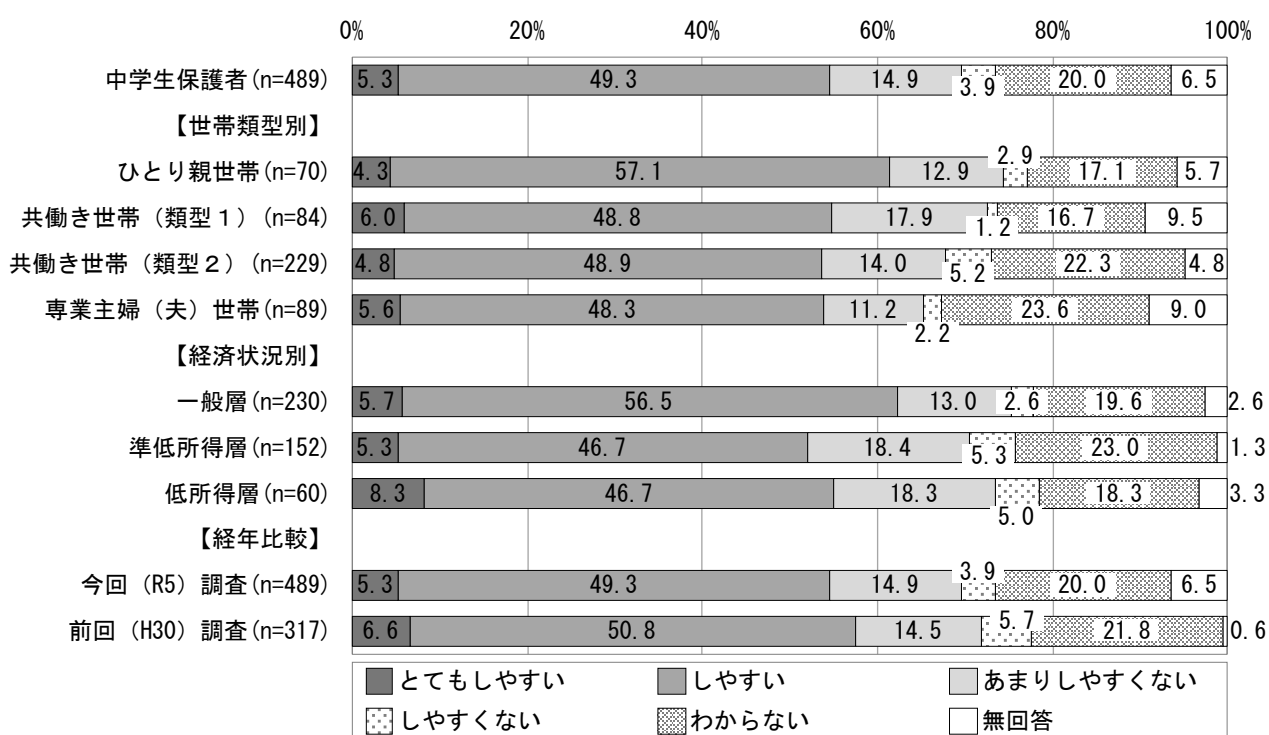
小学生保護者

世帯類型別にみると、共働き世帯(類型1)の満足する割合が最も高く、専業主婦(夫)世帯の満足する割合が最も低くなっている。経済状況別にみると、一般層の満足する割合が最も高くなっている。経年比較では、前回調査と大きな違いはみられない。



中学生保護者

世帯類型別にみると、ひとり親世帯の満足する割合が最も高くなっている。経済状況別にみると、一般層の満足する割合が最も高くなっている。経年比較では、前回調査と大きな違いはみられない。



(2)子育て環境に満足する理由

就学前児童保護者 問 7-1、小学生保護者 問 28-1、中学生保護者 問 24-1

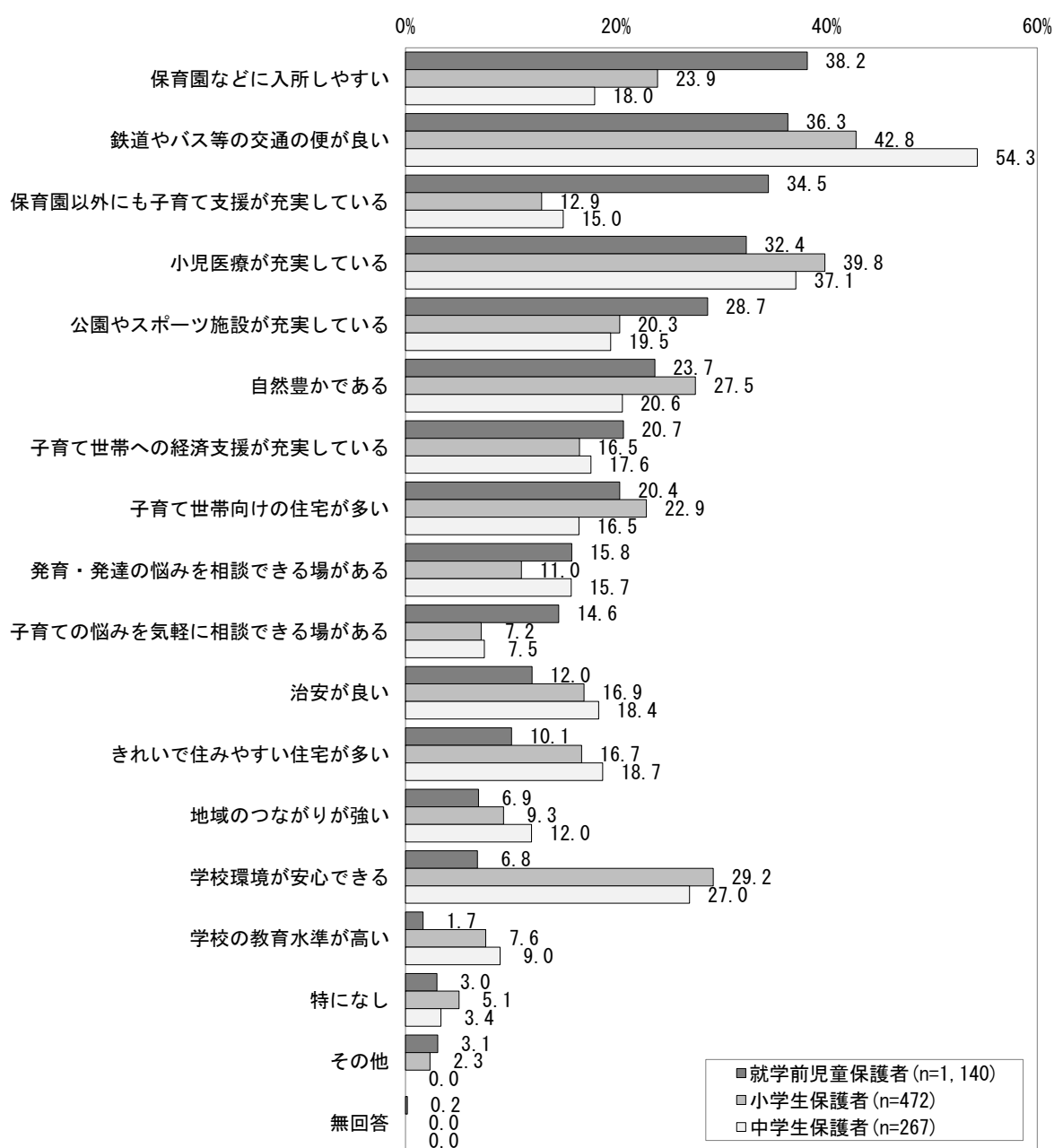
【「子育て環境の満足度」で「とてもしやすい」または「しやすい」を選択した方のみ】

どのような点が、子育てがしやすいと感じますか。(複数回答)

就学前児童保護者では、「保育園などに入所しやすい」が 38.2%と最も高く、「鉄道やバス等の交通の便が良い」が 36.3%、「保育園以外にも子育て支援が充実している」が 34.5%と続いている。

小学生保護者では、「鉄道やバス等の交通の便が良い」が 42.8%と最も高く、「小児医療が充実している」が 39.8%、「学校環境が安心できる」が 29.2%と続いている。

中学生保護者では、「鉄道やバス等の交通の便が良い」が 54.3%と最も高く、「小児医療が充実している」が 37.1%、「学校環境が安心できる」が 27.0%と続いている。



「その他」に寄せられた意見

「その他」には、44 件(就学前児童保護者 34 件、小学生保護者 10 件、中学生保護者 0 件)の記述回答が寄せられた。主な意見は次のとおり。

「その他」の意見(44 件)
【概要】 地域や近隣に住む家族・親族、ほっとる一むなど、周囲から子育て支援を受けられることが子育てのしやすさにつながっているという意見や、遊び場が充実しているという意見が寄せられている。
【地域のつながりに関すること】 ・すれ違う方々が、みんな子どもに対してあたたかい。 ・小さな子ども連れにやさしい飲食店が多い。 【近隣に住む家族・親族に関すること】 ・自分の両親が近くにいるから。 ・親せきが近くにいる。 【ほっとる一むに関すること】 ・預け先に困った時、ほっとる一むの存在に大変助けられました。すごく便利で助かります。 ・ほっとる一むが助かる。 【遊び場に関すること】 ・未就学児でも遊べる場所が多い。 ・公園が多く、ベビーカーの移動もしやすい。

(3)子育て環境に不満の理由

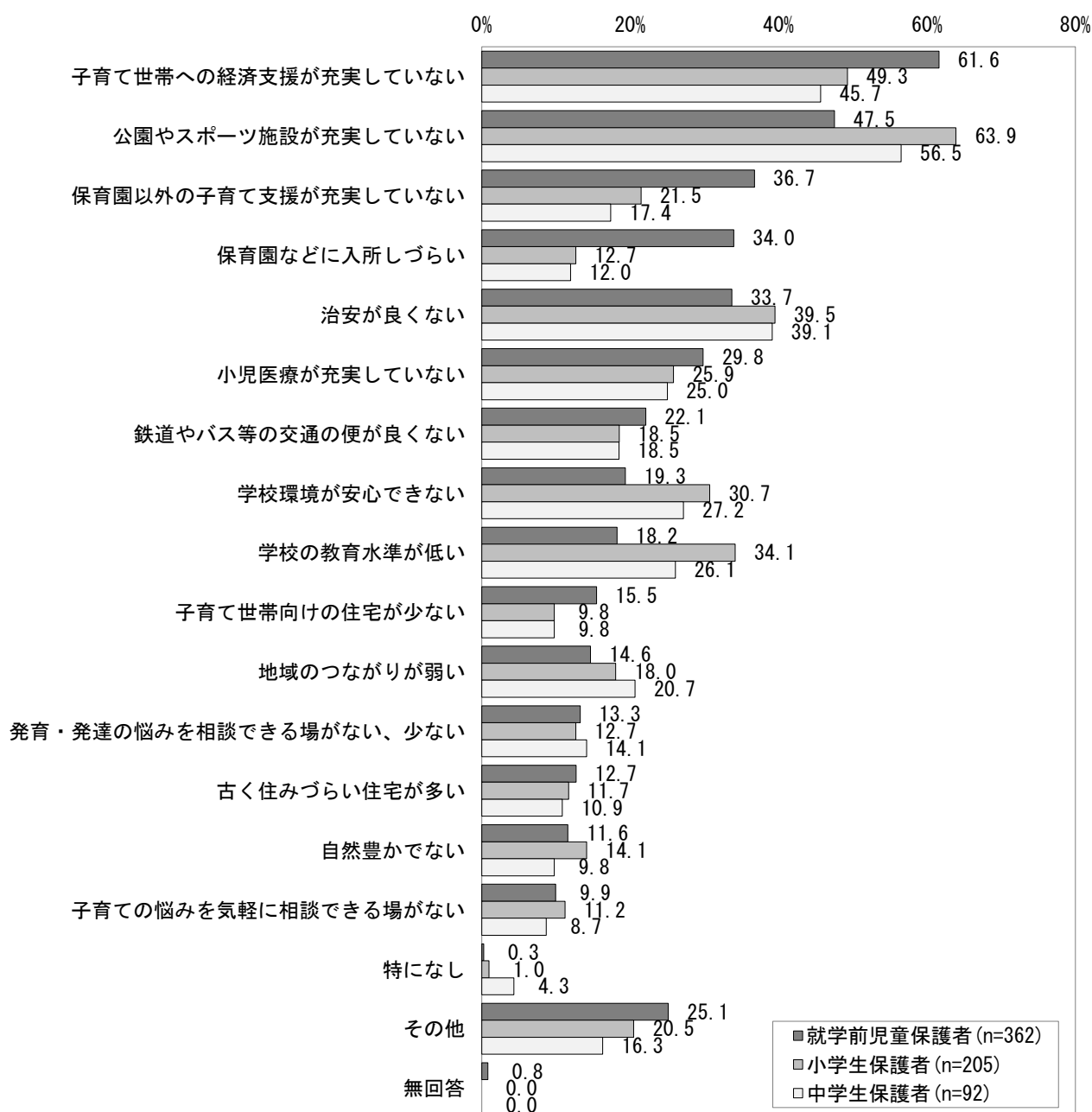
就学前児童保護者 問 7-2、小学生保護者 問 28-2、中学生保護者 問 24-2

【「子育て環境の満足度」で「あまりしやすくない」または「しやすくない」を選択した方のみ】
どのような点が、子育てがしやすくないと感じますか。(複数回答)

就学前児童保護者では、「子育て世帯への経済支援が充実していない」が 61.6%と最も高く、「公園やスポーツ施設が充実していない」が 47.5%、「保育園以外の子育て支援が充実していない」が 36.7%と続いている。

小学生保護者では、「公園やスポーツ施設が充実していない」が 63.9%と最も高く、「子育て世帯への経済支援が充実していない」が 49.3%、「治安が良くない」が 39.5%と続いている。

中学生保護者では、「公園やスポーツ施設が充実していない」が 56.5%と最も高く、「子育て世帯への経済支援が充実していない」が 45.7%、「治安が良くない」が 39.1%と続いている。



「その他」に寄せられた意見

「その他」には、148 件(就学前児童保護者 96 件、小学生保護者 40 件、中学生保護者12件)の記述回答が寄せられた。主な意見は次のとおり。

「その他」の意見(148 件)
【概要】 最も多かったのは道路に関する事で、歩道の狭さや坂が多いことにより、ベビーカーで移動しづらい、自転車に子どもをのせていると危険を感じるなどの意見が寄せられている。
【道路に関する事】 ・坂が多く子どもを連れて歩きにくい。 ・安心して散歩できる道が少ない。交通量も多く、運転が荒い人が多い。 ・歩道がせまくてベビーカーが通りづらい。 ・道路がせまい。子どもをのせて自転車に乗るのが怖いと思うときがある。 【公園に関する事】 ・小学生以上の遊べる場所が少ない。 ・公園の遊具が古いものが多い。 ・公園の駐車場が有料であること。 【図書館に関する事】 ・図書館をきれいにしてほしい。 ・図書館に子ども同士で行っても居づらい。 【医療に関する事】 ・子どもの医療費が無償ではない。 【障害に関する事】 ・障害者に優しくない。

第3節 保護者の就労状況

■結果の概要

- ・就学前児童の母親において特にフルタイム就労の割合が最も高く、小学生・中学生の母親はパートタイム・アルバイト等の割合が高くなっている。経年比較では、就学前児童・小学生の母親において、フルタイム就労の割合が高まっており、フルタイム就労と育児を両立する母親が増加していると考えられる。
- ・就労時間については、母親が8時間未満の割合が最も高いのに対し、父親は8時間超の割合が最も高くなっている。また、父親は夜勤もある就労形態の人が約2割となっており、父親に長時間就労・夜間就労の傾向がある。
- ・柔軟な働き方については、就学前児童の母親が「育児のための短時間勤務制度」を利用している割合が約4割と高く、小学生の母親でも約2割となっている。テレワークについては、母親では就学前の利用が最も多く約2割が利用している。父親では、いずれの調査でも約2割がテレワークを利用している。柔軟な働き方をすることによって、約5割が仕事と子育ての両立がうまくいくようになったと回答している。
- ・離職を経験した母親の約6割が、家事・育児に専念するために自発的にやめている。その他の原因として、勤務時間や配偶者・パートナーの勤務地、自身の体調などが、それぞれ約2割となっている。

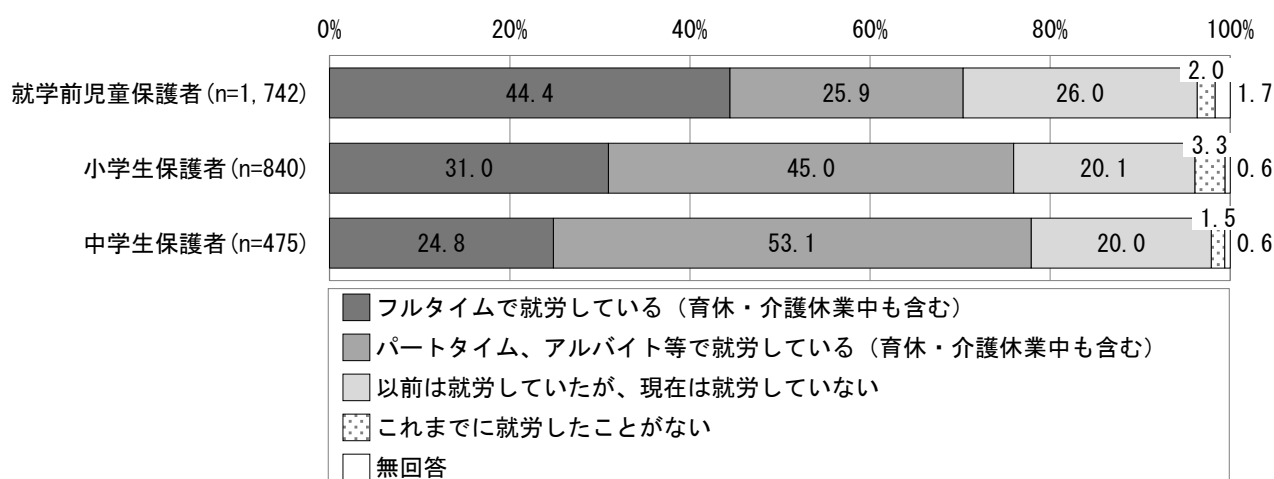
(1)就労状況

就学前児童保護者 問 8、小学生保護者 問 4、中学生保護者 問 3

宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況(自営業を含む)についてお答えください。(単数回答)

①母親

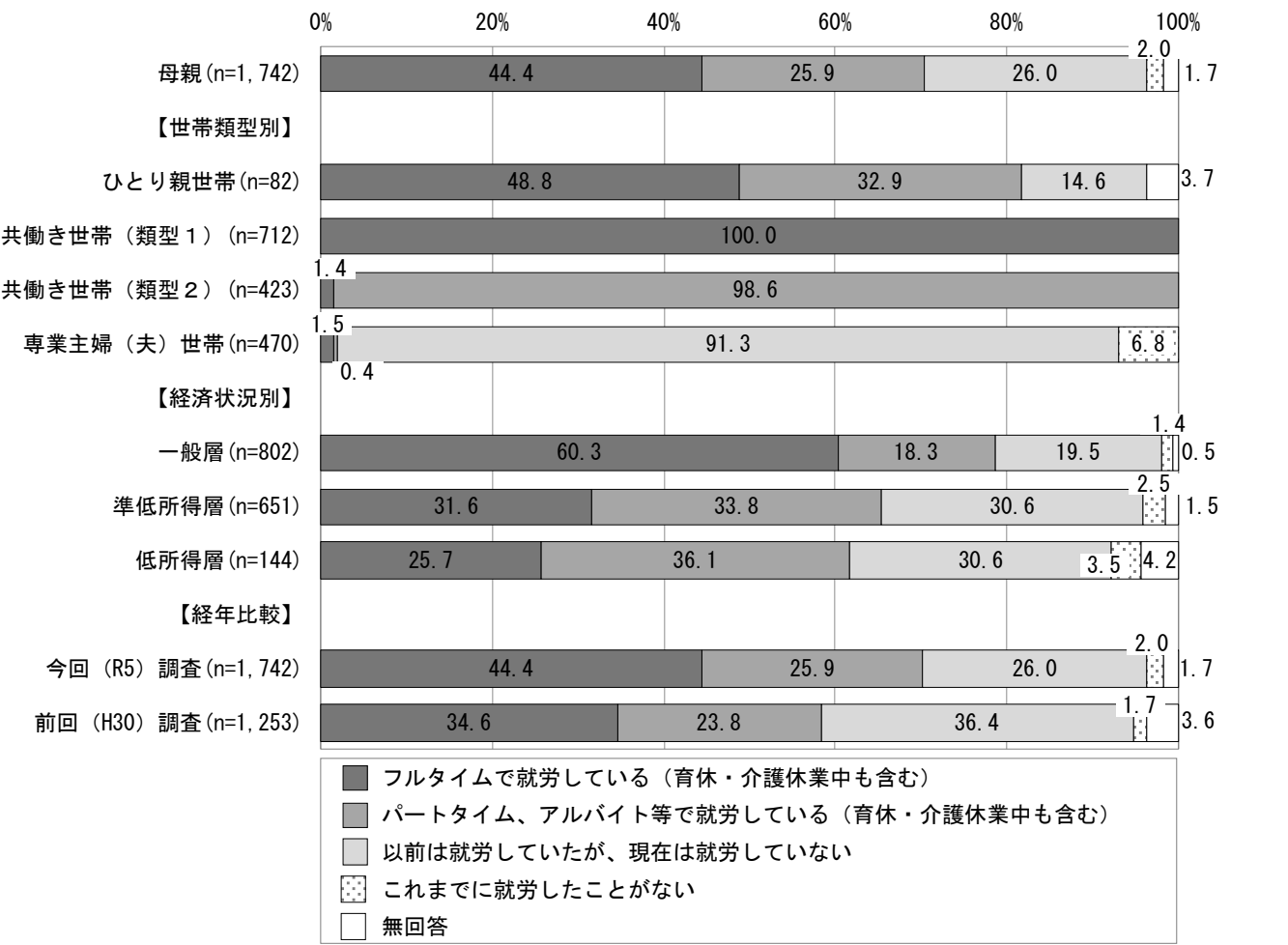
就学前児童保護者において「フルタイムで就労している(育休・介護休業中も含む)」の割合が最も高く、小学生、中学生と子どもの年齢が高いほど保護者の「パートタイム、アルバイト等で就労している(育休・介護休業中も含む)」の割合が高くなっている。中学生保護者においては、「パートタイム、アルバイト等で就労している(育休・介護休業中も含む)」が約半数となっている。



就学前児童保護者

世帯類型別にみると、ひとり親世帯においては、「フルタイムで就労している（育休・介護休業中も含む）」の割合が最も高くなっている。経済状況別にみると、準低所得層・低所得層において、一般層よりも「フルタイムで就労している（育休・介護休業中も含む）」の割合が低くなっている。

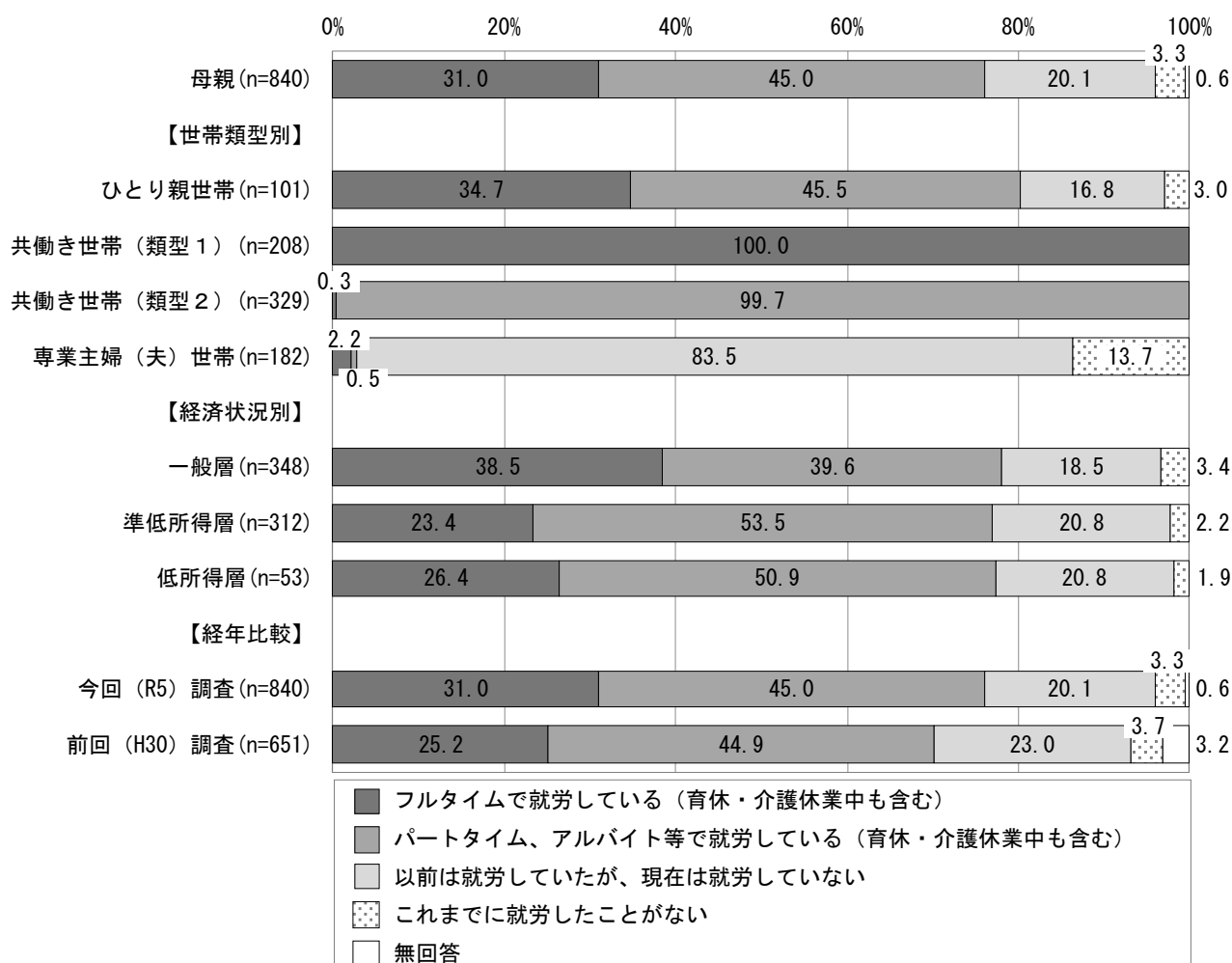
経年比較では、前回調査よりも「フルタイムで就労している（育休・介護休業中も含む）」の割合が高くなっている。



小学生保護者

世帯類型別にみると、ひとり親世帯においては、「パートタイム、アルバイト等で就労している（育休・介護休業中も含む）」の割合が最も高くなっている。経済状況別にみると、準低所得層・低所得層において、一般層よりも「フルタイムで就労している（育休・介護休業中も含む）」の割合が低くなっている。

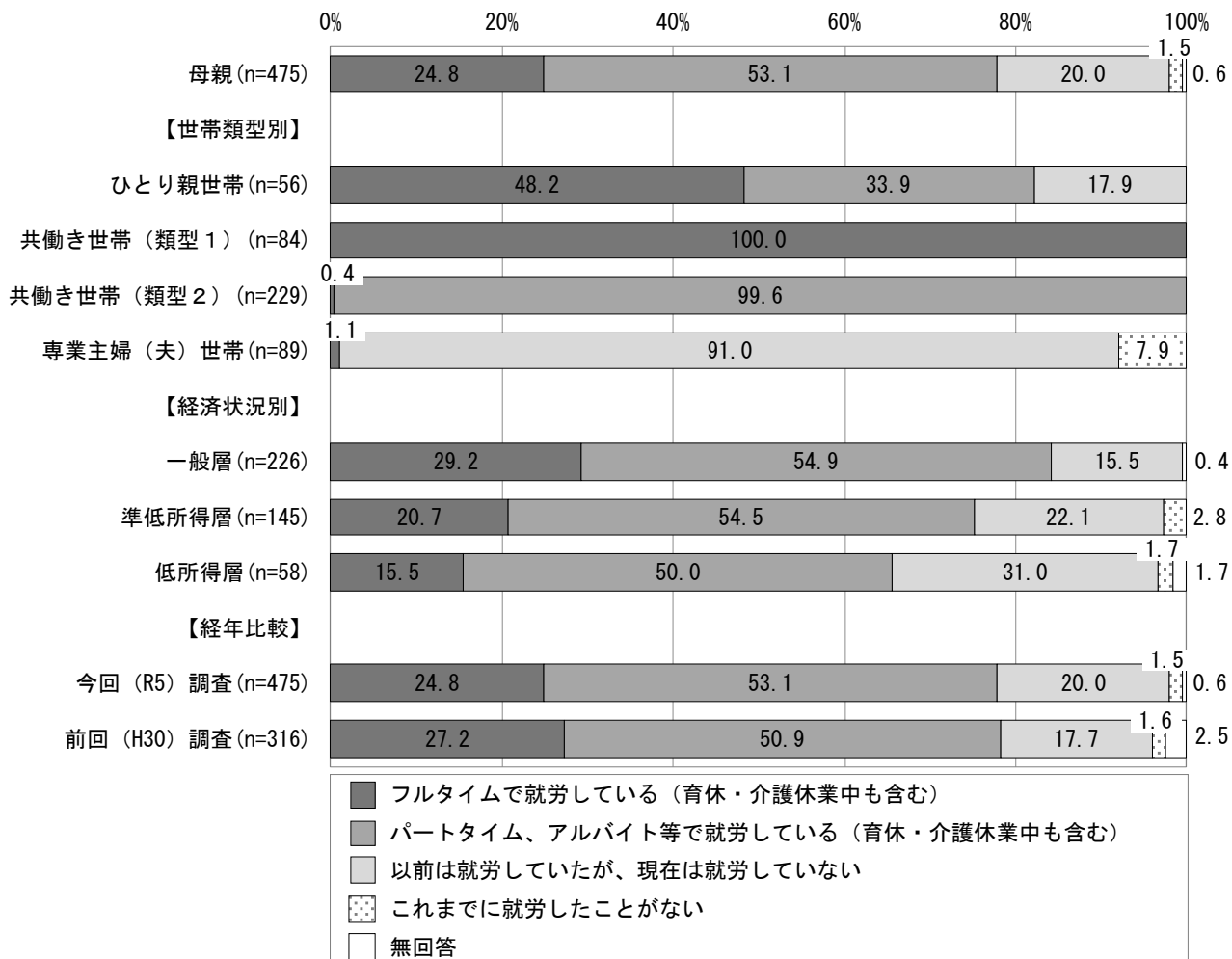
経年比較では、前回調査よりも「フルタイムで就労している（育休・介護休業中も含む）」の割合が高くなっている。



中学生保護者

世帯類型別にみると、ひとり親世帯においては、「フルタイムで就労している（育休・介護休業中も含む）」の割合が最も高くなっている。経済状況別にみると、準低所得層・低所得層において、一般層よりも「フルタイムで就労している（育休・介護休業中も含む）」の割合が低くなっている。

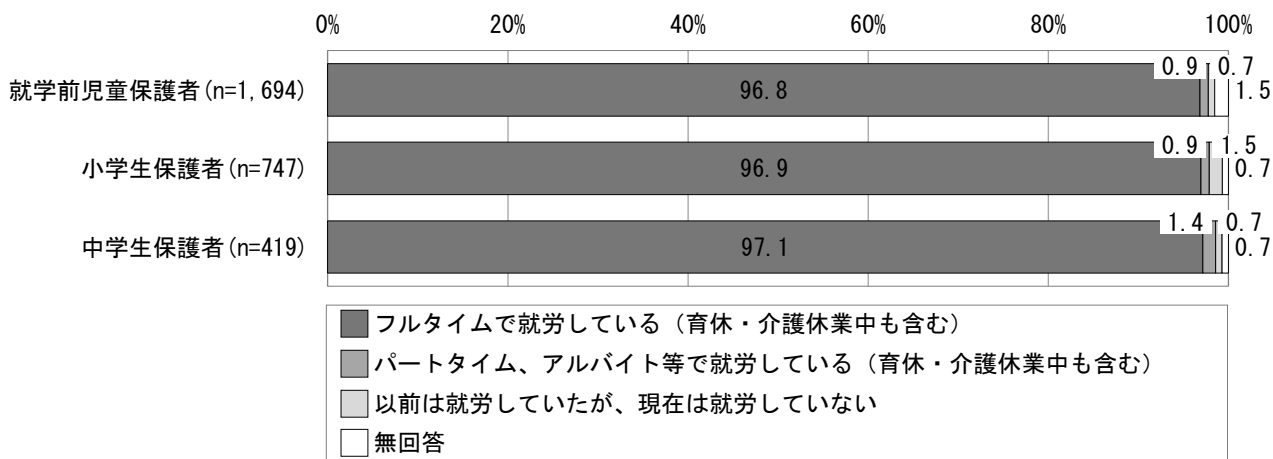
経年比較では大きな違いはみられない。



②父親

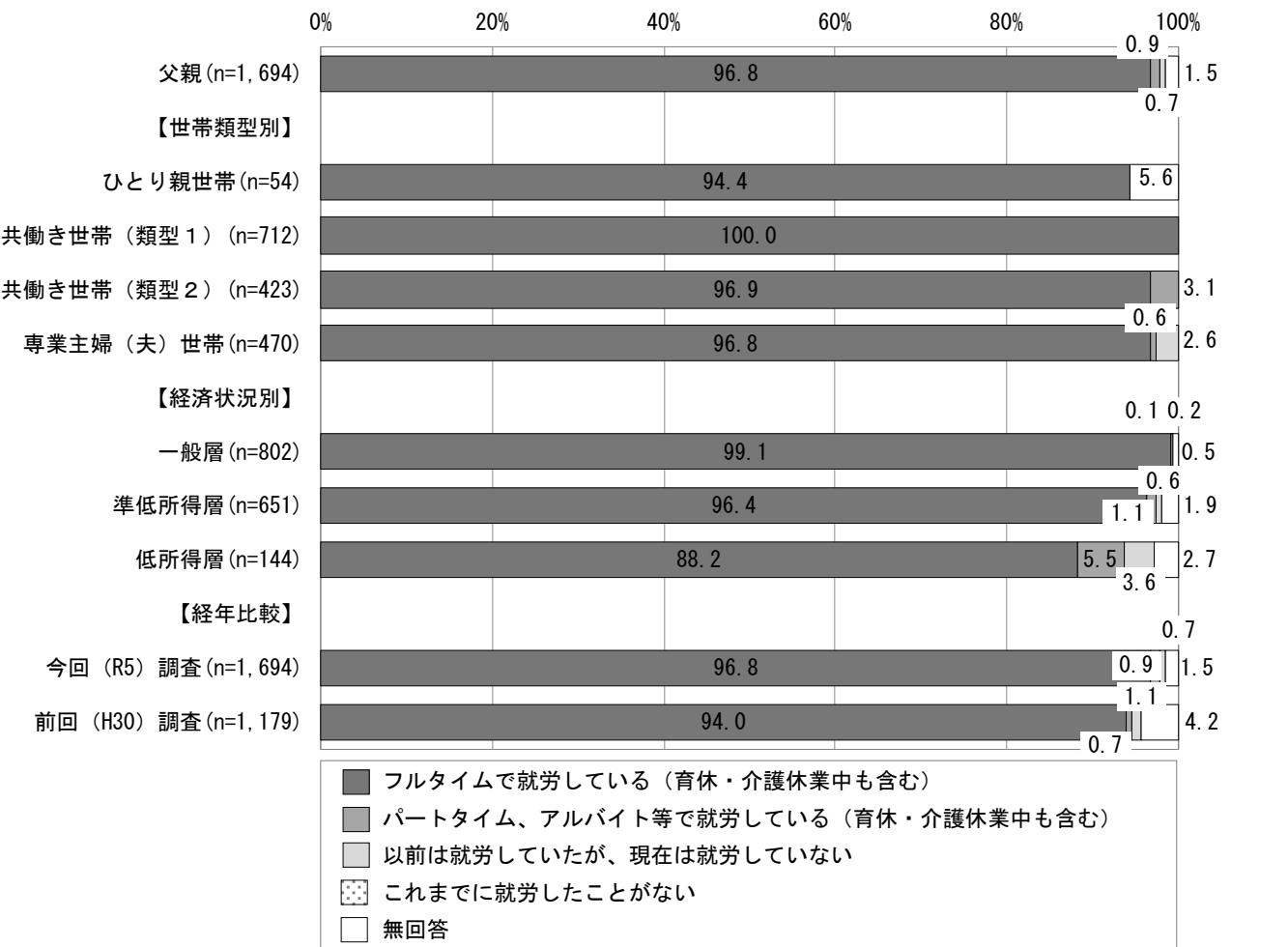
いずれの調査においても大きな違いはみられず、ほぼすべてが「フルタイムで就労している（育休・介護休業中も含む）」となっている。

経年比較では、前回調査においても、回答者のほぼすべてが「フルタイムで就労している（育休・介護休業中も含む）」となっている。



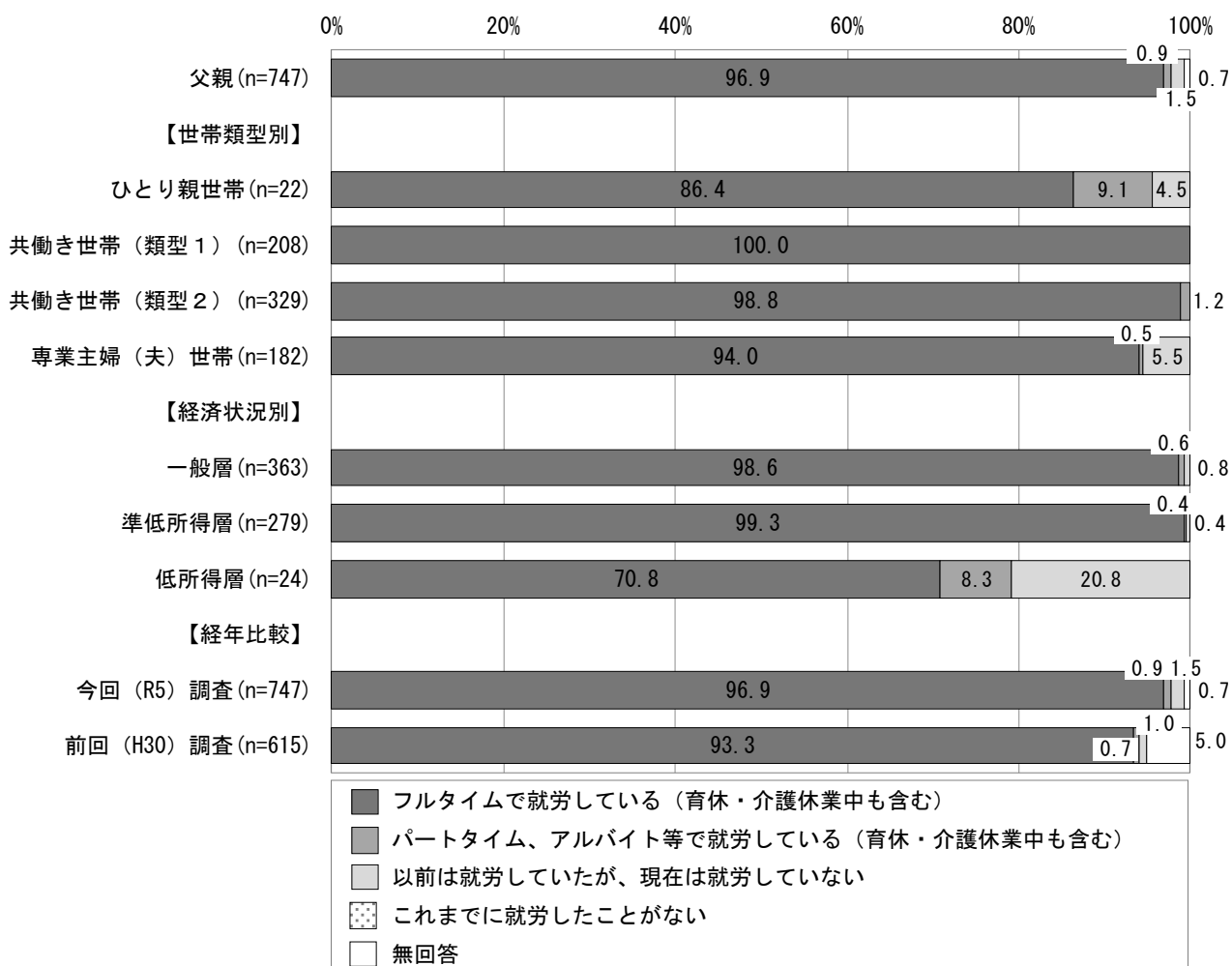
就学前児童保護者

経済状況別にみると、低所得層において、一般層・準低所得層よりも「フルタイムで就労している（育休・介護休業中も含む）」の割合が低くなっている。



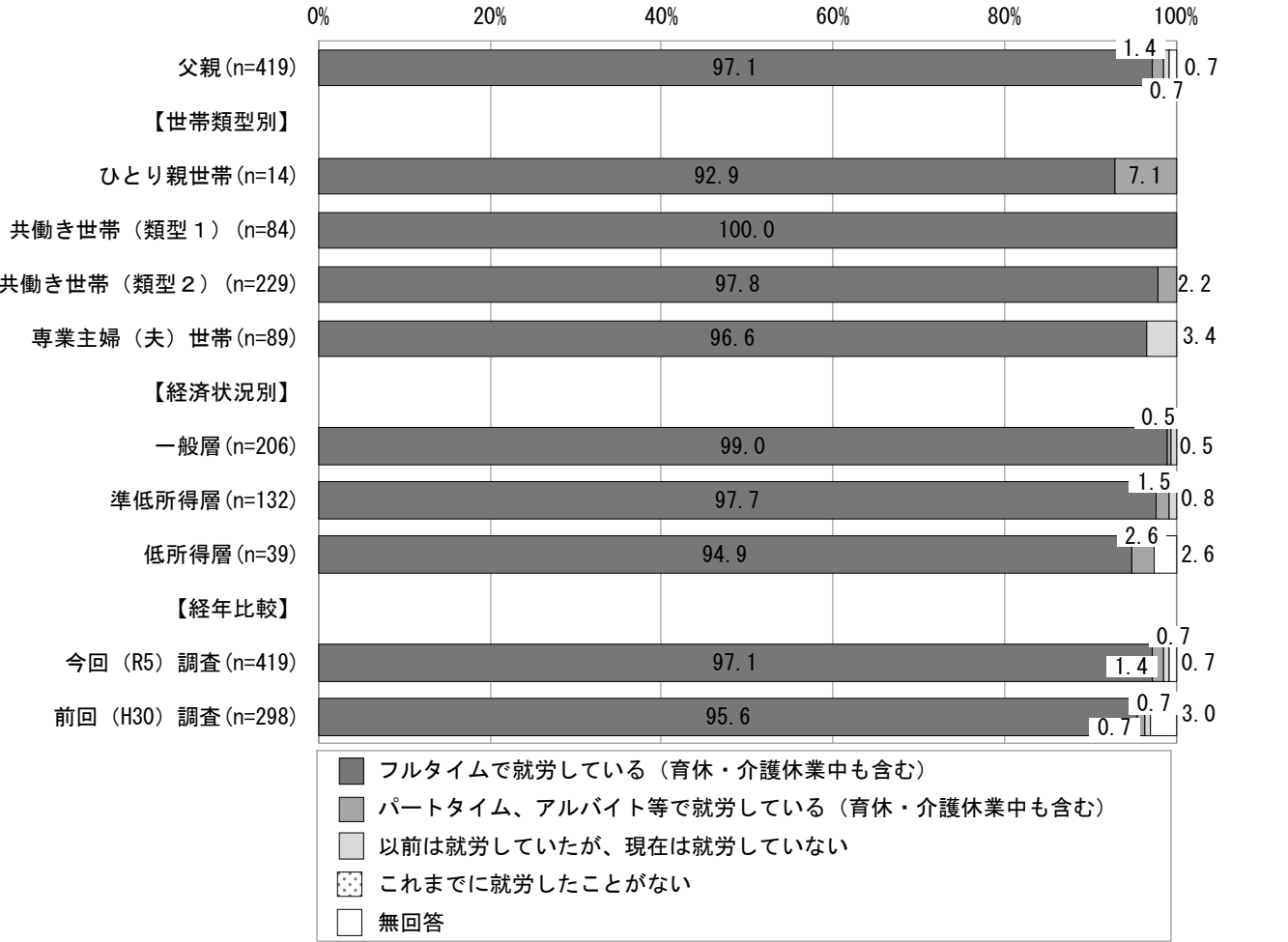
小学生保護者

世帯類型別にみると、ひとり親世帯において、「フルタイムで就労している（育休・介護休業中も含む）」の割合が、他の世帯類型よりも低くなっている。経済状況別にみると、低所得層において、一般層・準低所得層よりも「フルタイムで就労している（育休・介護休業中も含む）」の割合が低くなっている。



中学生保護者

世帯類型別にみると、ひとり親世帯において、「フルタイムで就労している（育休・介護休業中も含む）」の割合が低くなっている。経済状況別にみると、低所得層において、一般層・準低所得層よりも「フルタイムで就労している（育休・介護休業中も含む）」の割合が低くなっている。



(2)就労時間・就労時間帯

就学前児童保護者 問9

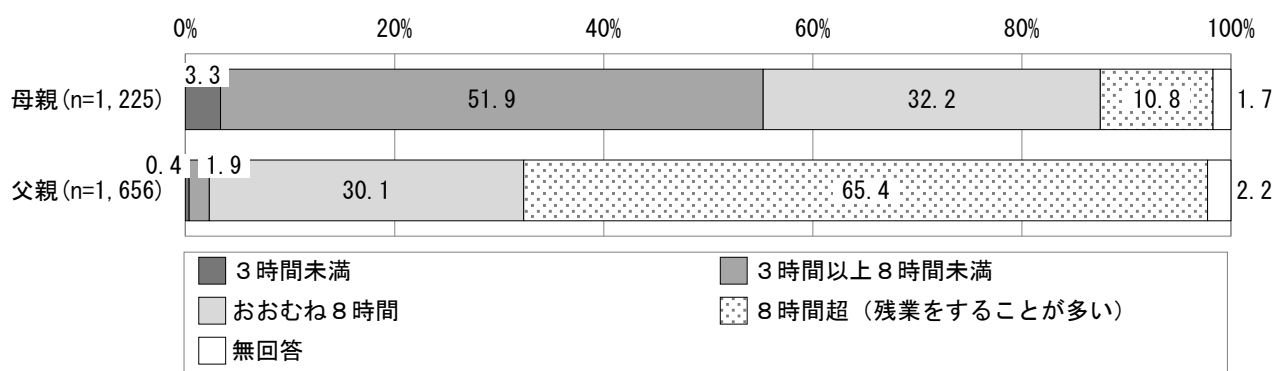
【「就労状況」で「フルタイムで就労している」または「パートタイム、アルバイト等で就労している」を選択した方のみ】

平日の就労時間と就労時間帯について、最も多いパターンをお答えください。(単数回答)

①就労時間

母親では、「3時間以上8時間未満」が51.9%と最も高く、「おおむね8時間」が32.2%、「8時間超(残業をすることが多い)」が10.8%と続いている。

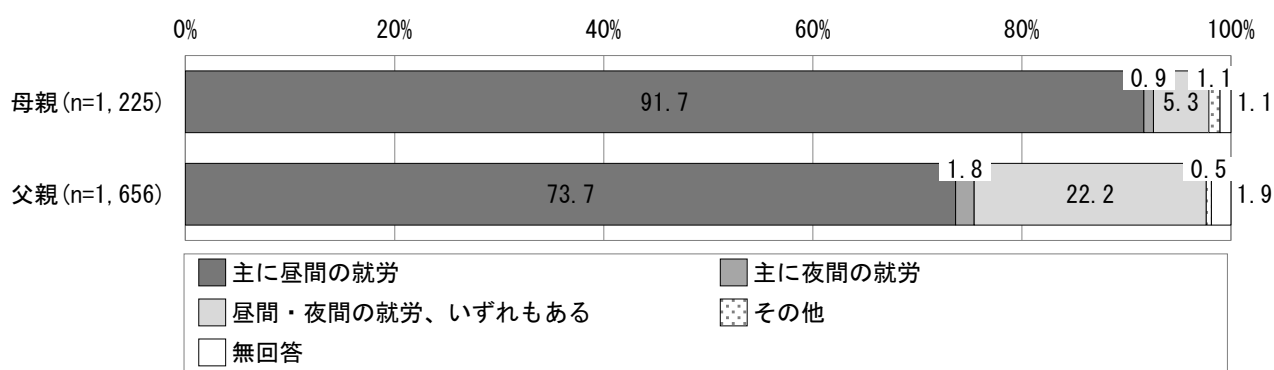
父親では、「8時間超(残業をすることが多い)」が65.4%と最も高く、「おおむね8時間」が30.1%、「3時間以上8時間未満」が1.9%と続いている。



②就労時間帯

母親では、「主に昼間の就労」が91.7%と最も高く、「昼間・夜間の就労、いずれもある」が5.3%、「主に夜間の就労」が0.9%と続いている。

父親では、「主に昼間の就労」が73.7%と最も高く、「昼間・夜間の就労、いずれもある」が22.2%、「主に夜間の就労」が1.8%と続いている。



(3)柔軟な働き方

就学前児童保護者 問 9-1、小学生保護者 問 4-1、中学生保護者 問 3-1

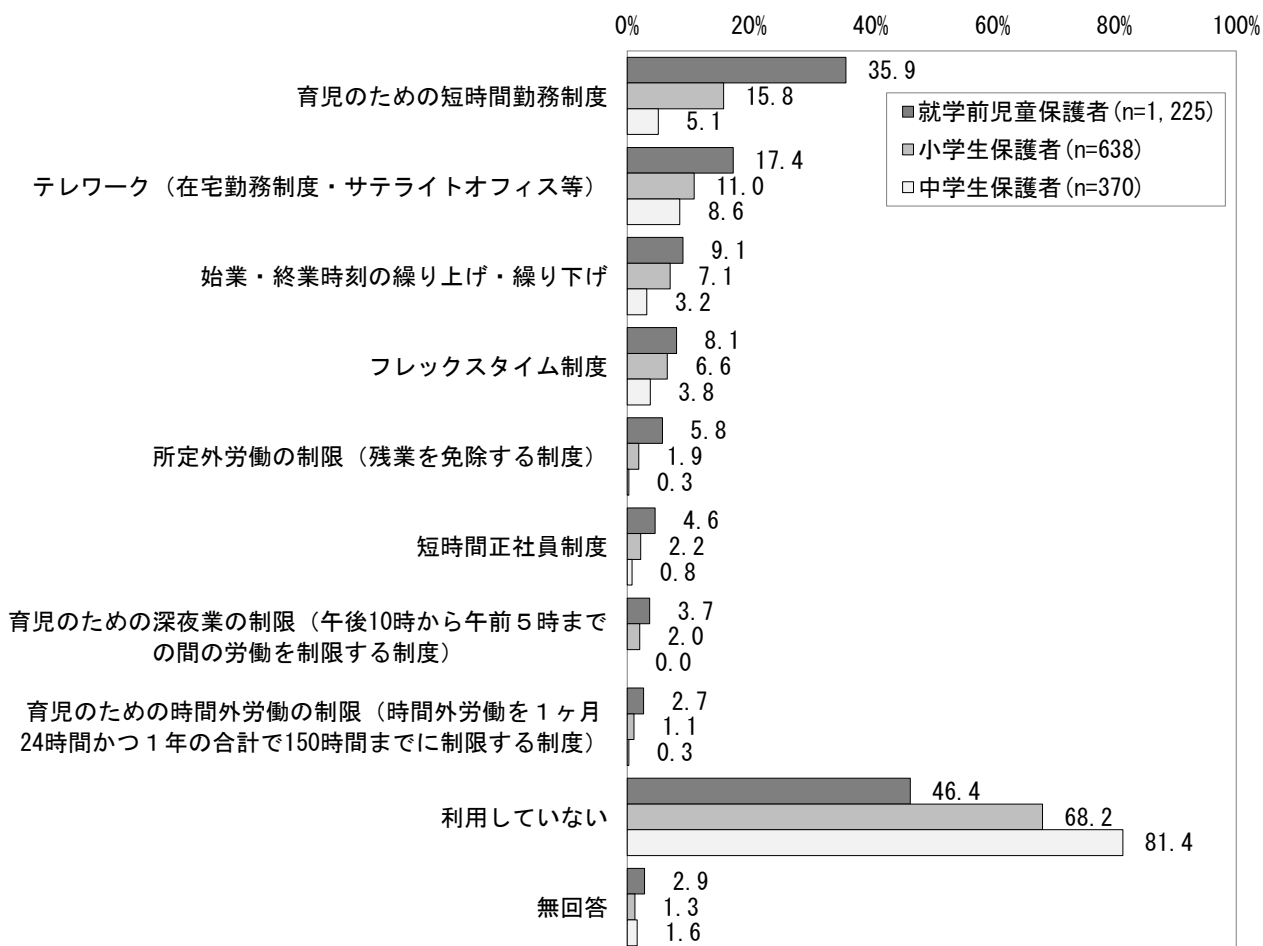
現在、次のような柔軟な働き方を可能にする制度を利用していますか。(複数回答)

①母親

就学前児童保護者では、「利用していない」が 46.4%と最も高く、「育児のための短時間勤務制度」が 35.9%、「テレワーク(在宅勤務制度・サテライトオフィス等)」が 17.4%と続いている。

小学生保護者では、「利用していない」が 68.2%と最も高く、「育児のための短時間勤務制度」が 15.8%、「テレワーク(在宅勤務制度・サテライトオフィス等)」が 11.0%と続いている。

中学生保護者では、「利用していない」が 81.4%と最も高く、「テレワーク(在宅勤務制度・サテライトオフィス等)」が 8.6%、「育児のための短時間勤務制度」が 5.1%と続いている。

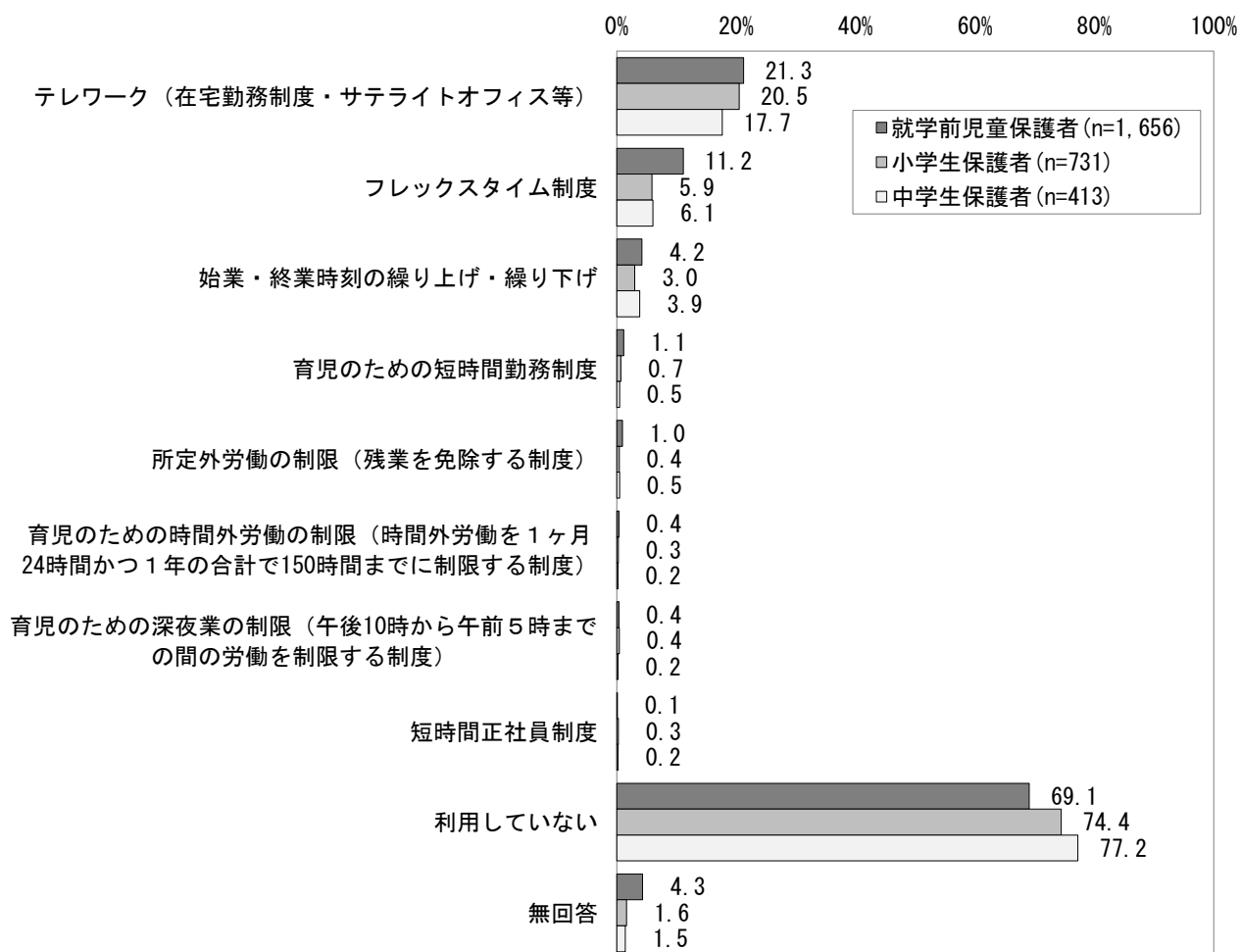


②父親

就学前児童保護者では、「利用していない」が69.1%と最も高く、「テレワーク(在宅勤務制度・サテライトオフィス等)」が21.3%、「フレックスタイム制度」が11.2%と続いている。

小学生保護者では、「利用していない」が74.4%と最も高く、「テレワーク(在宅勤務制度・サテライトオフィス等)」が20.5%、「フレックスタイム制度」が5.9%と続いている。

中学生保護者では、「利用していない」が77.2%と最も高く、「テレワーク(在宅勤務制度・サテライトオフィス等)」が17.7%、「フレックスタイム制度」が6.1%と続いている。



(4)ワークライフバランス

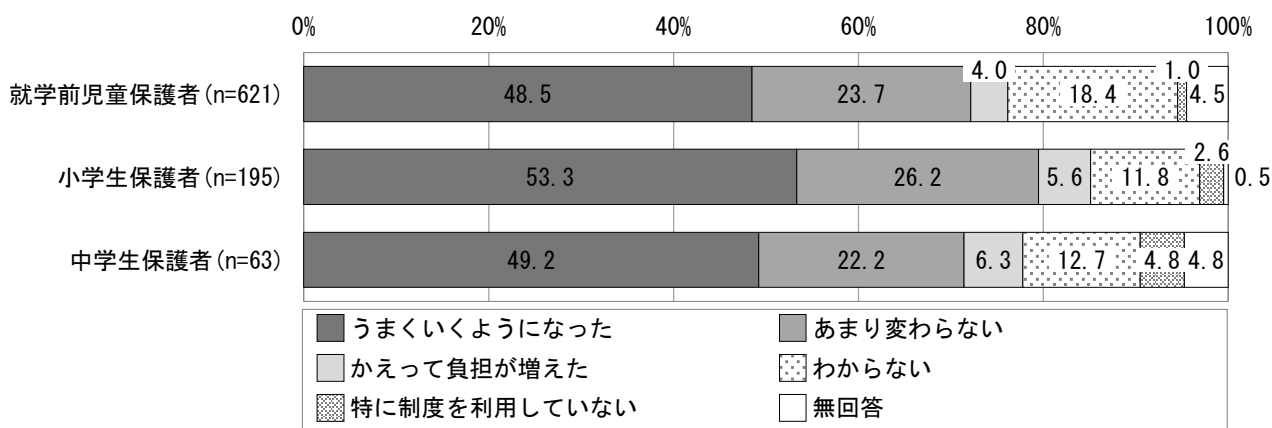
就学前児童保護者 問 9-2、小学生保護者 問 4-2、中学生保護者 問 3-2

【「柔軟な働き方」で「育児のための短時間勤務制度」～「テレワーク(在宅勤務制度・サテライトオフィス等)」を選択した方のみ】

柔軟な働き方をすることで、仕事と子育ての両立はうまくいくようになったと思いますか。(単数回答)

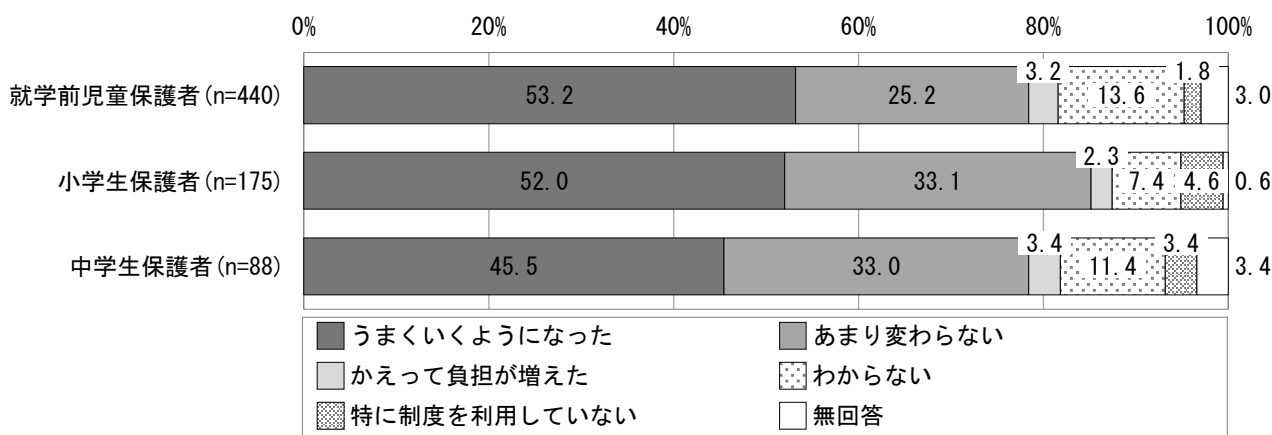
①母親

いずれの調査でも、「(3)柔軟な働き方」をすることによって、仕事と子育ての両立が「うまくいくようになった」とする割合が最も高く、約5割となっている。



②父親

いずれの調査でも、「(3)柔軟な働き方」をすることによって、仕事と子育ての両立が「うまくいくようになった」とする割合が最も高く、約5割となっている。



(5)パートタイム就労者のフルタイム転換希望

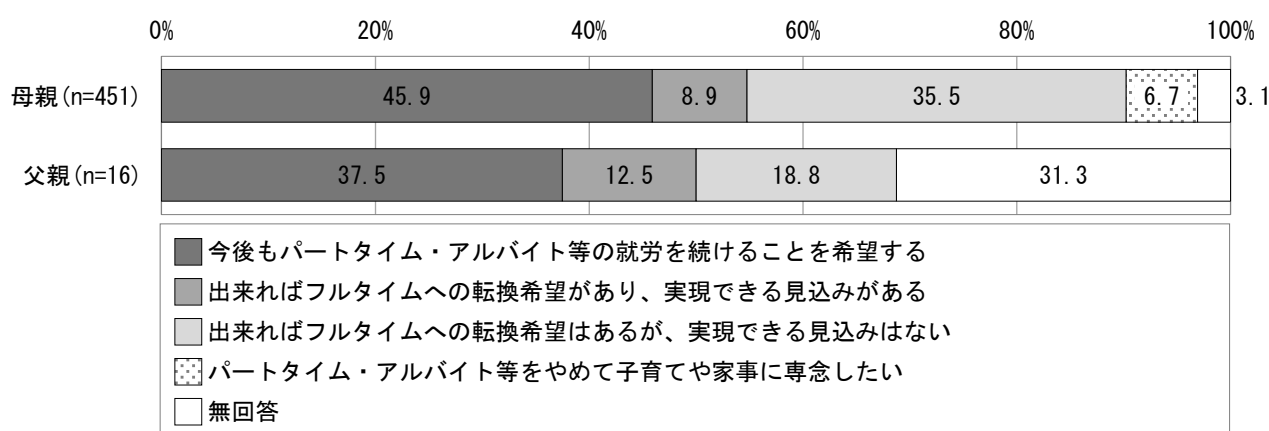
就学前児童保護者 問10

【「就労状況」で「パートタイム、アルバイト等で就労している」を選択した方のみ】

フルタイムへの転換希望はありますか。(単数回答)

母親では、「今後もパートタイム・アルバイト等の就労を続けることを希望する」が45.9%と最も高く、「出来ればフルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が35.5%、「出来ればフルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が8.9%と続いている。

父親では、「今後もパートタイム・アルバイト等の就労を続けることを希望する」が37.5%と最も高く、「出来ればフルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が18.8%、「出来ればフルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が12.5%と続いている。



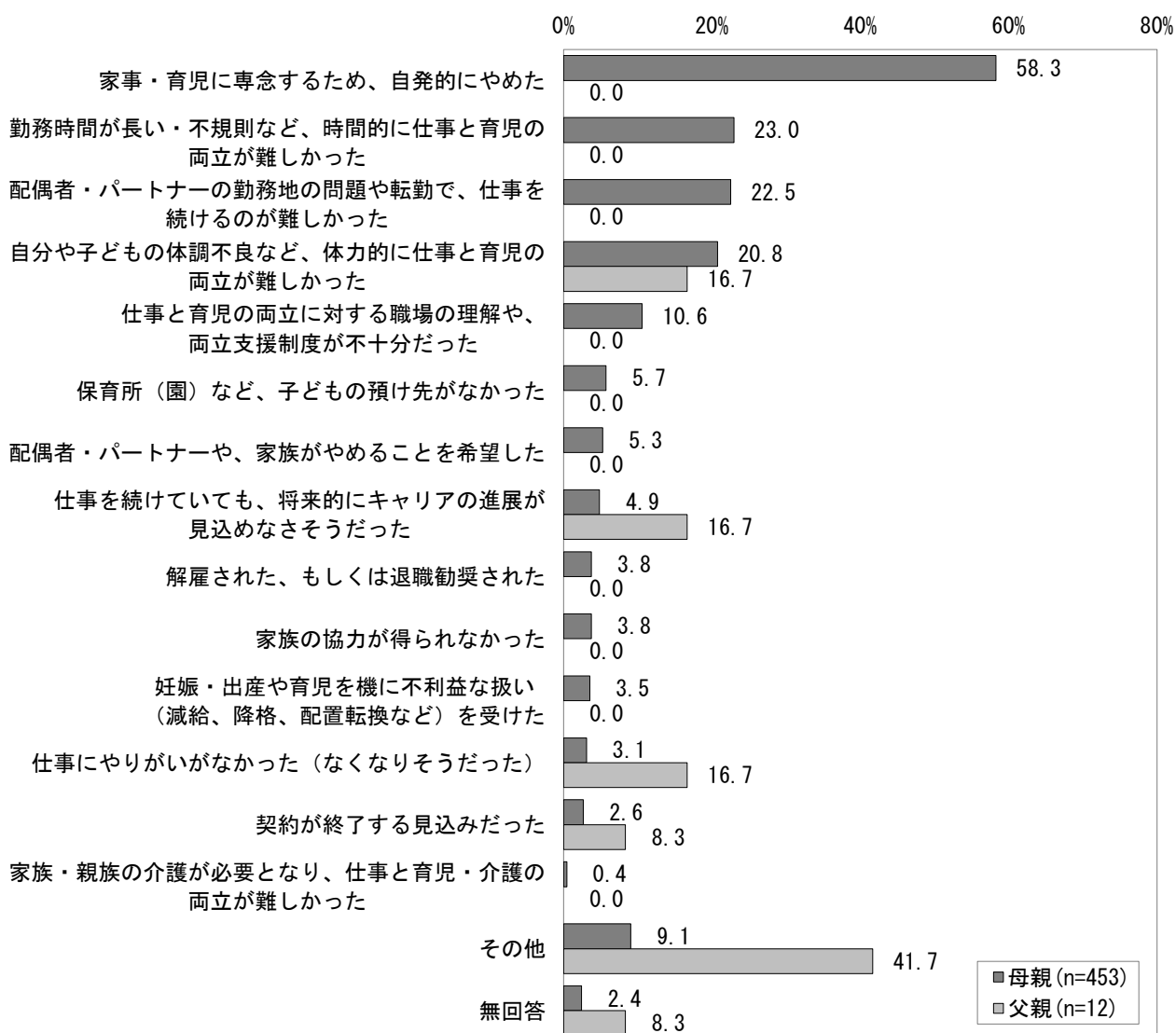
(6)離職経験者の離職理由

就学前児童保護者 問11

【「就労状況」で「以前は就労していたが、現在は就労していない」を選択した方のみ】
離職した理由をお答えください。(複数回答)

母親では、「家事・育児に専念するため、自発的にやめた」が 58.3%と最も高く、「勤務時間が長い・不規則など、時間的に仕事と育児の両立が難しかった」が 23.0%、「配偶者・パートナーの勤務地の問題や転勤で、仕事を続けるのが難しかった」が 22.5%と続いている。

父親では、「自分や子どもの体調不良など、体力的に仕事と育児の両立が難しかった」と「仕事を続けていても、将来的にキャリアの進展が見込めなさそうだった」、「仕事にやりがいがなかった(なくなりそうだった)」が、それぞれ 16.7%と最も高くなっている。



(7)未就労者の就労希望

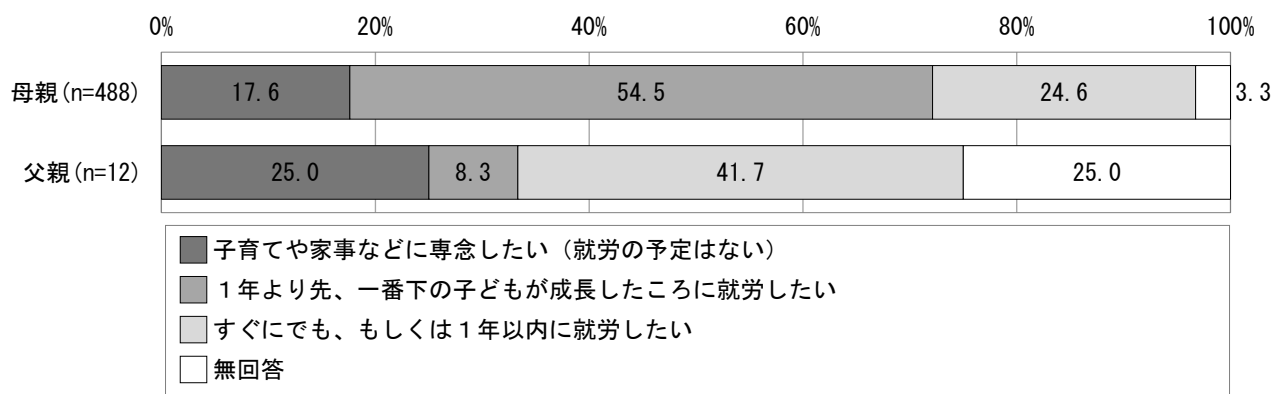
就学前児童保護者 問 12

【「就労状況」で「以前は就労していたが、現在は就労していない」または「これまでに就労したことがない」を選択した方のみ】

就労したいという希望はありますか。(単数回答)

母親では、「1年より先、一番下の子どもが成長したところに就労したい」が 54.5%と最も高く、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が 24.6%、「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」が 17.6%と続いている。

父親では、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が 41.7%と最も高く、「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」が 25.0%、「1年より先、一番下の子どもが成長したところに就労したい」が 8.3%と続いている。



(8)未就労者の就労希望形態

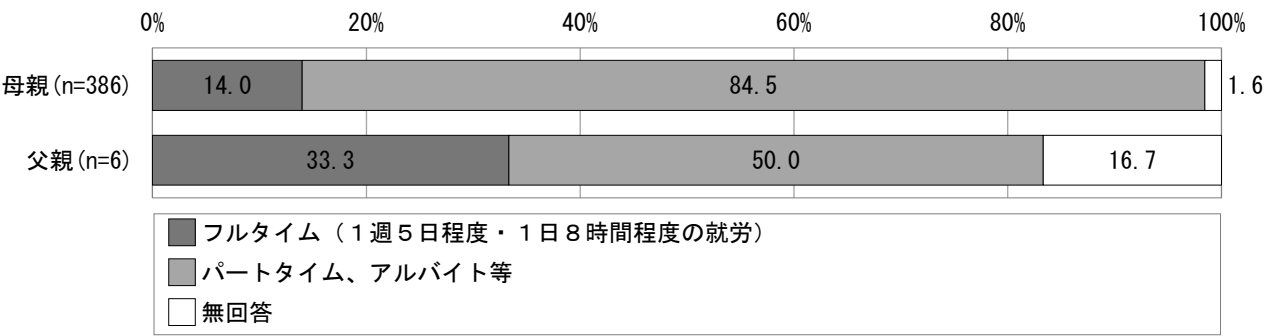
就学前児童保護者 問 12-1

【「未就労者の就労希望」で「1年より先、一番下の子どもが成長したころに就労したい」または「すぐにも、もしくは1年以内に就労したい」を選択した方のみ】

希望する就労形態をお答えください。(単数回答)

母親では、「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)」が 14.0%、「パートタイム、アルバイト等」が 84.5%となっている。

父親では、「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)」が 33.3%、「パートタイム、アルバイト等」が 50.0%となっている。



(9)未就労者の希望する就労時間・就労時間帯

就学前児童保護者 問 12-1

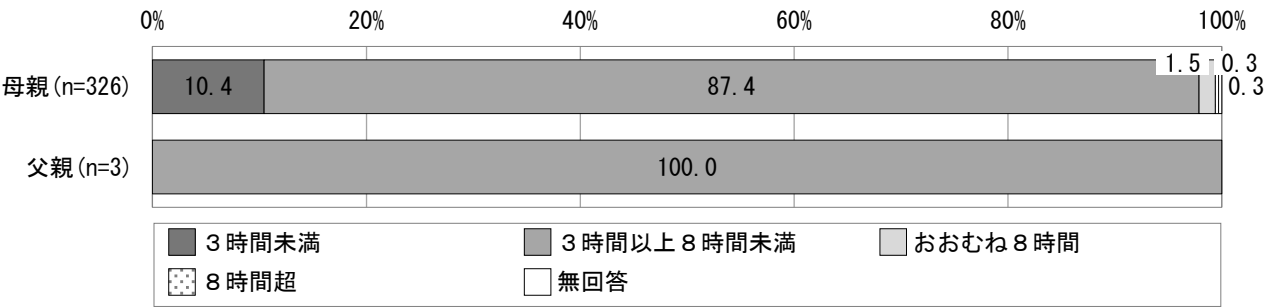
【「未就労者の就労希望形態」で「パートタイム、アルバイト等」を選択した方のみ】

希望する就労時間をお答えください。(単数回答)

①就労時間

母親では、「3時間以上8時間未満」が 87.4%と最も高く、「3時間未満」が 10.4%、「おおむね8時間」が 1.5%と続いている。

父親では、「3時間以上8時間未満」が 100.0%となっている。



②就労時間帯

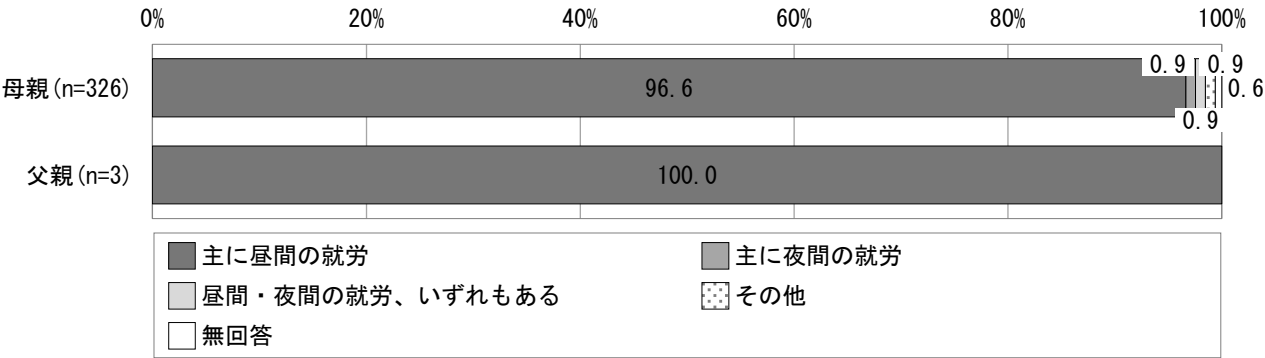
就学前児童保護者 問 12-1

【「未就労者の就労希望形態」で「パートタイム、アルバイト等」を選択した方のみ】

希望する就労時間帯をお答えください。(単数回答)

母親では、「主に昼間の就労」が 96.6%と最も高く、「主に夜間の就労」と「昼間・夜間の就労、いずれもある」、「その他」が、それぞれ 0.9%と続いている。

父親では、「主に昼間の就労」が 100.0%となっている。



第4節 育児休業の取得状況

■結果の概要

- ・父母とも、育児休業取得実績が増加しており、母親で約6割、父親で約2割となっている。また育児休業未取得の理由として、母親においては育児・家事のために退職した割合が減少し、父親においては家族・親族に子どもをみてもらえるため必要なかったという割合が減少している。父母ともに育児休業を取得し、育児に参加する傾向が、前回調査よりも強くみられる。
- ・職場復帰後、母親においては「労働時間が短くなった」、「帰宅時間を配慮されるようになった」など、職場からの配慮がみられるが、父親においては「特に変化はない」が約8割となっている。

(1)育児休業取得実績

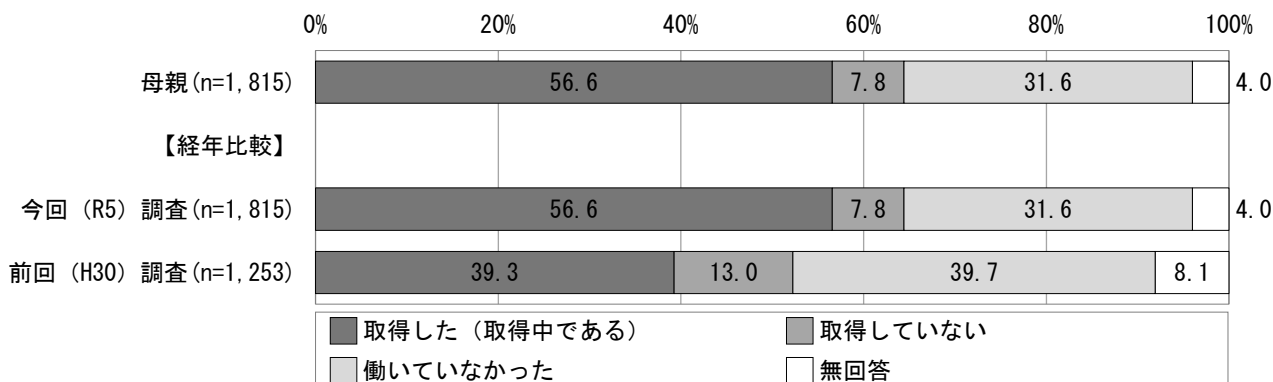
就学前児童保護者 問 13

宛名のお子さんが生まれたとき、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。(単数回答)

①母親

「取得した(取得中である)」が 56.6%と最も高く、「働いていなかった」が 31.6%、「取得していない」が 7.8%と続いている。

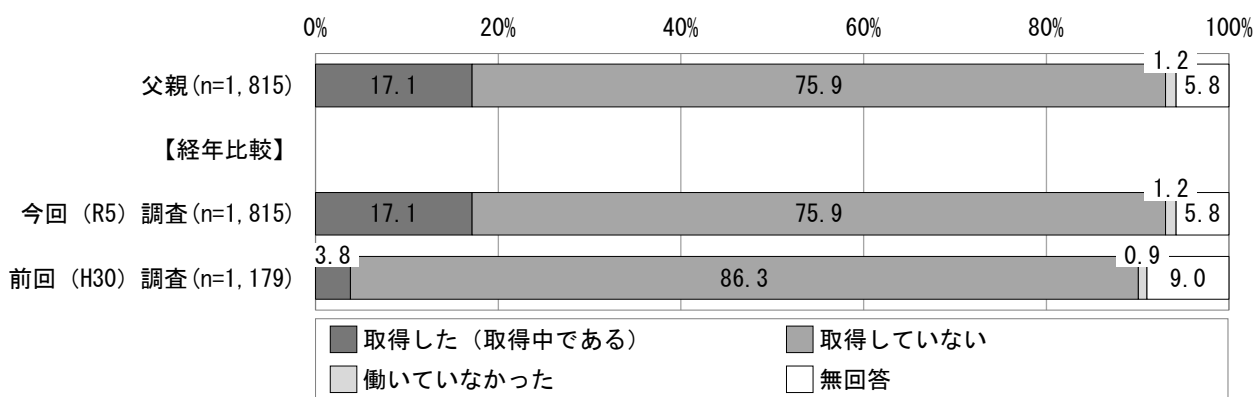
経年比較では、前回調査よりも「取得した(取得中である)」の割合が増加している。



②父親

「取得していない」が 75.9%と最も高く、「取得した(取得中である)」が 17.1%、「働いていなかった」が 1.2%と続いている。

経年比較では、前回調査よりも「取得した(取得中である)」の割合が増加している。



(2)育児休業未取得の理由

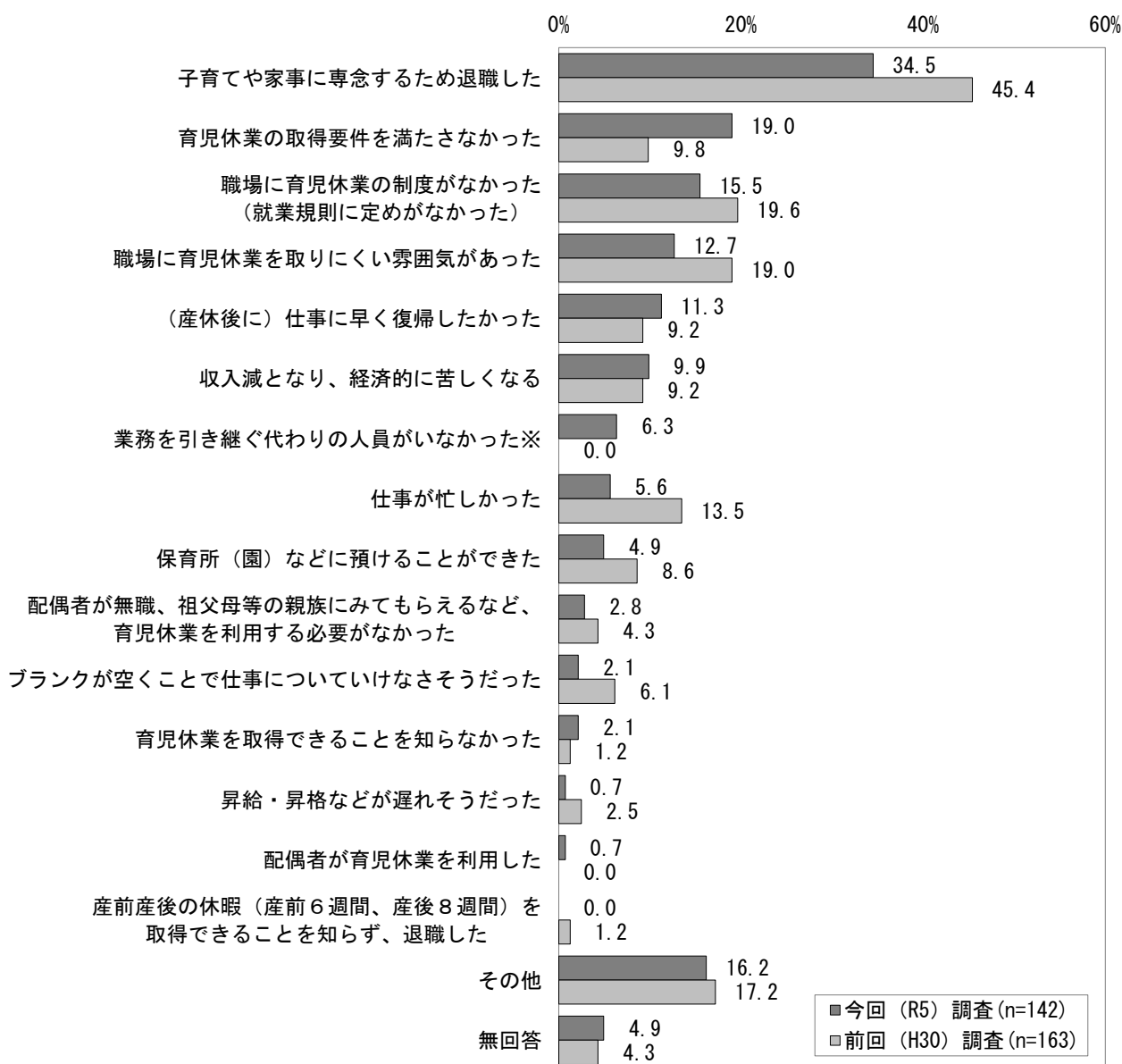
就学前児童保護者 問13

【「育児休業取得実績」で「取得していない」を選択した方のみ】

理由はどのようなことですか。(複数回答)

①母親

「子育てや家事に専念するため退職した」が34.5%と最も高く、「育児休業の取得要件を満たさなかった」が19.0%、「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」が15.5%と続いている。経年比較では、前回調査よりも「子育てや家事に専念するため退職した」の割合が減少している。

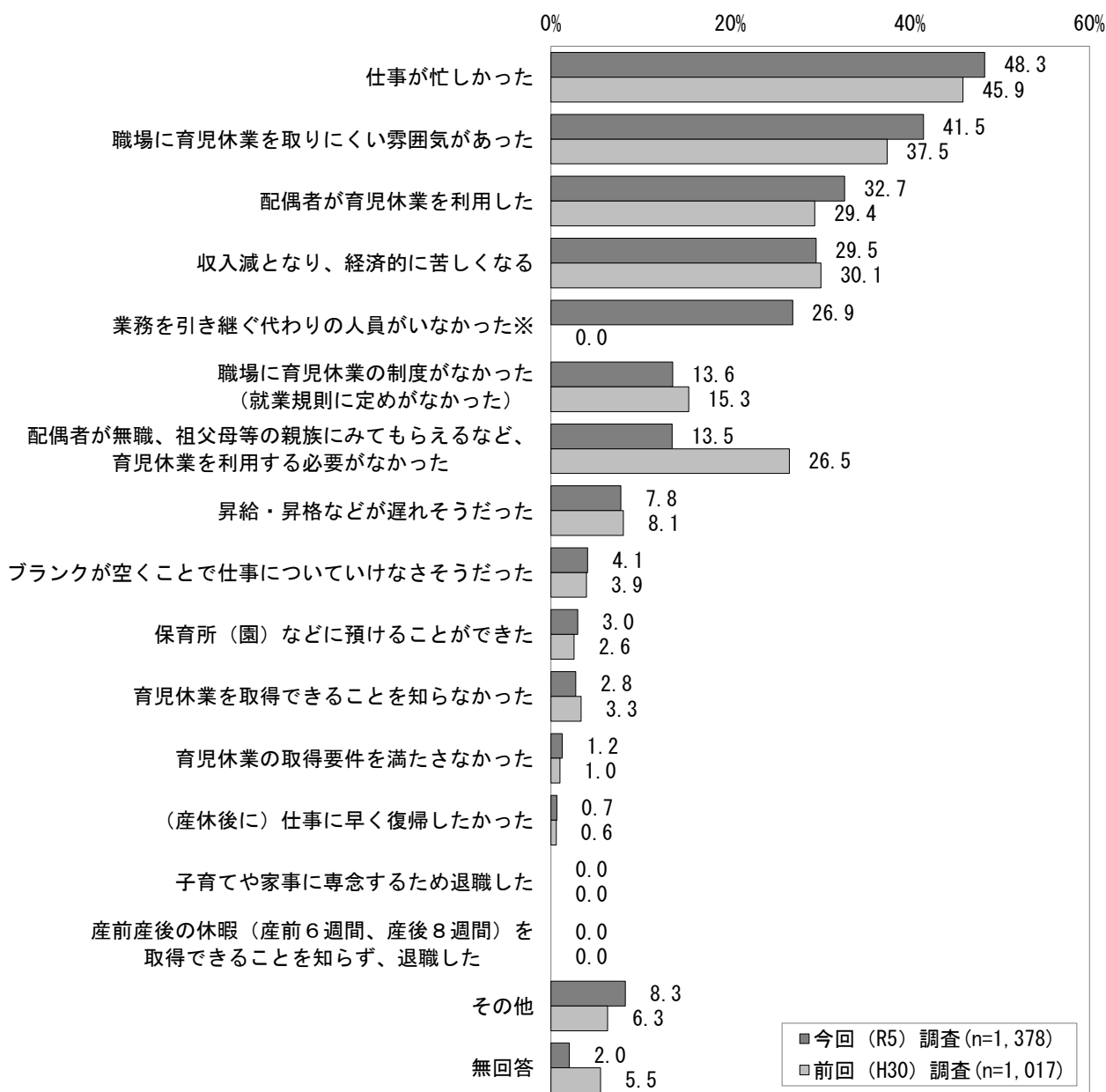


※「業務を引き継ぐ代替りの人員がいなかった」の選択肢は前回調査にはない。

②父親

「仕事が忙しかった」が48.3%と最も高く、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が41.5%、「配偶者が育児休業を利用した」が32.7%と続いている。

経年比較では、前回調査よりも「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、育児休業を利用する必要がなかった」の割合が減少している。



※「業務を引き継ぐ代替りの人員がいなかった」の選択肢は前回調査にはない。

(3)育児休業後の職場復帰

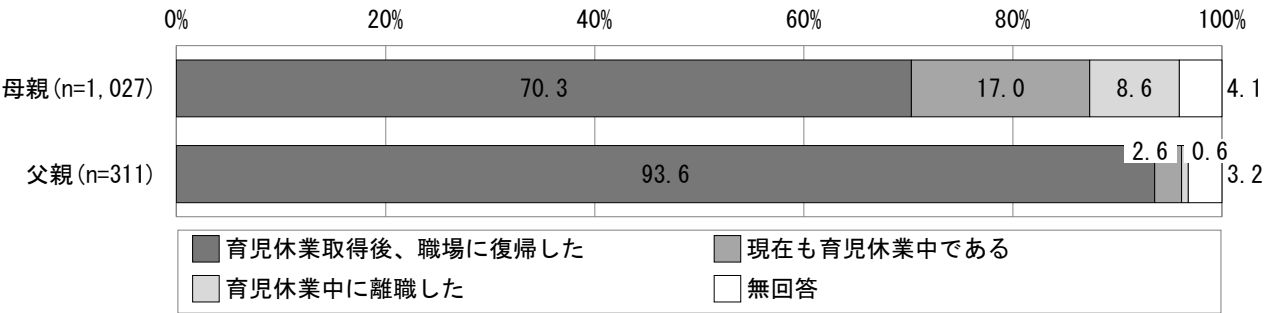
就学前児童保護者 問 13-1

【「育児休業取得実績」で「取得した(取得中である)」を選択した方のみ】

育児休業取得後、職場に復帰しましたか。(単数回答)

母親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 70.3%と最も高く、「現在も育児休業中である」が 17.0%、「育児休業中に離職した」が 8.6%と続いている。

父親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 93.6%と最も高く、「現在も育児休業中である」が 2.6%、「育児休業中に離職した」が 0.6%と続いている。



(4)職場復帰の変化

就学前児童保護者 問 13-2

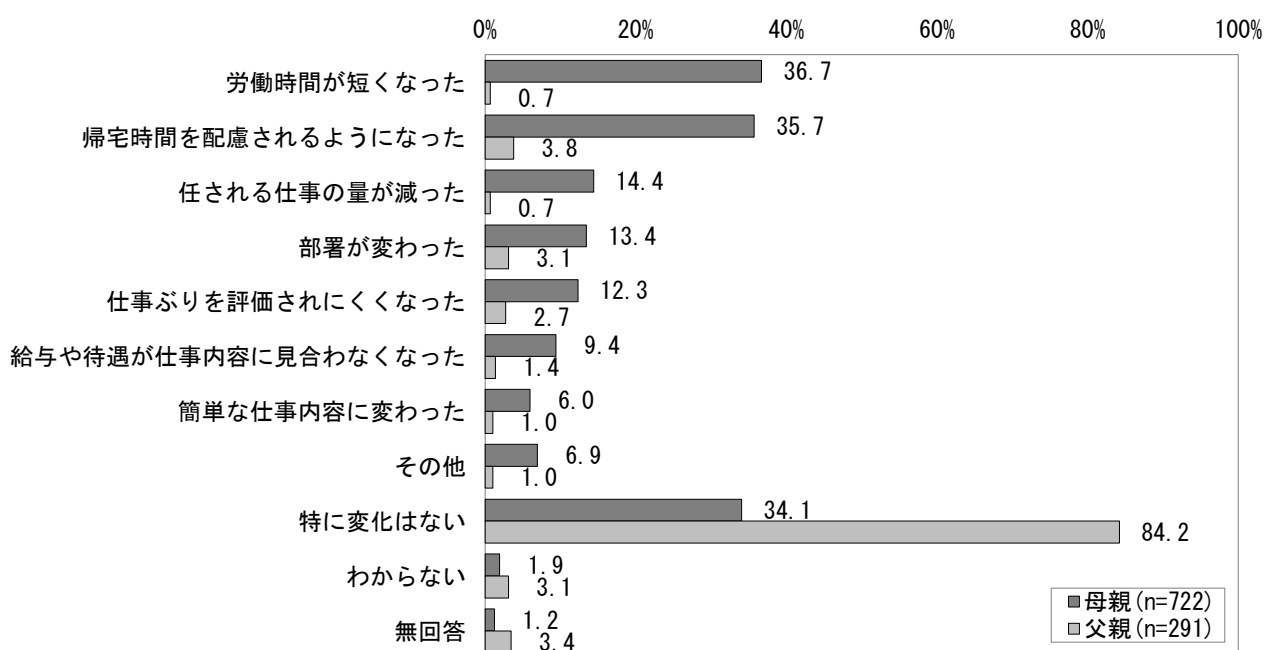
【「育児休業後の職場復帰」で「育児休業取得後、職場に復帰した」を選択した方のみ】

育児休業取得を理由として仕事内容や配置、勤務時間など働き方が変わったことはありますか。

(複数回答)

母親では、「労働時間が短くなった」が 36.7%と最も高く、「帰宅時間を配慮されるようになった」が 35.7%、「特に変化はない」が 34.1%と続いている。

父親では、「特に変化がない」が 84.2%と最も高く、「帰宅時間を配慮されるようになった」が 3.8%、「部署が変わった」が 3.1%と続いている。



第5節 教育・保育施設利用

■結果の概要

【利用状況】

- ・0歳児においては「認可保育所(園)」を利用している割合が約2割、1～2歳児においては「認可保育所(園)」を利用している割合が約3割となっており、「小規模保育施設」の利用は、「認可保育所(園)」の約半数ほどとなっている。3歳児以上になると、「認可保育所(園)」を利用している割合が約3割、「幼稚園」を利用している割合(預かり保育の利用なし・ありの合計)が約5割となっている。
- ・現在利用している施設を選択した理由としては、「自宅の近くにあって便利だから」の割合が高く、施設の立地が選択理由としては重要であると考えられる。また、幼稚園においては、他の施設よりも「教育・保育の内容が充実しているから」の割合が高くなっている。

【満足度】

- ・10項目の評価項目において、全体的に「認定こども園」と「事業所の保育施設」において「大変満足」の割合が高くなっている。評価項目「利用料」については、「事業所の保育施設」や発達支援施設を除き、いずれの施設も他項目より満足度は低いものとなっている。

【利用していない理由】

- ・教育・保育施設を利用していない人(無園児)のうち「宛名のお子さんがまだ小さいため成長したら利用しようと考えている」が約半数となっており、いずれ利用する意向があると考えられる。0歳児において、特に「宛名のお子さんがまだ小さいため成長したら利用しようと考えている」の割合が高くなっている。

【利用希望】

- ・0～1歳児は「認可保育所(園)」の割合が最も高く、2～5歳児は「幼稚園」(預かり保育の利用なし・ありの合計)が高くなっている。教育・保育施設を利用していない人(無園児)のうち、「幼稚園」(預かり保育の利用なし・ありの合計)希望が約4割、「認可保育所(園)」希望が約2割となっている。
- ・利用希望の理由としては、「自宅の近くにあって便利だから」よりも「教育・保育の内容が充実しているから」を重視する傾向がみられる。現在利用している施設の選択理由としては、立地を重視する傾向がみられたが、利用希望においては教育・保育の内容を重視する傾向がみられる。

(1)教育・保育施設の利用状況

就学前児童保護者 問 14

宛名のお子さんは、平日どのような施設(事業)を利用していますか。年間を通じて主に(定期的に)利用している施設(事業)をお答えください。(単数回答)

「認可保育所(園)」が 30.5%と最も高く、「幼稚園(預かり保育の利用なし)」が 15.2%、「幼稚園(預かり保育の利用あり)」が 12.2%と続いている。

子どもの年齢別にみると、0歳児においては「認可保育所(園)」を利用している割合が約2割、1～2歳児においては「認可保育所(園)」を利用している割合が約3割となっており、「小規模保育施設」の利用は、「認可保育所(園)」の約半数ほどとなっている。

3歳児以上になると、「認可保育所(園)」を利用している割合が約3割、「幼稚園」を利用している割合(預かり保育の利用なし・ありの合計)が約5割となっている。

(%)	認可保育所(園)	幼稚園(預かり保育の利用なし)	幼稚園(預かり保育の利用あり)	小規模保育施設(0～2歳児を預かる定員概ね6～19人の認可保育施設)	認定こども園(幼稚園と保育所(園)の機能をあわせ持つ施設)	認可外保育施設(一時預かり)	認可外の保育施設	勤め先の事業所に併設されている保育施設	その他の児童発達支援施設	健康福祉会館(ふれあい22)のこども発達センター(通園)	その他	利用していない	無回答
就学前児童保護者 (n=1,815)	30.5	15.2	12.2	6.3	5.8	3.5	1.3	0.9	0.9	0.3	1.3	19.2	2.6
【子どもの年齢別】													
0歳 (n=289)	18.0	0.0	0.0	9.0	3.1	0.7	1.0	0.7	0.7	0.3	3.5	61.9	1.0
1歳 (n=267)	32.6	0.0	0.0	15.7	4.1	4.1	1.5	3.4	0.4	0.7	0.4	34.5	2.6
2歳 (n=276)	29.7	0.0	0.7	16.7	5.4	3.6	3.3	0.7	2.5	0.4	3.6	24.3	9.1
3歳 (n=330)	31.2	27.6	22.7	0.0	7.9	6.1	0.6	0.3	0.6	0.6	0.0	1.5	0.9
4歳 (n=288)	36.1	28.1	22.9	0.0	7.3	3.1	0.3	0.3	0.7	0.0	0.3	0.0	0.7
5歳 (n=328)	34.5	30.5	22.6	0.0	5.8	3.0	0.9	0.3	0.6	0.0	0.6	0.6	0.6

(2)教育・保育施設の選択理由

就学前児童保護者 問14-1

【「教育・保育施設の利用状況」で「利用していない」以外を選択した方のみ】

利用中の施設(事業)を選んだ理由をお答えください。(複数回答)

「自宅の近くにあつて便利だから」が 51.9%と最も高く、「教育・保育の内容が充実しているから」が 37.3%、「施設等の雰囲気が好きだから」が 30.7%と続いている。

施設別にみると、「自宅の近くにあつて便利だから」の割合が高い施設が多く、施設の立地が選択理由としては重要であると考えられる。また、幼稚園においては、他の施設よりも「教育・保育の内容が充実しているから」の割合が高くなっている。

	自宅の 近くに あつて 便利だ から	教育・ 保育の 内容が 充実し ている から	施設等 の雰囲 気好き だから	利用時 間や利 用条件 が家庭 の事情 に合う から	行事や お弁当 など、 保護者 の負担 が軽い から	兄弟・ 姉妹が 通う施 設や学 校に近 いから	多くの 友人の 子ども が通っ ている から	利用し たい施 設に入 れなさ そうだ から	会社 の近く にあつ て便利 だから	金銭以 外の事 情で、 利用が 難しい 施設の から	大人 数で保 育を受 けるこ とに抵 抗がな いから	利用 したい 施設の 利用料 の負担 が軽い から	その他	無回 答
(%)														
就学前児童保護者 (n=1,420)	51.9	37.3	30.7	27.3	15.3	11.3	8.3	5.4	4.9	1.6	1.5	0.9	8.8	10.1
【施設別】														
幼稚園(預かり保育無) (n=276)	53.3	54.7	45.7	9.4	17.4	14.1	15.6	2.2	1.1	1.8	2.5	1.1	8.0	0.0
幼稚園(預かり保育有) (n=222)	41.4	52.7	32.0	32.0	10.8	14.4	13.5	4.5	3.2	1.4	2.3	0.5	6.3	12.2
認可保育所(園) (n=553)	59.9	29.7	25.0	33.8	17.4	11.8	5.4	4.0	4.2	0.7	0.0	0.4	8.0	12.5
認定こども園 (n=105)	55.2	44.8	46.7	34.3	20.0	7.6	8.6	3.8	7.6	1.9	1.0	2.9	3.8	14.3
一時預かり (n=63)	54.0	28.6	25.4	38.1	12.7	9.5	3.2	4.8	6.3	0.0	0.0	1.6	12.7	4.8
小規模保育施設 (n=115)	51.3	9.6	22.6	17.4	14.8	7.0	0.0	20.0	10.4	4.3	4.3	0.0	15.7	11.3
事業所の保育施設 (n=17)	11.8	11.8	5.9	35.3	5.9	0.0	5.9	5.9	52.9	0.0	5.9	11.8	11.8	11.8
認可外保育施設 (n=23)	13.0	34.8	17.4	47.8	8.7	0.0	4.3	21.7	13.0	13.0	4.3	4.3	8.7	8.7
こども発達センター (n=6)	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7
その他発達支援施設 (n=16)	31.3	37.5	18.8	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	6.3	12.5	0.0	25.0	6.3
その他 (n=24)	20.8	16.7	8.3	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.8	41.7

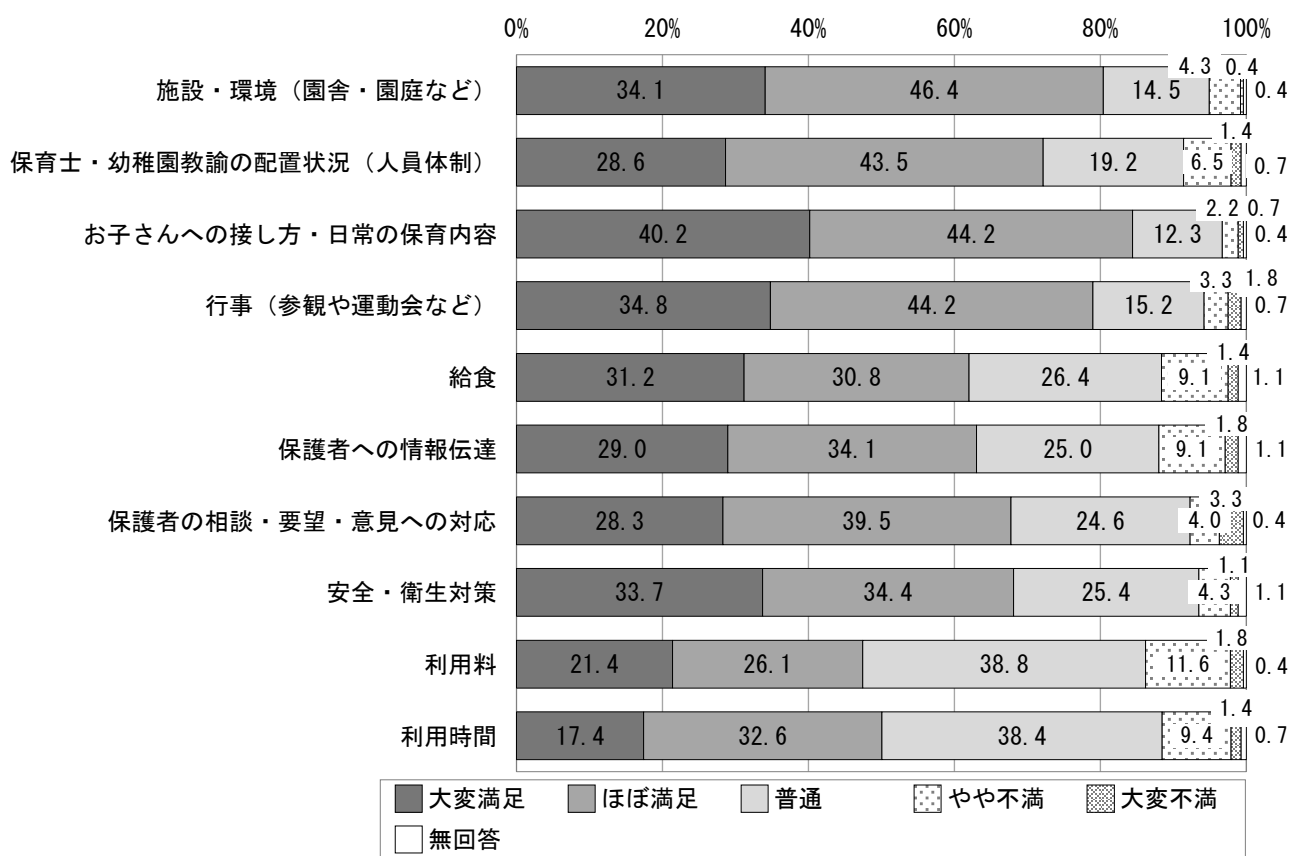
(3)教育・保育施設利用者の満足度

就学前児童保護者 問 14-2

利用中の施設(事業)について、次のそれぞれの項目の満足度をお答えください。(単数回答)

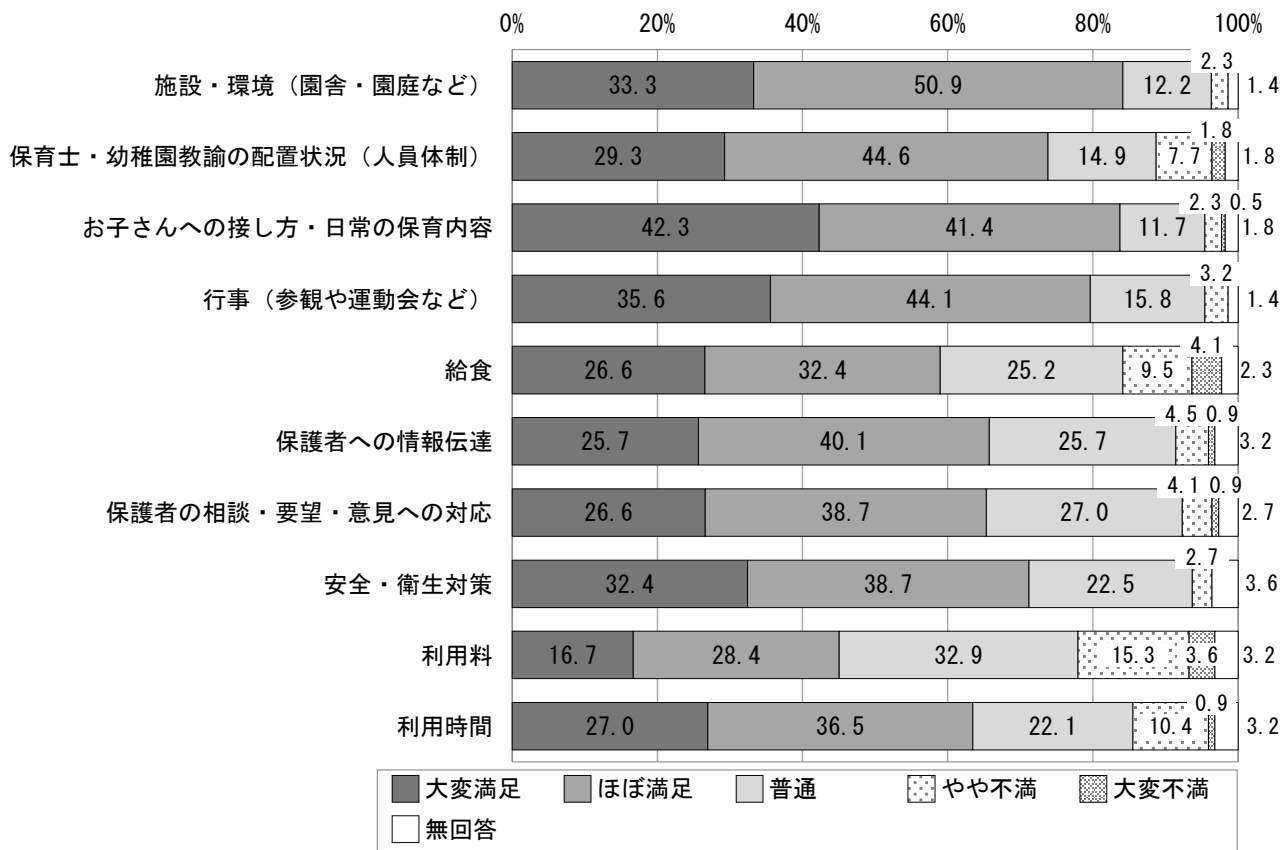
①幼稚園(預かり保育利用なし)

「お子さんへの接し方・日常の保育内容」の評価(「大変満足」と「ほぼ満足」の合計)が最も高く、「施設・環境(園舎・園庭など)」、「行事(参観や運動会など)」と続いている。



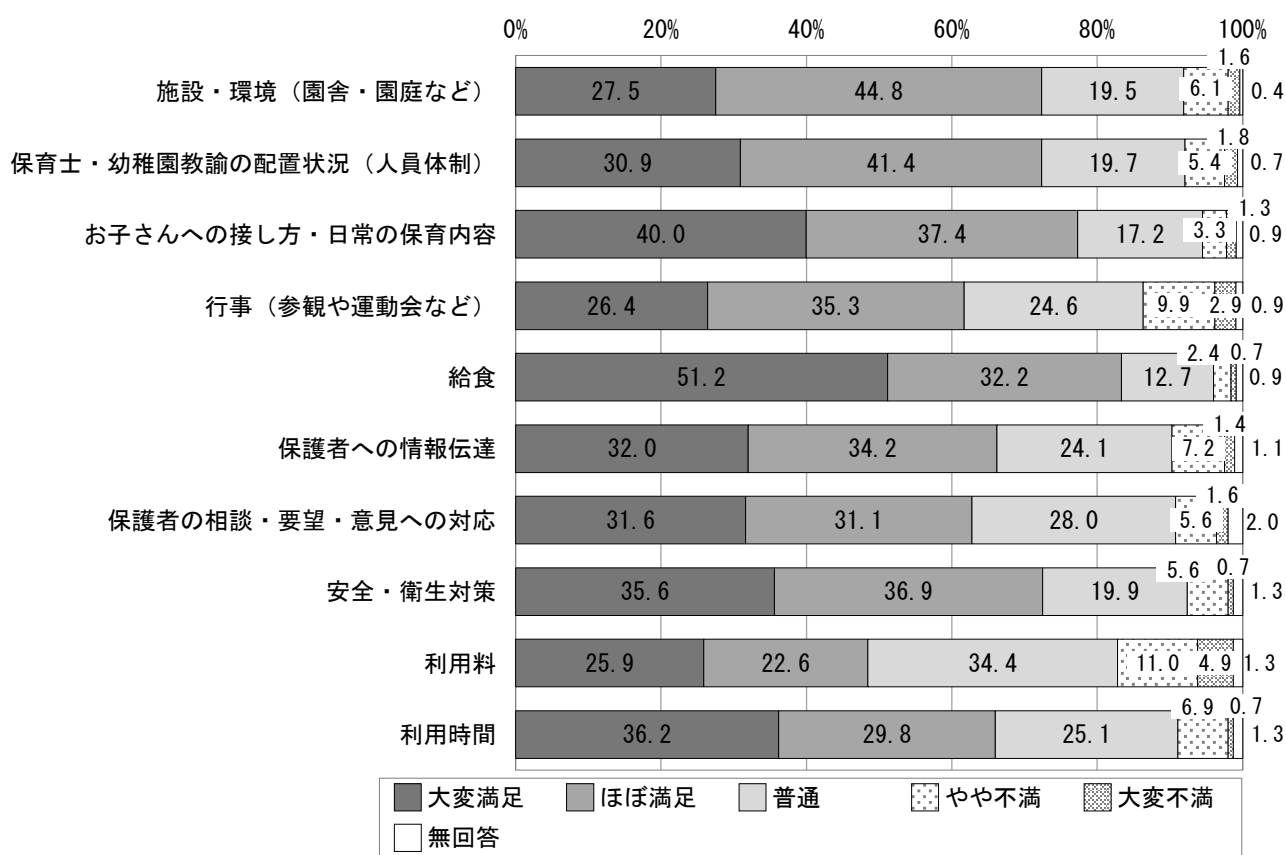
②幼稚園(預かり保育利用あり)

「施設・環境(園舎・園庭など)」の評価が最も高く、「お子さんへの接し方・日常の保育内容」、「行事(参観や運動会など)」と続いている。



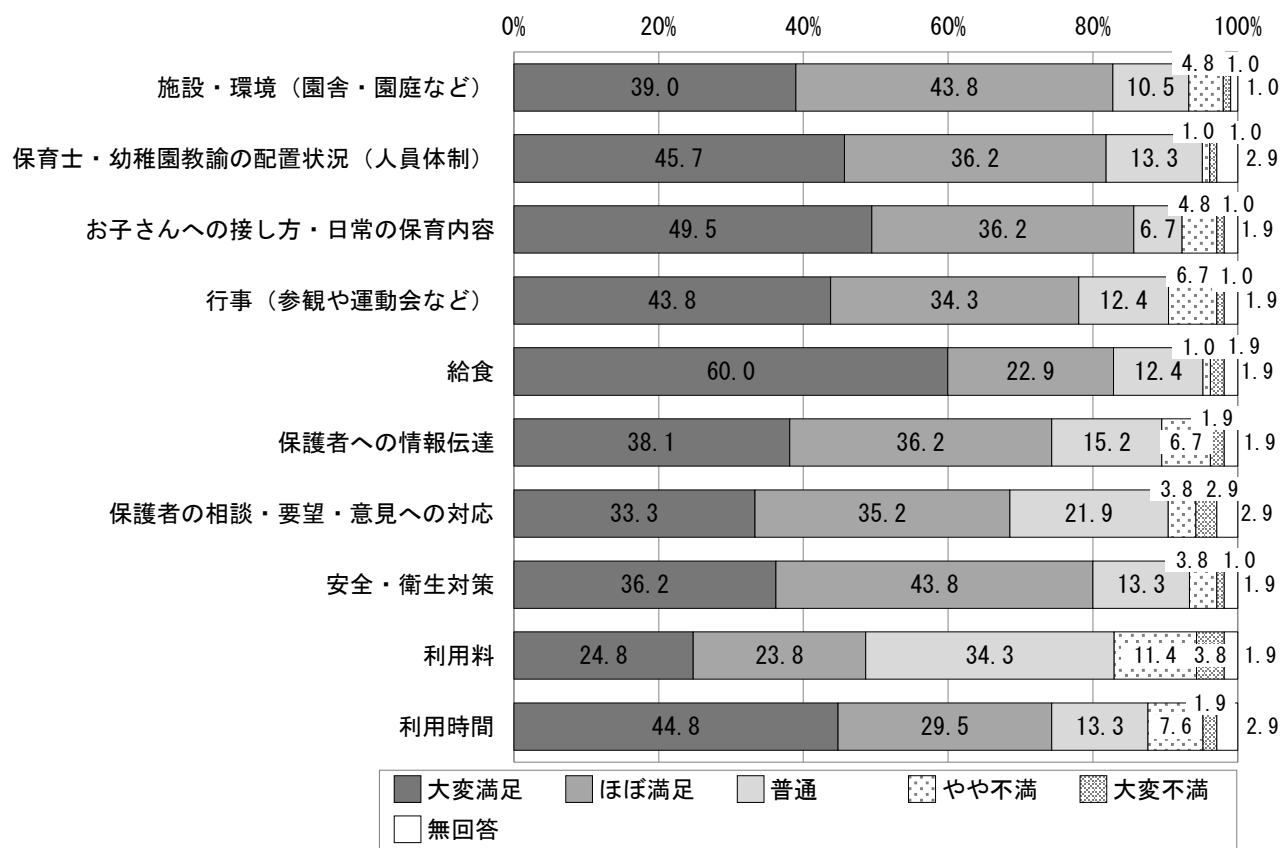
③認可保育所(園)

「給食」の評価が最も高く、「お子さんへの接し方・日常の保育内容」、「安全・衛生対策」と続いている。



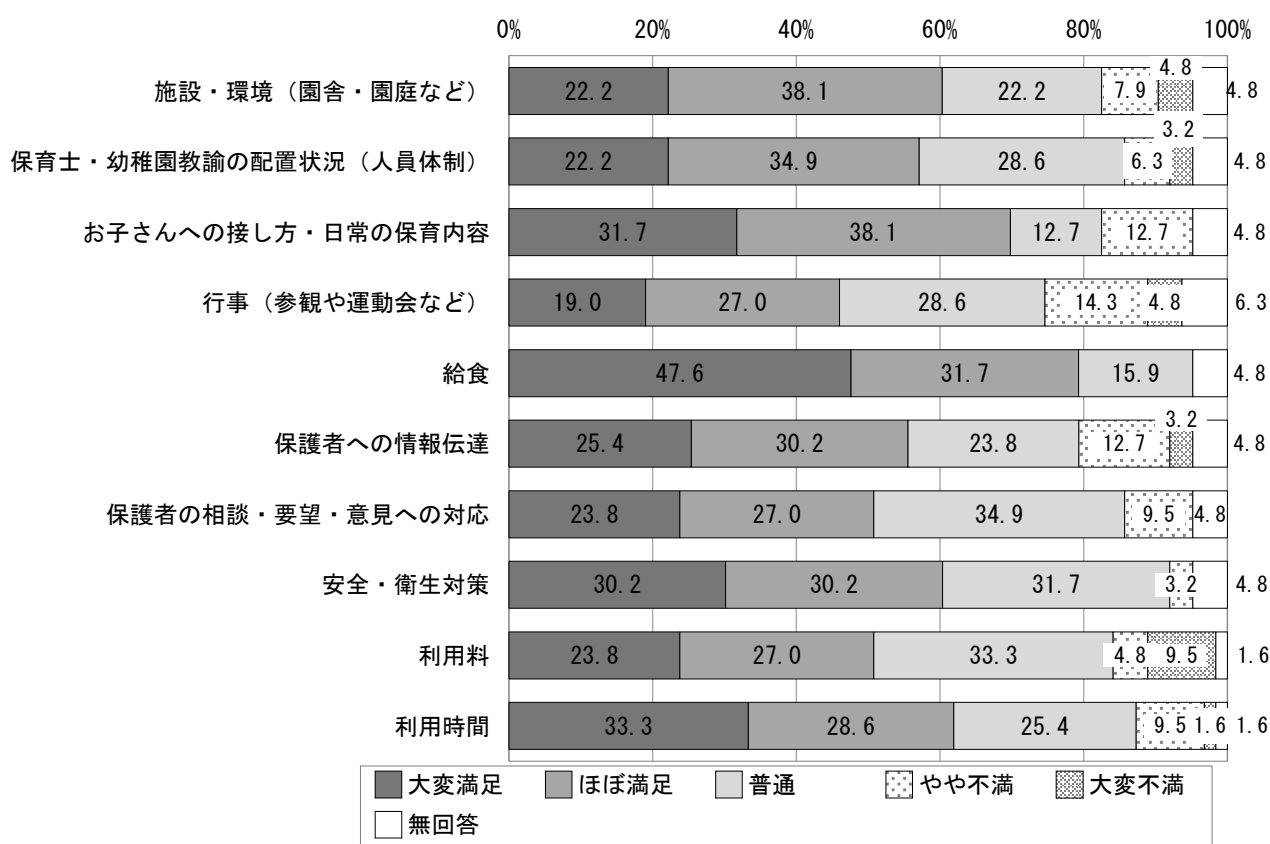
④認定こども園

「お子さんへの接し方・日常の保育内容」の評価が最も高く、「給食」、「施設・環境（園舎・園庭など）」と続いている。



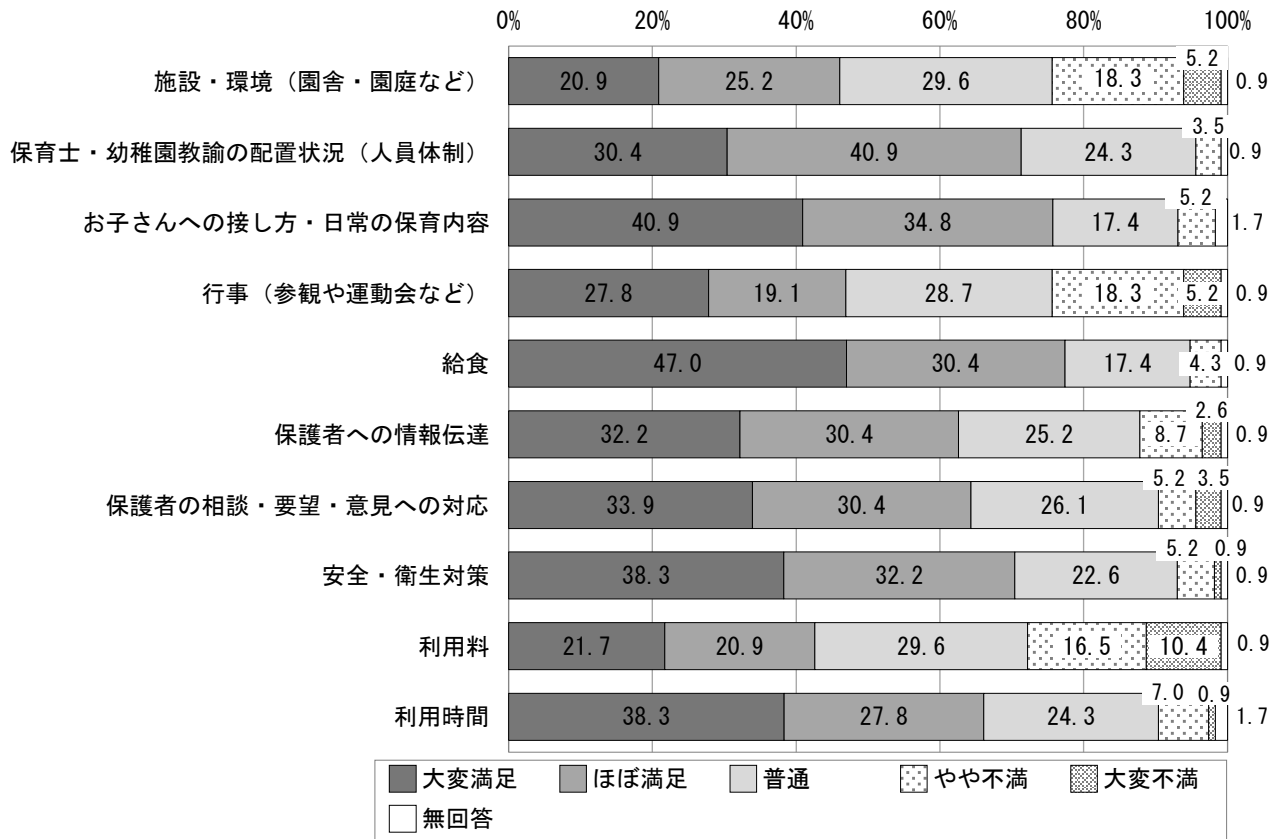
⑤一時預かり

「給食」の評価が最も高く、「お子さんへの接し方・日常の保育内容」、「利用時間」と続いている。



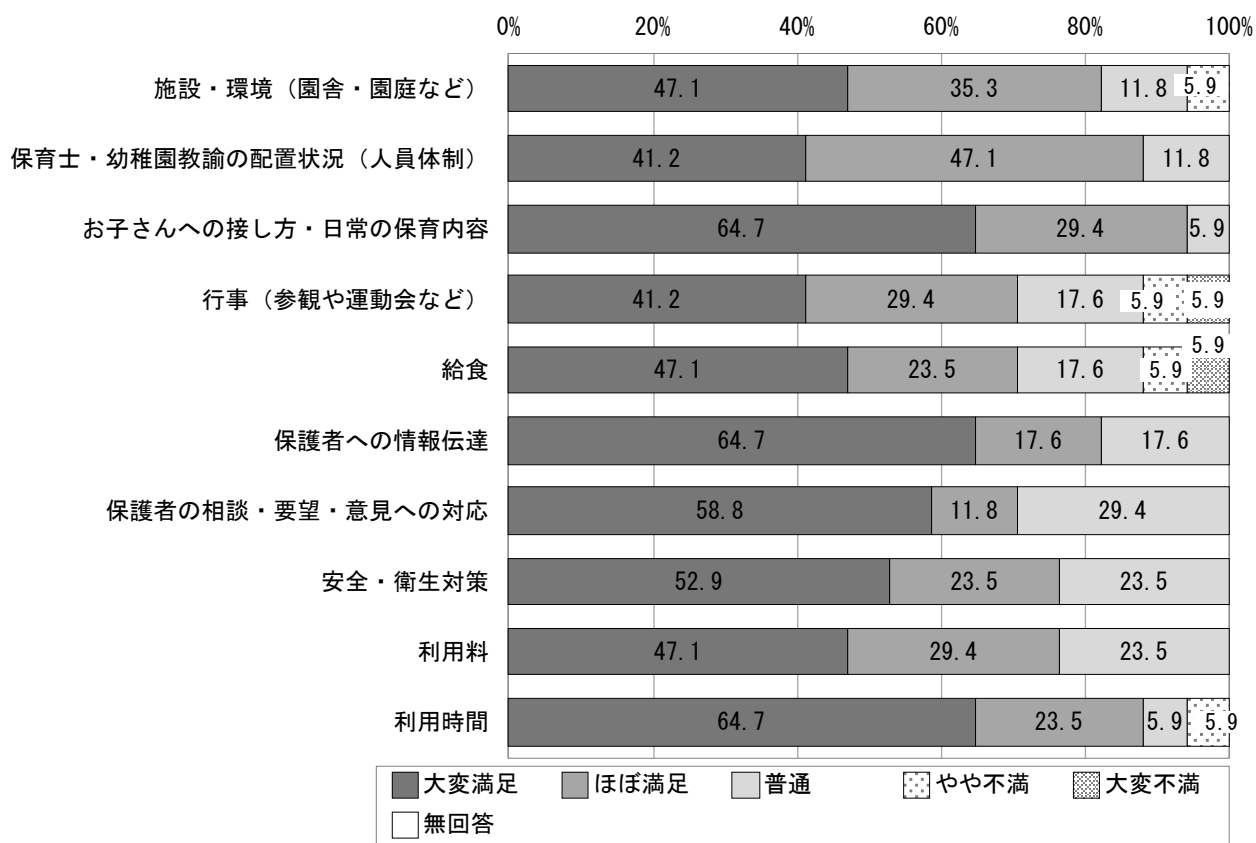
⑥小規模保育施設

「給食」の評価が最も高く、「お子さんへの接し方・日常の保育内容」、「保育士・幼稚園教諭の配置状況（人員体制）」と続いている。



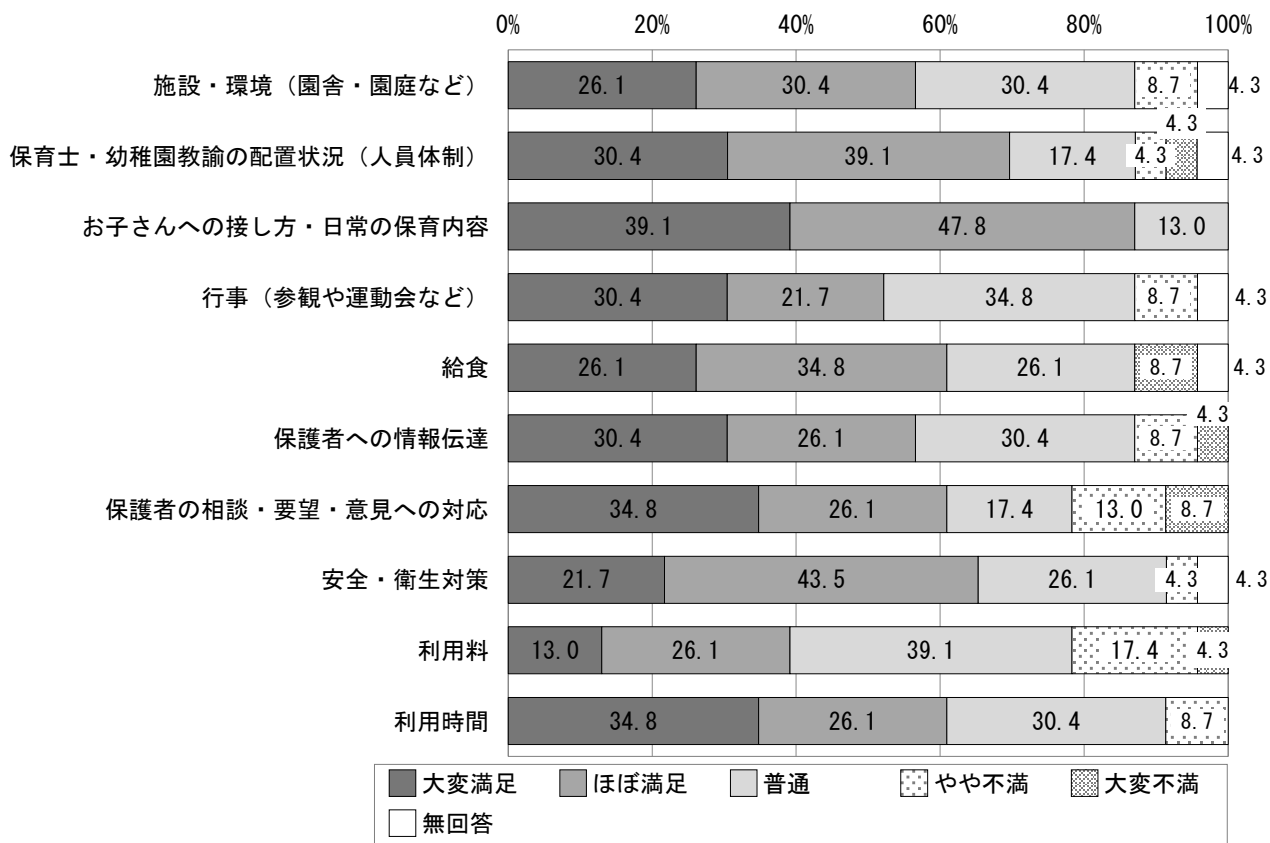
⑦事業所の保育施設

「お子さんへの接し方・日常の保育内容」の評価が最も高く、「保育士・幼稚園教諭の配置状況(人員体制)」、「利用時間」と続いている。



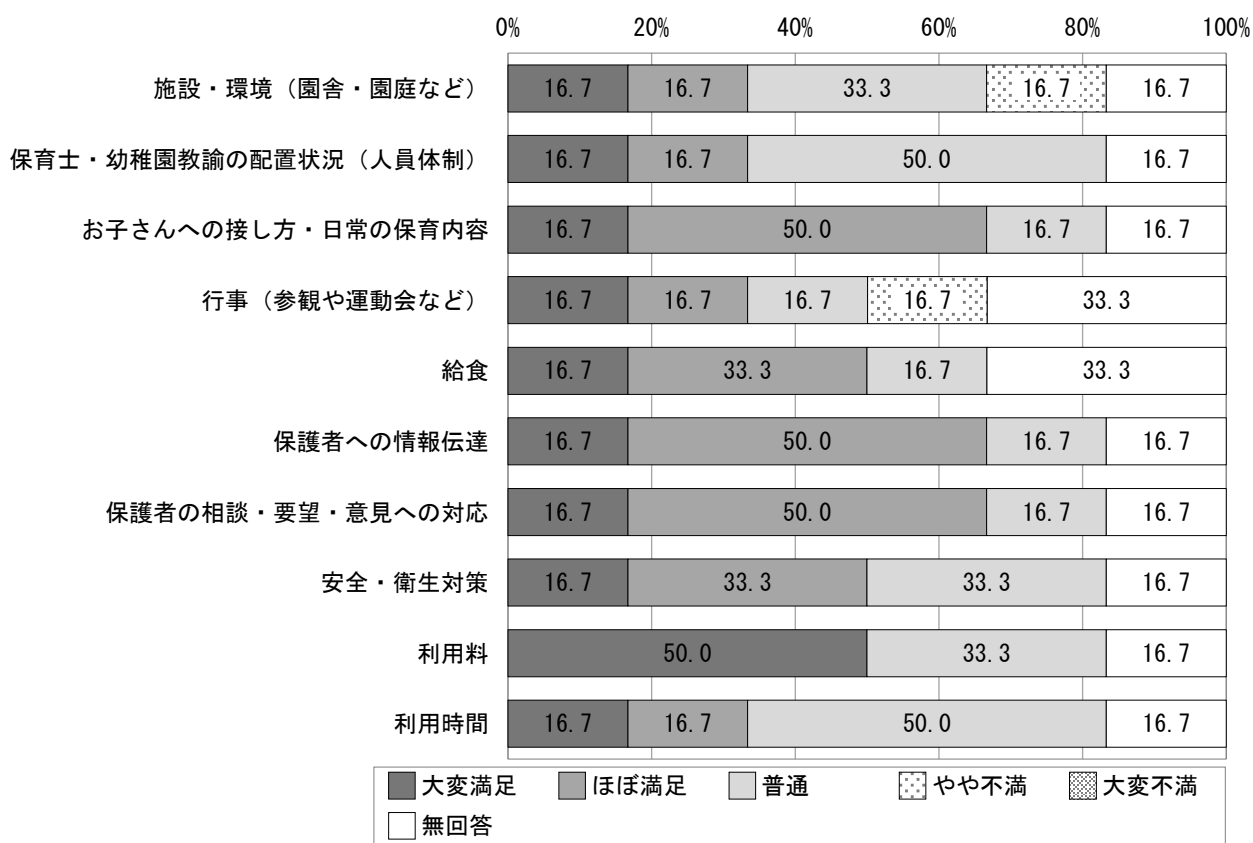
⑧認可外保育施設

「お子さんへの接し方・日常の保育内容」の評価が最も高く、「保育士・幼稚園教諭の配置状況（人員体制）」、「安全・衛生対策」と続いている。



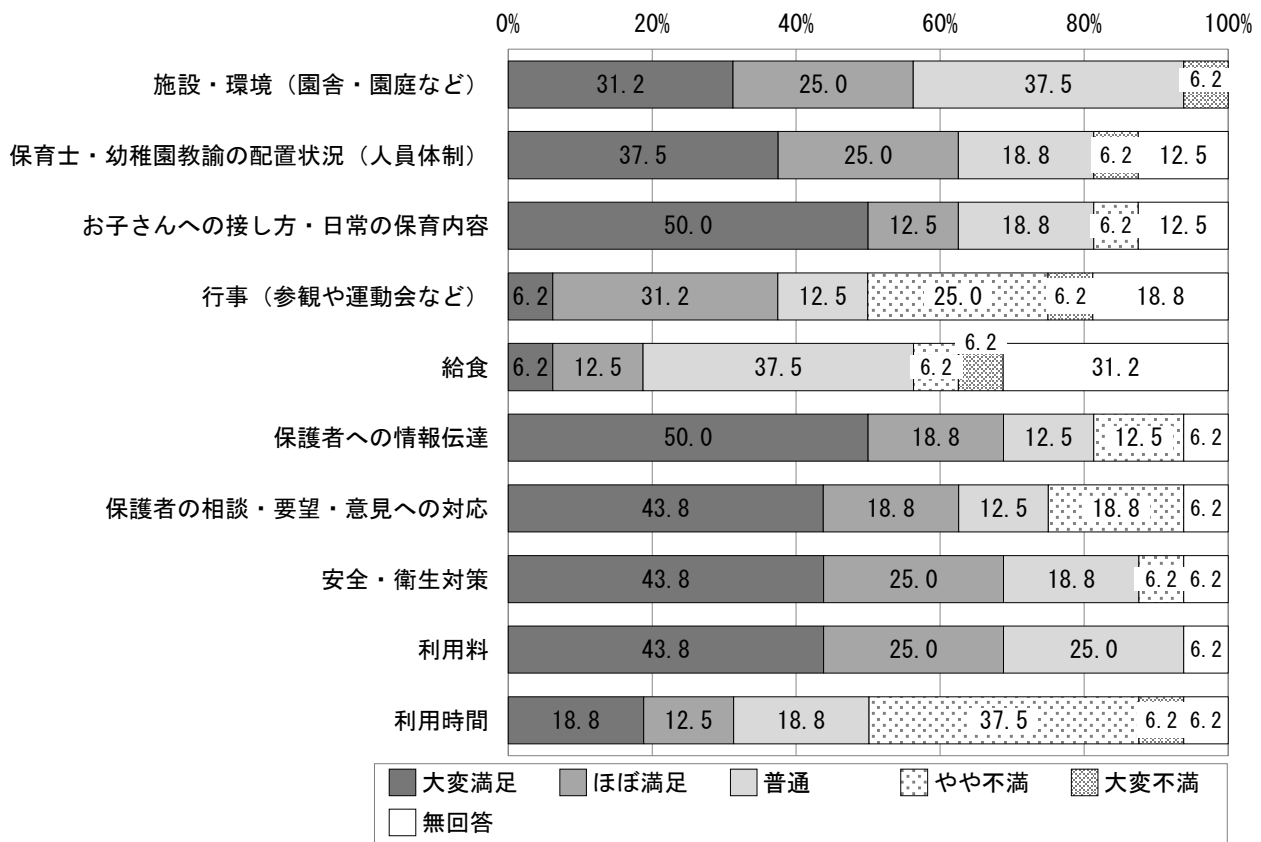
⑨こども発達センター

「お子さんへの接し方・日常の保育内容」、「保護者への情報伝達」、「保護者の相談・要望・意見への対応」の評価が高くなっている。



⑩その他発達支援施設

「保護者への情報伝達」、「安全・衛生対策」、「利用料」の評価が高くなっている。



(4)教育・保育施設を利用していない理由

就学前児童保護者 問 14-3

【「教育・保育施設の利用状況」で「利用していない」を選択した方のみ】

利用していない理由は何ですか。(複数回答)

「宛名のお子さんがまだ小さいため成長したら利用しようと考えている」が 49.1%と最も高く、「できるだけ保護者自身で子育てをしたい」が 40.2%、「利用したいが、保育・教育の施設(事業)に空きがない」が 9.8%と続いている。

子どもの年齢別にみると、0歳児において「宛名のお子さんがまだ小さいため成長したら利用しようと考えている」の割合が高く、1・2歳児において「できるだけ保護者自身で子育てをしたい」が高くなっている。

	成長した 宛名のお子 さん利用し ようがまだ 小さいため	できるだけ 保護者自身 で子育てを したい	利用したい が、施設 (事業)に 保育・教 育の	利用したい が、経済 的な理由 で事業を 利用でき ない	利用したい が、施設 (事業)の 質や場 所など、 施設(事 業)がで きない	宛名のお 子さんの 祖父母 や親戚 の人が みている	利用したい が、延長 ・夜間等 の条件が 合わない	近所の 人や父 母の友 人・知 人がみ ている	その他	無回答
(%)										
就学前児童保護者 (n=348)	49.1	40.2	9.8	6.6	4.0	2.9	0.9	0.0	15.8	1.7
【子どもの年齢別】										
0歳 (n=179)	56.4	36.9	10.6	5.6	5.6	2.8	0.0	1.1	12.8	1.1
1歳 (n=92)	47.8	48.9	7.6	7.6	3.3	3.3	0.0	0.0	12.0	2.2
2歳 (n=67)	34.3	37.3	10.4	7.5	1.5	1.5	0.0	0.0	25.4	3.0
3歳 (n=5)	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	80.0	0.0
4歳 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5歳 (n=2)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(5)教育・保育施設の利用希望

就学前児童保護者 問15

宛名のお子さんの平日の教育・保育の施設(事業)として、主に(定期的に)利用したいと考える施設(事業)をお答えください。(単数回答)

「認可保育所(園)」が35.8%と最も高く、「幼稚園(預かり保育の利用あり)」が25.3%、「幼稚園(預かり保育の利用なし)」が15.0%と続いている。

子どもの年齢別にみると、0～1歳児は「認可保育所(園)」の割合が最も高く、2～5歳児は「幼稚園(預かり保育の利用なし・ありの合計)」が高くなっている。

教育・保育施設を利用していない人(無園児)のうち、「幼稚園(預かり保育の利用なし・ありの合計)」希望が43.1%、「認可保育所(園)」希望が23.6%となっている。

(%)	認可保育所（園）	幼稚園（預かり保育の利用あり）	幼稚園（預かり保育の利用なし）	認定こども園（幼稚園と保育所（園）の機能をあわせ持つ施設）	小規模保育施設（0～2歳児を預かる定員概ね6～19人の認可保育施設）	認可外の保育施設	勤め先の事業所に併設されている保育施設	その他の児童発達支援施設	健康福祉会館（ふれあい22）のこども発達センター（通園）	その他	特になし	無回答	
就学前児童保護者 (n=1, 815)	35.8	25.3	15.0	8.8	3.2	2.4	0.8	0.7	0.3	0.3	0.4	5.2	1.8
【子どもの年齢別】													
0歳 (n=289)	45.0	12.8	4.5	12.5	5.2	8.7	1.0	1.0	0.0	0.0	0.3	8.0	1.0
1歳 (n=267)	40.8	19.5	11.6	9.4	3.4	4.1	0.7	1.9	0.4	0.0	0.0	5.6	2.6
2歳 (n=276)	35.5	25.0	14.9	8.3	2.9	2.5	1.8	0.0	0.0	0.0	1.1	6.2	1.8
3歳 (n=330)	28.8	29.4	17.9	9.4	3.3	0.0	0.6	1.2	1.2	1.2	0.0	5.5	1.5
4歳 (n=288)	33.3	32.6	21.5	6.3	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	3.5	0.7
5歳 (n=328)	32.9	31.4	20.1	6.7	2.4	0.0	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	3.0	1.8
【施設別】													
無園児 (n=348)	23.6	24.7	18.4	8.3	5.2	5.7	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	12.1	0.6

(6)教育・保育施設の利用希望理由

就学前児童保護者 問 15-1

【「教育・保育施設の利用希望」で「特になし」以外を選択した方のみ】

希望の施設(事業)を選んだ理由をお答えください。(複数回答)

「教育・保育の内容が充実しているから」が 48.6%と最も高く、「自宅の近くにあって便利だから」が 41.5%、「利用時間や利用条件が家庭の事情にあっているから」が 31.3%と続いている。

施設別にみると、「自宅の近くにあって便利だから」よりも「教育・保育の内容が充実しているから」の割合の高い施設が多い。「(2)教育・保育施設の利用理由」においては立地を重視する傾向がみられたが、利用希望においては教育・保育の内容を重視する傾向がみられる。

	教育・保育の内容が充実しているから	自宅の近くにあって便利だから	利用時間や利用条件が家庭の事情にあっているから	施設等の雰囲気が好きだから	行事やお弁当など、保護者の負担が少ないから	多くの友人の子どもが通っているから	兄弟・姉妹が通う施設や学校に近いから	会社の近くにあって便利だから	大人数で保育を受けることに抵抗があるから	その他	無回答
(%)											
就学前児童保護者 (n=1,688)	48.6	41.5	31.3	26.0	16.1	12.3	12.0	4.3	1.6	4.0	9.2
【施設別】											
幼稚園（預かり保育無）(n=257)	55.3	41.2	16.7	36.2	15.2	18.3	10.1	1.9	3.5	3.1	5.1
幼稚園（預かり保育有）(n=215)	57.7	32.6	36.7	30.2	13.5	14.9	11.2	2.3	1.4	3.3	10.7
認可保育所（園）(n=537)	40.2	47.9	37.4	23.6	17.1	8.9	11.0	4.7	0.7	2.0	11.5
認定こども園(n=100)	57.0	45.0	37.0	42.0	24.0	12.0	12.0	10.0	2.0	2.0	10.0
一時預かり(n=54)	48.1	35.2	35.2	14.8	16.7	11.1	7.4	3.7	1.9	5.6	7.4
小規模保育施設(n=113)	55.8	36.3	31.9	19.5	15.9	6.2	10.6	8.0	1.8	8.8	9.7
事業所の保育施設(n=17)	35.3	17.6	29.4	11.8	5.9	5.9	11.8	35.3	0.0	5.9	11.8
認可外保育施設(n=22)	54.5	36.4	18.2	13.6	0.0	4.5	4.5	4.5	0.0	4.5	13.6
こども発達センター(n=5)	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0
その他発達支援施設(n=16)	43.8	56.3	37.5	31.3	18.8	12.5	6.3	0.0	6.3	12.5	6.3
その他(n=23)	60.9	39.1	43.5	47.8	26.1	17.4	13.0	4.3	4.3	13.0	8.7
利用していない(n=304)	45.4	39.5	27.6	16.1	14.8	12.2	17.1	2.6	1.0	5.3	7.2

第6節 地域の子ども子育て支援の利用状況

■結果の概要

【おやこ DE 広場等】

- ・「おやこ DE 広場・子育て支援センター・ほっとる一む」を利用している割合が約3割で、前回調査よりも割合が増加している。年齢別にみると、0・1歳児の約5割が「おやこ DE 広場・子育て支援センター・ほっとる一む」を利用しており、特に低年齢児にとって重要な拠点になっていることがうかがえる。
- ・教育・保育施設を利用していない人（無園児）において、「おやこ DE 広場・子育て支援センター・ほっとる一む」の利用希望が約7割となっており、まだ入園をしていない子どもにとって、重要な事業であると考えられる。

【放課後児童クラブ・放課後 KIDS ルーム】

- ・今回は調査対象が小学5年生であったことから、放課後児童クラブ・放課後 KIDS ルームいずれも、利用している割合は約1割となっている。利用する理由は、保護者の就労が最も大きな理由である他、安全に過ごせることや夏休み等長期休暇中に利用できることも理由となっている。
- ・利用者の満足度は、放課後児童クラブ・放課後 KIDS ルームともに約6割となっている。
- ・放課後児童クラブに今後望むものとしては「長期休業中の昼食の提供」の割合が最も高く、放課後 KIDS ルームに今後望むものとしては「体験活動の充実」と「利用時間の拡大」の割合が最も高くなっている。

【松戸市の子育て支援に関する事業】

- ・就学前児童保護者・小学生保護者ともに「夜間小児急病センター」の認知度が最も高くなっている。経年比較では、就学前児童保護者においては「まつど DE 子育てアプリ（母子モ）」の認知度が特に大きく増加しており、小学生保護者においては「夜間小児急病センター」の認知度が特に大きく増加している。
- ・今後の利用意向においては、就学前児童保護者・小学生保護者ともに「夜間小児急病センター」や「安心安全メール」の割合が高くなっている。

【その他の事業ニーズ】

- ・子どもが病気・ケガの際に、父母が仕事を休んだ割合が前回調査よりも増加している。新型コロナウイルス感染症等が流行している期間においては、子どもに発熱などの症状があった場合に、親族・知人を頼ったりするのが難しく、父母が仕事を調整せざるをえない状況があった可能性が考えられる。
- ・保護者や家族の用事（冠婚葬祭等）、病気等の理由での一時預かり事業等の利用希望は、前回調査よりも増加している。
- ・泊りがけで子どもを家族以外に預ける必要のあったケースは、前回調査よりも減少している。しかしその対応として、親族・知人にみてもらう割合が減少し、仕方なく子どもを同行させる割合が増加している。

1. おやこ DE 広場等(地域子育て支援拠点事業)

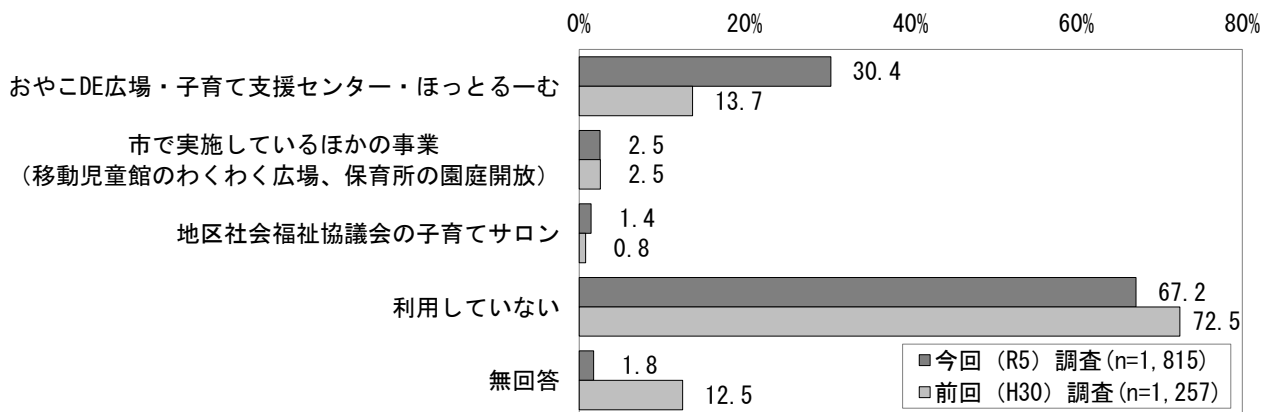
(1)おやこ DE 広場等の利用状況

就学前児童保護者 問 16

宛名のお子さんは、現在、「おやこ DE 広場」、「子育て支援センター」等を利用していますか。次の中から利用しているものをお答えください。(複数回答)

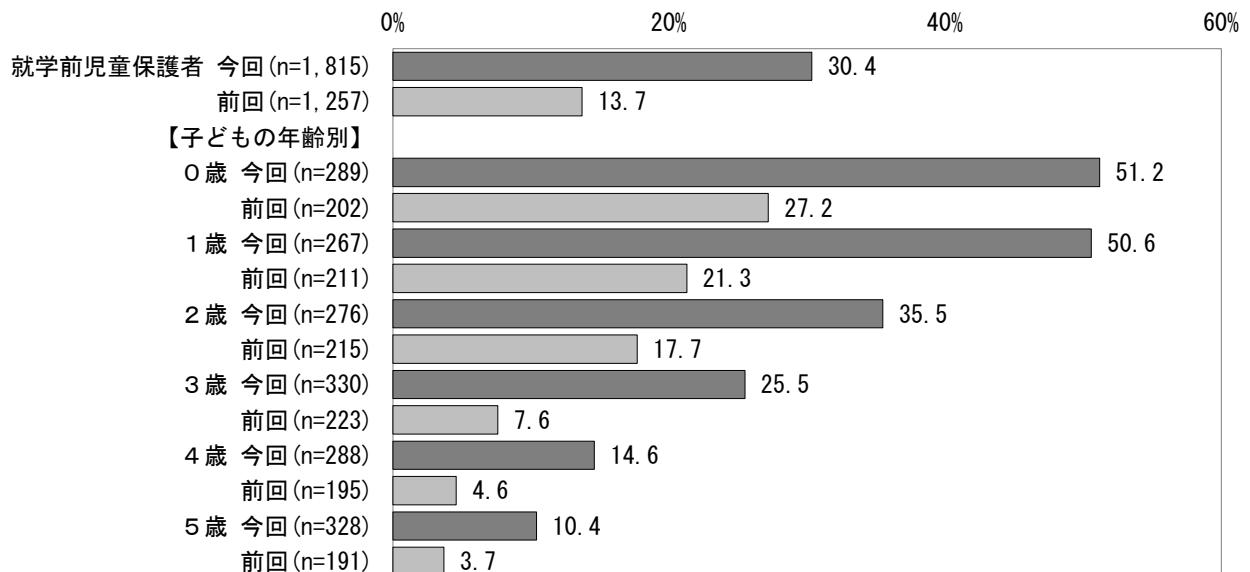
「利用していない」が 67.2%と最も高く、「おやこ DE 広場・子育て支援センター・ほっとる一む」が 30.4%と続いている。

経年比較では、前回調査よりも「おやこ DE 広場・子育て支援センター・ほっとる一む」を利用している割合が増加している。



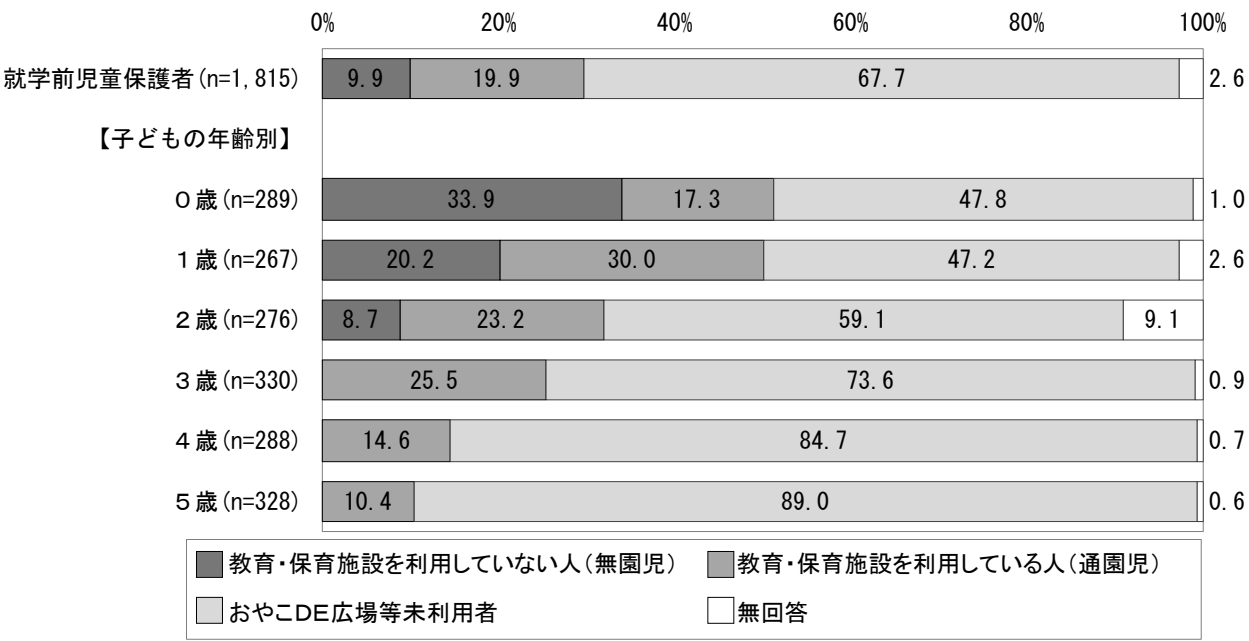
子どもの年齢別に、「おやこ DE 広場・子育て支援センター・ほっとる一む」の利用状況をみると、0・1歳児において特に利用している割合が高くなっている。

経年比較では、いずれの年齢も利用している割合が増加している。



第2章 調査の結果①＜就学前児童保護者・小学生保護者・中学生保護者＞

子どもの年齢別の「おやこ DE 広場・子育て支援センター・ほっとる一む」と利用者における、教育・保育施設の利用状況をみると、0歳児において教育・保育施設を利用していない人（無園児）の割合が最も高くなっている。年齢があがるにつれ、教育・保育施設を利用していない人（無園児）の割合は減少し、3～5歳児においては教育・保育施設を利用している人（通園児）のみとなっている。



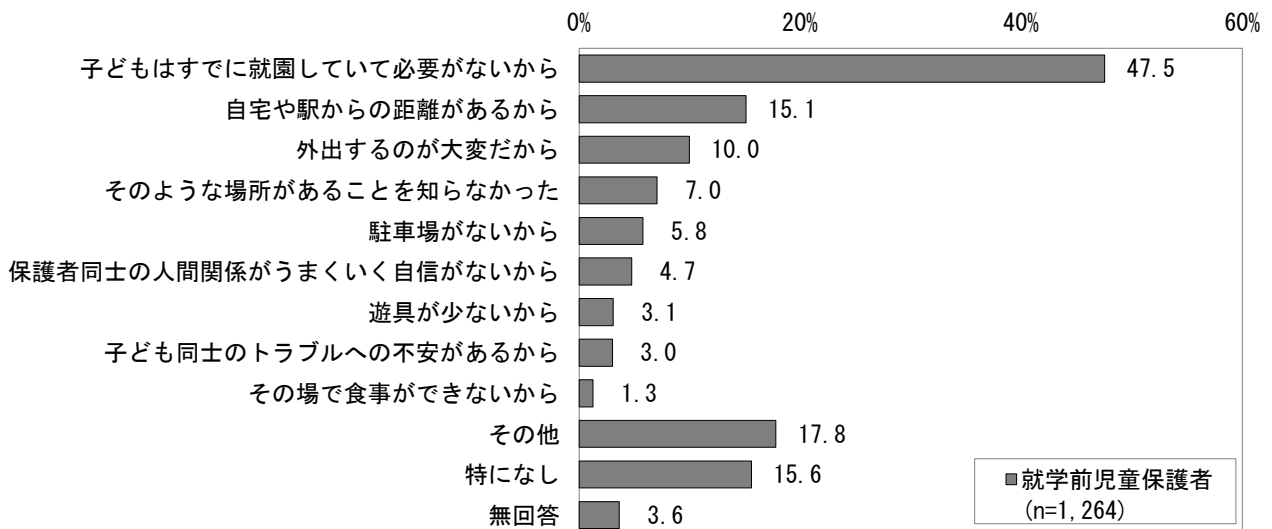
(2) おやこ DE 広場等を利用していない理由

就学前児童保護者 問 16-1

【「おやこ DE 広場等の利用状況」で「おやこ DE 広場・子育て支援センター・ほっとるーむ」を選択しなかった方のみ】

利用していない理由は何ですか。(複数回答)

「子どもはすでに就園していて必要がないから」が 47.5%と最も高く、「自宅や駅からの距離があるから」が 15.1%、「外出するのが大変だから」が 10.0%と続いている。

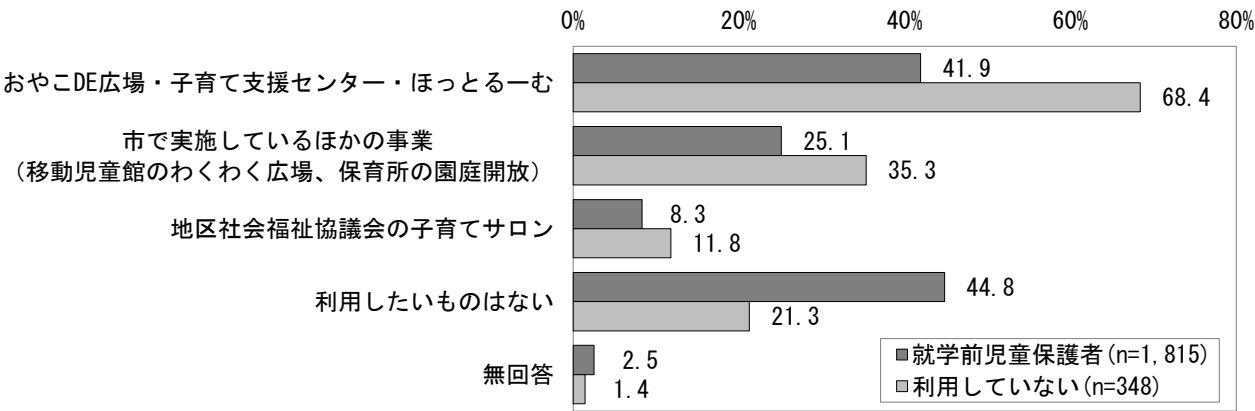


(3)おやこ DE 広場等の利用希望

就学前児童保護者 問 17
おやこ DE 広場等の事業について、今後利用したいものをお答えください。(複数回答)

「利用したいものはない」が44.8%と最も高く、「おやこ DE 広場・子育て支援センター・ほっとる一む」が41.9%、「市で実施しているほかの事業(移動児童館のわくわく広場、保育所の園庭開放)」が25.1%と続いている。

教育・保育施設を利用していない人(無園児)において、「おやこ DE 広場・子育て支援センター・ほっとる一む」が68.4%と高くなっている。



2. 放課後児童クラブ・放課後 KIDS ルーム(放課後児童健全育成事業)

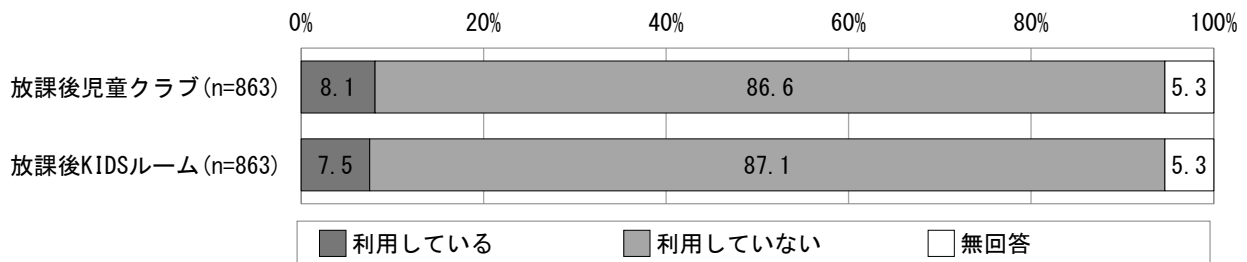
(1)放課後児童クラブ・放課後 KIDS ルームの利用

小学生保護者 問 23・問 24

お子さんは現在、放課後児童クラブを利用されていますか。(単数回答)

お子さんは現在、放課後KIDSルームを利用されていますか。(単数回答)

放課後児童クラブでは、「利用している」が 8.1%、「利用していない」が 86.6%となっている。放課後 KIDS ルームでは、「利用している」が 7.5%、「利用していない」が 87.1%となっている。調査対象が小学 5年生であるため、低学年に比べると利用している割合は低いと考えられる。



(2)放課後児童クラブ・放課後 KIDS ルームを利用する理由

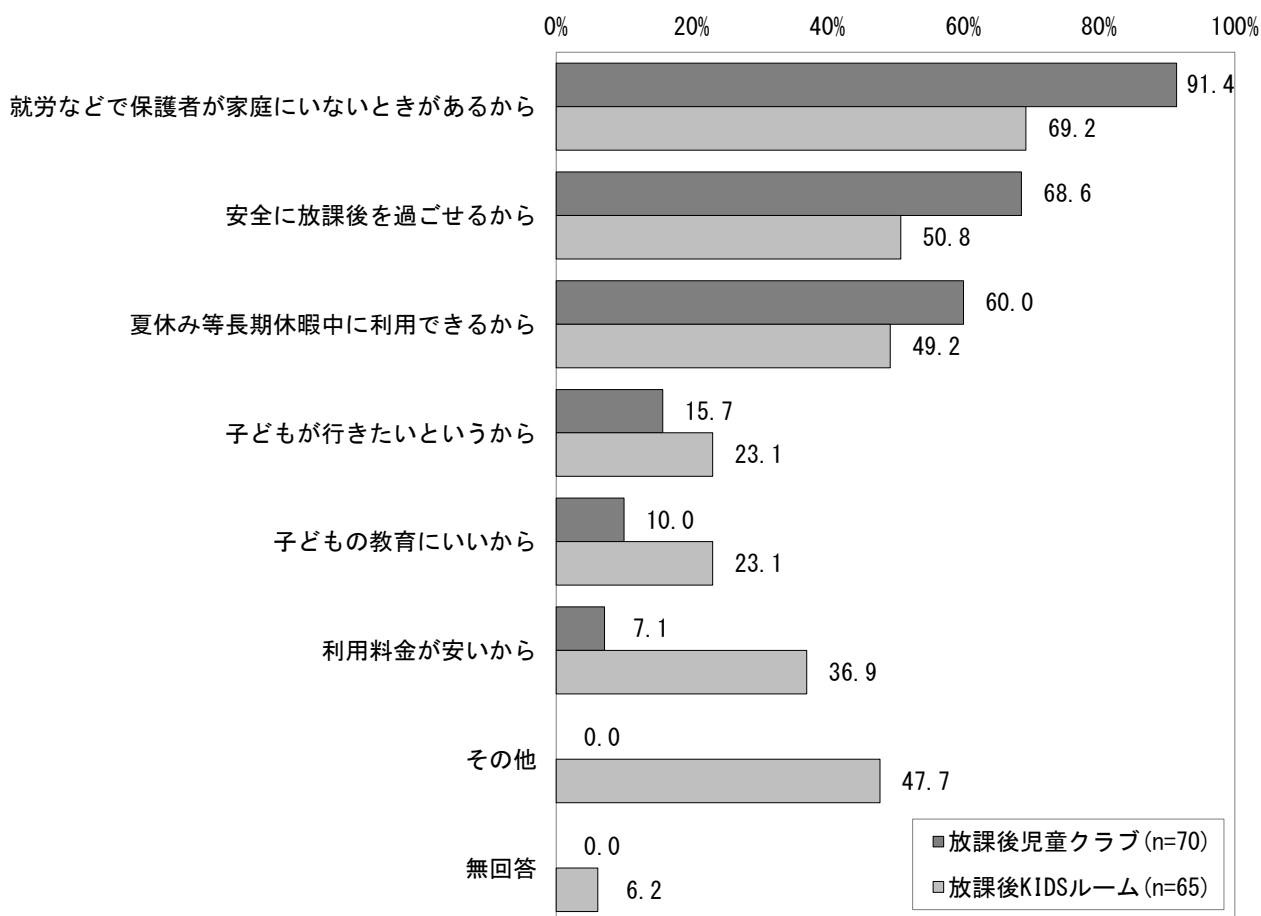
小学生保護者 問 23-1・問 24-1

【「放課後児童クラブ・放課後 KIDS ルームの利用」で「利用している」を選択した方のみ】

放課後児童クラブを利用している理由は何ですか。(複数回答)

放課後KIDSルームを利用している理由は何ですか。(複数回答)

いずれも「就労などで保護者が家庭にいないときがあるから」が最も高く、「安全に放課後を過ごせるから」、「夏休み等長期期間中に利用できるから」と続いている。放課後 KIDS ルームは、放課後児童クラブと比較して「子どもが行きたいというから」と「子どもの教育にいいから」、「利用料金が安いから」が高くなっている。



(3)放課後児童クラブ・放課後 KIDS ルームの満足度

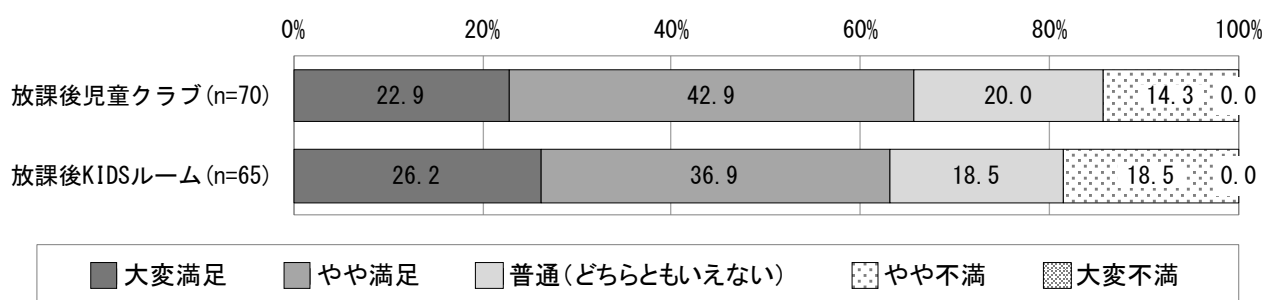
小学生保護者 問 23-2・問 24-2

【「放課後児童クラブ・放課後 KIDS ルームの利用」で「利用している」を選択した方のみ】

放課後児童クラブに満足していますか。(単数回答)

放課後KIDSルームに満足していますか。(単数回答)

満足度(「大変満足」と「やや満足」の合計)はいずれも約6割で、放課後児童クラブと放課後 KIDS ルームの間に大きな違いはみられない。



(4)放課後児童クラブ・放課後 KIDS ルームに望むもの

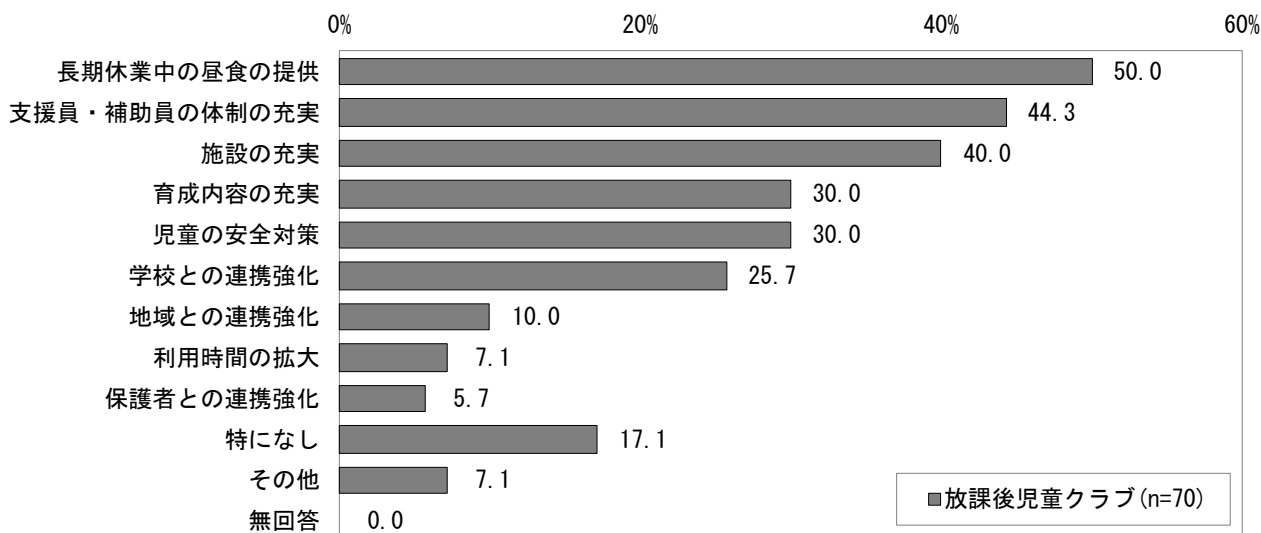
小学生保護者 問 23-3・問 24-3

【「放課後児童クラブ・放課後 KIDS ルームの利用」で「利用している」を選択した方のみ】

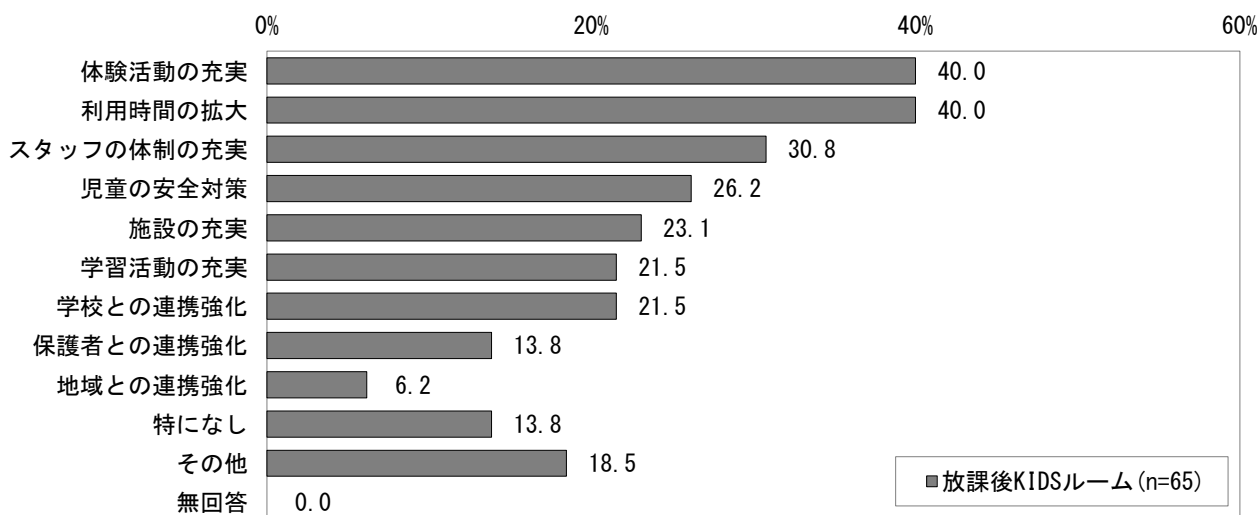
放課後児童クラブに今後望むものは何ですか。(複数回答)

放課後KIDSルームに今後望むものは何ですか。(複数回答)

放課後児童クラブでは、「長期休業中の昼食の提供」が50.0%と最も高くなっている。



放課後 KIDS ルームでは、「体験活動の充実」と「利用時間の拡大」が、それぞれ40.0%と最も高くなっている。



(5)放課後に何も利用していない理由

小学生保護者 問 25

【「放課後児童クラブ・放課後 KIDS ルームの利用」でいずれも「利用していない」を選択した方のみ】
利用していない理由は何ですか。(複数回答)

「子どもの父母がみている」が 46.6%と最も高く、「高学年なので利用しづらい」が 18.4%、「子どもの祖父母や親戚の人がみている」が 12.2%と続いている。

世帯類型別では、専業主婦(夫)世帯で「子どもの父母がみている」が 77.4%と高くなっている。

(%)	子どもの父母がみている	高学年なので利用しづらい	子どもの祖父母や親戚の人がみている	利用したいが、実施内容や場所などではない	利用したいが、時間帯の条件が合わない	利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない	利用したいが、定員に空きがない	近所の人や父母の友人・知人がみている	その他	無回答
小学生保護者 (n=683)	46.6	18.4	12.2	3.2	2.9	2.8	0.7	0.4	32.8	0.0
【世帯類型別】										
ひとり親世帯 (n=97)	35.1	24.7	6.2	7.2	3.1	4.1	0.0	1.0	41.2	0.0
共働き世帯 (類型1) (n=144)	21.5	28.5	20.1	3.5	2.8	2.1	0.0	0.0	42.4	0.0
共働き世帯 (類型2) (n=271)	48.0	18.1	11.1	3.0	3.3	2.6	0.7	0.4	33.6	0.0
専業主婦(夫)世帯 (n=155)	77.4	5.8	5.2	0.6	2.6	1.9	1.3	0.6	19.4	0.0

3. 松戸市の子育て支援に関する事業

(1) 松戸市の子育て支援に関する事業の認知度

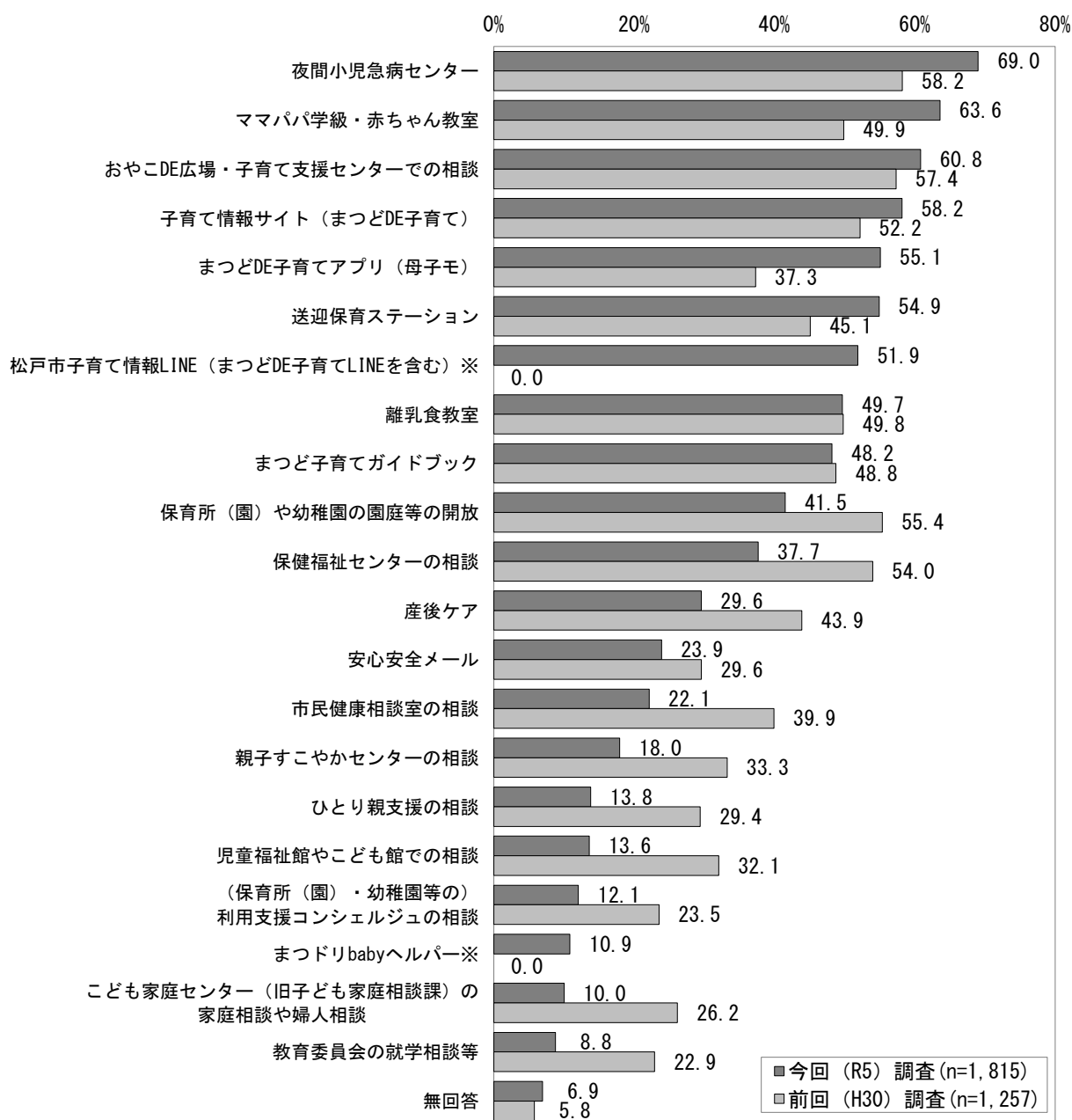
就学前児童保護者 問 18、小学生保護者 問 29

松戸市で実施している次の事業について、知っていたものをお答えください。(単数回答)

就学前児童保護者

「夜間小児急病センター」が 69.0%と最も高く、「ママパパ学級・赤ちゃん教室」が 63.6%、「おやこ DE 広場・子育て支援センターでの相談」が 60.8%と続いている。

経年比較では、前回調査よりも「まつど DE 子育てアプリ(母子モ)」の認知度が特に大きく増加している。

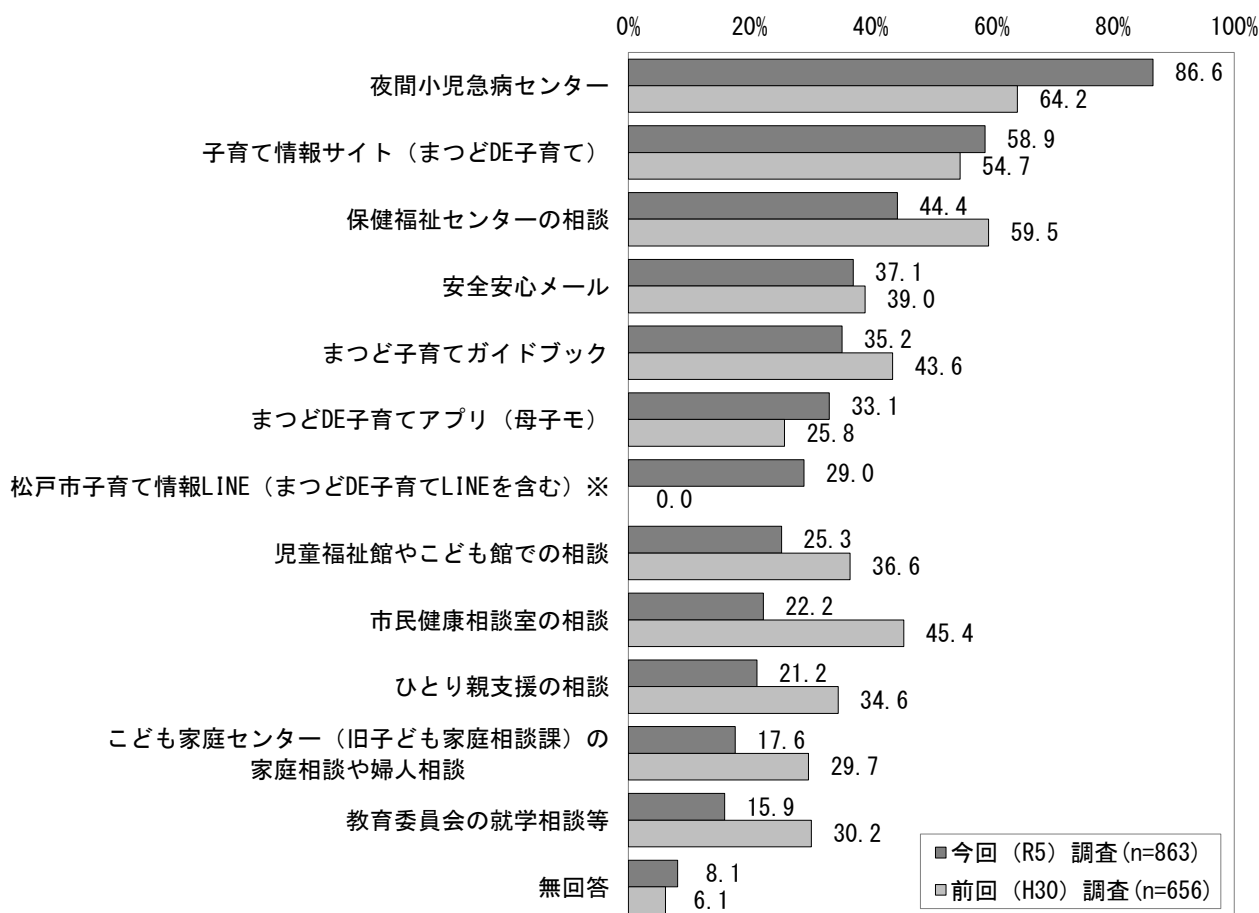


※「松戸市子育て情報 LINE(まつど DE 子育て LINE を含む)」、「まつドリ baby ヘルパー」の選択肢は前回調査にはない。

小学生保護者

「夜間小児急病センター」が 86.6%と最も高く、「子育て情報サイト(まつどDE子育て)」が 58.9%、「保健福祉センターの相談」が 44.4%と続いている。

経年比較では、前回調査よりも「夜間小児急病センター」の認知度が特に大きく増加している。



※「松戸市子育て情報 LINE(まつど DE 子育て LINE を含む)」の選択肢は前回調査にはない。

(2)松戸市の子育て支援に関する事業の利用経験

就学前児童保護者 問 18、小学生保護者 問 29

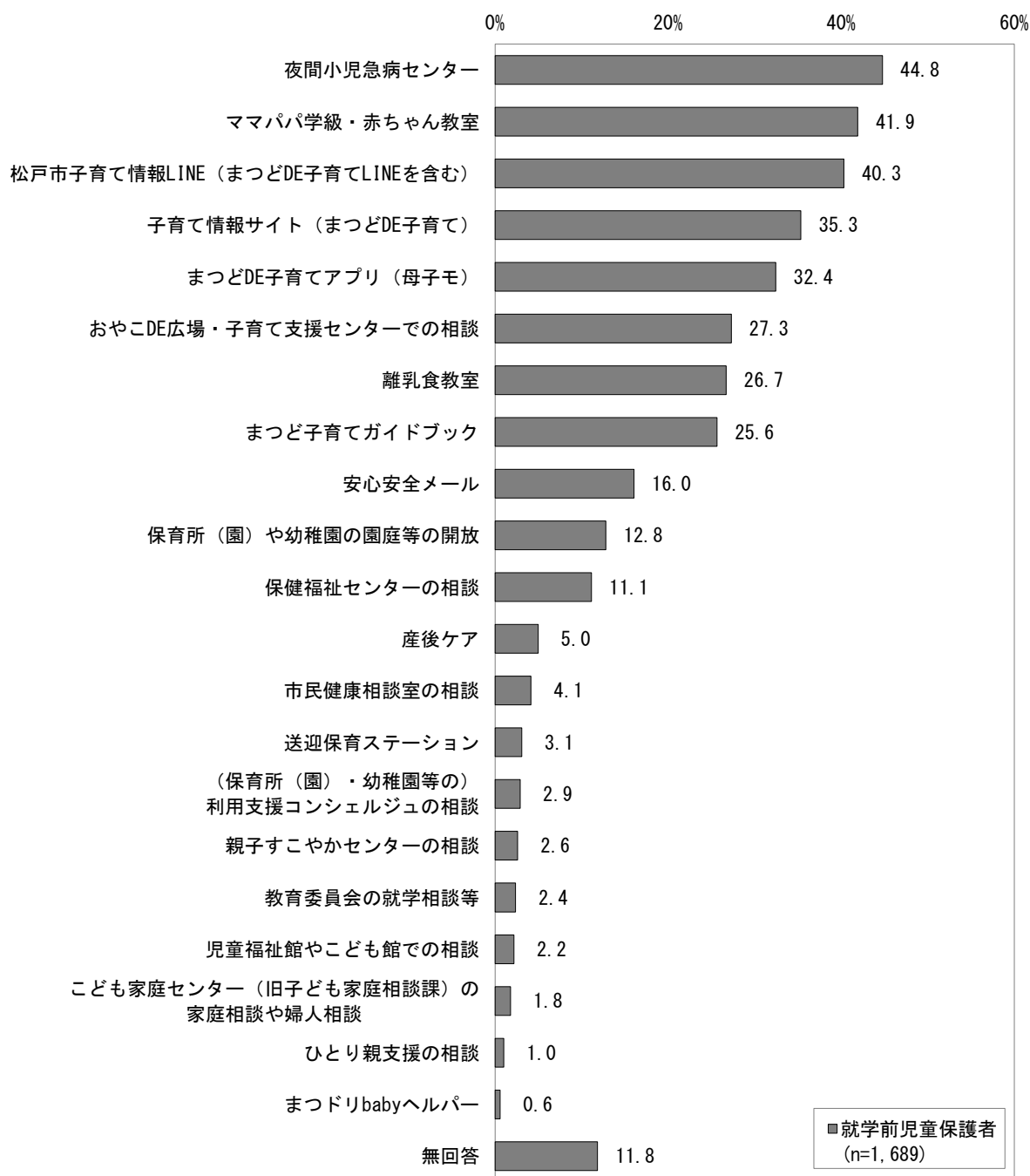
【「松戸市の事業の認知度」で、それぞれの事業の「知っていた」を選択した方のみ】

松戸市で実施している次の事業について、これまでに利用したことがあるものをお答えください。

(単数回答)

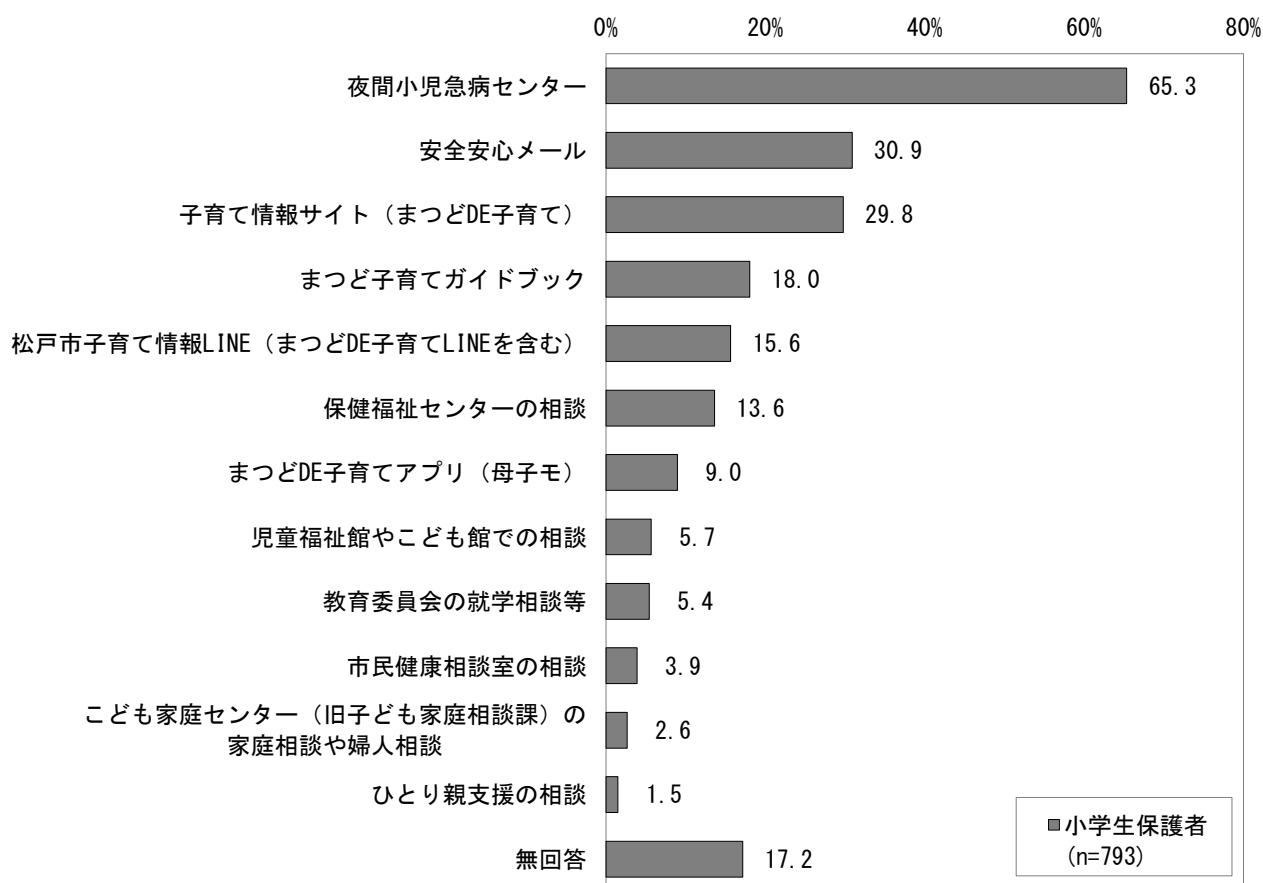
就学前児童保護者

「夜間小児急病センター」が 44.8%と最も高く、「ママパパ学級・赤ちゃん教室」が 41.9%、「松戸市子育て情報 LINE(まつど DE 子育て LINE を含む)」が 40.3%と続いている。



小学生保護者

「夜間小児急病センター」が 65.3%と最も高く、「安全安心メール」が 30.9%、「子育て情報サイト(まつど DE 子育て)」が 29.8%と続いている。



(3)松戸市の子育て支援に関する事業の今後の利用意向

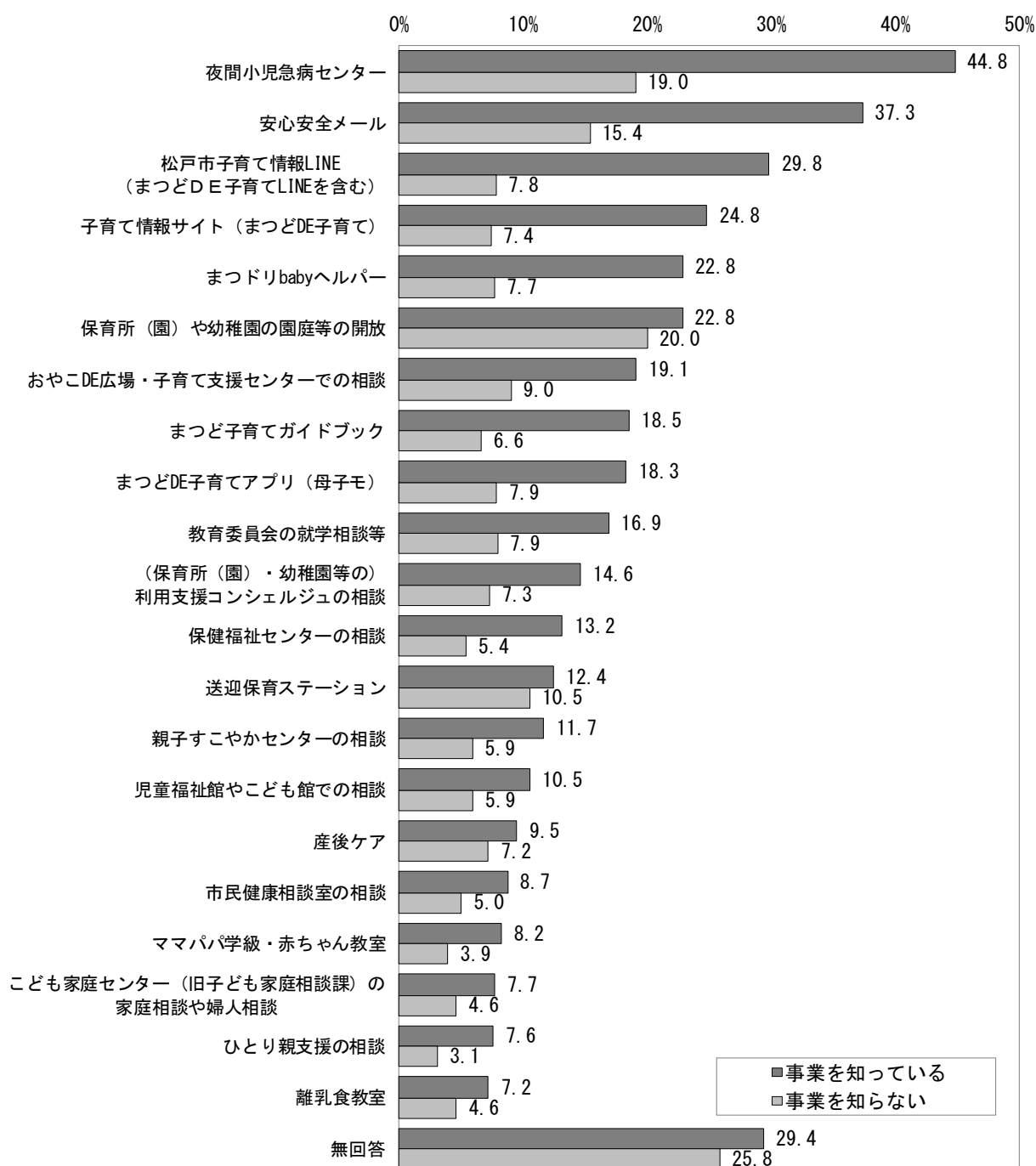
就学前児童保護者 問 18、小学生保護者 問 29

松戸市で実施している次の事業について、今後利用したいと思うものをお答えください。(単数回答)

就学前児童保護者

事業を知っている人においては、「夜間小児急病センター」の利用意向が44.8%と最も高く、「安心安全メール」が37.3%と続いている。

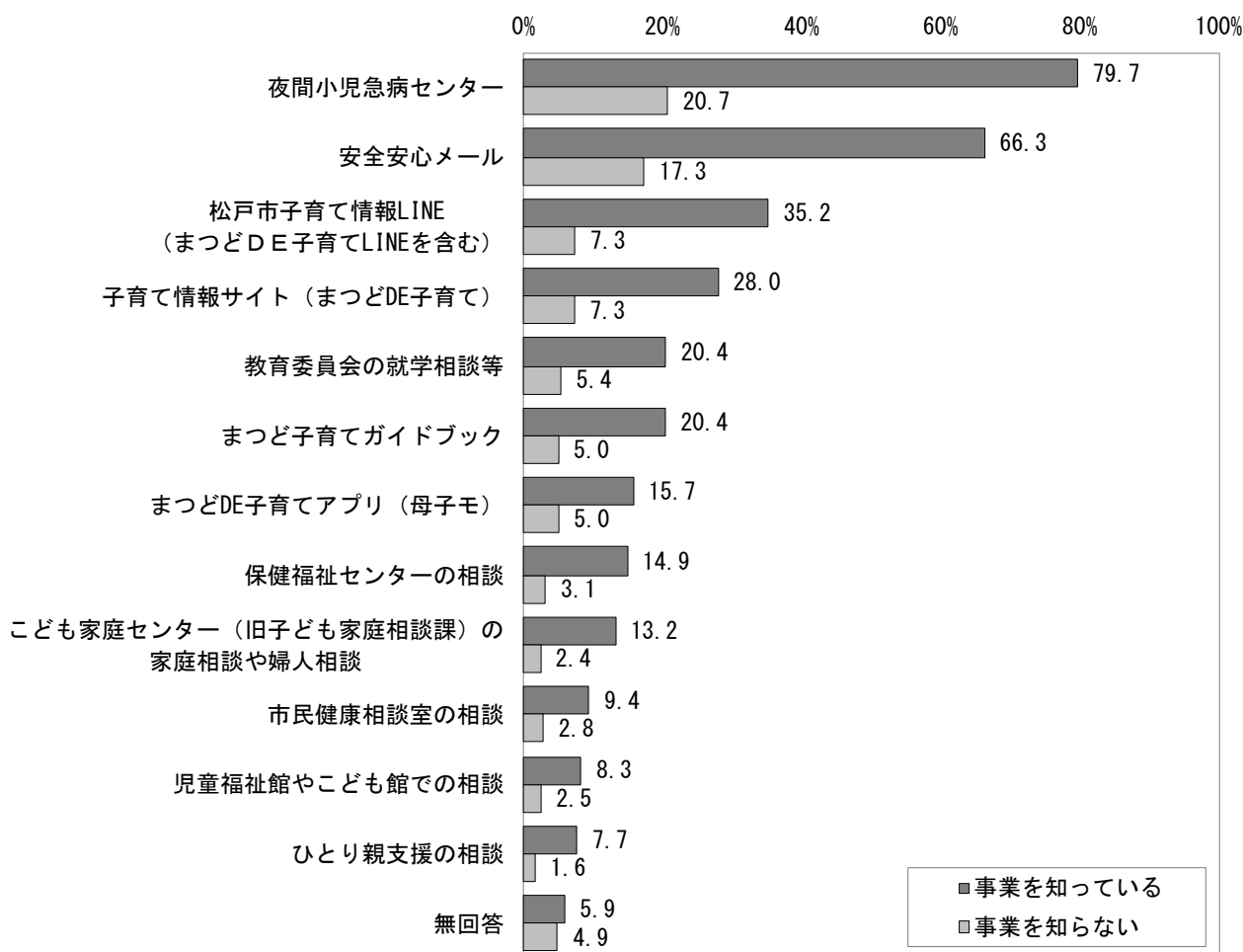
事業を知らない人においては、「保育所(園)や幼稚園の園庭等の開放」の利用意向が20.0%と最も高く、「夜間小児急病センター」が19.0%と続いている。



小学生保護者

事業を知っている人においては、「夜間小児急病センター」の利用意向が79.7%と最も高く、「安心安全メール」が66.3%と続いている。

事業を知らない人においては、「夜間小児急病センター」の利用意向が20.7%と最も高く、「安心安全メール」が17.3%と続いている。



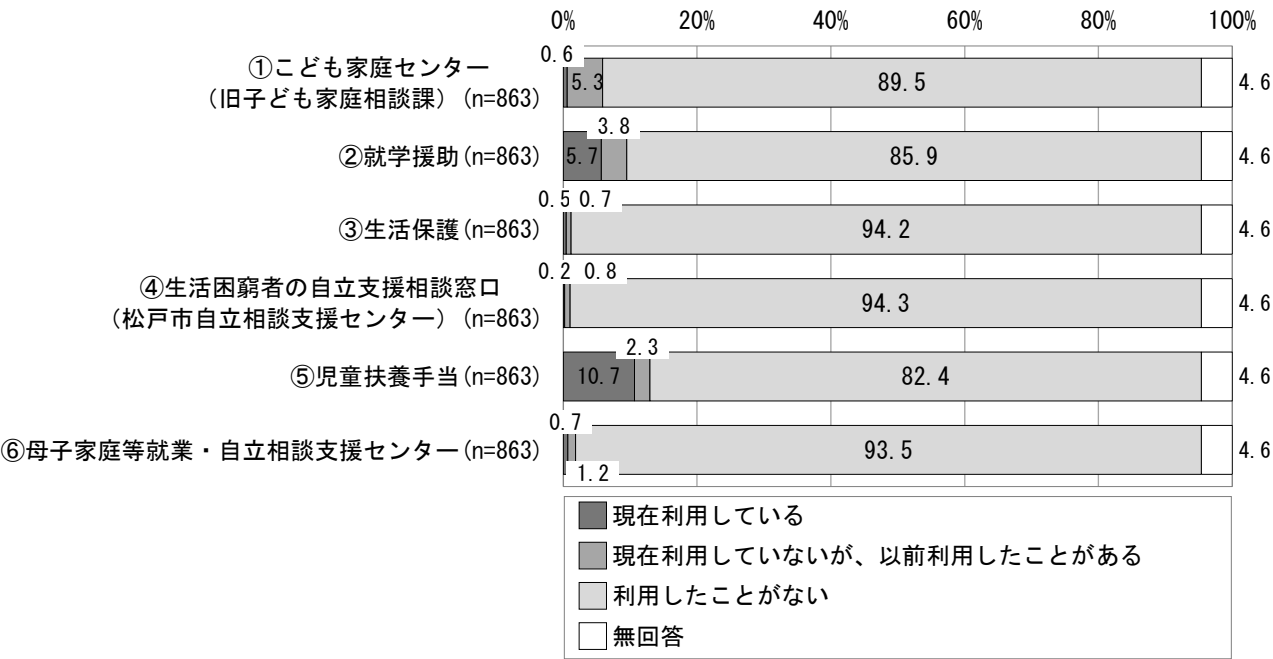
(4)支援制度・相談窓口の認知度・利用したことがない理由

小学生保護者 問 22、中学生保護者 問 21
あなたのご家庭では、以下の支援制度・相談窓口をこれまでに利用したことがありますか。また「利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(単数回答)

小学生保護者

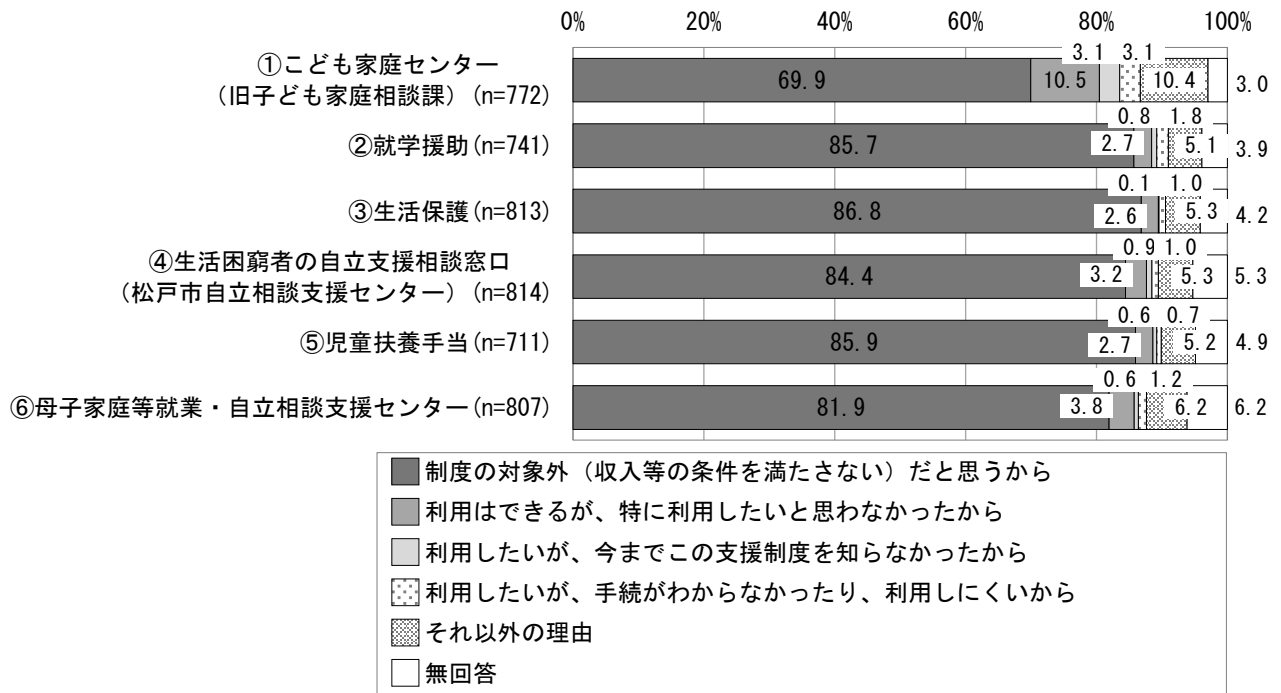
①利用経験

「現在利用している」は、⑤児童扶養手当で10.7%と相対的に高くなっている。



②利用したことがない理由

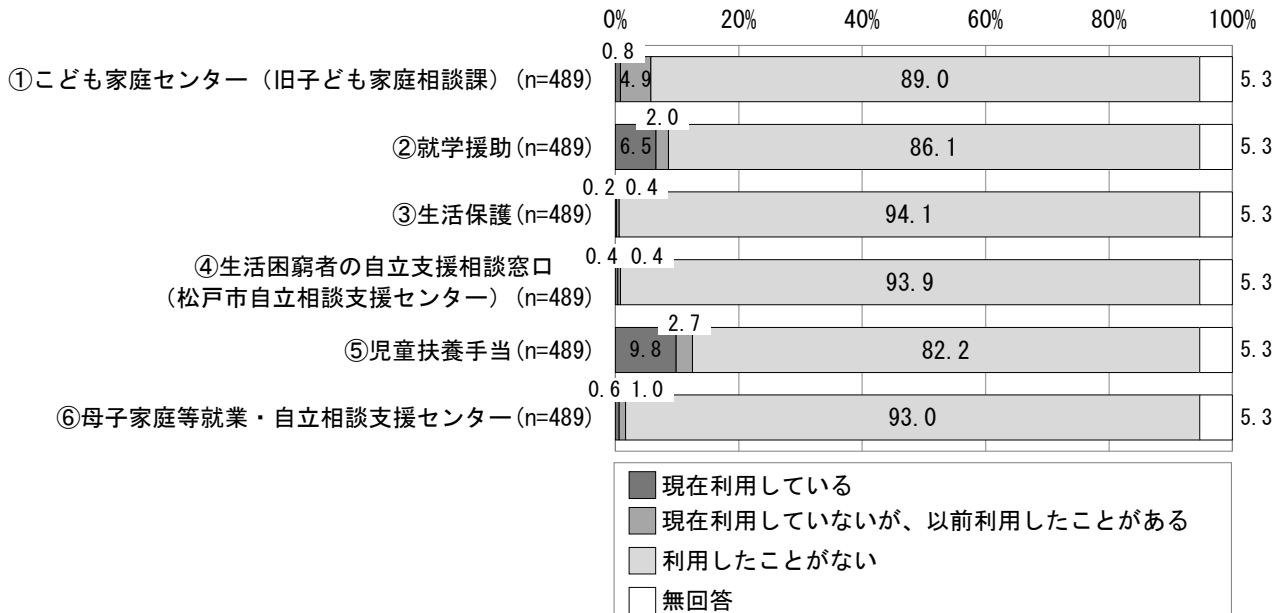
すべての項目で、「制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから」が最も高くなっている。



中学生保護者

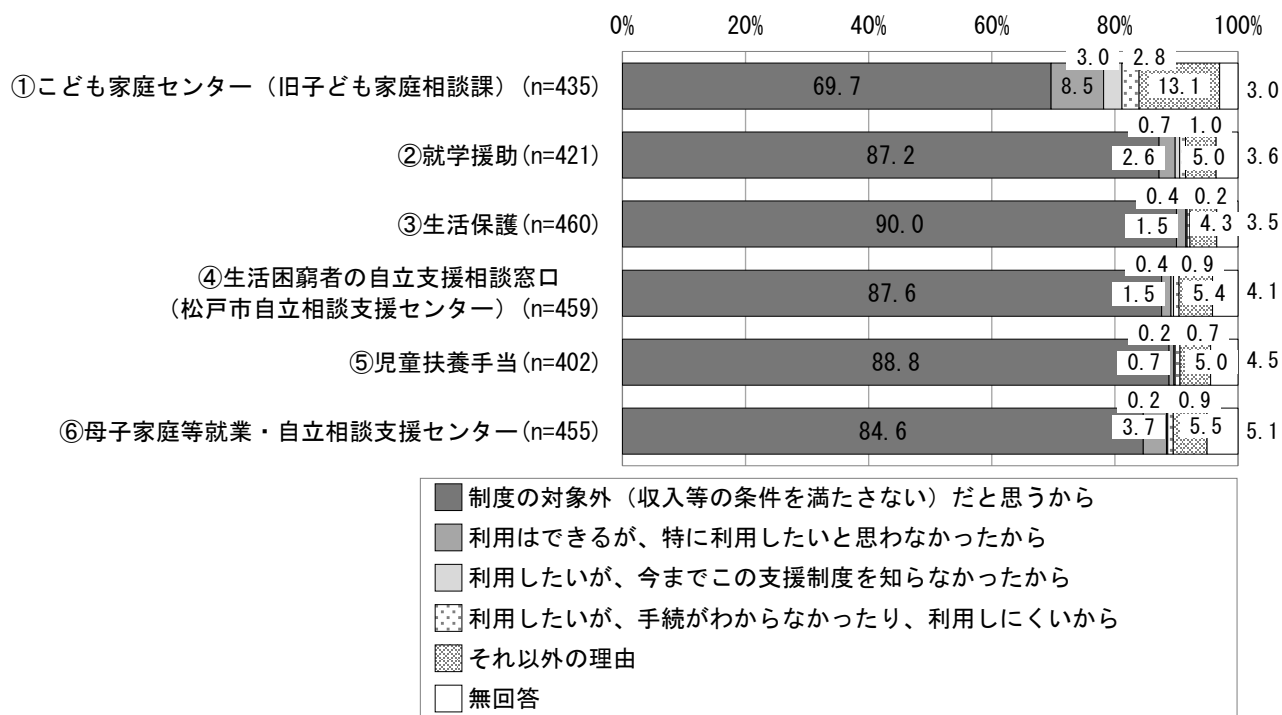
①利用経験

「現在利用している」は、⑤児童扶養手当で9.8%と相対的に高くなっている。



②利用したことがない理由

すべての項目で、「制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから」が最も高くなっている。



4. 休日等保育

(1) 休日保育の利用希望

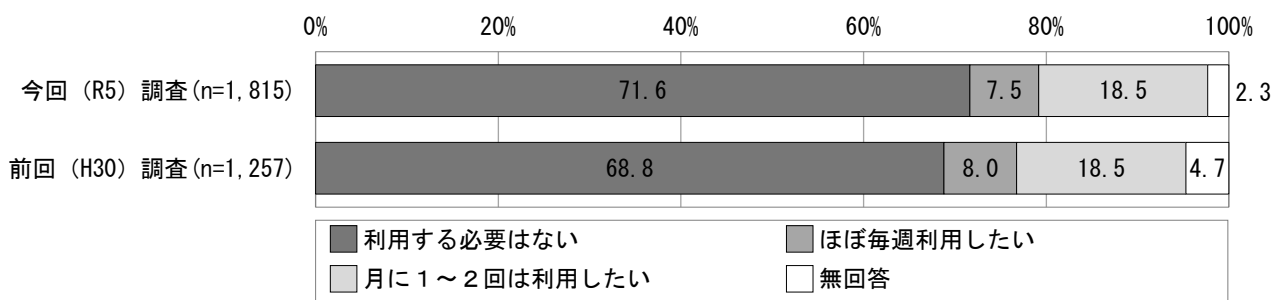
就学前児童保護者 問 19

宛名のお子さんについて、就労等の理由により土曜日と日曜日・祝日に、教育・保育施設(事業)の利用希望はありますか。(単数回答)

① 土曜日

「利用する必要はない」が 71.6%と最も高く、「月に1～2回は利用したい」が 18.5%、「ほぼ毎週利用したい」が 7.5%と続いている。

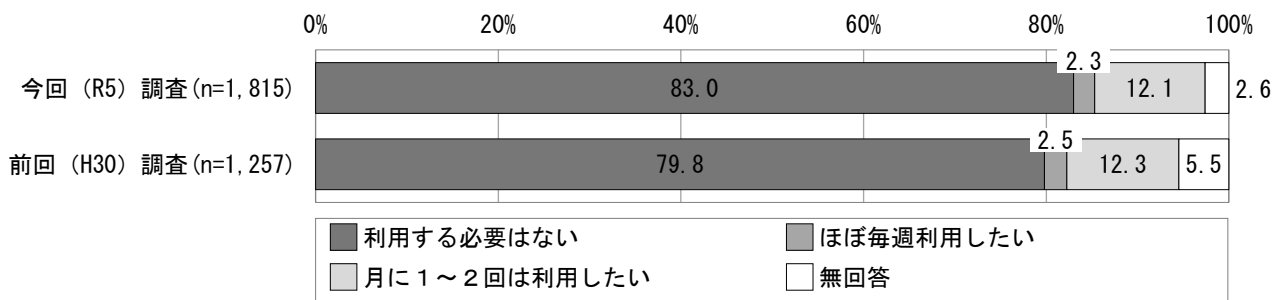
経年比較では、前回調査と大きな違いはみられない。



② 日曜日・祝日

「利用する必要はない」が 83.0%と最も高く、「月に1～2回は利用したい」が 12.1%、「ほぼ毎週利用したい」が 2.3%と続いている。

経年比較では、前回調査と大きな違いはみられない。



(2)幼稚園の長期休暇期間の利用希望

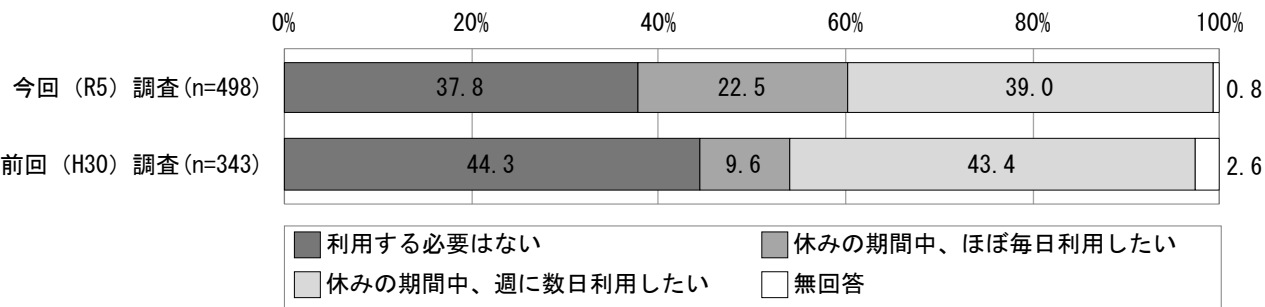
就学前児童保護者 問 20

【「教育・保育施設の利用状況」で幼稚園を選択した方のみ】

宛名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期休暇期間中に、教育・保育施設(事業)の利用希望はありますか。(単数回答)

就学前児童保護者では、「休みの期間中、週に数日利用したい」が 39.0%と最も高く、「利用する必要はない」が 37.8%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が 22.5%と続いている。

経年比較では、前回調査よりも「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」の割合に増加がみられる。



5. 病児・病後児保育

(1)子どもが病気・ケガの際に、教育・保育施設が利用できなかった経験の有無

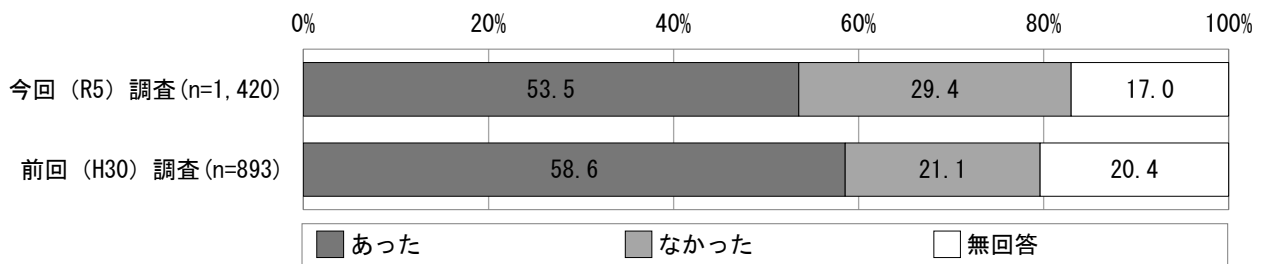
就学前児童保護者 問 21

【「教育・保育施設の利用状況」で「利用していない」以外を選択した方のみ】

この1年間に、宛名のお子さんが病気やケガで普段利用している施設(事業)が利用できなかったことはありますか。(単数回答)

「あった」が53.5%、「なかった」が29.4%となっている。

経年比較では、前回調査よりも「なかった」の割合に増加がみられる。



(2)子どもが病気・ケガの際の対処方法

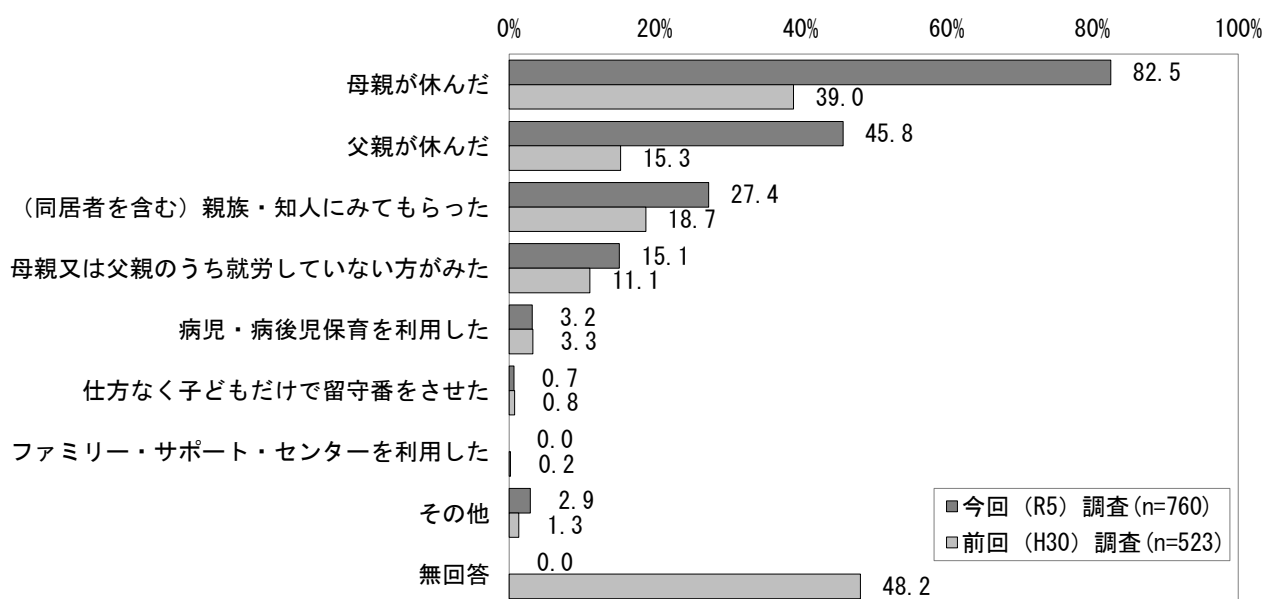
就学前児童保護者 問 21-1

【「子どもが病気・ケガの際に、教育・保育施設が利用できなかった経験の有無」で「あった」を選択した方のみ】

普段利用している施設をお休みした場合に、この1年間に行った対処方法は何ですか。（複数回答）

「母親が休んだ」が 82.5%と最も高く、「父親が休んだ」が 45.8%、「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」が 27.4%と続いている。

経年比較では、前回調査よりも父母が休んだ割合が増加している。新型コロナウイルス感染症等が流行している期間においては、子どもに発熱などの症状があった場合に、親族・知人を頼るのが難しく、父母が仕事を調整せざるをえない状況があった可能性が考えられる。



(3)病児・病後児保育の利用希望

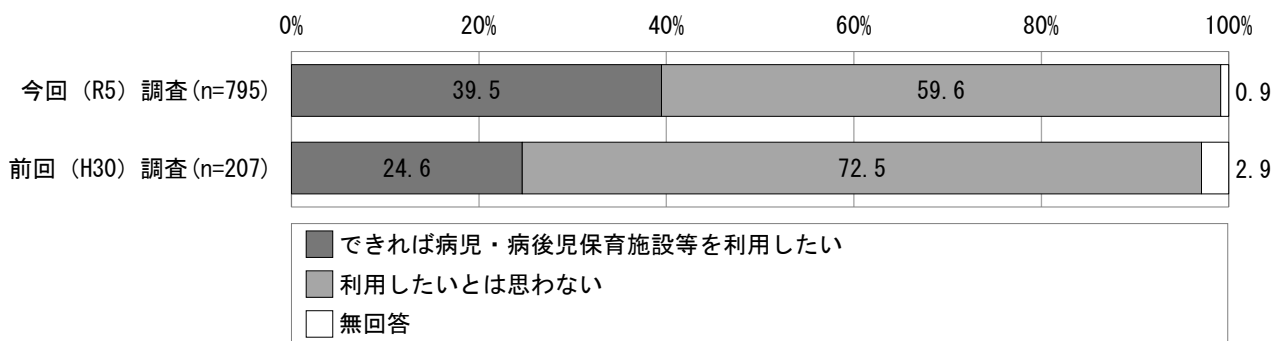
就学前児童保護者 問 21-2

【「子どもが病気・ケガの際の対処方法」で、「母親が休んだ」または「父親が休んだ」のいずれかを選択した方のみ】

「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と思われましたか。(単数回答)

「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が 39.5%、「利用したいとは思わない」が 59.6%となっている。

経年比較では、前回調査と比較して「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」の割合が増加している。



(4)病児・病後児保育を利用したくない理由

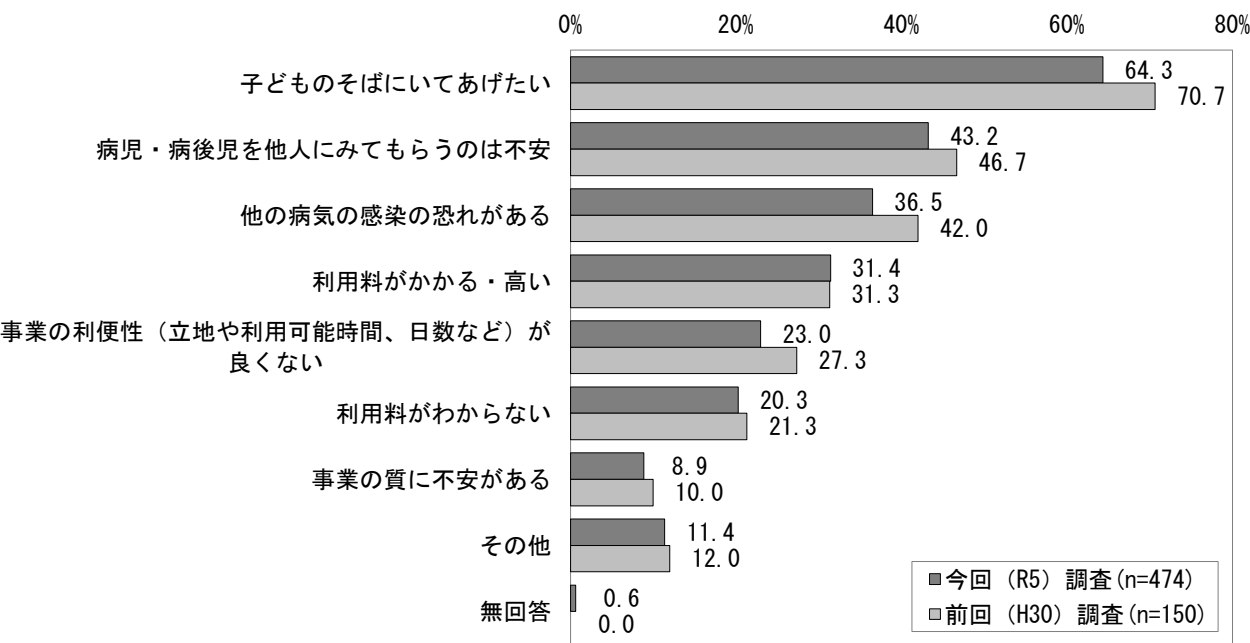
就学前児童保護者 問 21-3

【「病児・病後児保育の利用希望」で「利用したいと思わない」を選択した方のみ】

そう思われる理由は何ですか。(複数回答)

「子どものそばにいてあげたい」が 64.3%と最も高く、「病児・病後児を他人にみてもらうのは不安」が 43.2%、「他の病気の感染の恐れがある」が 36.5%と続いている。

経年比較では、前回調査より全体的に割合が減少している。



6. 一時預かり

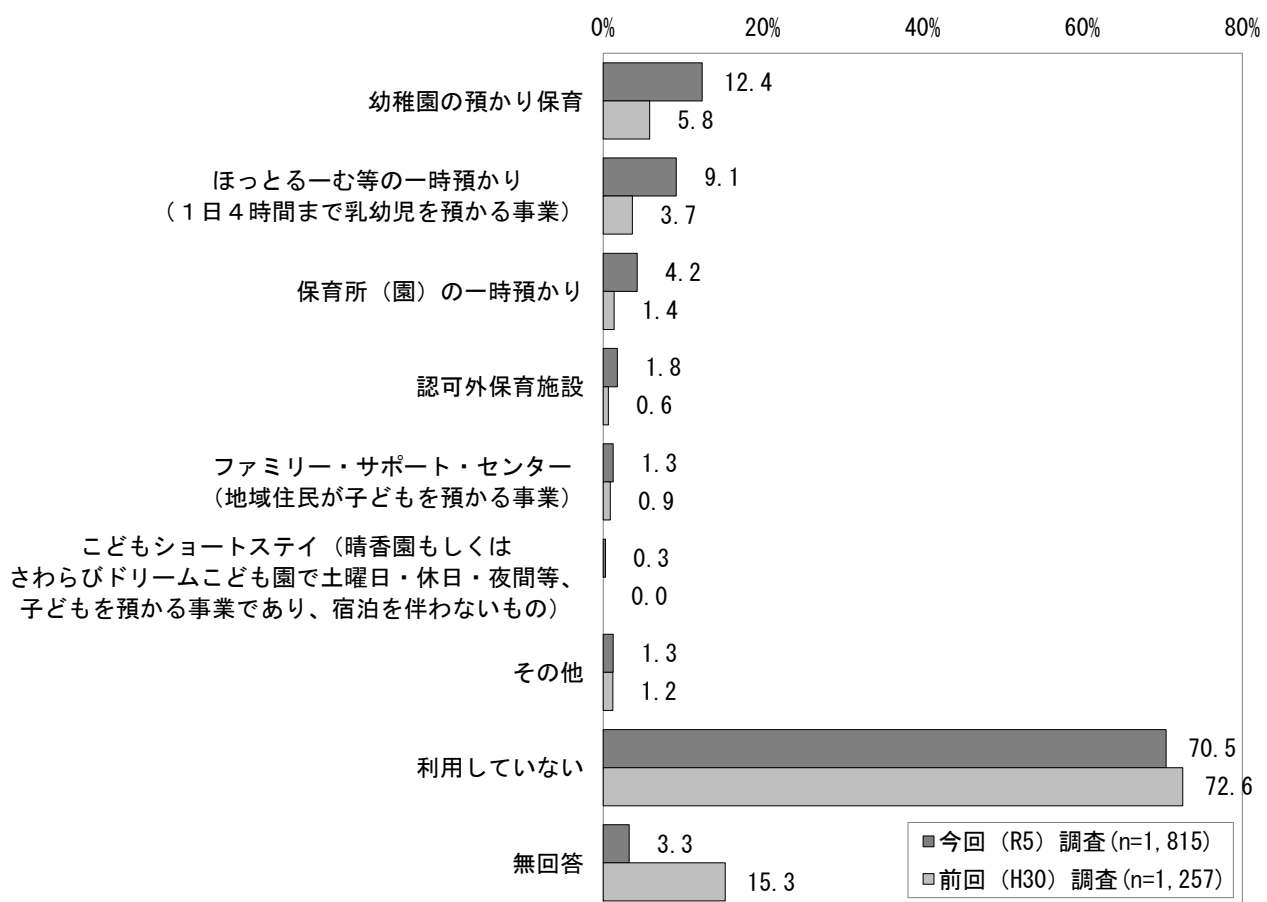
(1) 日中の一時預かりの利用経験

就学前児童保護者 問 22

宛名のお子さんについて、この1年間で、保護者の用事(私用、親の通院、不定期の就労等)等により利用したことがある事業はありますか。(複数回答)

「利用していない」を除くと、「幼稚園の預かり保育」が12.4%と最も高く、「ほっとる一む等の一時預かり(1日4時間まで乳幼児を預かる事業)」が9.1%、「保育所(園)の一時預かり」が4.2%と続いている。

経年比較では、前回調査より「幼稚園の預かり保育」の割合が高くなっている。



(2)日中の一時預かりを利用しない理由

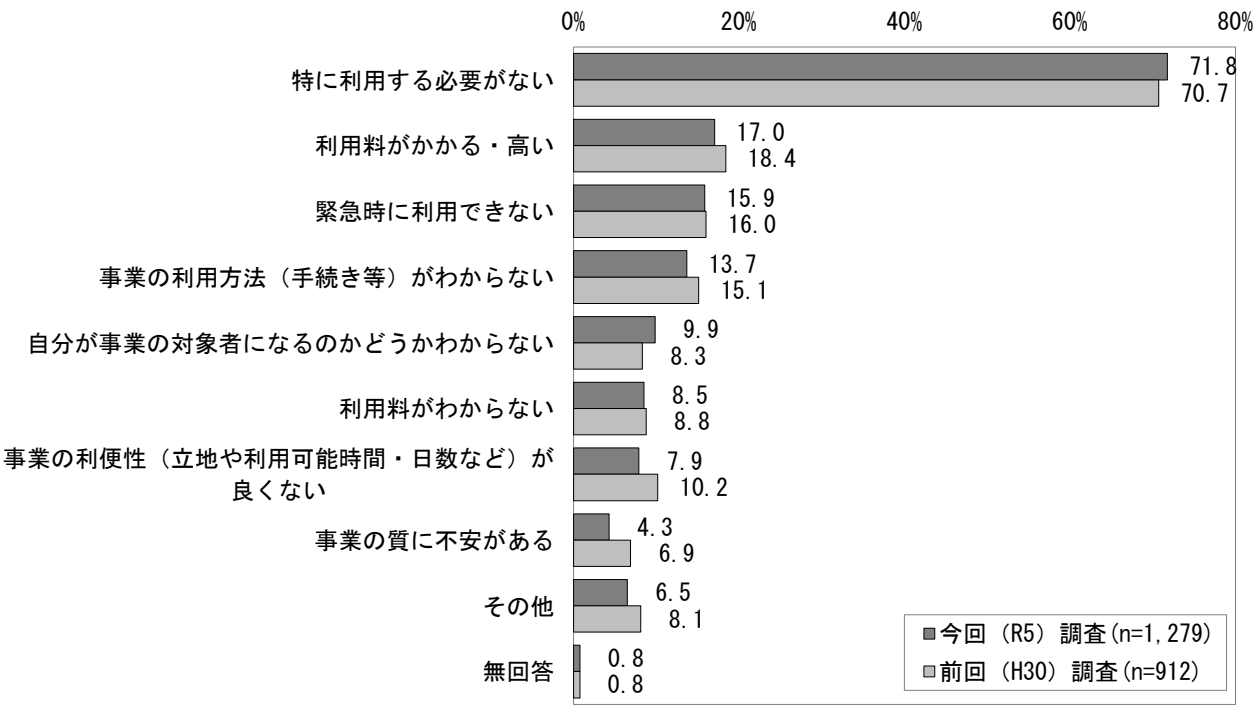
就学前児童保護者 問 22-1

【「日中の一時預かりの利用経験」で「利用していない」を選択した方のみ】

現在利用していない理由は何ですか。(複数回答)

「特に利用する必要がない」が 71.8%と最も高く、「利用料がかかる・高い」が 17.0%、「緊急時に利用できない」が 15.9%と続いている。

経年比較では、前回調査と大きな違いはみられない。



(3)一時預かりの利用希望

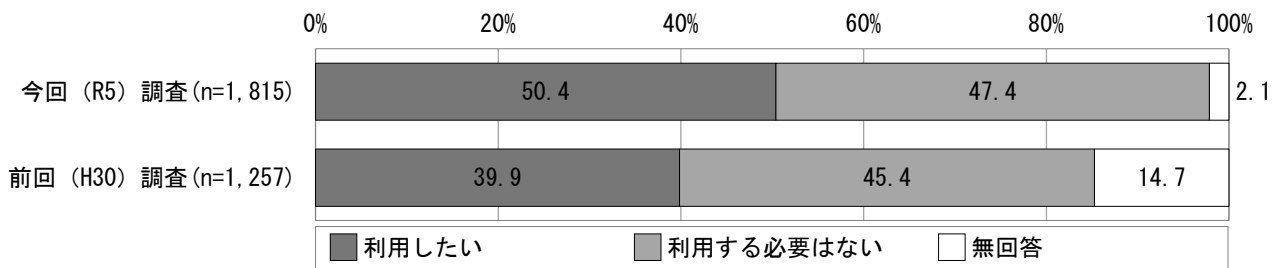
①利用希望

就学前児童保護者 問 23

宛名のお子さんについて、保護者や家族の用事(冠婚葬祭等)、病気等で、一時預かり事業等を利用する必要があると思いますか。利用の必要性の有無をお答えください。(単数回答)

「利用したい」が50.4%、「利用する必要はない」が47.4%となっている。

経年比較では、前回調査よりも利用希望に増加がみられる。



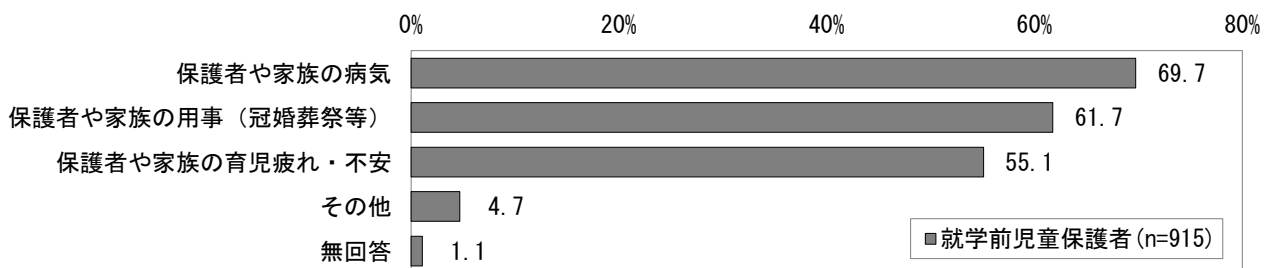
②利用を希望する理由

就学前児童保護者 問 23

【「利用希望」で「利用したい」を選択した方のみ】

理由をお答えください。(単数回答)

「保護者や家族の病気」が69.7%と最も高く、「保護者や家族の用事(冠婚葬祭等)」が61.7%、「保護者や家族の育児疲れ・不安」が55.1%と続いている。



(4)宿泊を伴う一時預かりの利用経験

①この1年間で泊りがけで子どもを家族以外に預ける必要のあったケース

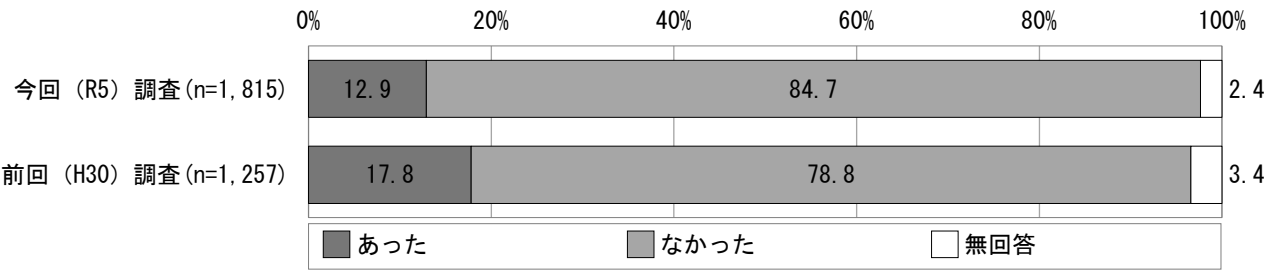
就学前児童保護者

問 24

宛名のお子さんについて、この1年間で、保護者や家族の用事(冠婚葬祭等)、病気等により泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか。利用の必要性の有無をお答えください。

(単数回答)

「あった」が12.9%、「なかった」が84.7%となっている。
経年比較では、前回調査よりも利用希望は減少している。



②必要があった場合の対処方法

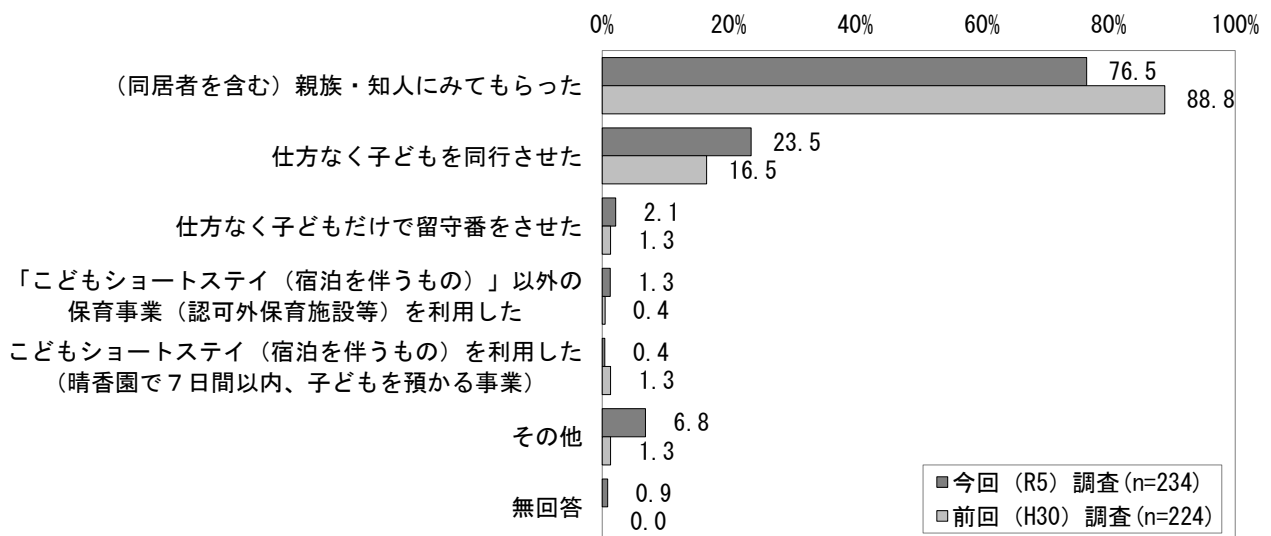
就学前児童保護者 問 24

【「この1年間で泊りがけで子どもを家族以外に預ける必要のあったケース」で「あった」を選択した方のみ】

対処方法をお答えください。(複数回答)

「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」が 76.5%と最も高く、「仕方なく子どもを同行させた」が 23.5%、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」が 2.1%と続いている。

経年比較では、前回調査よりも「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」の割合が減少し、「仕方なく子どもを同行させた」の割合が増加している。



第7節 子どもに関する施策

■結果の概要

【子どもの体験機会】

- ・いずれの調査でも「現在の子どもたちは、自分が子どもの頃と比べて、遊ぶことのできる場所が少なくなっている」や「現在の子どもたちは、自分が子どもの頃と比べて、体験活動の機会が少なくなっている」の割合が高く、子どもの体験機会が十分でないとする保護者が多いと考えられる。
- ・世帯類型別にみると、ひとり親世帯において学校以外の体験活動が十分でないと感じている傾向があった。経済状況別にみると、小学生保護者の低所得層においては学校以外の体験活動が十分でないと感じている傾向がみられたが、中学生保護者の低所得層では、一般層・準低所得層に比べて現状の体験活動で十分と感じる傾向がみられた。

【子どもの安全】

- ・いずれの調査でも、子どもの安全のために、自動車や知らない人への注意喚起をする割合が高くなっている。経年比較では、前回調査よりも、子どものインターネット環境にフィルターをかける割合が増加している。

【行政へ期待する施策】

- ・就学前児童保護者においては、経済的支援を求める割合が最も高く、小学生保護者・中学生保護者においては防犯対策を求める割合が最も高くなっている。

(1)子どもの体験活動をどう思うか

小学生保護者 問 26、中学生保護者 問 22

あなたは、子どもの体験活動について、次のように思いますか。(複数回答)

小学生保護者

「現在の子どもたちは、自分が子どもの頃と比べて、遊ぶことのできる場所が少なくなっている」が62.2%と最も高く、「現在の子どもたちは、自分が子どもの頃と比べて、体験活動の機会が少なくなっている」が42.5%、「学校の授業や行事で、子どもたちが体験活動ができる機会が十分にある」が23.5%と続いている。

世帯類型別にみると、ひとり親世帯において「学校の授業や行事以外で、子どもたちが体験活動ができる機会が十分にある」が低くなっている。経済状況別にみると、低所得層において「学校の授業や行事以外で、子どもたちが体験活動ができる機会が十分にある」が低くなっている。

(%)	現在の子どもは、遊ぶことのできる場所が少なくなっている	現在の子どもは、体験活動の機会が少なくなっている	学校の授業や行事で、子どもたちが体験活動ができる機会が十分にある	学校の授業や行事以外で、子どもたちが体験活動ができる機会が十分にある	子どもたちと一緒に体験活動をするのは苦手である	決まっている体験活動より、自由な体験活動の方が良い	自分よりも子どもには、今は体験活動の優先順位は低い	特に思うことはない	無回答
小学生保護者 (n=863)	62.2	42.5	23.5	15.5	4.3	3.9	3.6	9.7	5.6
【世帯類型別】									
ひとり親世帯 (n=123)	57.7	48.8	24.4	11.4	4.9	5.7	4.1	12.2	3.3
共働き世帯 (類型1) (n=208)	63.5	44.2	21.6	17.3	3.8	3.4	4.3	9.1	7.2
共働き世帯 (類型2) (n=329)	61.7	39.2	25.2	17.0	4.0	4.0	3.3	9.4	5.5
専業主婦 (夫) 世帯 (n=182)	65.9	42.9	23.1	14.3	5.5	3.8	2.7	7.7	4.9
【経済状況別】									
一般層 (n=396)	67.2	44.7	23.5	16.9	3.5	3.0	4.5	8.8	3.3
準低所得層 (n=320)	61.3	42.5	26.3	16.9	5.3	5.0	2.8	9.4	3.8
低所得層 (n=55)	58.2	49.1	23.6	7.3	3.6	3.6	3.6	12.7	1.8

中学生保護者

「現在の子どもたちは、自分が子どもの頃と比べて、遊ぶことのできる場所が少なくなっている」が55.6%と最も高く、「現在の子どもたちは、自分が子どもの頃と比べて、体験活動の機会が少なくなっている」が38.7%、「学校の授業や行事で、子どもたちが体験活動ができる機会が十分にある」が28.4%と続いている。

世帯類型別にみると、ひとり親世帯において「学校の授業や行事以外で、子どもたちが体験活動ができる機会が十分にある」が低くなっている。経済状況別にみると、低所得層において、現在の子どもたちは昔に比べて遊び場や体験機会が少ないと考える割合が、低くなっています。

(%)	と現在の子どもたちは、遊ぶことのできる場所が少なくなっている	と現在の子どもたちは、体験活動の機会が少なくなっている	学校の授業や行事で、子どもたちが十分にある	学校の授業や行事以外で、子どもたちが十分にある	自分の子どもには、今は体験活動より勉強を優先させたい	自由な体験活動より、作業が決まってい	子どもたちと一緒に体験活動をするのは苦手である	特に思うことはない	無回答
中学生保護者 (n=489)	55.6	38.7	28.4	11.7	6.3	4.3	3.9	10.2	5.9
【世帯類型別】									
ひとり親世帯 (n=70)	48.6	37.1	34.3	5.7	8.6	1.4	7.1	8.6	5.7
共働き世帯（類型1） (n=84)	51.2	36.9	23.8	10.7	8.3	1.2	3.6	9.5	8.3
共働き世帯（類型2） (n=229)	61.1	40.2	26.2	14.0	4.4	6.6	2.6	11.4	4.4
専業主婦（夫）世帯 (n=89)	56.2	33.7	34.8	11.2	7.9	4.5	5.6	7.9	9.0
【経済状況別】									
一般層 (n=230)	61.7	41.3	31.3	11.3	7.4	4.3	3.9	6.1	1.7
準低所得層 (n=152)	59.9	43.4	28.3	12.5	4.6	3.3	3.9	12.5	1.3
低所得層 (n=60)	45.0	35.0	31.7	15.0	10.0	6.7	3.3	15.0	1.7

(2)子どもの安全のためにしていること

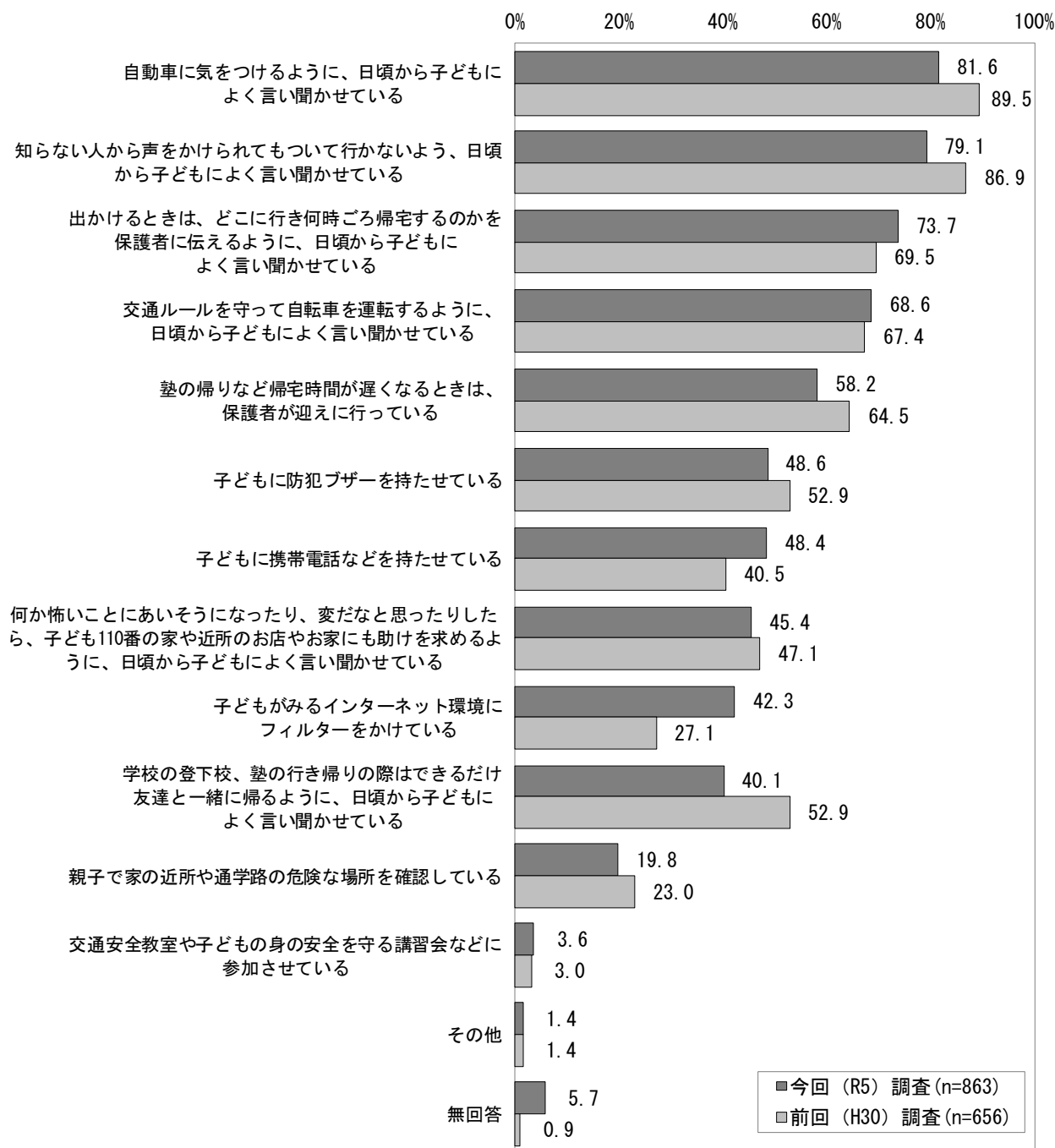
小学生保護者 問 27、中学生保護者 問 23

お子さんの安全のために、日頃から注意していること、もしくは実施していることは何ですか。(複数回答)

小学生保護者

「自動車に気をつけるように、日頃から子どもによく言い聞かせている」が 81.6%と最も高く、「知らない人から声をかけられてもついて行かないよう、日頃から子どもによく言い聞かせている」が 79.1%と続いている。

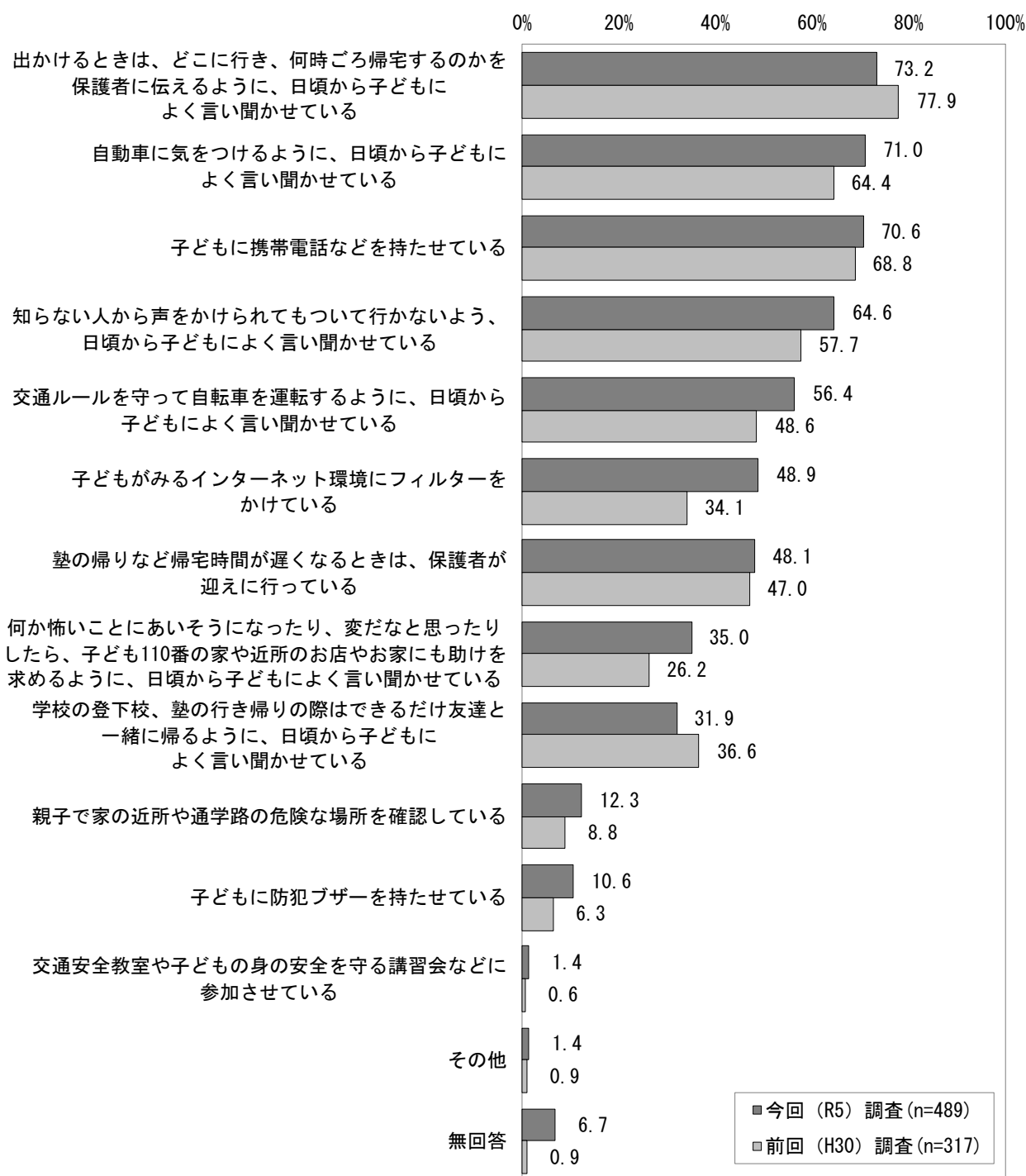
経年比較では、前回調査よりも「子どもがみるインターネット環境にフィルターをかけている」の割合が増加している。



中学生保護者

中学生保護者では、「出かけるときは、どこに行き、何時ごろ帰宅するのかを保護者に伝えるように、日頃から子どもによく言い聞かせている」が73.2%と最も高く、「自動車に気をつけるように、日頃から子どもによく言い聞かせている」が71.0%と続いている。

経年比較では、前回調査よりも「子どもがみるインターネット環境にフィルターをかけている」の割合が増加している。



(3)行政へ期待する施策

就学前児童保護者 問25、小学生保護者 問30、中学生保護者 問25

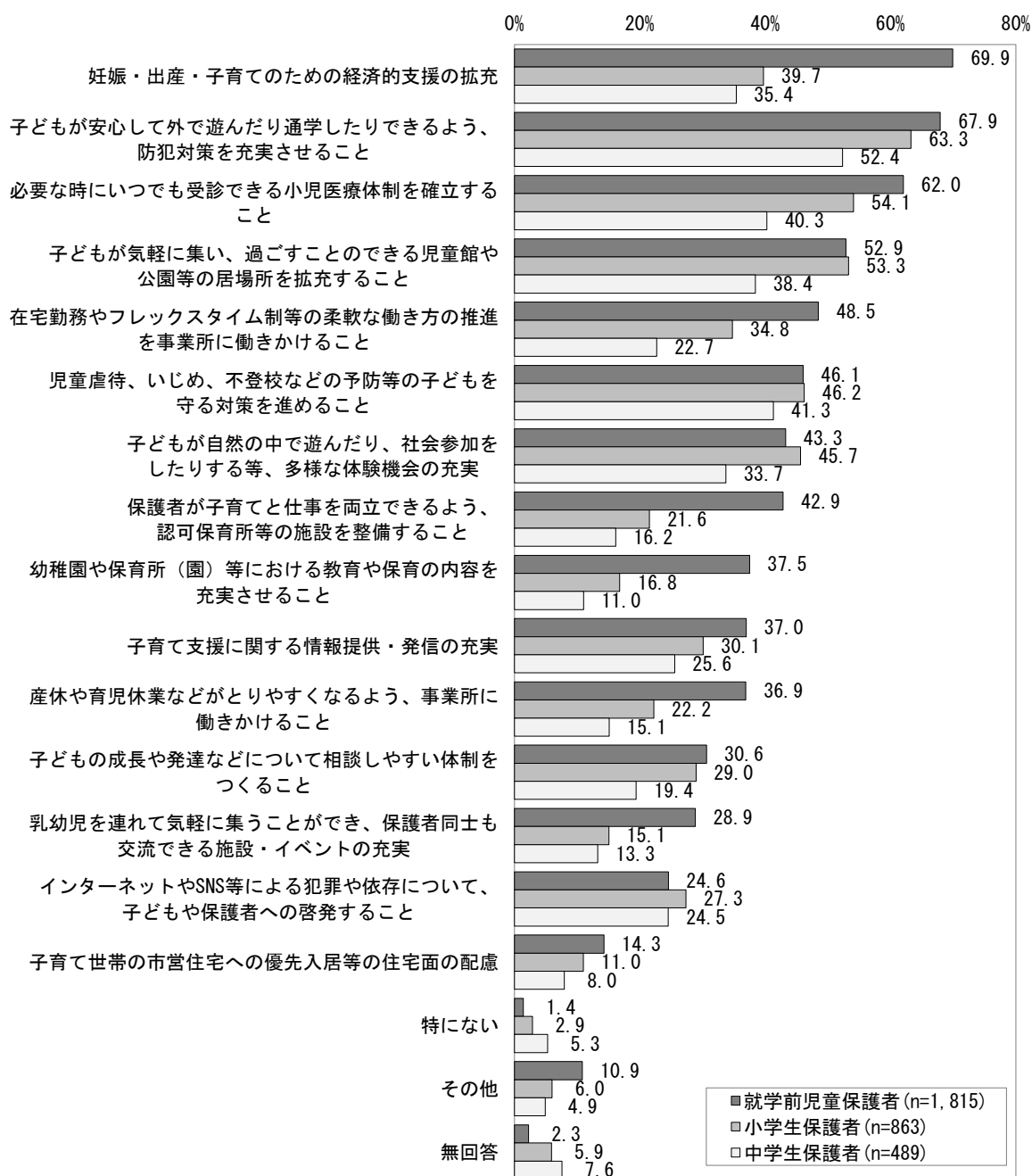
あなたは、より子どもを生み育てやすくするために、国や自治体にどのような施策を期待しますか。

(複数回答)

就学前児童保護者では、「妊娠・出産・子育てのための経済的支援の拡充」が69.9%と最も高くなっている。

小学生保護者では、「子どもが安心して外で遊んだり通学したりできるよう、防犯対策を充実させること」が63.3%と最も高くなっている。

中学生保護者では、「子どもが安心して外で遊んだり通学したりできるよう、防犯対策を充実させること」が52.4%と最も高くなっている。



「その他」に寄せられた意見

「その他」には、259 件(就学前児童保護者 191 件、小学生保護者 47 件、中学生保護者 21 件)の記述回答が寄せられた。主な意見は次のとおり。

保育園に関する意見(35 件)
【概要】 希望する保育園に入れるよう望む意見が多数みられた。その一方で、保育士の待遇や労働環境を懸念する意見も多くみられた。
・保育園入園希望したら必ず入園できるようにしてほしい。4月のみではなく年度途中からでも。育休延長しなければならず、職場復帰をしづらいのが辛い。 ・仕事が休みの日(平日)に、通っている保育園に預けたい。 ・保育士の配置人数を見直してほしい。もっと1人当りの保育士の受け持ち人数を減らしてほしい。 ・保育をしている先生方の労働環境の改善。 ・パートの保育士でも松戸手当を！ ・保育園利用のために、毎年同じような書類を書く手間をなくしていただきたい。
経済的支援に関する意見(29 件)
【概要】 経済的支援の拡充を望む意見が多数みられた。特に、支援制度に世帯年収上限があることへの不満を訴える意見が多くみられた。
・経済的支援が一番ありがたい。 ・多子世帯への補助 ・経済的支援は親の収入に関係なく、子ども全員が受けるべき。世帯収入に上限を設けないでほしい。
公園に関する意見(18 件)
【概要】 子どもが安全に遊べる公園を希望する意見が多数みられた。公園はたくさんあるが、整備がされていないという意見が多かった。
・子どもが安全に遊べる公園の整備 ・駐車場のある公園がもっと欲しいです。 ・公園は沢山あるが、多い分、整備・清掃が行き届いている公園とそうでない公園に差がかなりある。

妊産婦支援に関する意見(10件)

【概要】

産後ケアやパートナーの理解を深めることへの要望や、妊娠・出産に対して不寛容な社会の風潮に関する意見が複数あった。

- ・高齢出産が増えている今、母親の体ケアに力を入れて欲しいです。フランスでは保険適用で産後ケア（ペリネケア）がされるそうで、婦人科系のトラブルをなくすことで子育てや次の出産に備えることができます。
- ・妊娠・出産・子育てのための知識を教育拡充すること。
- ・産前産後の女性の体がどう変化していくのか、授乳にはどれだけのエネルギーが使われているのか、ホルモンバランスの変化で女性の精神面がどう変わるのかを男性に理解してほしい。
- ・つわりの時に上司が、診断書がないと休めない、また、診断書がないと育休産休がとれないと言い、大変困った。診断書は1通5,000円ほどするので、それだけで1万円ぐらいの出費があった。
- ・今の日本は出産後に産前のキャリアが失われ年収がガクンと減ってしまうことが多い。確かに以前のよう働き方はできないが、会社にとって有益なスキルは持ち合わせていると思っている。未来の人材を育成しているという観点からも、働き方が変わってもキャリアを評価してもらえるのが当たり前の社会になってほしい。

障害に関する意見(8件)

【概要】

発達障害のボーダーの子どもについて、療育手帳が出ないために対応に悩む意見があった。教育環境や手続きに関する意見があった。

- ・健常児と障害児だけではなく、その間にいるボーダーの子の進路や具体的な例などの情報が全くない。手帳の取得はできないのに、普通の子にはついていけない子については、親も子も正解がわからない。
- ・難病をかかえ身体障害のわが子は学ぶことへの意欲を強く持っていますが、義務教育の場において、基礎的環境整備が整っておらず、受けたくても受けられない授業も出てきています。
- ・障害があるので様々な手続きが必要だが、1か所でまとめて管轄していただきたい。あちこちに電話しなくてはいけないので、とても大変。

第8節 自由回答

(1)子育て支援について

子育て支援に関する自由回答は、1,075 件(就学前児童保護者 719 件、小学生保護者 236 件、中学生保護者 120 件)が寄せられた。主な意見は次のとおり。

経済的支援に関する意見(243 件)

【概要】

3人目を生むには経済的な問題が大きく、支援を拡充してほしいという意見が多くみられた。
児童手当の所得制限への不満が多くみられた。
給食費について、1人目の子どもであっても支援をしてほしいという意見がみられた。

【第2・3子への支援】

- ・子どもは3人ほしいと思っていますが、経済面を考えると無理だなと思っています。
- ・2人目を生んで、経済的負担が大きい。2人目の保育料は、1人目の年齢関係なく半額にしてほしい。とてもじゃないが、3人目を考えられないです。
- ・第3子以上の無償化をもう少し拡大していただけると嬉しいです。

【保育料への支援】

- ・給付金で一時的にお金をいただくよりも、保育料無償・減額の方がありがたい。

【支援対象(所得制限)】

- ・世帯収入と子どもの人数に合わせて、子育て支援をするべき。
- ・親の収入に関わらず、支援金を支給するべき。

【給食費への支援】

- ・給食費をひとりっ子家庭でも無料や金額を下げるなどして欲しい。

【中学生・高校生への支援】

- ・一番お金のかかる中高に支援してもらいたい。

公園に関する意見(150件)

【概要】

身近に子どもが遊べるような、きれいな公園を望む声が多数みられた。また、遊具を新しく多様なものに刷新することを望む声も多数みられた。

- ・各エリアに芝のきれいに整備されている公園を作りたいと思います。
- ・身近な公園が増えるともっと出かけやすくなります。
- ・公園の遊具を、同じような遊具ばかりでなく色々な種類の遊具にする。
- ・公園は遊具がとにかく古く、ペンキがはがれているなどきれいなイメージがない。

医療に関する意見(107件)

【概要】

小児科の予約がとりづらい現状から、小児科の充実を望む意見が多数みられた。松戸市は現在、高校生までを対象に通院1回200円の自己負担とする医療費助成を行っているが、無償化を望む意見がみられた。

【小児科の不足】

- ・かかりつけの小児科が事前予約可能なため、当日に予約いっぱいを受けたい時に受診できないことが多々ある。
- ・小児科が少ない。もう少し予約がとりやすいとありがたい。

【医療費助成】

- ・子ども医療費の無償化。

一時的な保育ニーズに関する意見(42件)

【概要】

一時的な保育に関する多様な意見が寄せられた。現状よりも長時間の預かりや、手続きの利便性を高めることを望む意見がみられた。

- ・ほっとる一むはとても助かっているが、時間制限があるため、もう少し価格を上げてでも時間制限なく安心して預けられる制度があると嬉しい。
- ・ファミサポ、一時預かりなどの支援を利用開始するための登録プロセスや方法を、Webで簡単に完結できるようにしてほしい。
- ・当日にお願いしても預けられるようなベビーシッターシステムが実現したら嬉しい。
- ・土日も預かってくれる安心できる施設が増えたら嬉しい。
- ・病児保育をもう少し利用しやすくしてほしい。いつも満員で預けられたことがない。
- ・ふれあい22に一時預かりの施設があればよいと思います。子どもの通院や療育の間、兄弟をみてくれる施設があると、大変助かります。

妊産婦支援に関する意見(27 件)
【概要】 産後ケア事業の利用の利便性向上についての意見が多数あった。また、第2子以降の場合に、利用の難しい事業もあるという意見があった。
・コロナ禍での出産には不安がありましたが、妊娠中より担当の保健師さんが親切にしてくれたおかげで色々な不安は解消されました。今後も、妊娠中から乳児期、幼児期までの支援をお願いしたいです。 ・産後ケアがすぐに利用できて本当に助かりました。 ・現在妊娠中で、Babyヘルパーを利用して健診の同行をお願いしたかったのですが、「自家用車と一緒に乗ることは不可、現地集合で」など制限があり利用を断念しました。せっかくヘルパーさんをお願いしたいと思ったので、制限が緩和されたらと思います。 ・引っ越してきたタイミングで第2子を出産したが、第2子だと参加できないもの(産後の教室など)が多く、悩みました。ほっとする一むも3歳までばかりで、上の子が行けない、行きづらくてこもることが多くなっていました。 ・産後ケアなど利用者したかったが、保護者が休みたいという目的での利用は不可だった。もっと夜間なども預かってくれる場所が増えて欲しい。夜泣きなどで夜ろくに寝られない親は多いです。 ・産後は1時間×5回無料で子育てや家事代行サービスをつけて欲しい。もう少し気軽に産後サービスを受けたい。 ・出産予定日3日前に子どもの心臓が止まってしまった経験しました。火葬許可証の手続きをした際に、グリーフケア等についての情報を届けてほしい。自ら情報を探すほどの気力がないです。
障害児に関する意見(22 件)
【概要】 障害児を持つ親同士の交流や話を聞いてくれる場を望む意見が複数みられた。ボーダーにいる子どもを支える負担が高いことについての意見が複数あった。その他、行政手続きや施設利用に関することについての意見がみられた。
・児童発達支援を利用したいとき、素早い対応をしてくださったことがとてもおどろきでした。すぐ利用することができ、とても感謝しています。 ・子どもの発達への不安を聞いてくれる場所がほしいです。その場ですぐには解決しなくても、同じように悩んでいるお母さんと話せたり、不安をすべて聞いてくれる支援員さんがいたら、救われると思います。 ・発達障害＋知的ボーダーの我が子は、療育手帳も特児も却下でしたが、我が子を支えるためにフルタイムをあきらめたり費用がかかったりと困り感は全く軽いものではありません。 ・上の子が、こども発達センターの療育に定期的に通っています。ふれあい22の1Fに、こそだて広場があるので、できたら療育の1時間だけで良いので預かり施設を併設してくださると助かります。おむつ替えや食事はなしで構いません。料金もしっかり設定して構いません。 ・ふれあい22に発達支援センターがありますが、1か所だけで対応できないと思うのですが。そして、就学の時にも、きちんと学校や就学相談(教育委員会)へ連携して欲しい。就学相談も相談がいっぱいということで、手続きに時間がかかるとのこと。 ・障害児の幼稚園の受け入れがどこも厳しい。

(2)保育について

保育に関する自由回答は、561件(すべて就学前児童保護者の意見)が寄せられた。主な意見は次のとおり。

保育園に関する意見(146件)
【概要】 保育園の充実だけでなく、教育内容の充実を望む意見もみられた。リフレッシュのために利用しづらい雰囲気があるという意見がみられた。また、保育園での不安ごとを直接話して相談できる窓口を望む意見がみられた。
【保育園の充実】 ・保育園をもっと増やしてほしい。子どもが1歳まで育休をとって復職しようと思っていたが、保育園に空きがなく、復職できなかった。
【保育園の教育内容】 ・保育園の教育内容を充実させてほしい。力を入れているところもあれば、何もしないところもあり、小学生になった時に格差が出る。
【小規模保育施設の利用】 ・子どもが1歳のときに松戸市に引っ越してきた際、小規模保育園はいくつか空きがあり、すぐに入所できたのでよかった。
【レスパイト利用】 ・認可保育所に通っているが、親のリフレッシュを理由とする利用がしにくい。「親の仕事が休みの時は保育園に預けないで」とよく言われますが、なぜでしょうか。
【不安ごとの相談】 ・保育園で不安ごとがあった際に匿名メールではなく、電話などで直接名乗らず話してもいいなどの係などがあると、ちょっとした不安ごとを話しやすい。

幼稚園に関する意見(90件)

【概要】

幼稚園が預かり保育に取り組んでいることで、共働きでも幼稚園を利用できるという意見がみられた。保育園と利用料の考え方が異なるため、幼稚園に通うのが難しいという意見もみられた。

- ・小規模保育園が増えたことで幼稚園に入園しやすくなったと思いますが、3歳からまた保活をするのに不安がある方が多いと思います。
- ・幼稚園に金銭面で行けない人もいるので認可保育所を増やしてほしい。
- ・他県、他市村町から転入してきた家庭は、プレ保育にも満3歳クラスにも入れず、幼稚園入園においてかなり不利。転入者にも、優しい支援をしてほしい。
- ・共働き＝保育園ではなく各幼稚園での預かり保育が充実しており松戸市からの補助金も出るので、助かっている。

保育士に関する意見(62件)

【概要】

保育士の確保を望む意見が多数みられた。保育園に入園しやすくなることを思っの意見もみられたが、保育士の労働環境や待遇を心配する意見が多くみられた。

- ・保育士の数が増えてくれたらいいなと思います。少ない人数で一生懸命子どもを見てくださる保育士さんには心から感謝しておりますが、限界があると思います。
- ・保育士の賃金、勤務時間の処遇の改善により、人材を十分に確保することで、配置基準を上回るような政策を、市レベルでも予算を充ててほしいです。
- ・公立の保育所がずっとなくなるのほしいです。保育士さんのスキルも人格もすばらしい方が多いと感じます。

保育料に関する意見(59件)

【概要】

保育料は応能負担であることから、働いて預ける意味がないという意見がみられました。

- ・保育料が高い。
- ・0～2歳児の保育料の値下げ ※保育士さんに負担がいかないように配慮してほしい。
- ・3歳から保育料は無料だが給食費も無償化に！

(3)教育について

教育に関する自由回答は、805件(就学前児童保護者417件、小学生保護者253件、中学生保護者135件)が寄せられた。主な意見は次のとおり。

教育の内容に関する意見(120件)
【概要】 時代に合った多様な教育を望む意見がみられた。学校間、就学前の施設間の教育格差の是正を求める意見がみられた。
【教育内容】 ・お金についての教育(運用なども)、プログラミング教育 ・性教育について、ちゃんと学校で教えてほしい(男子も女子も平等に)。自分が妊娠出産をして初めて知ることだらけで戸惑った。 ・最近では小学生でもSNSや動画などネットが身近になってきたので、しっかりネットの知識を教育してほしいです。 【格差】 ・経済状況による教育格差をなくしてほしい。 ・幼稚園と保育園の教育の差をなくしてほしい。行事や学びの時間をふやしてほしい。 【感謝】 ・中学の先生方には熱心に教育、指導をしていただいて感謝しております。
教員の確保に関する意見(57件)
【概要】 教員不足を心配し、教員確保を要望する意見とともに、教員の負担軽減を望む意見が多くみられた。
・先生の人数が足りないのが心配です。よい先生がいるので、心理的、経済的に先生にも支援があるといいなと思います。 ・先生の負担が大きい。昔のように1クラス1人の担任の先生では難しいと思う。副担任や、補助の方を入れるなどしてほしい。 ・学校の先生は一度、社会人を経験した人がなった方が良いと思います。 ・部活動の外部コーチの推進をお願いします。

塾に関する意見(54件)
【概要】 塾に行かずに済むような、安価な学習支援を望む意見が多くみられた。また、塾の費用を支援してほしいという意見もみられた。
・金銭的、時間的に塾に通えない子どものため、放課後に学校で勉強できる時間や場所を作してほしい。 ・塾に行かなくても学校の放課後や、夏休みに学校開放して学習する場を設けてほしいです。 ・塾費用を支援してほしい。
ICT 教育に関する意見(44件)
【概要】 タブレットが配付されているものの、十分に活用されていないという意見が多数あった。また、オンライン授業を推進してほしいという意見があった。
【タブレットの活用】 ・タブレットは配っているが活用されていない。もっと活用していく方向になってほしい。 ・タブレットを1人1台持っていますが、あまり活用されていないように感じます。 【オンライン授業】 ・家族が体調不良で休ませたりしたときに、オンライン授業があまり活用されていない。 ・感染症等で学級閉鎖になるのは仕方ないが、オンライン授業に切り替えてほしい。

障害児に関する意見(22 件)

【概要】

発達障害に関する教育の対応について、改善を求める意見が多数あった。インクルーシブ教育については、積極的に進める必要性を指摘する意見がある一方、支援学校を充実する必要性を指摘する意見もあった。

- ・支援学級が増えていたり、昔に比べて増えている発達障害の子どもたちに選択肢があるのは親としてとても良いと思う。子ども達がそれぞれの個性を伸ばしながら成長して行ってほしいと思う。
- ・幼稚園の時に発達センターを利用していても小学校では通うところがない。支援級も自宅から遠い学校にしかない。普通の子と同等の、教育環境をのぞみます。
- ・発達相談にかなり時間がかかる(初診の際)ところを改善してほしい。
- ・新学年になる度に子どもの発達について事前に説明を毎回担任にはじめから話さなくてはならないため、重く感じています。
- ・子どもに障害がある場合、就学相談をしてもほぼ支援学校を勧められる。インクルーシブが言われている時代なのに松戸市では相変わらず障害者排除を感じる人が多い。
- ・自閉症やADHDのお子さんを無理に普通学校に通わせたがる親子さんが多い。お子さん本人がその環境についていけないし、健常児が自分のペースで勉強できないのはかわいそう。支援学校は本当に良いと思う。偏見をなくす努力をしてほしい。発達グレーのお子さんはもっと大変。

